

令和2年度

男女共同参画に関する県民意識調査

報告書

令和3年1月

和歌山県環境生活部県民局

青少年・男女共同参画課

はじめに

和歌山県では、男女共同参画の推進に向けた基本理念や、県、県民、事業者の責務、県の基本的な施策などを定めた「和歌山県男女共同参画推進条例」を平成14年4月に施行し、平成15年3月に男女共同参画を総合的かつ計画的に推進するため「和歌山県男女共同参画基本計画」を策定しました。

その後、平成19年、24年、29年と計画を改定する中で、女性のチャレンジ支援や各分野への女性の積極的な登用促進に加え、平成27年施行の「女性活躍推進法」の理念を盛り込む等、時代の変化に合わせた様々な施策を実施してまいりました。

平成29年度に改定した現行計画の期間が令和3年度で終了することに伴い、次期計画である和歌山県男女共同参画基本計画【第5次】策定の資料とするため、この度5回目となる「男女共同参画に関する県民意識調査」を実施しました。

今回の調査では、女性の自己実現やワーク・ライフ・バランスの視点から、「結婚・出産を機に退職した女性の再就職に必要なこと」や「男性が育児休業・介護休業を取得することについて」といった設問を新たに設けました。

多くの皆さんにも本報告書を幅広く活用し、地域における男女共同参画を進める上での参考にしていただきたいと思います。

最後になりましたが、県民意識調査に御協力いただいた皆さんに感謝いたしますとともに、今後とも本県の男女共同参画の推進に御協力をお願い申し上げます。

令和3年1月

和歌山県環境生活部長 田中 一寿

I 調査概要	
1. 調査の概要	
1-1 調査の目的	1
1-2 調査の方法	1
1-3 有効回答率	1
2. 調査の内容	2
3. 報告書における表及び図の見方	3
II 調査結果の概要	4
III 調査結果の分析	
1. 回答者の属性	
1-1 性別	20
1-2 年齢	20
1-3 家族構成	21
1-4 結婚の有無	21
1-5 夫婦の職業の有無	22
1-6 子供の有無及び一番下の子供の年齢	22
1-7 職業	23
1-8 最終学歴	24
1-9 居住地	24
2. 男女平等意識について	
2-1 男女の地位の平等感	25
2-2 男女の決められた役割分担についての考え	32
2-3 男女の役割等についての考え	35
3. 家庭生活について	
3-1 生活時間の配分	39
3-2 生活時間における理想時間との差	47
3-3 男性の家事・育児等の積極的参加推進	49
3-4 家庭での介護の担い手	51

目 次

4. 子育てや子供の教育について	
4-1 理想の子供の人数、実際の子供の人数	52
4-2 子供の減少の理由についての考え	56
4-3 子育てについての考え	58
4-4 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること	66
5. 就労について	
5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方	67
5-2 働く場で男女が平等でないと思うこと	74
5-3 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと	76
5-4 管理職以上に昇進することへのイメージ	79
5-5 退職した女性が再就職するために必要なこと	81
5-6 就労意向の有無・希望する就労形態	84
5-7 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて	86
6. 社会活動、地域活動等について	
6-1 現在参加している社会活動、地域活動	88
6-2 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと	90
6-3 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること	92
7. 人権、DV（配偶者等からの暴力）について	
7-1 暴力と思う行為	96
7-2 配偶者や恋人からの暴力の経験	105
7-3 実際の相談先	108
7-4 相談しなかった理由	110
7-5 実際に求める支援	112
7-6 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの	114
7-7 セクシュアル・ハラスメントだと思うこと	116
7-8 メディアにおける性や暴力表現についての考え	118
7-9 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと	120
8. 男女共同参画施策等について	
8-1 男女共同参画の言葉についての認知度	124
8-2 女性が増える方が良い役職・公職	130
8-3 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと	132
9. 自由意見	136

I 調查概要

1. 調査の概要

1-1 調査の目的

この調査は、県民の男女共同参画に対する意識を把握し、来年度予定している和歌山県男女共同参画基本計画の改定に当たっての基礎資料とすることを目的に実施した。

1-2 調査の方法

(1) 調査対象

和歌山県内在住の20歳以上の男女各1,500人(令和2年4月1日現在)

(2) 調査期間

令和2年8月18日(火)～9月4日(金)

(3) 調査方法

郵送による調査票の配付・回収

1-3 有効回答率

今回の調査は、3,000人を対象に調査票を郵送した。回答のあった1,402件のうち、「拒否(白紙回答を含む。)」などの無効票は3件となり、有効回答率は46.6%となった。

発送数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
3,000	1,402	3	1,399	46.6%

※参考(前回の回収結果)

発送数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
3,000	1,021	0	1,021	34.0%

2. 調査の内容

調査項目	質問項目
1. 回答者の属性	性別、年齢、家族構成、結婚の有無、夫婦の職業の有無、子供の有無、一番下の子供の年齢、職業、最終学歴、居住地域
2. 男女平等意識	男女の地位の平等感 男女の決められた役割分担についての考え 男女の役割等についての考え
3. 家庭生活	平日、休日別の生活時間 自分の理想より短い生活時間 男性が家事、育児、介護に積極的に参加するために必要なこと 家庭での介護の担い手
4. 子育てや子供の教育	理想の子供の人数、実際の子供の人数 子供の減少の理由についての考え 子育てについての考え 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること
5. 就労	女性の理想の生き方・実際の生き方 働く場で男女が平等でないと思うこと 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと 管理職以上に昇進することへのイメージ 退職した女性が再就職するために必要なこと 就労意向の有無・希望する就労形態 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて
6. 社会活動、地域活動	現在参加している社会活動、地域活動 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること
7. 人権、DV (配偶者等からの暴力)	暴力と思う行為 配偶者や恋人からの暴力の経験 実際の相談先 相談しなかった理由 実際に求める支援 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの セクシュアル・ハラスメントだと思うこと メディアにおける性や暴力表現についての考え 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと
8. 男女共同参画施策	男女共同参画の言葉についての認知度 女性が増える方が良い役職・公職 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

3. 報告書における表及び図の見方

- (1) 図表の中で「N」とは、集計対象総数（集計対象を限定する場合はその該当対象数）を表している。比率は原則、各項目の無回答・不明を含む集計対象総数に対する百分比（%）で表している。（例外は図表外に注意書きで記載）
- (2) 百分比（%）は、原則として小数点第2位を四捨五入し小数点第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。また、回答の百分比（%）は、その質問の回答者数（N [Number of case の略]）を基数として算出しているため、複数回答の設問は百分率の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) 百分比（%）どうしの比較における差は、原則として「…ポイント」という表現とした。
- (4) グラフのスペースの都合上、0%を表示していない場合がある。
- (5) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によって語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (6) 調査結果にある全国調査比率の全国調査とは、令和元年9月に内閣府によって行われた「男女共同参画社会に関する世論調査」のことを指す。同様に前回調査比較の前回調査とは、平成27年6～7月にかけて和歌山県が実施した「男女共同参画に関する県民意識調査」、前々回調査とは、平成22年7～8月にかけて和歌山県が実施した「男女共同参画に関する県民意識調査」のことを指す。
- (7) 調査結果の考察文中にある二重括弧（『・・・』）は2つの選択肢を統合したことを表す。
（例：「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」→『肯定的意見』）
- (8) 性年代別、結婚の有無別、職業別、最終学歴別、居住地域別分析の図表では、それぞれ性別不詳、結婚の有無不詳、職業不詳、最終学歴不詳、居住地域不詳の方がいるため、「回答者の属性」の数値と異なる場合がある。

Ⅱ 調査結果の概要

男女平等意識について

男女の地位の平等感

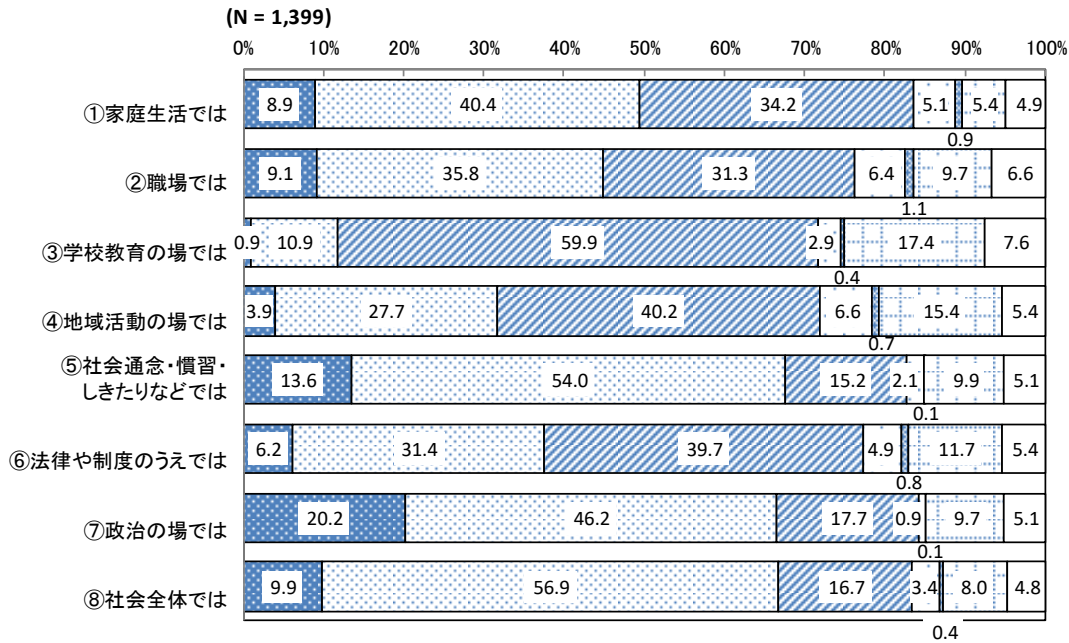
p.25~31

○社会全体でみた場合の男女の地位の平等感は、女性の 74.2%、男性の 57.9%が『男性優遇』※と感じており、男女ともに最も高い数値となった。

○すべての分野で『男性優遇』の割合は女性のほうが高く、「平等である」は男性のほうが高くなっている。

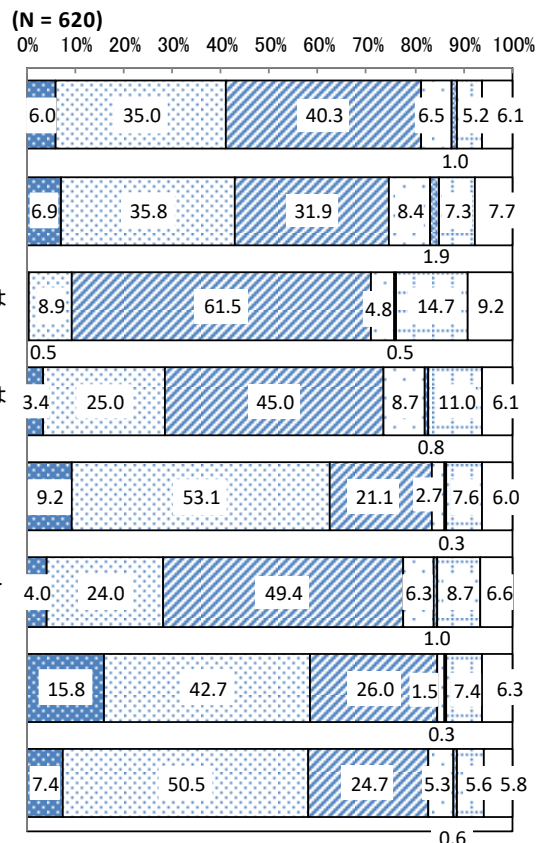
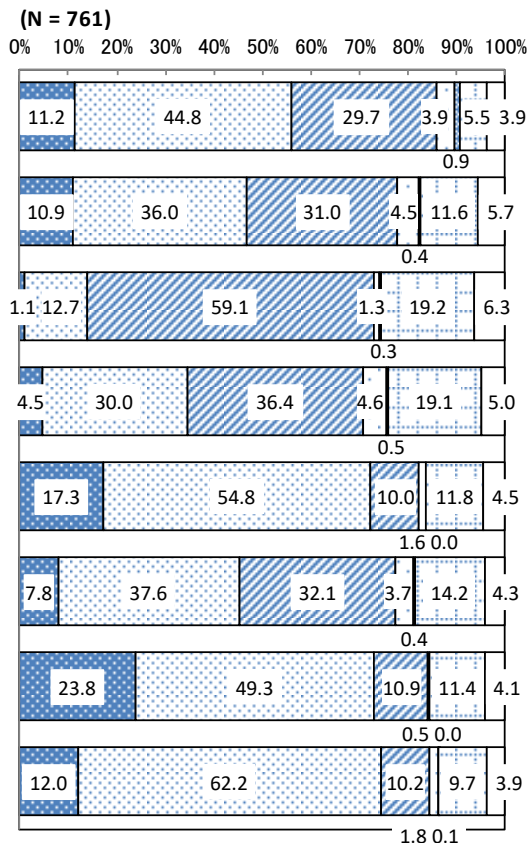
※「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせたもの。

■ 男性のほうが非常に優遇されている ■ どちらかといえば男性のほうが優遇されている ■ 平等である ■ どちらかといえば女性のほうが優遇されている ■ 女性のほうが非常に優遇されている ■ わからない □ 無回答



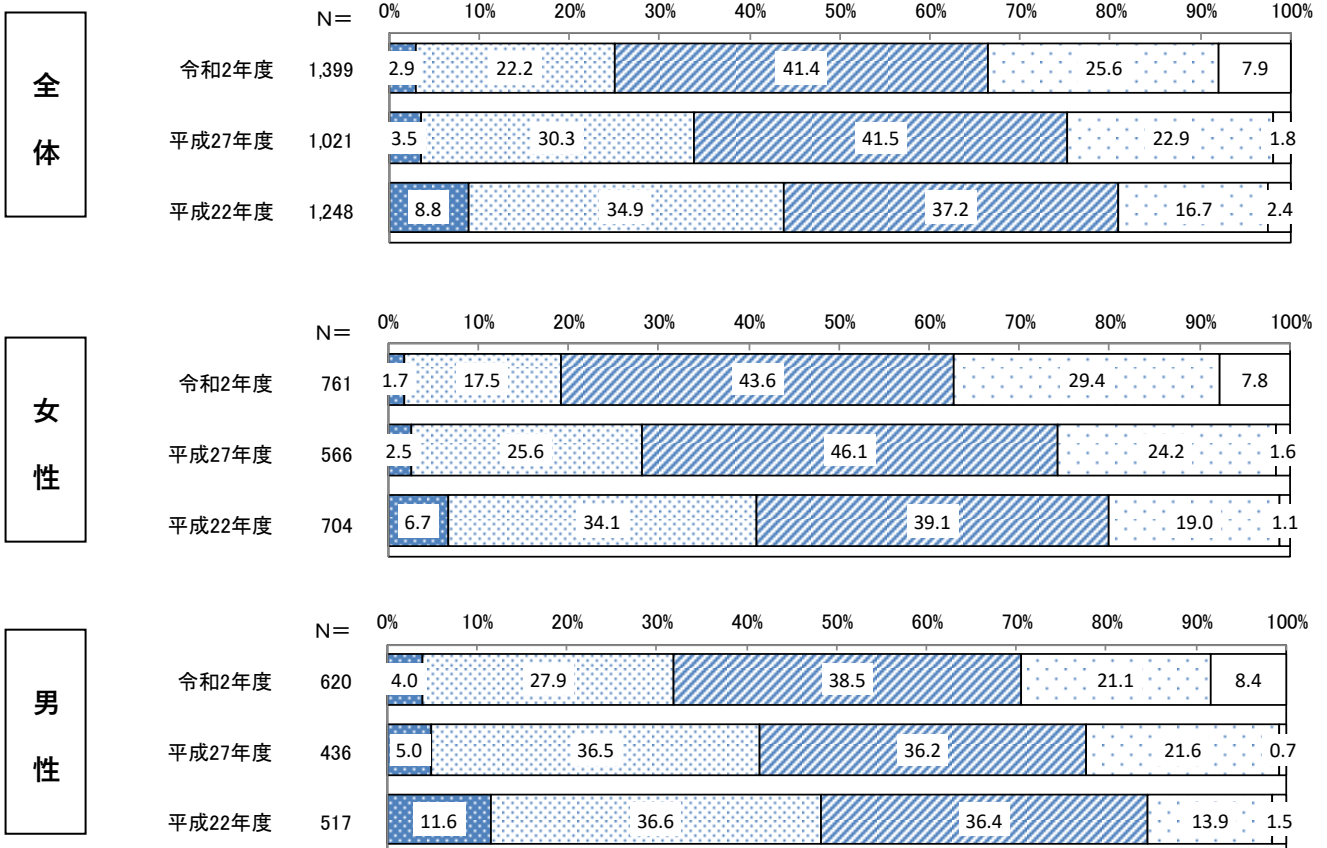
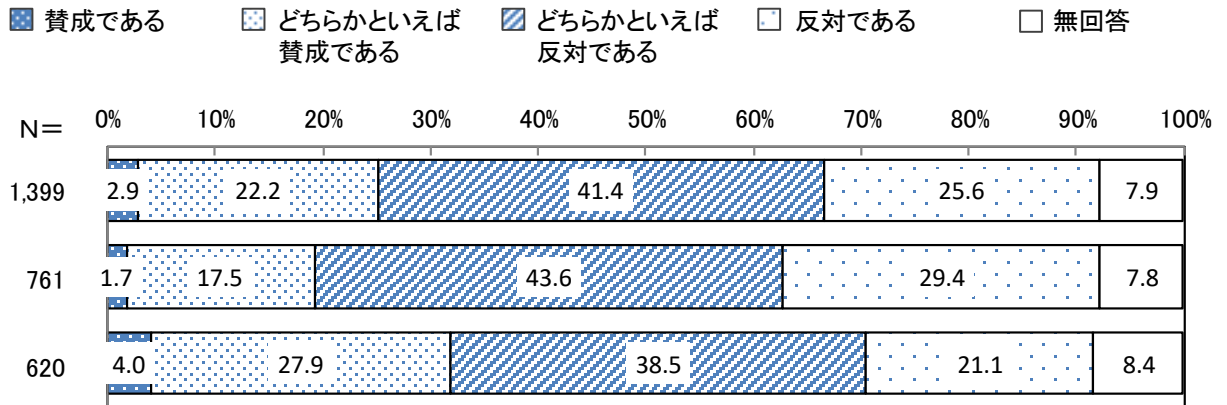
女性

男性



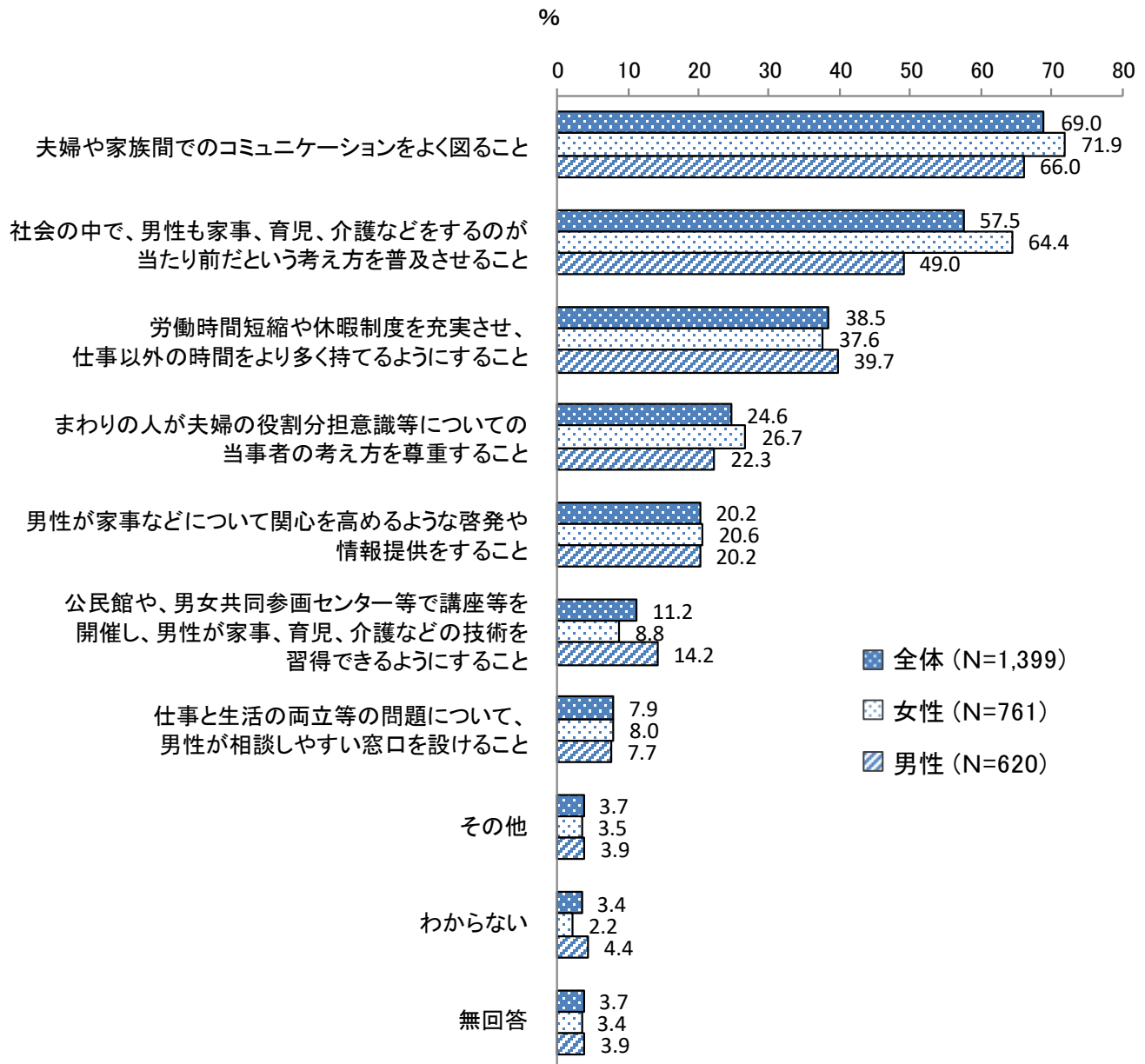
- 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、『否定的な意見』※が女性で 73.0%、男性で 59.6%となっている。
- 平成14年度調査において『否定的な意見』は女性56.8%、男性48.0%であったが、今回調査では女性73.0%、男性59.6%となった。内閣府の全国調査においても同様の結果となっており、全国的に『否定的な意見』が増加傾向にあるといえる。

※「反対である」と「どちらかといえば反対である」を合わせたもの。



○「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が 69.0%と最も高くなっている。これは、前回調査と同じ結果であり内閣府の全国調査(59.1%)と比較しても高い割合となっている。

○「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」では、女性 64.4%に対して男性 49.0%となり、15.4 ポイントの差がみられた。

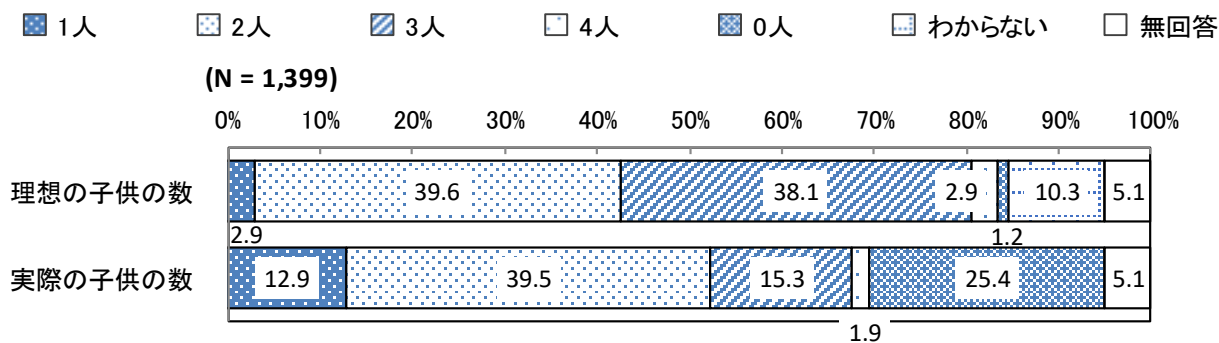


子育てや子供の教育について

理想の子供の人数、実際の子供の人数

p.52~55

- 「理想の子供の人数」は「2人」と「3人」がそれぞれ約40%で男女間に差はみられなかった。
- 「実際の子供の人数」は「理想の子供の数」と比べて「0人」と「1人」の割合が高くなっている。



※「実際の子供の人数」では「わからない」という選択がない。

※「理想の子供の人数」での「4人」は、「実際の子供の人数」では「4人以上」となっている。

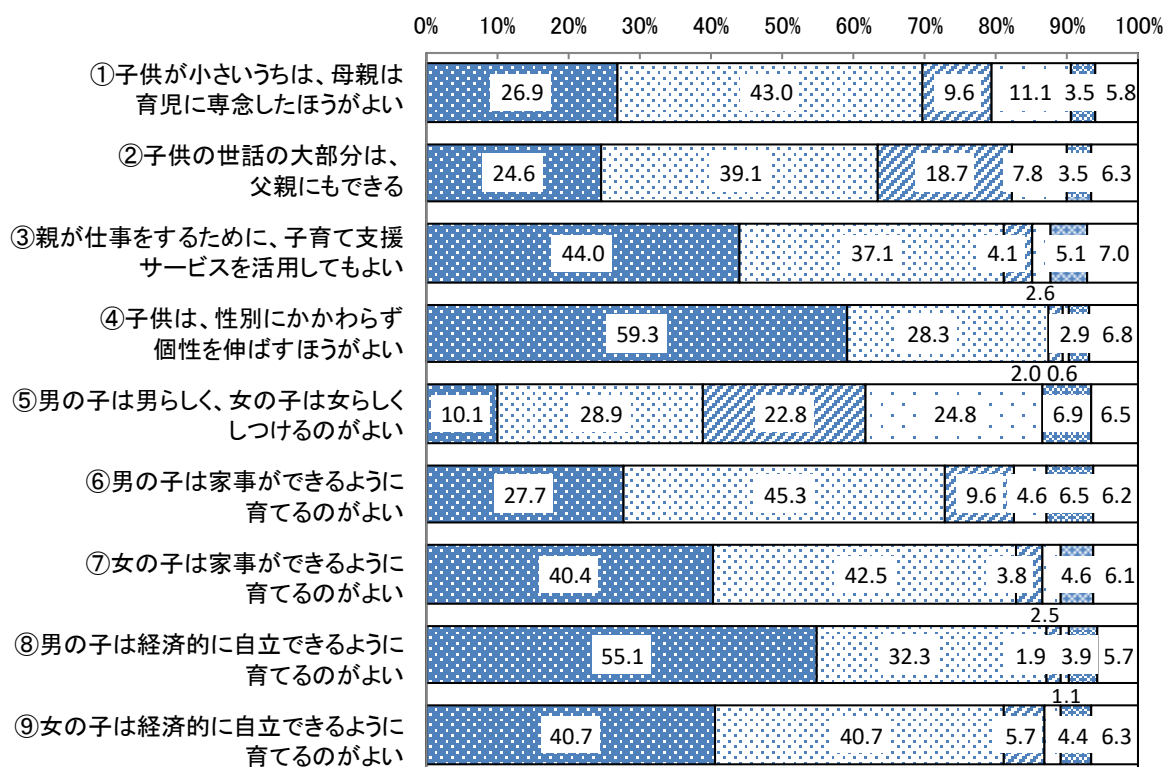
子育てについての考え

p.58~65

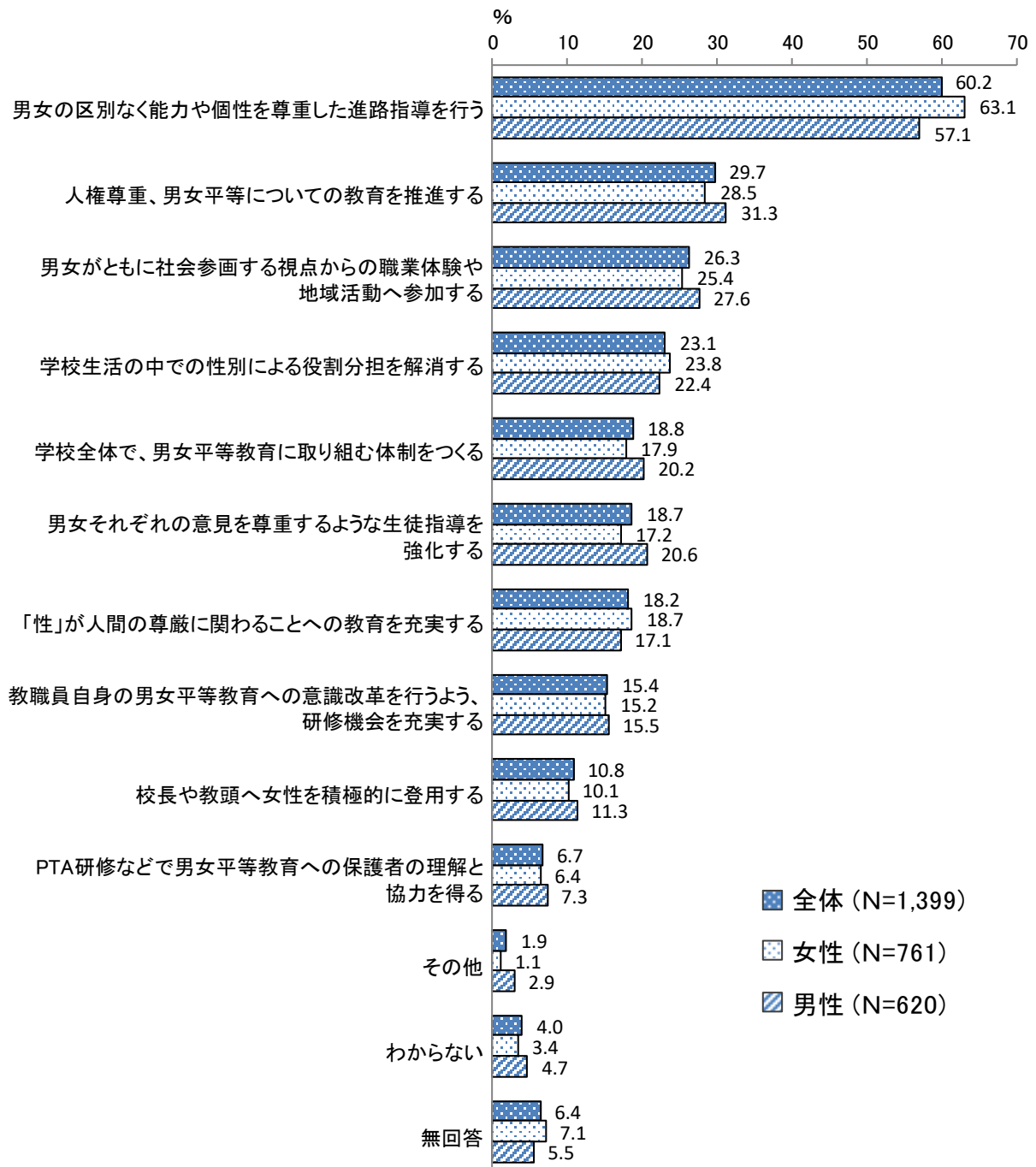
- 「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」は平成22年度調査までは約60%が『肯定的な意見』であったが、平成27年度調査では52.8%、今回調査では39.0%と変化してきている。
- 「①子供が小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」は前回調査まで『肯定的な意見』が80%を超えていたが、今回の調査では69.9%となった。
- 「②子供の世話の大部分は、父親にもできる」は平成14年度調査で『肯定的な意見』が45.9%であったが、回を重ねるごとに数値が上昇し、今回の調査では初めて60%を超えた。

Legend: そう思う (dark blue), どちらかといえばそう思う (dotted), どちらかといえばそう思わない (diagonal lines), そう思わない (white), わからない (medium blue), 無回答 (white)

(N = 1,399)



○「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」が過去調査と同様、最も高くなっている(60.2%)。



就労について

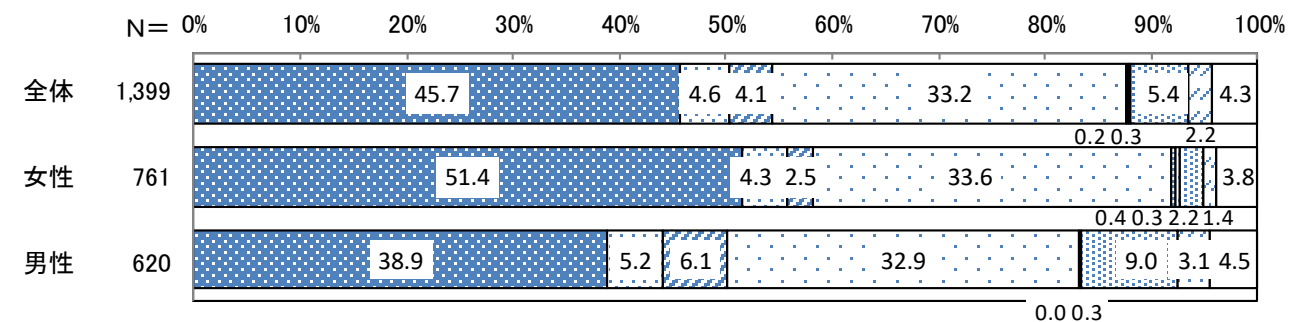
女性の理想の生き方・実際の生き方

p.67~73

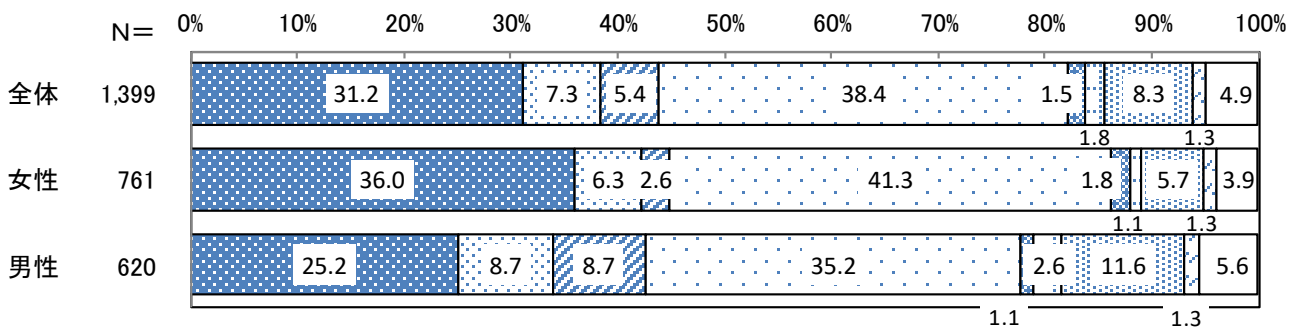
- 理想の(理想としていた)生き方において、過去調査では「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が常に最も高かったが、今回の調査では「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が最も高くなった。
- 「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」を理想とする女性の割合が調査開始以来、初めて 50%を超えた。
- 実際になりそうな(現実にそうなっている)生き方は、これまで同様「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が約 40%となっている。

- 結婚や出産にかかわらず、職業を持つ
- 結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない
- 出産までは職業を持つが、出産後は持たない
- 結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ
- 結婚または出産後、初めて職業を持つ
- 一生職業を持たない
- わからない
- その他
- 無回答

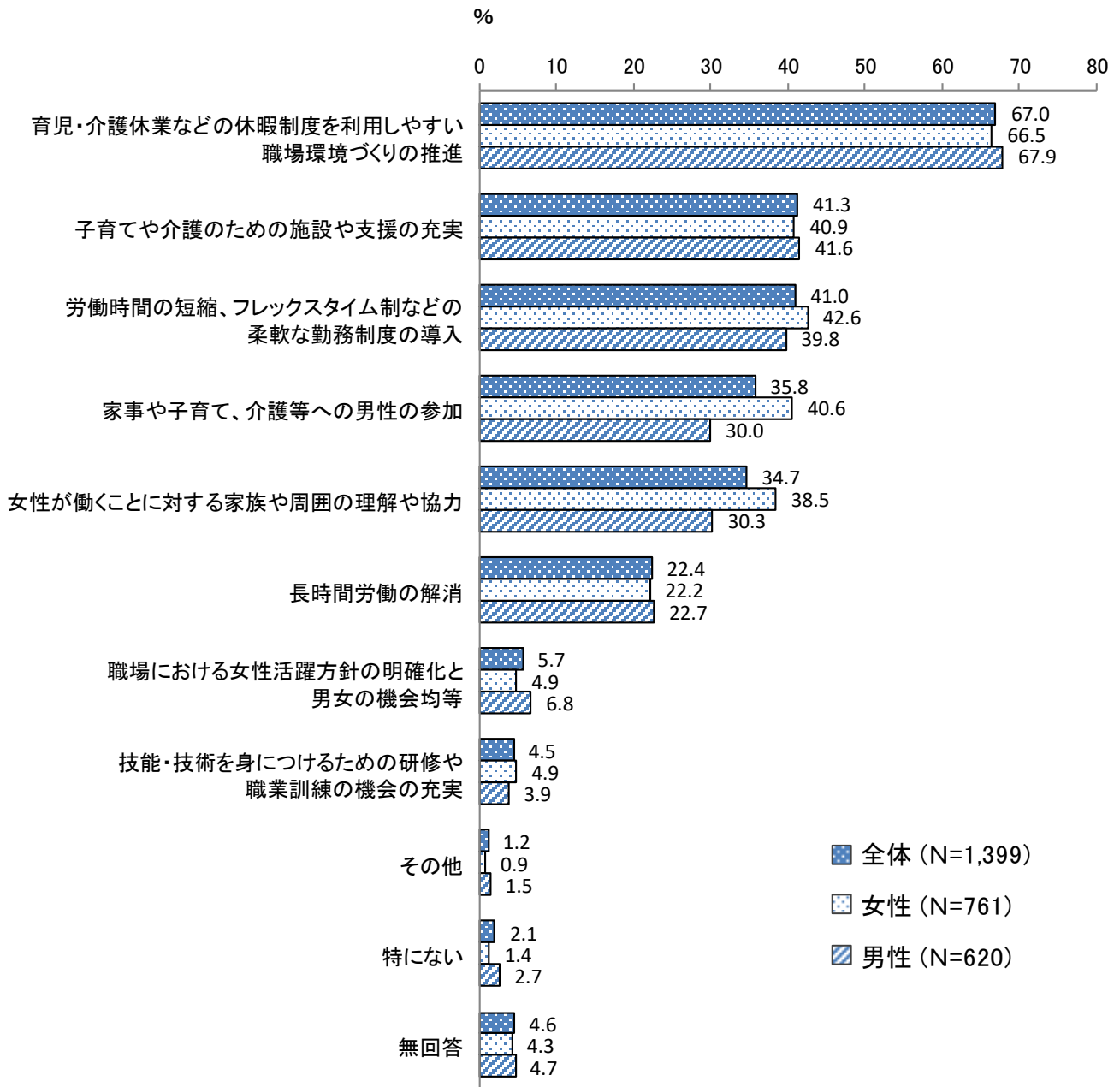
理想の(理想としていた)生き方



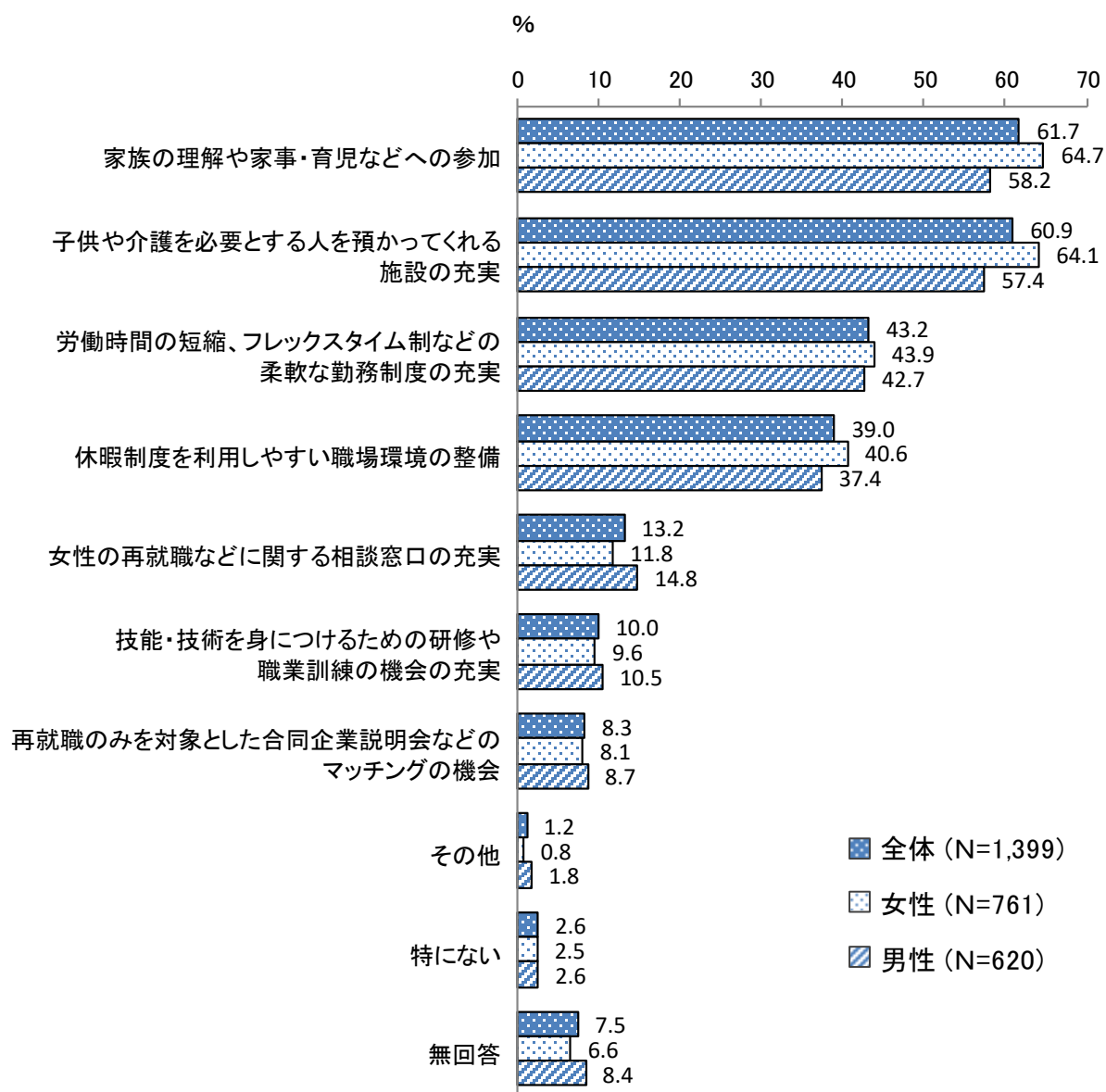
実際になりそうな(現実にそうなっている)生き方



- 「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が67.0%と、最も高くなっている。
- 「家事や子育て、介護等への男性の参加」、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」は前回調査と同様に女性が男性よりも高く、男女間で10ポイント程度差がある。



○「家族の理解や家事・育児などへの参加」と「子供や介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」でそれぞれ60%を超え、高くなっている。



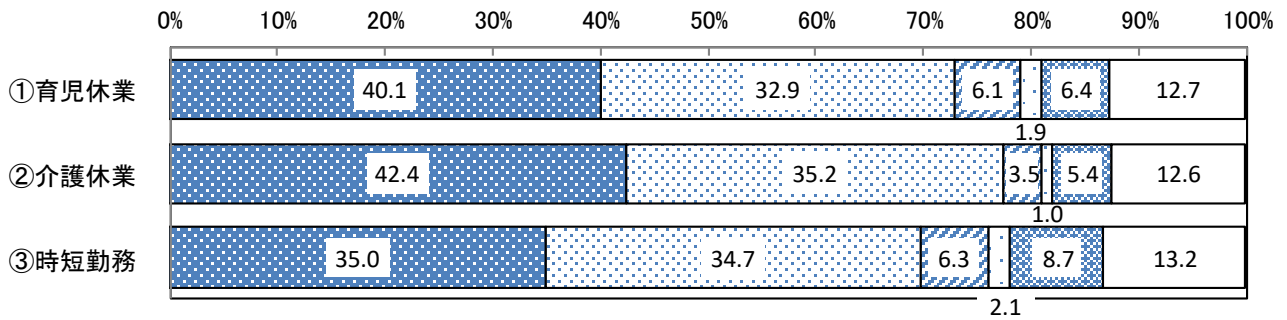
○いずれの項目も『肯定的な意見』が 70%前後と高くなっている。

○また、男女別にみると、いずれの項目においても女性の『肯定的な意見』は男性よりも高くなっている。

※「積極的に取得した方がよい」と「どちらかといえば取得した方がよい」を合わせたもの。

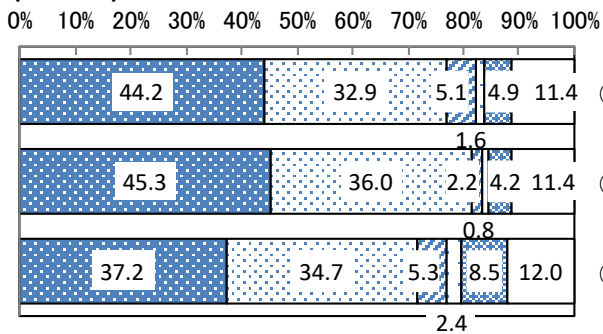
■ 積極的に取得した方がよい ■ どちらかといえば取得した方がよい ■ どちらかといえば取得しない方がよい ■ 取得しない方がよい ■ わからない □ 無回答

(N = 1,399)



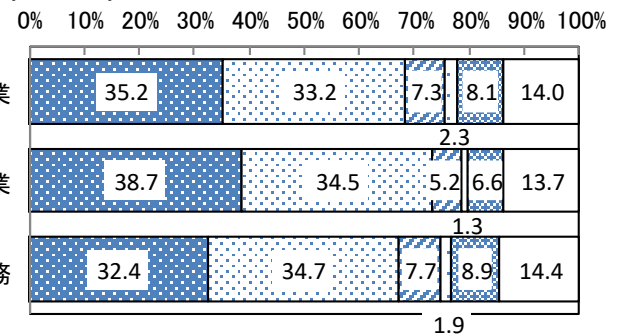
女性

(N = 761)



男性

(N = 620)

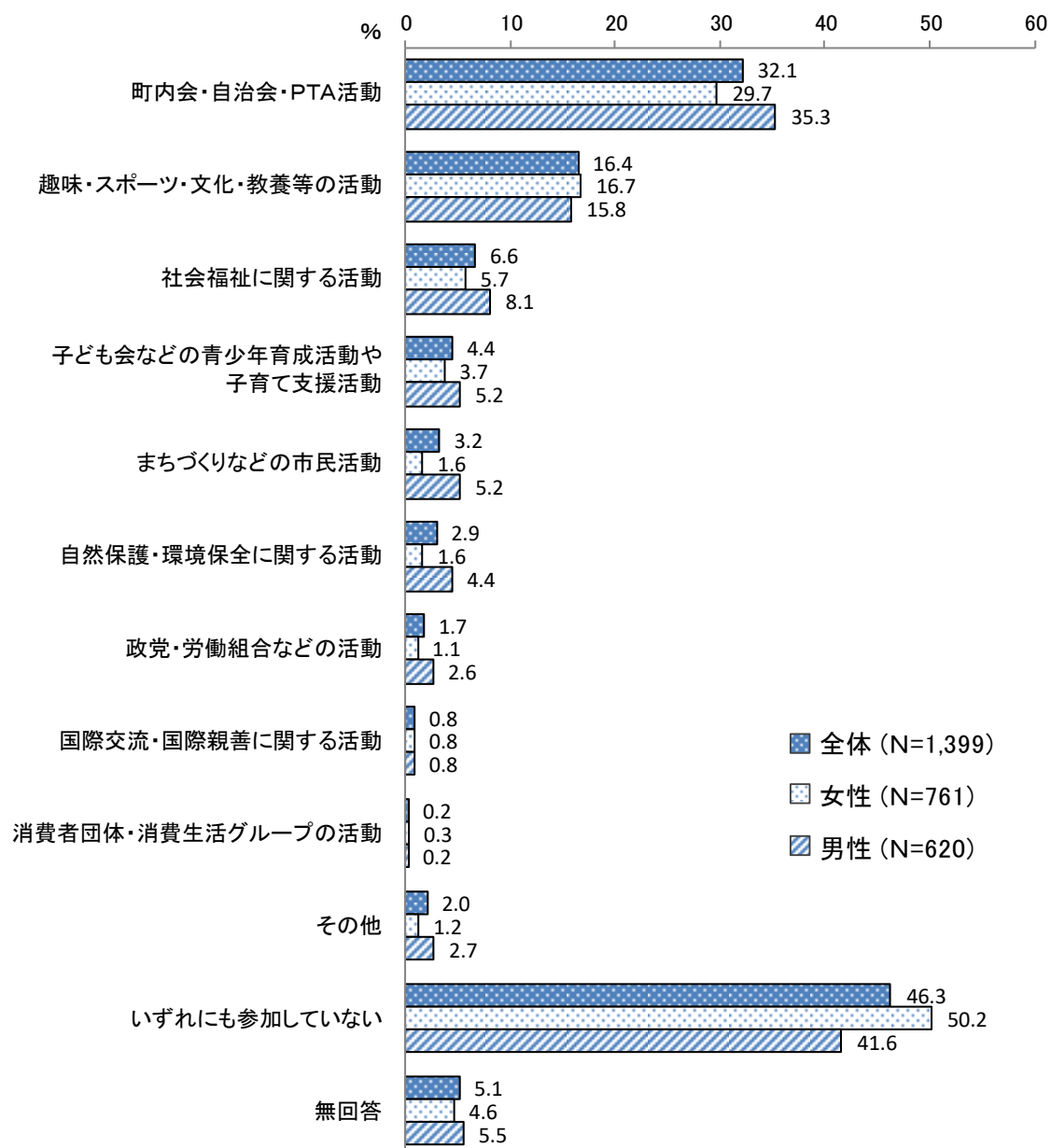


社会活動、地域活動等について

現在参加している社会活動、地域活動

p.88~89

- 「いずれにも参加していない」が46.3%と最も高く、調査開始以来最も高い割合となった。
- 「町内会・自治会・PTA 活動」が32.1%と次いで高く、過去調査同様女性に比べ男性の割合が高くなっている。
- 「趣味・スポーツ・文化・教養等の活動」が過去調査では常に20%を超えていたが、今回の調査では16.4%と最も低い割合となった。



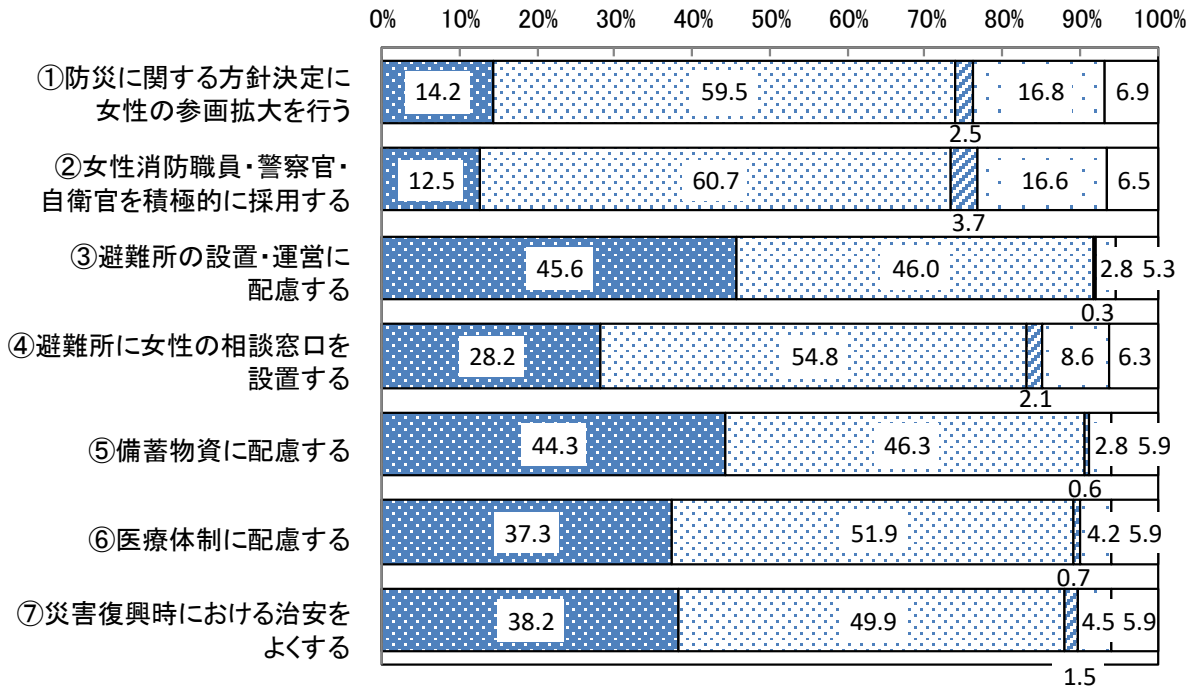
○「③避難所の設置・運営に配慮する」と「⑤備蓄物資に配慮する」では過去調査同様『必要である』※が高い割合となっており、90%を超えている。

○「①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う」、「②女性消防職員・警察官・自衛官を積極的に採用する」では他の項目に比べて「どちらともいえない」が多くなっており、過去調査と同じ傾向がみられる。

※「特に必要である」と「必要である」を合わせたもの。

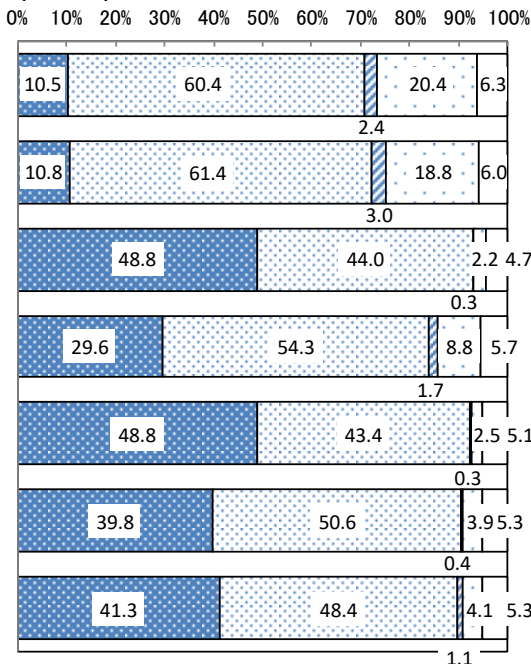
■ 特に必要である ■ 必要である ■ 必要でない □ どちらともいえない □ 無回答

(N = 1,399)



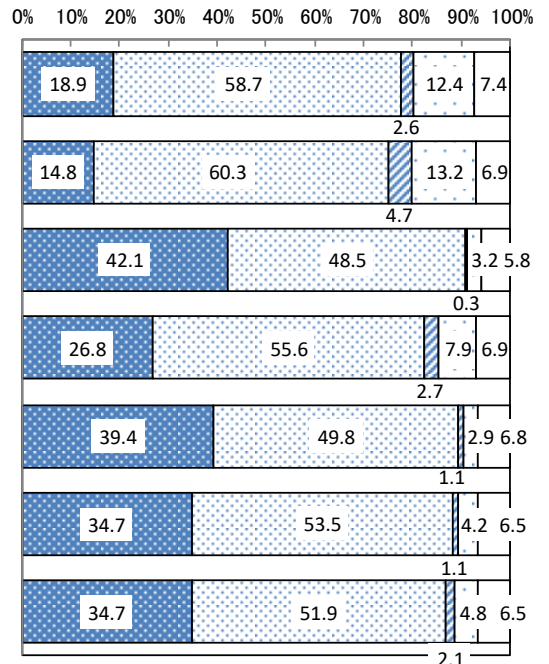
女性

(N = 761)



男性

(N = 620)



人権、DV（配偶者等からの暴力）について

暴力と思う行為

p.96~104

○過去調査と比較すると、全体的に「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が増加し、「暴力にあたるとは思わない」が減少している。

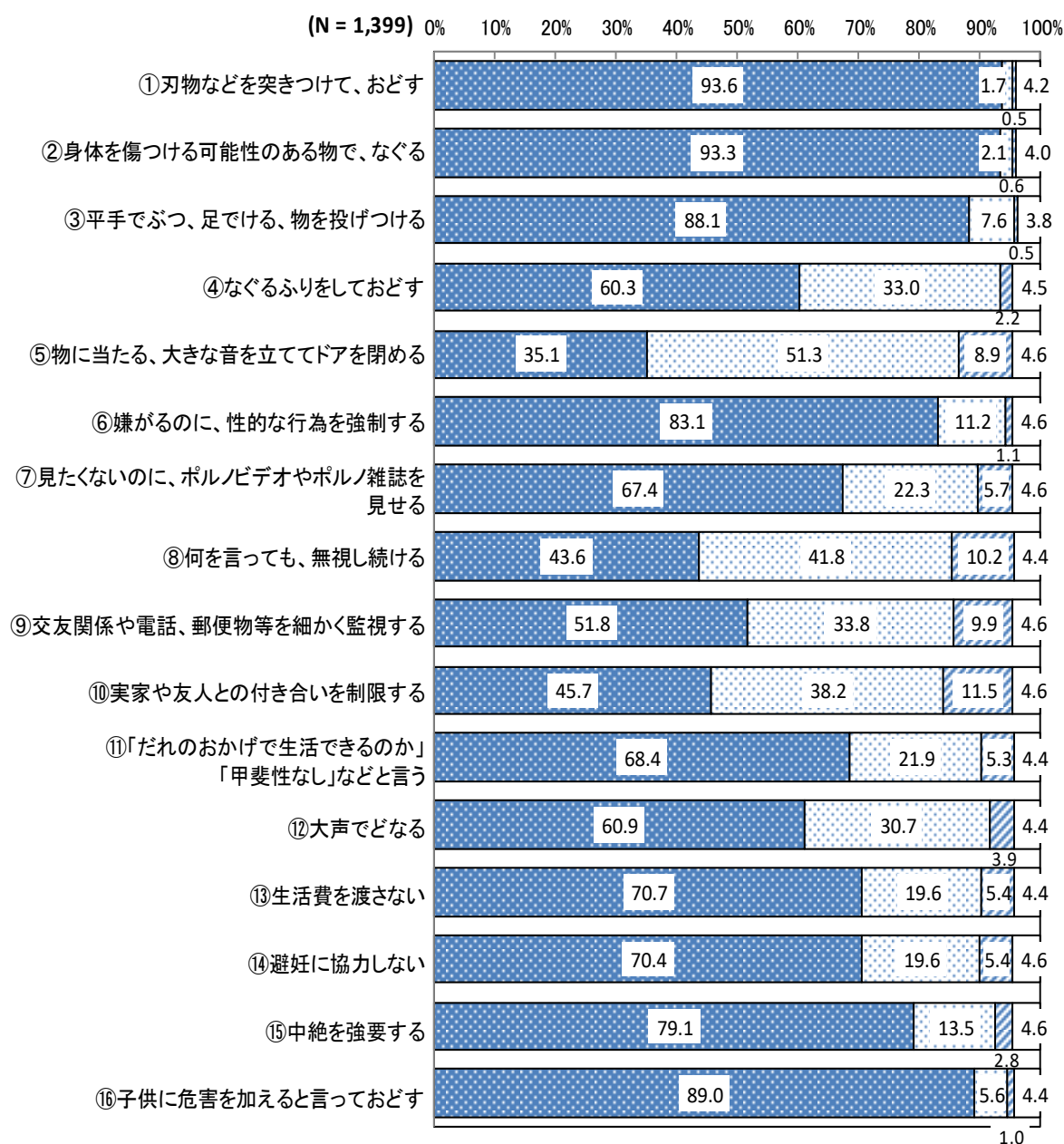
○今回調査から新たに追加した「⑤ものに当たる、大きな音を立ててドアを閉める」では「どんな場合でも暴力にあたる」は35.1%と低く、暴力と認識している人が少なかった。

どんな場合でも暴力にあたる

 暴力の場合とそうでない場合がある

 暴力にあたるとは思わない

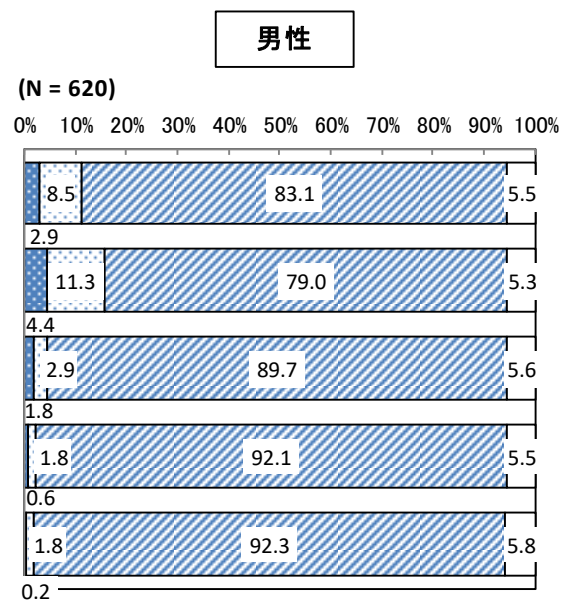
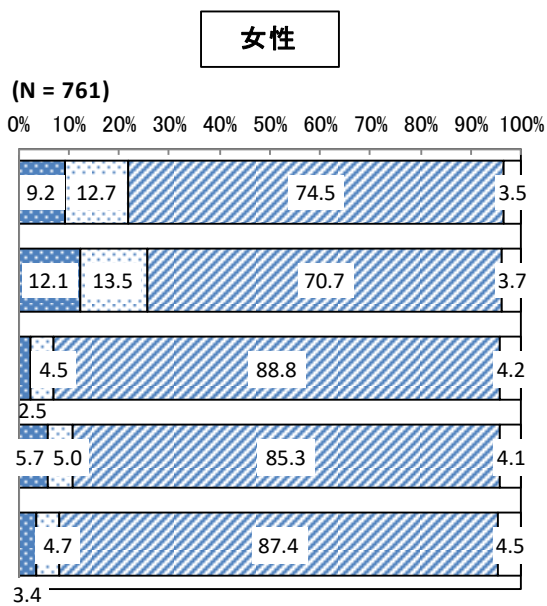
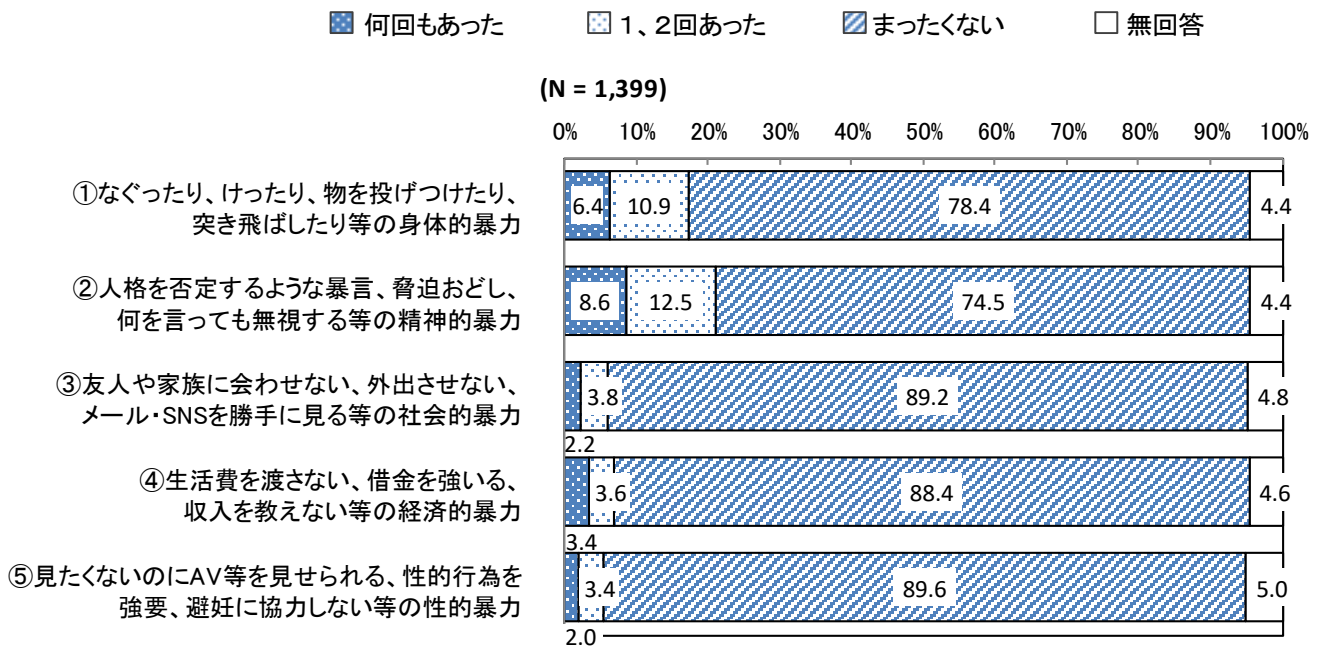
 無回答



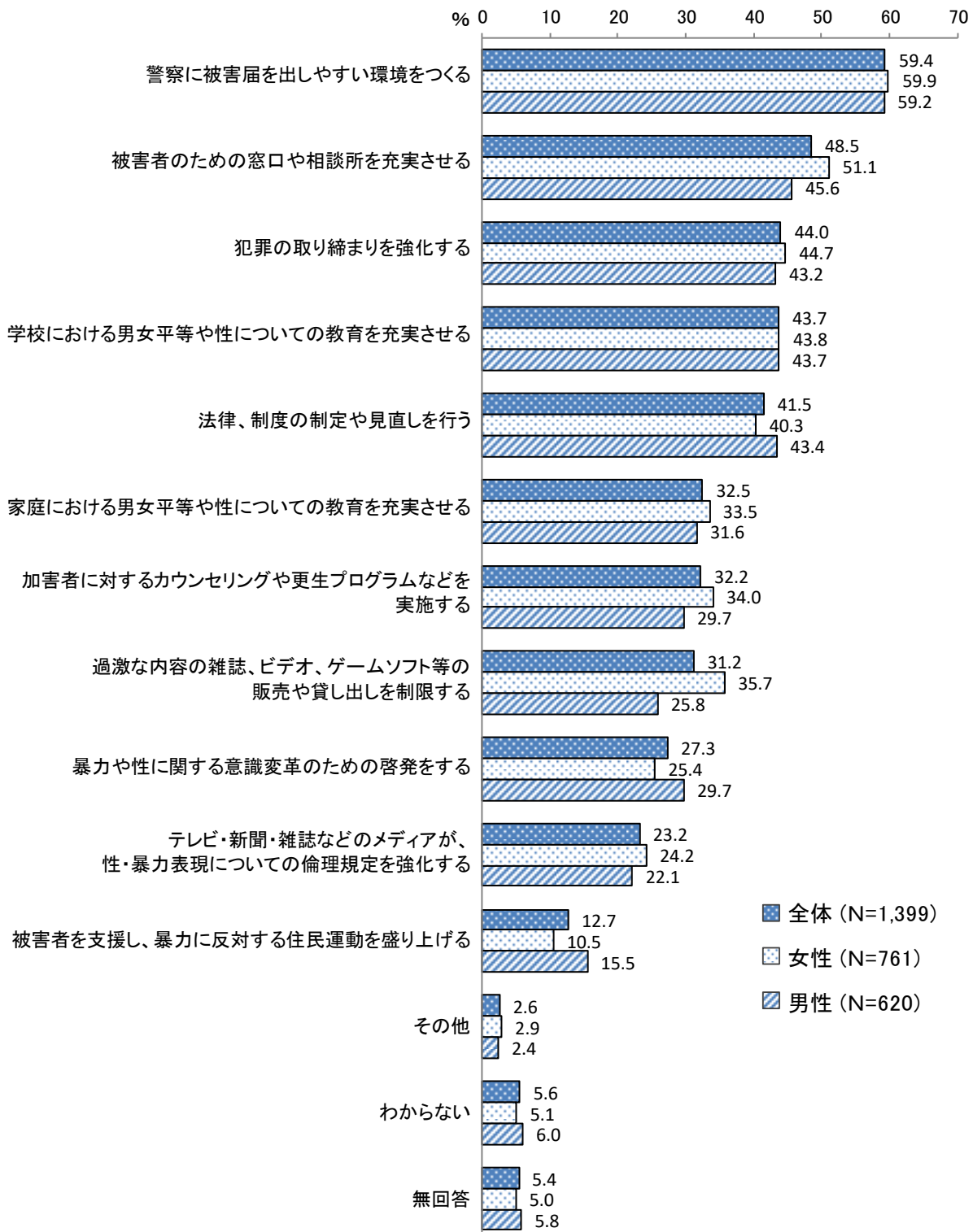
○『DV 経験あり』※は「②精神的暴力」で 21.1%と最も高くなっている。

○すべての項目で『DV 経験あり』は女性が男性より高くなっている。

※「何回もあった」と「1、2回あった」を合わせたもの。



○「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が59.4%と最も高く、過去調査同様最も多い意見となっている。
 ○「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」では、女性が男性より9.9ポイント高くなっている。



男女共同参画施策等について

男女共同参画の言葉についての認知度

p.124~129

○『知っている』※は「②男女雇用機会均等法」、「⑥DV 防止法」が 80%前後と高くなっている一方、「⑧性暴力 救援センター和歌山(わかやま mine(マイン))」、「⑩面前 DV」、「⑬アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)」は「知らない」が 80%前後となっている。

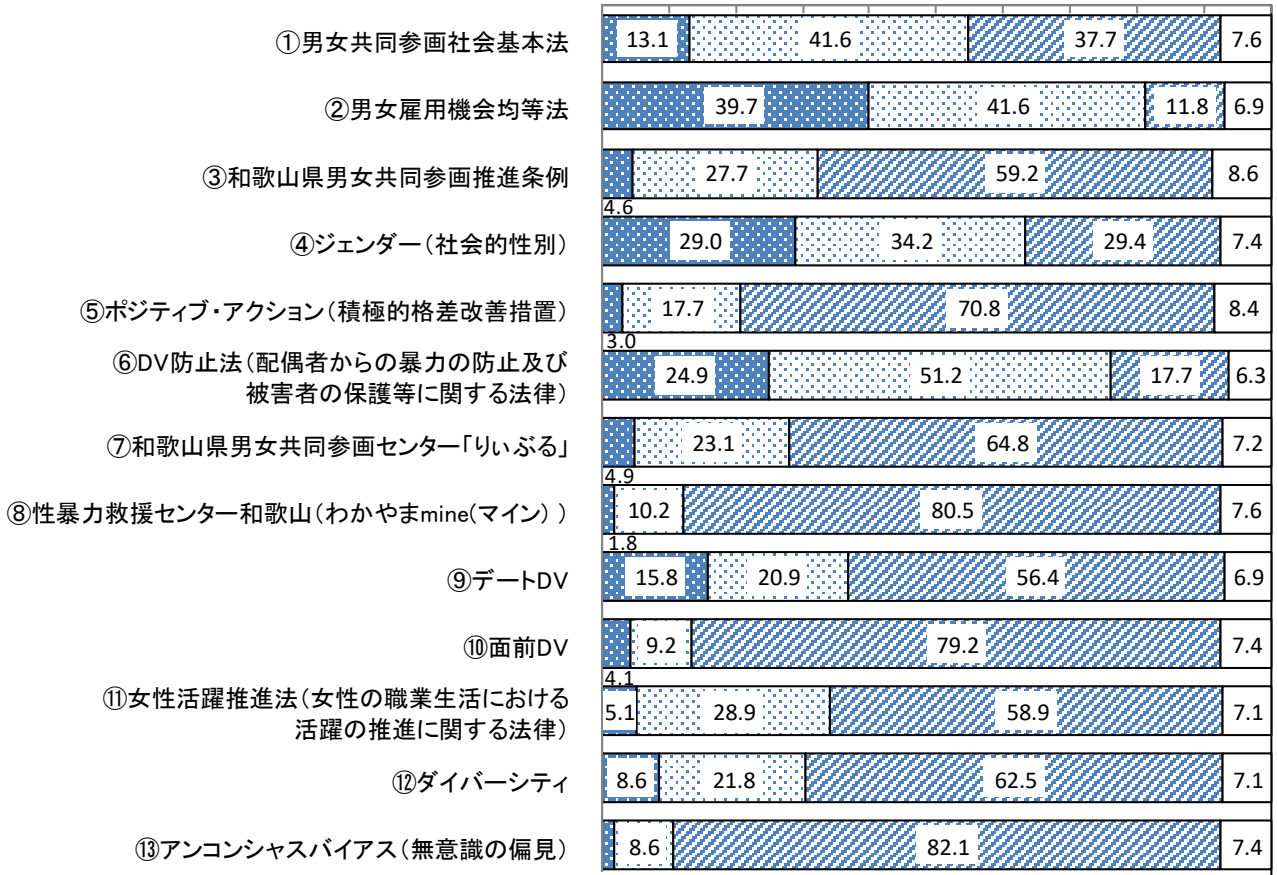
○「④ジェンダー(社会的性別)」を『知っている』は調査開始以来、初めて 60%を超えた。

※「内容も含め知っている」と「聞いたことがある」を合わせたもの。

■ 内容も含め知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない □ 無回答

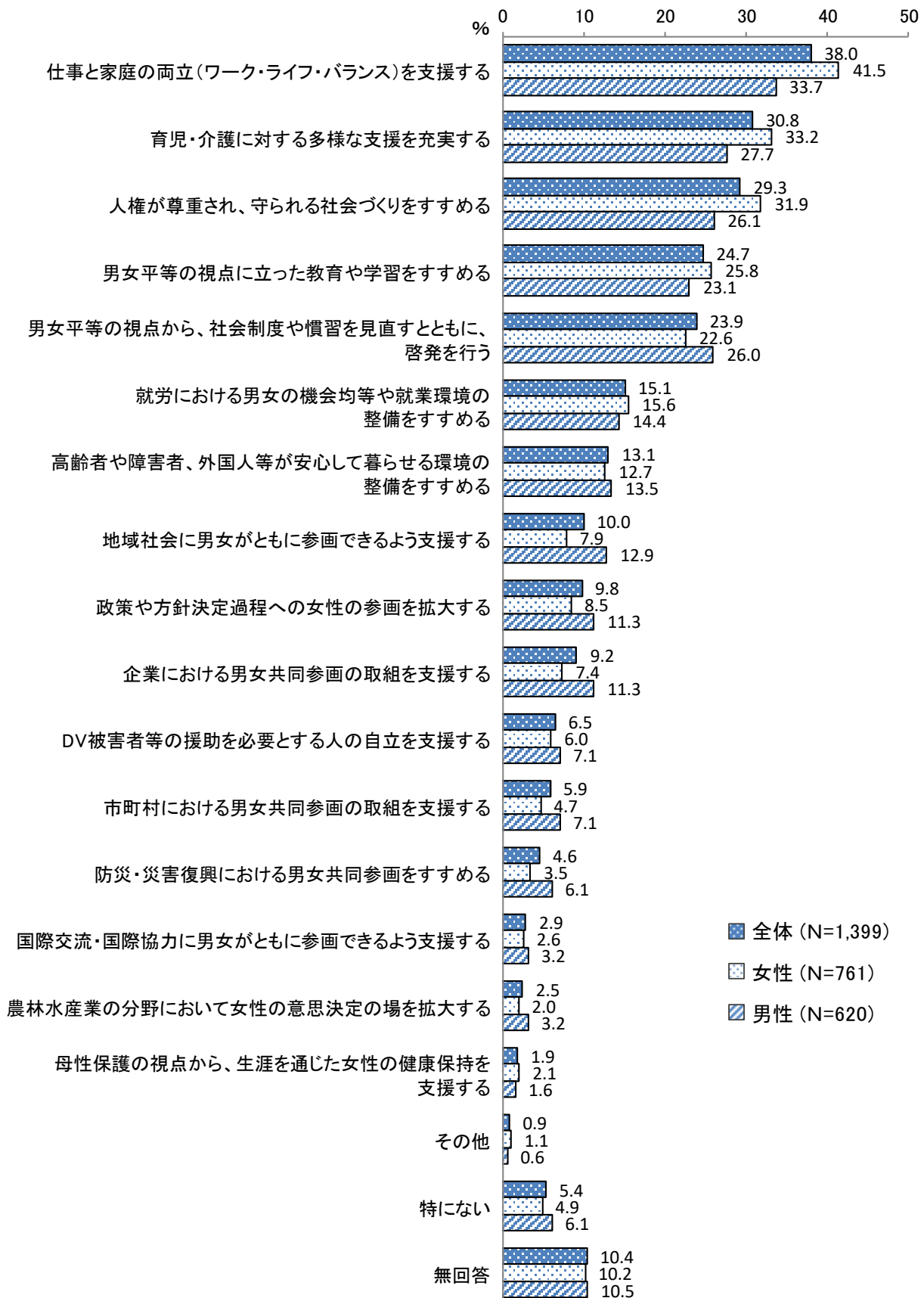
(N = 1,399)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



○「仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)を支援する」が 38.0%、「育児・介護に対する多様な支援を充実する」が 30.8%と高くなっており、過去調査と同様の結果となった。

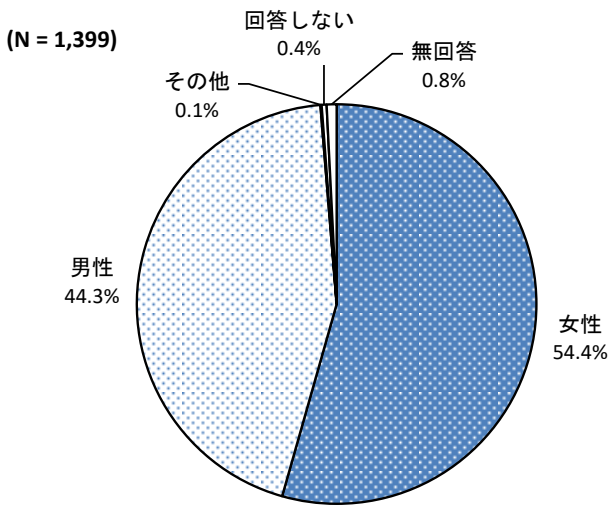
○「男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すとともに、啓発を行う」では、男性が女性を上回った。



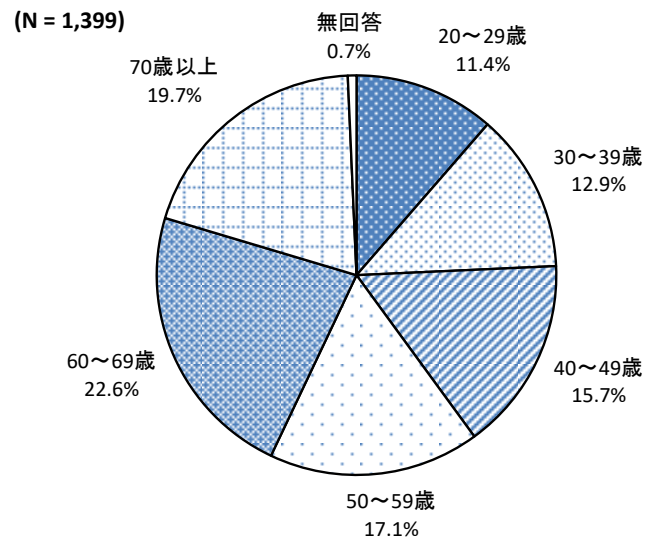
Ⅲ 調査結果の分析

1. 回答者の属性

1-1 性別



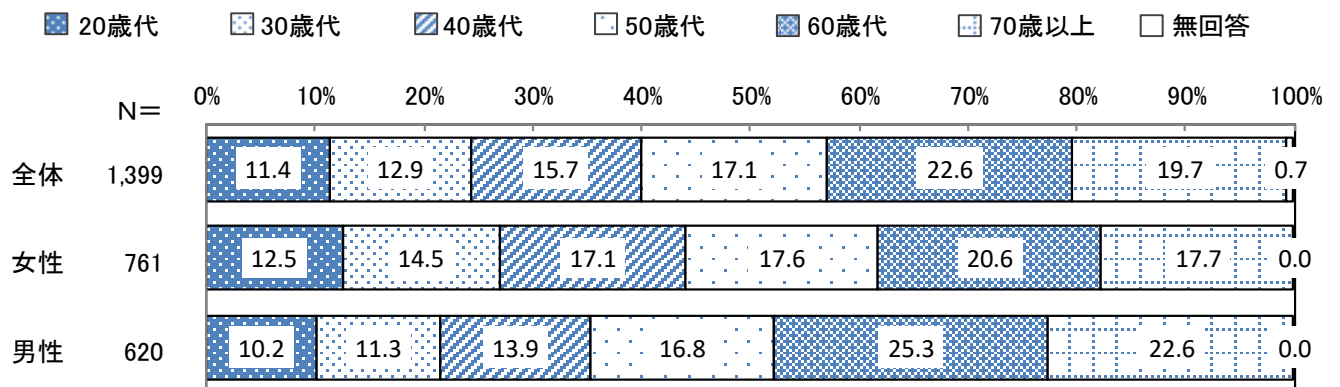
1-2 年齢



性別は、「女性」が 54.4%、「男性」が 44.3%となり、「回答しない」が 0.4%、「その他」が 0.1%となっている。男性と女性の差は 10.1 ポイントあり、「全体」の回答には女性の意見がやや強めに反映されていることを考慮する必要がある。

年齢は、「60~69 歳」が 22.6%と最も高く、次いで「70 歳以上」が 19.7%、「50~59 歳」が 17.1%となっている。50 歳以上の回答は 59.4%となり、「全体」の回答には中高年の意見がより反映されていることを考慮する必要がある。

性別 年齢

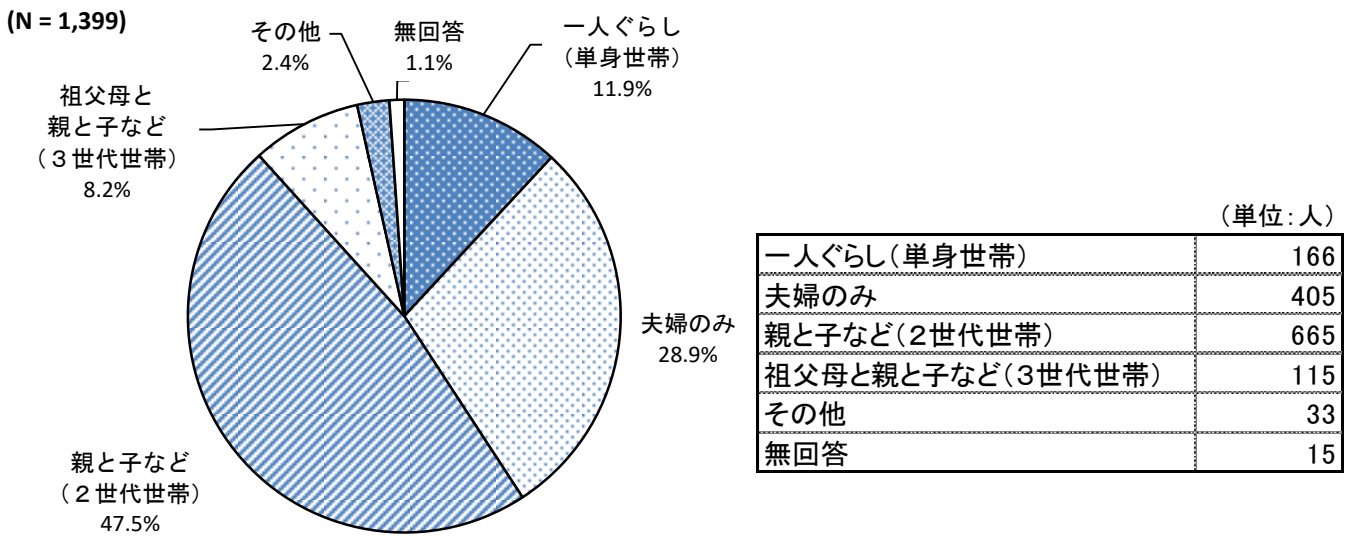


(単位: 人)

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	その他 (無回答等)
全体	1399	159	180	220	239	316	275	10
女性	761	95	110	130	134	157	135	-
男性	620	63	70	86	104	157	140	-
その他	18	1	-	4	1	2	-	10

1-3 家族構成

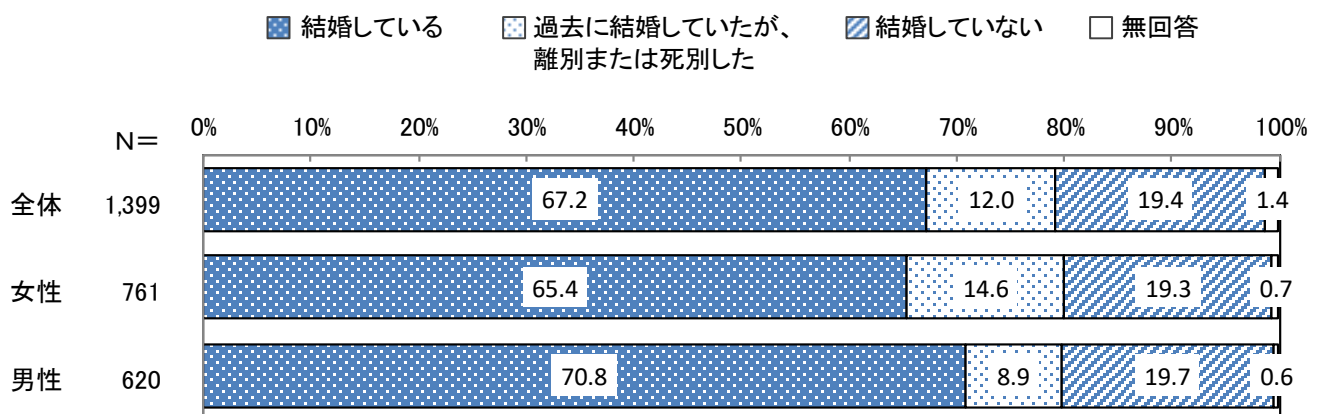
家族構成は、「親と子など(2世代世帯)」が47.5%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が28.9%、「一人暮らし(単身世帯)」が11.9%となっている。



1-4 結婚の有無

結婚の有無は、「結婚している」が67.2%と最も高く、次いで「結婚していない」が19.4%、「過去に結婚していたが、離別または死別した」が12.0%となっている。

性別で見ると、「過去に結婚していたが、離別または死別した」は女性(14.6%)が男性(8.9%)より5.7ポイント高くなっている。



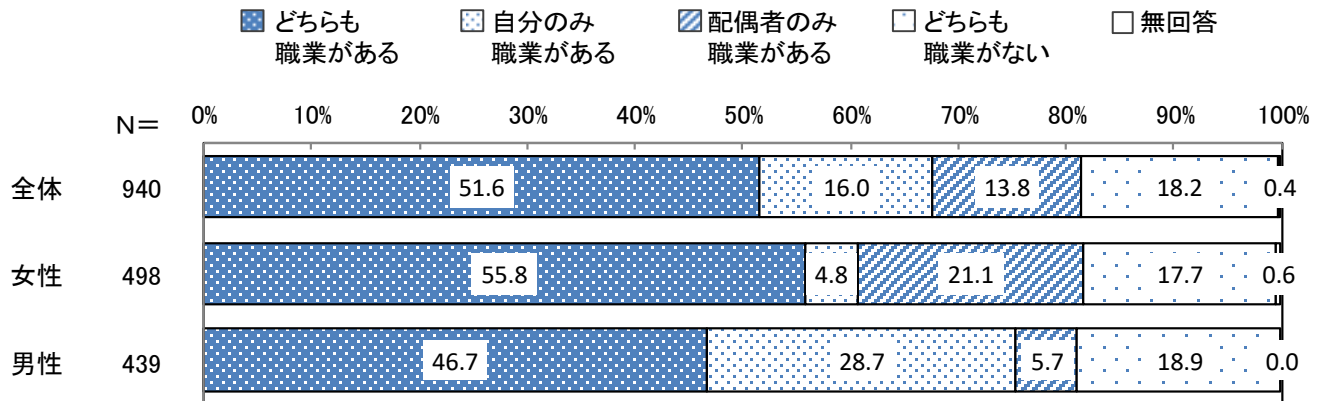
(単位:人)

	全体	結婚している	過去に結婚していたが、離別または死別した	結婚していない	無回答
全体	1399	940	168	272	19
女性	761	498	111	147	5
男性	620	439	55	122	4

1-5 夫婦の職業の有無

夫婦の職業の有無は、「どちらも職業がある」が51.6%と最も高く、次いで「どちらも職業がない」が18.2%、「自分のみ職業がある」が16.0%となっている。

性別でみると、男女ともに「どちらも職業がある」が最も高いが、次いで女性では「配偶者のみ職業がある」が21.1%、男性では「自分のみ職業がある」が28.7%と差がみられた。



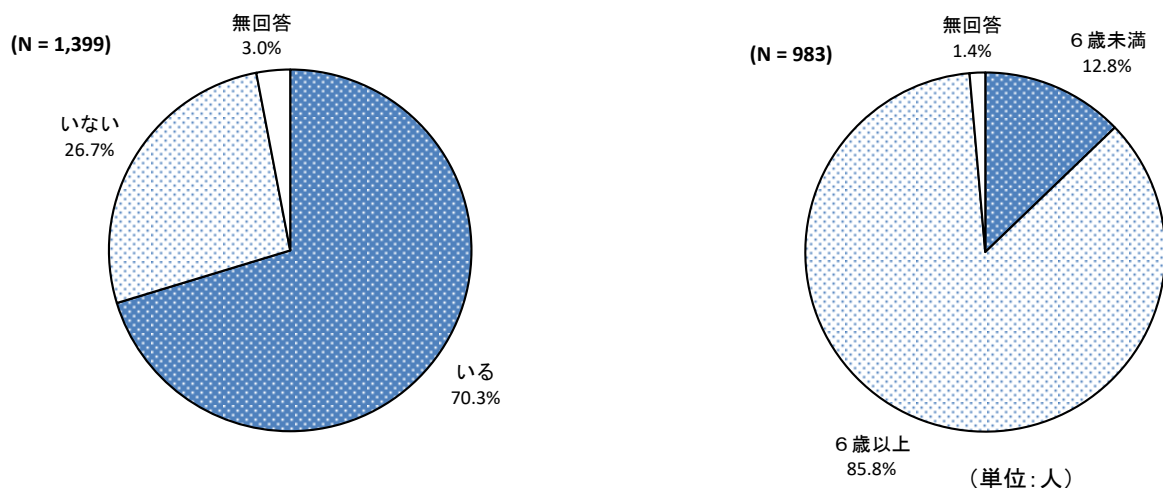
(単位: 人)

	全体	どちらも職業がある	自分のみ職業がある	配偶者のみ職業がある	どちらも職業がない	無回答
全体	940	485	150	130	171	4
女性	498	278	24	105	88	3
男性	439	205	126	25	83	-

1-6 子供の有無及び一番下の子供の年齢

子供の有無は、「いる」が70.3%、「いない」が26.7%となっている。

子供がいると回答した人のうち、一番下の子供の年齢は、「6歳以上」が85.8%、「6歳未満」が12.8%となっている。



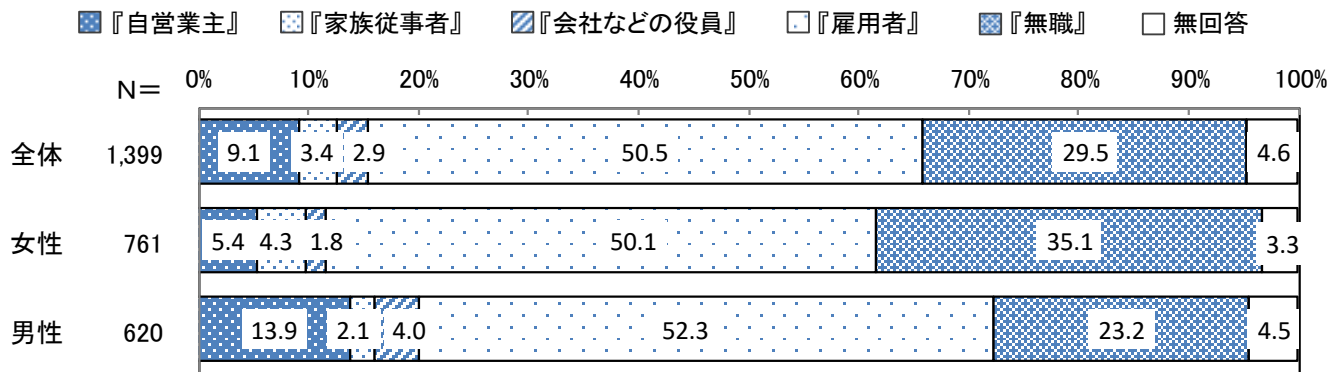
(単位: 人)

	全体	いる			いない	無回答	
		6歳未満	6歳以上	無回答			
全体	1399	983	126	843	14	374	42
女性	761	538	79	450	9	205	18
男性	620	441	47	389	5	165	14

1-7 職業

職業は、『雇用者』が50.5%と最も高く、次いで『無職』が29.5%、『自営業主』が9.1%となっている。

性別でみると、男女ともに『雇用者』が5割を超えて最も高いが、『無職』では女性(35.1%)が男性(23.2%)より11.9ポイント高く、男女間で最も差がみられた。



(単位:人)

	全体	自営業主	家族従事者	会社などの役員	雇用者	無職	無回答
全体	1399	128	47	40	706	413	65
女性	761	41	33	14	381	267	25
男性	620	86	13	25	324	144	28

性年代別でみると、女性の20～40歳代では「常勤の勤め(社員等)」が最も高く、50歳代では「非常勤の勤め(パート、アルバイト)」、60歳代以上では「専業主婦」が最も高くなっている。男性の20～60歳代では「常勤の勤め(社員等)」が最も高く、70歳以上では「その他」が最も高くなっている。

性年代別 職業

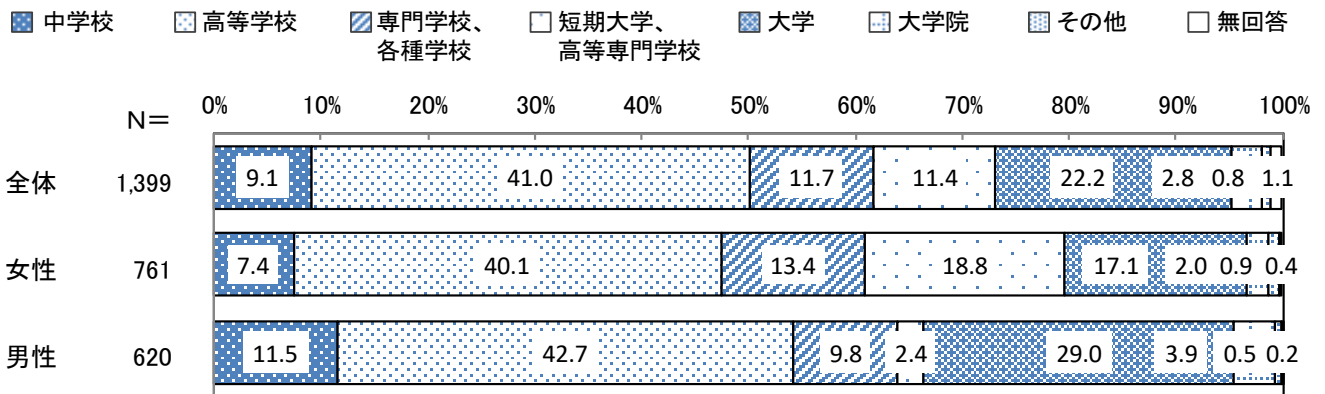
(上段:件数、下段%)

	全体	農林漁業	商工サービス業	(その他の自営業)	農林漁業	商工サービス業	従事者	その他の家族	会社などの役員	(常勤の勤め)	パート・アルバイト	非常勤の勤め	専業主婦・主夫	学生	その他	無回答	
		件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数	件数
全体	1399	49	21	58	24	6	17	40	475	231	247	33	133	65			
		3.5	1.5	4.1	1.7	0.4	1.2	2.9	34.0	16.5	17.7	2.4	9.5	4.6			
女性	20歳代	95	-	-	-	-	-	2	45	16	6	19	7	-			
			-	-	-	-	-	2.1	47.4	16.8	6.3	20.0	7.4	-			
	30歳代	110	-	-	1	1	2	1	54	33	13	1	3	-			
			-	-	0.9	0.9	0.9	1.8	0.9	49.1	30.0	11.8	0.9	2.7	-		
	40歳代	130	4	3	1	2	1	5	4	56	37	15	-	1	1		
			3.1	2.3	0.8	1.5	0.8	3.8	3.1	43.1	28.5	11.5	-	0.8	0.8		
	50歳代	134	3	2	4	4	-	-	3	38	44	31	-	3	2		
		2.2	1.5	3.0	3.0	-	-	2.2	28.4	32.8	23.1	-	2.2	1.5			
60歳代	157	3	3	6	6	3	2	2	10	41	67	-	6	8			
		1.9	1.9	3.8	3.8	1.9	1.3	1.3	6.4	26.1	42.7	-	3.8	5.1			
70歳以上	135	6	2	3	3	-	3	2	1	6	72	-	23	14			
		4.4	1.5	2.2	2.2	-	2.2	1.5	0.7	4.4	53.3	-	17.0	10.4			
男性	20歳代	63	-	-	-	1	-	1	3	32	5	-	13	7	1		
			-	-	-	1.6	-	1.6	4.8	50.8	7.9	-	20.6	11.1	1.6		
	30歳代	70	-	-	2	1	-	1	6	52	3	-	-	5	-		
			-	-	2.9	1.4	-	1.4	8.6	74.3	4.3	-	-	7.1	-		
	40歳代	86	3	2	7	1	-	1	2	62	4	1	-	3	-		
			3.5	2.3	8.1	1.2	-	1.2	2.3	72.1	4.7	1.2	-	3.5	-		
	50歳代	104	7	1	6	-	1	1	5	69	5	1	-	5	3		
		6.7	1.0	5.8	-	1.0	1.0	4.8	66.3	4.8	1.0	-	4.8	2.9			
60歳代	157	12	2	15	4	-	-	4	53	22	11	-	27	7			
		7.6	1.3	9.6	2.5	-	-	2.5	33.8	14.0	7.0	-	17.2	4.5			
70歳以上	140	11	5	13	1	-	-	5	2	15	30	-	41	17			
		7.9	3.6	9.3	0.7	-	-	3.6	1.4	10.7	21.4	-	29.3	12.1			

1-8 最終学歴

最終学歴は、「高等学校」が 41.0%と最も高く、次いで「大学」が 22.2%、「専門学校、各種学校」が 11.7%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「短期大学、高等専門学校」では女性(18.8%)が男性(2.4%)より 16.4 ポイント高くなっている。一方で、「大学」では男性(29.0%)が女性(17.1%)より 11.9 ポイント高くなっている。



(単位:人)

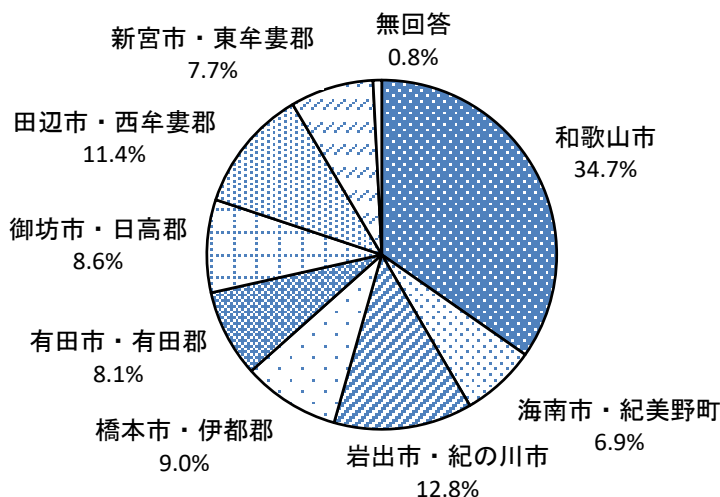
	全体	中学校	高等学校	専門学校、各種学校	短期大学、高等専門学校	大学	大学院	その他	無回答
全体	1399	127	573	164	159	311	39	11	15
女性	761	56	305	102	143	130	15	7	3
男性	620	71	265	61	15	180	24	3	1

1-9 居住地域

居住地域は、「和歌山市」が 34.7%と最も高く、次いで「岩出市・紀の川市」が 12.8%、「田辺市・西牟婁郡」が 11.4%となっている。

(単位:人)

(N = 1,399)



	全体	女性	男性
全体	1399	761	620
和歌山市	486	272	212
海南市・紀美野町	97	57	40
岩出市・紀の川市	179	103	76
橋本市・伊都郡	126	72	53
有田市・有田郡	113	60	53
御坊市・日高郡	120	68	50
田辺市・西牟婁郡	159	78	80
新宮市・東牟婁郡	108	51	56
無回答	11	-	-

2. 男女平等意識について

2-1 男女の地位の平等感

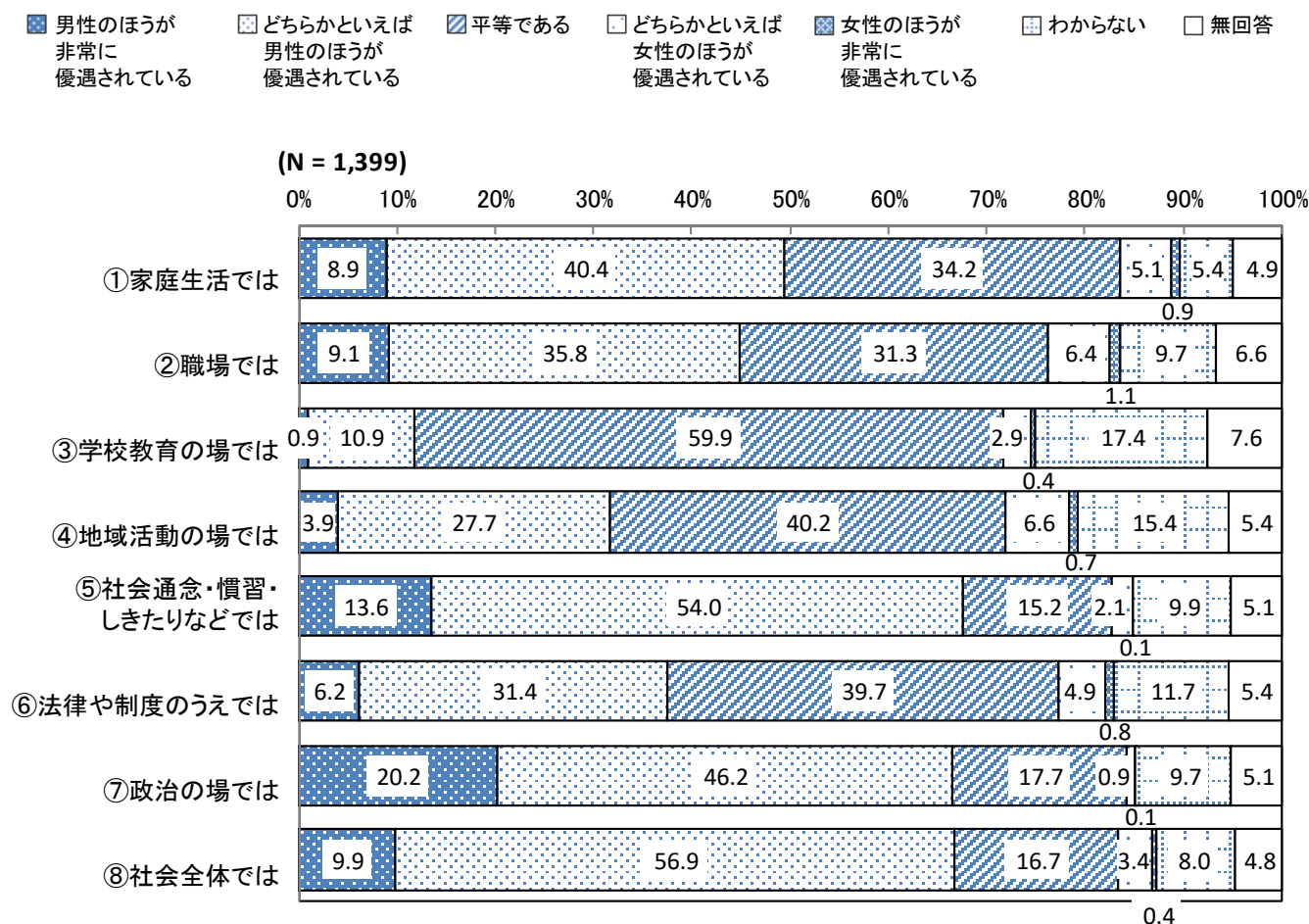
問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (①～⑧の項目それぞれについて、1つだけに○印)

○「⑤社会通念・慣習・しきたり」、「⑦政治の場」、「⑧社会全体」で『男性優遇』と感じている人が6割を超えている。
 ○すべての分野で『男性優遇』の割合は女性のほうが高く、「平等である」は男性のほうが高くなっている。

男女の地位の平等感について、全体では「平等」は「③学校教育の場」が59.9%と唯一5割を超えて高くなっている。次いで「④地域活動の場」が40.2%、「⑥法律や制度のうえ」が39.7%と続いた。

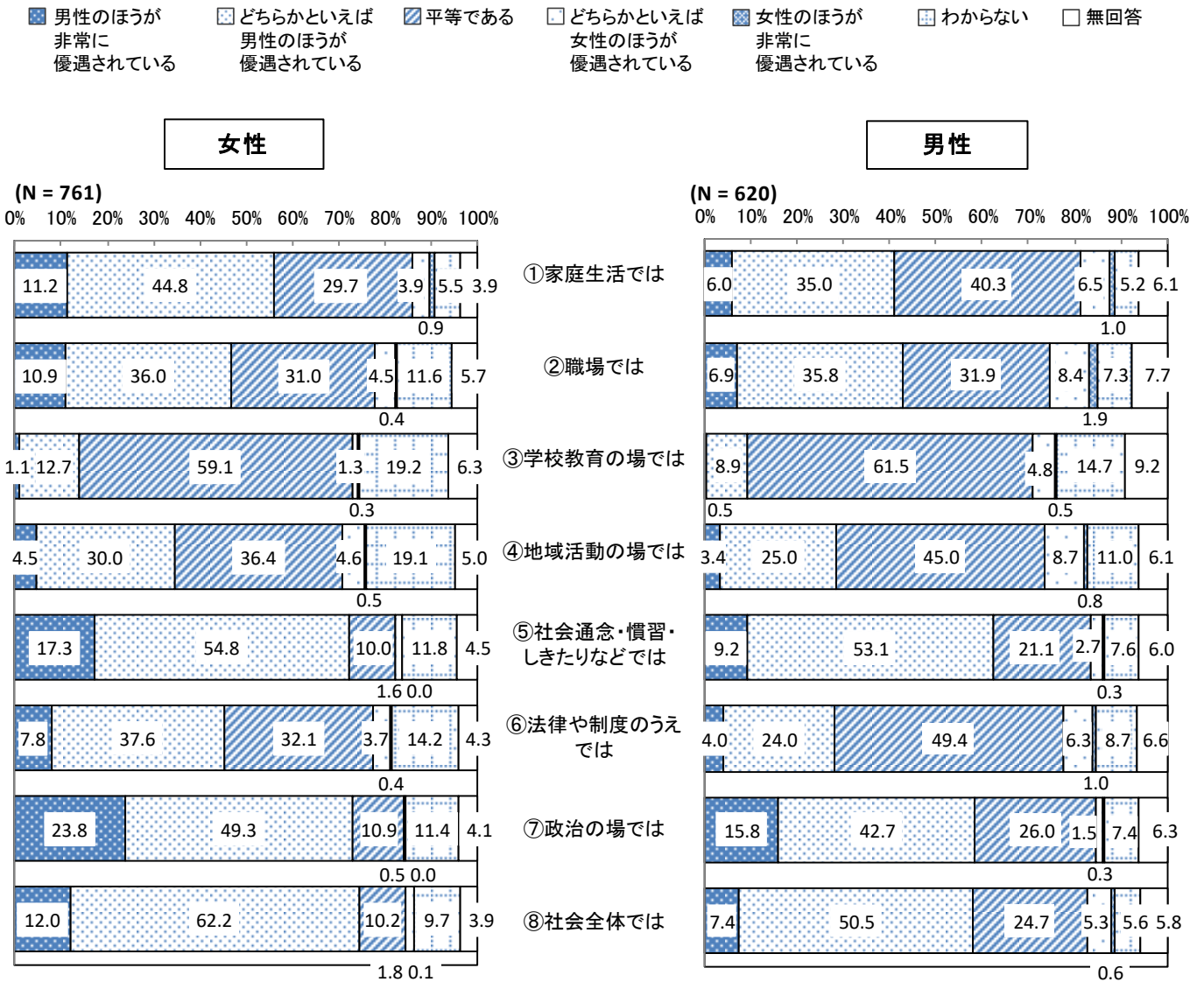
「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた『男性優遇』は、「⑤社会通念・慣習・しきたりなど」が67.6%、「⑧社会全体」が66.8%、「⑦政治の場」が66.4%といずれも6割を超えて高くなっている。一方、「女性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」を合わせた『女性優遇』では、すべての分野で1割未満となり、大きな差がみられた。

図2-1-1 男女の地位の平等感



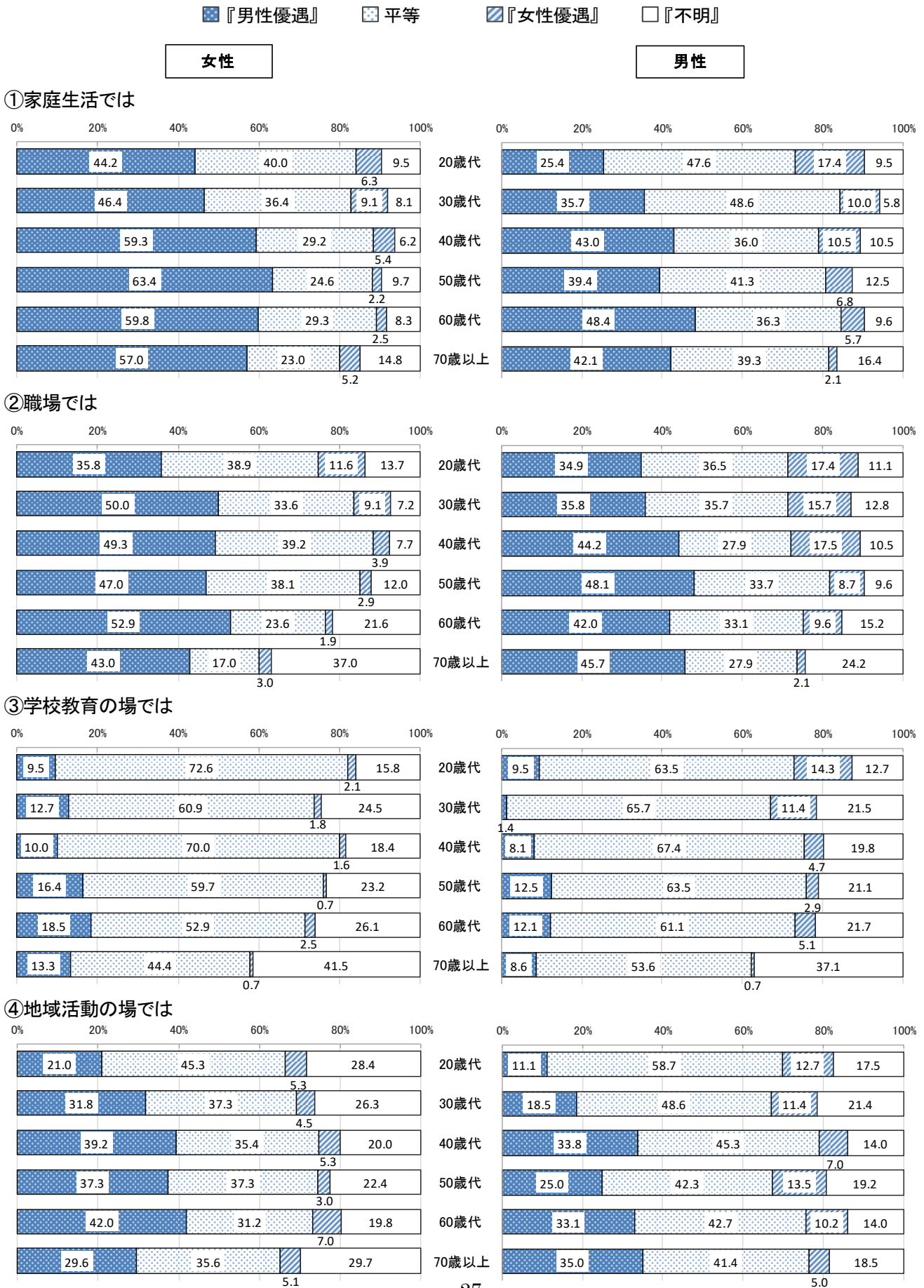
性別でみると、『男性優遇』では、「⑥法律や制度のうえ」で最も差がみられ、女性(45.4%)が男性(28.0%)より17.4ポイント高くなっている。次いで「⑧社会全体」で16.3ポイント、「①家庭生活」で15.0ポイントの差があり、いずれも女性が『男性優遇』と感じている割合が高くなっている。また、「平等である」でも「⑥法律や制度のうえ」で最も差がみられ、男性(49.4%)が女性(32.1%)より17.3ポイント高くなっている。『女性優遇』では、「②職場」で最も差がみられ、男性(10.3%)が女性(4.9%)より5.4ポイント高くなっている。他の分野では5ポイント以下の差となった。

図2-1-2 性別 男女の地位の平等感



性年代別でみると、『男性優遇』と回答した女性の割合は「⑤社会通念・慣習・しきたり」、「⑦政治の場」、「⑧社会全体」で高くなっている傾向がみられ、特に40～60歳代の女性で8割前後に上っている。

図2-1-3 性年代別 男女の地位の平等感

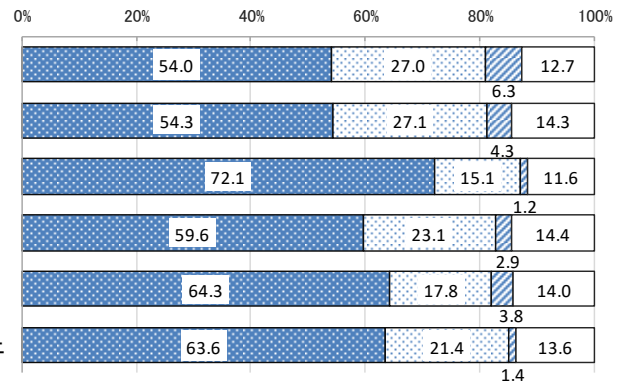
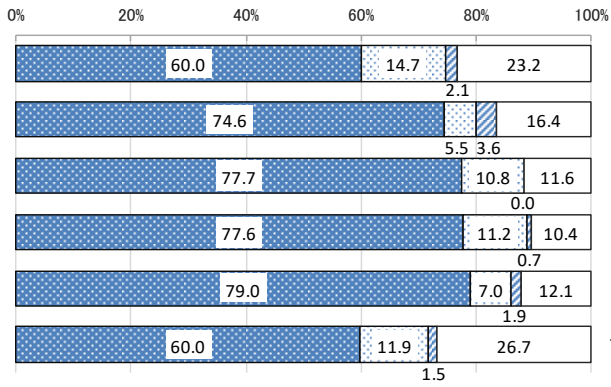


■『男性優遇』 ■『平等』 ■『女性優遇』 □『不明』

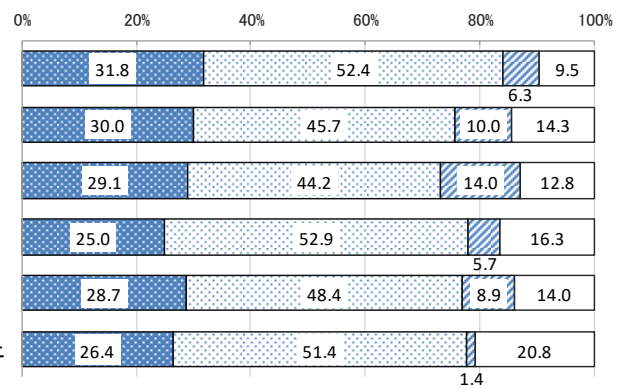
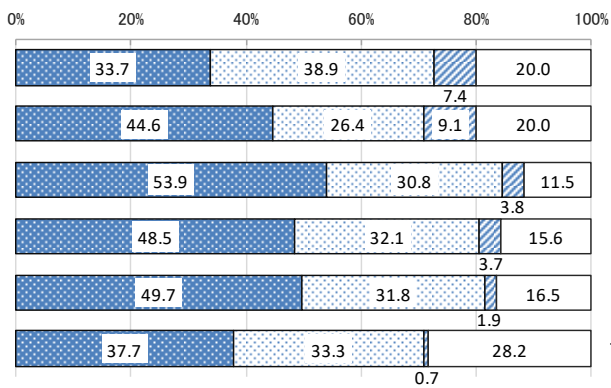
女性

男性

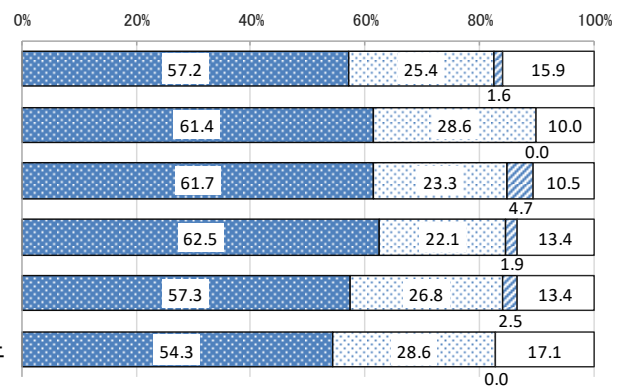
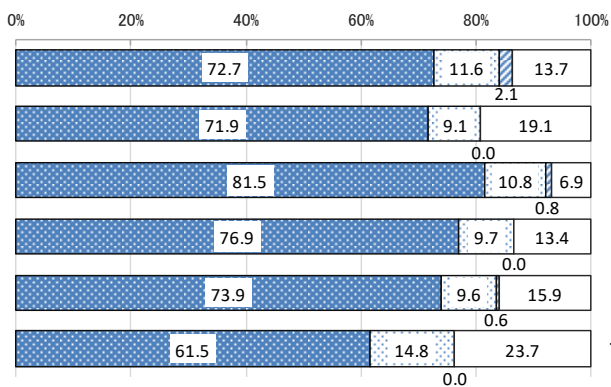
⑤ 社会通念・慣習・しきたりなどでは



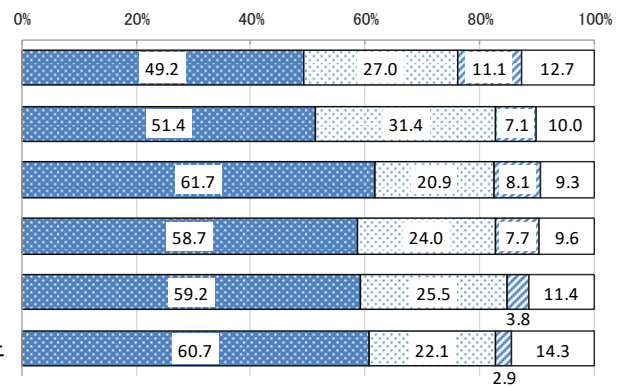
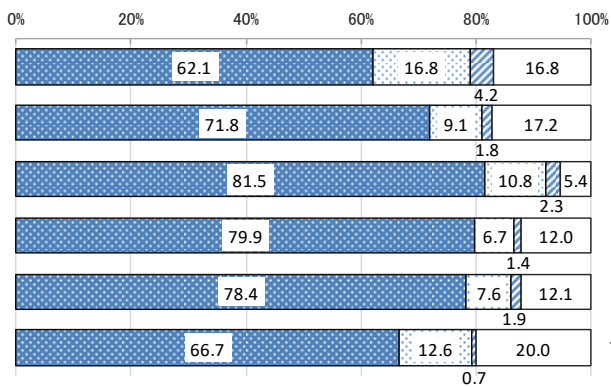
⑥ 法律や制度のうえでは



⑦ 政治の場では



⑧ 社会全体では



地域別でみると、「⑧社会全体」では『男性優遇』と回答した人の割合が有田市・有田郡で 49.5%と半数を下回った一方、そのほかの地域では6割強から7割強を占めている。

表2-1-1 地域別 男女の地位の平等感

①家庭生活では

(全体:件数、横:%)

	全体	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらかと いえば男性 のほうに優 遇されてい る	平等である	どちらかと いえば女性 のほうに優 遇されてい る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	無回答	
全体	1399	8.9	40.4	34.2	5.1	0.9	5.4	4.9	
お住 まい の 地 域	和歌山市	486	10.3	39.1	35.0	5.6	0.8	5.1	4.1
	海南市・紀美野町	97	6.2	46.4	25.8	3.1	-	10.3	8.2
	岩出市・紀の川市	179	9.5	34.6	35.8	6.7	1.7	7.8	3.9
	橋本市・伊都郡	126	7.9	42.9	35.7	5.6	0.8	4.0	3.2
	有田市・有田郡	113	4.4	38.1	38.9	3.5	1.8	4.4	8.8
	御坊市・日高郡	120	10.0	43.3	35.0	5.8	0.8	1.7	3.3
	田辺市・西牟婁郡	159	10.1	42.8	32.1	3.8	0.6	5.0	5.7
	新宮市・東牟婁郡	108	7.4	41.7	34.3	3.7	0.9	5.6	6.5

②職場では

(全体:件数、横:%)

	全体	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらかと いえば男性 のほうに優 遇されてい る	平等である	どちらかと いえば女性 のほうに優 遇されてい る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	無回答	
全体	1399	9.1	35.8	31.3	6.4	1.1	9.7	6.6	
お住 まい の 地 域	和歌山市	486	11.7	38.9	27.0	6.2	1.4	8.6	6.2
	海南市・紀美野町	97	8.2	34.0	32.0	4.1	1.0	8.2	12.4
	岩出市・紀の川市	179	7.3	36.3	34.1	5.0	1.7	12.3	3.4
	橋本市・伊都郡	126	7.1	31.7	36.5	10.3	-	9.5	4.8
	有田市・有田郡	113	5.3	30.1	39.8	4.4	1.8	10.6	8.0
	御坊市・日高郡	120	10.0	33.3	32.5	7.5	0.8	10.0	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	10.1	34.0	35.2	5.0	0.6	6.9	8.2
	新宮市・東牟婁郡	108	5.6	38.0	24.1	9.3	-	14.8	8.3

③学校教育の場では

(全体:件数、横:%)

	全体	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらかと いえば男性 のほうに優 遇されてい る	平等である	どちらかと いえば女性 のほうに優 遇されてい る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	無回答	
全体	1399	0.9	10.9	59.9	2.9	0.4	17.4	7.6	
お住 まい の 地 域	和歌山市	486	0.6	10.3	61.9	2.9	0.2	17.3	6.8
	海南市・紀美野町	97	2.1	13.4	45.4	3.1	-	21.6	14.4
	岩出市・紀の川市	179	0.6	13.4	57.0	2.8	1.1	20.1	5.0
	橋本市・伊都郡	126	1.6	9.5	66.7	1.6	-	15.1	5.6
	有田市・有田郡	113	0.9	9.7	60.2	4.4	0.9	15.0	8.8
	御坊市・日高郡	120	-	10.8	62.5	1.7	-	16.7	8.3
	田辺市・西牟婁郡	159	0.6	12.6	59.7	3.8	0.6	14.5	8.2
	新宮市・東牟婁郡	108	2.8	8.3	60.2	2.8	-	17.6	8.3

④地域活動の場では

(全体:件数、横:%)

	全体	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらかと いえば男性 のほうに優 遇されてい る	平等である	どちらかと いえば女性 のほうに優 遇されてい る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	無回答	
全体	1399	3.9	27.7	40.2	6.6	0.7	15.4	5.4	
お住 まい の 地 域	和歌山市	486	4.1	27.2	40.9	7.0	0.8	15.8	4.1
	海南市・紀美野町	97	6.2	20.6	33.0	7.2	-	19.6	13.4
	岩出市・紀の川市	179	3.4	31.8	35.8	7.3	1.7	17.3	2.8
	橋本市・伊都郡	126	5.6	29.4	42.9	4.8	0.8	14.3	2.4
	有田市・有田郡	113	3.5	27.4	42.5	7.1	-	12.4	7.1
	御坊市・日高郡	120	3.3	29.2	41.7	7.5	1.7	10.0	6.7
	田辺市・西牟婁郡	159	3.1	28.3	40.9	4.4	-	17.0	6.3
	新宮市・東牟婁郡	108	2.8	25.0	42.6	5.6	-	15.7	8.3

⑤社会通念・慣習・しきたりなどでは

(全体:件数、横:%)

	全体	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらか と い え ば 男 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	平等である	どちらか と い え ば 女 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	無回答	
全体	1399	13.6	54.0	15.2	2.1	0.1	9.9	5.1	
お住 まい の 地 域	和歌山市	486	16.0	55.8	13.2	1.6	-	9.1	4.3
	海南市・紀美野町	97	10.3	53.6	11.3	-	1.0	13.4	10.3
	岩出市・紀の川市	179	11.7	61.5	8.9	4.5	0.6	10.1	2.8
	橋本市・伊都郡	126	17.5	55.6	17.5	0.8	-	6.3	2.4
	有田市・有田郡	113	9.7	44.2	20.4	3.5	-	15.0	7.1
	御坊市・日高郡	120	12.5	46.7	20.8	2.5	-	12.5	5.0
	田辺市・西牟婁郡	159	11.9	51.6	20.1	1.9	-	7.5	6.9
	新宮市・東牟婁郡	108	13.0	51.9	15.7	1.9	-	10.2	7.4

⑥法律や制度のうえでは

(全体:件数、横:%)

	全体	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらか と い え ば 男 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	平等である	どちらか と い え ば 女 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	無回答	
全体	1399	6.2	31.4	39.7	4.9	0.8	11.7	5.4	
お住 まい の 地 域	和歌山市	486	6.4	33.3	37.9	5.6	0.6	11.7	4.5
	海南市・紀美野町	97	6.2	37.1	30.9	4.1	-	10.3	11.3
	岩出市・紀の川市	179	6.1	35.2	36.9	7.8	-	11.7	2.2
	橋本市・伊都郡	126	10.3	25.4	42.9	4.0	0.8	14.3	2.4
	有田市・有田郡	113	3.5	23.0	51.3	1.8	1.8	12.4	6.2
	御坊市・日高郡	120	3.3	29.2	44.2	2.5	2.5	11.7	6.7
	田辺市・西牟婁郡	159	6.3	30.2	40.3	5.7	1.3	9.4	6.9
	新宮市・東牟婁郡	108	5.6	30.6	39.8	2.8	-	13.0	8.3

⑦政治の場では

(全体:件数、横:%)

	全体	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらか と い え ば 男 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	平等である	どちらか と い え ば 女 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	無回答	
全体	1399	20.2	46.2	17.7	0.9	0.1	9.7	5.1	
お住 まい の 地 域	和歌山市	486	25.1	46.7	15.2	1.2	-	7.6	4.1
	海南市・紀美野町	97	24.7	41.2	11.3	-	-	12.4	10.3
	岩出市・紀の川市	179	15.1	53.1	17.3	0.6	0.6	11.7	1.7
	橋本市・伊都郡	126	25.4	41.3	20.6	2.4	-	7.9	2.4
	有田市・有田郡	113	11.5	45.1	23.0	0.9	-	14.2	5.3
	御坊市・日高郡	120	13.3	48.3	20.8	0.8	-	11.7	5.0
	田辺市・西牟婁郡	159	16.4	45.3	22.6	0.6	0.6	6.9	7.5
	新宮市・東牟婁郡	108	17.6	43.5	16.7	-	-	12.0	10.2

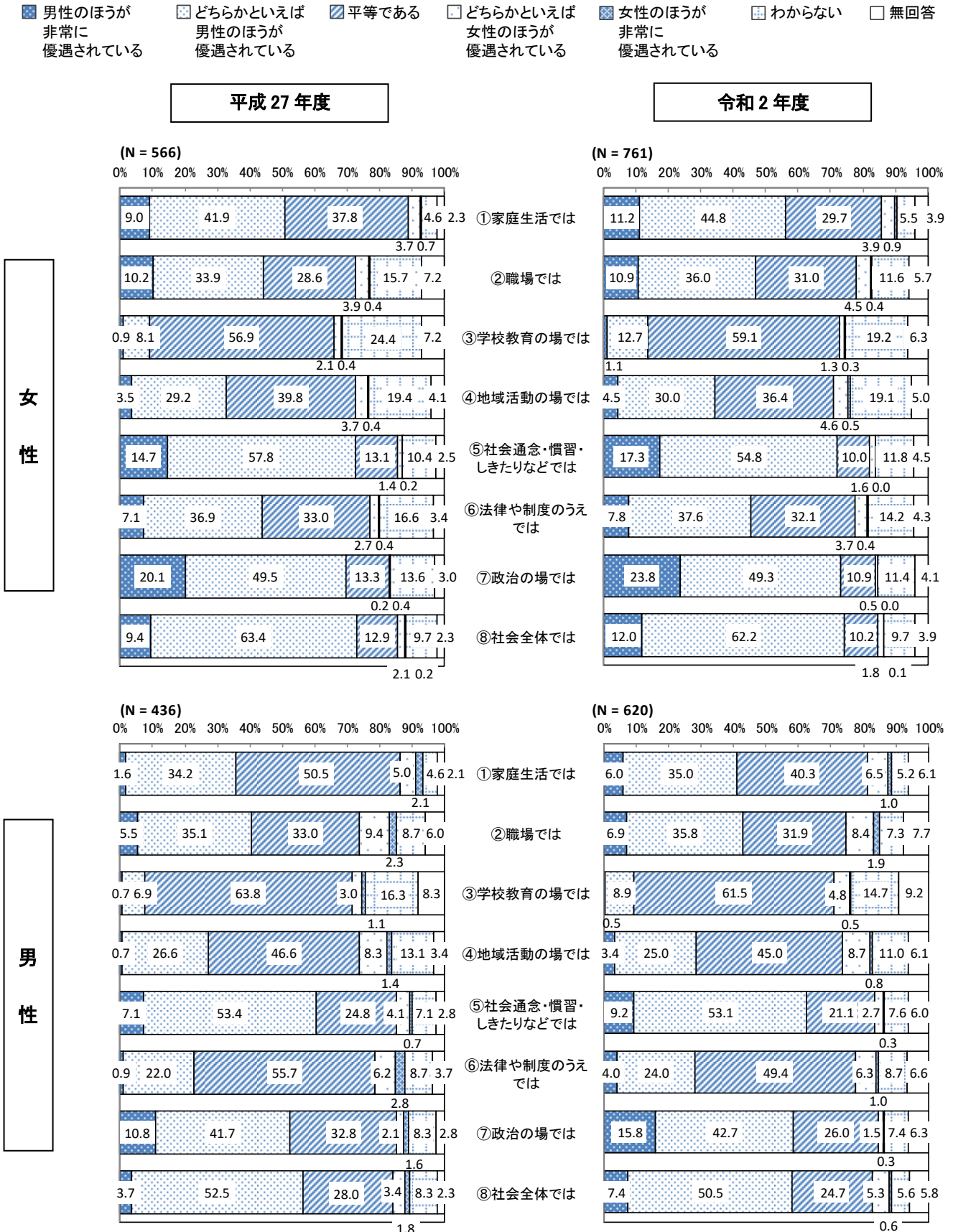
⑧社会全体では

(全体:件数、横:%)

	全体	男性のほう が非常に優 遇されてい る	どちらか と い え ば 男 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	平等である	どちらか と い え ば 女 性 の ほう が 優 遇 さ れ て い る	女性のほう が非常に優 遇されてい る	わからない	無回答	
全体	1399	9.9	56.9	16.7	3.4	0.4	8.0	4.8	
お住 まい の 地 域	和歌山市	486	11.7	61.3	13.0	3.9	0.2	6.2	3.7
	海南市・紀美野町	97	12.4	53.6	12.4	4.1	-	8.2	9.3
	岩出市・紀の川市	179	6.1	62.6	15.1	3.9	0.6	10.1	1.7
	橋本市・伊都郡	126	15.1	53.2	19.8	3.2	-	6.3	2.4
	有田市・有田郡	113	3.5	46.0	31.0	2.7	0.9	9.7	6.2
	御坊市・日高郡	120	7.5	54.2	17.5	2.5	0.8	12.5	5.0
	田辺市・西牟婁郡	159	9.4	52.8	20.8	2.5	1.3	6.3	6.9
	新宮市・東牟婁郡	108	9.3	54.6	14.8	2.8	-	9.3	9.3

前回調査との比較を性別でみると、女性では、前回調査と比べて『男性優遇』が増加した分野は差の大きい順に「①家庭生活」で5.1ポイント、「③学校教育の場」で4.8ポイント、「⑦政治の場」で3.5ポイントと続き、「⑤社会通念・慣習・しきたり」を除くすべての分野で増加した。一方、男性では、『男性優遇』は「⑦政治の場」で6.0ポイント、「①家庭生活」で5.2ポイント、「⑥法律や制度」で5.1ポイントそれぞれ増加している。

図2-1-4 前回調査比較 男女の地位の平等感



2-2 男女の決められた役割分担についての考え

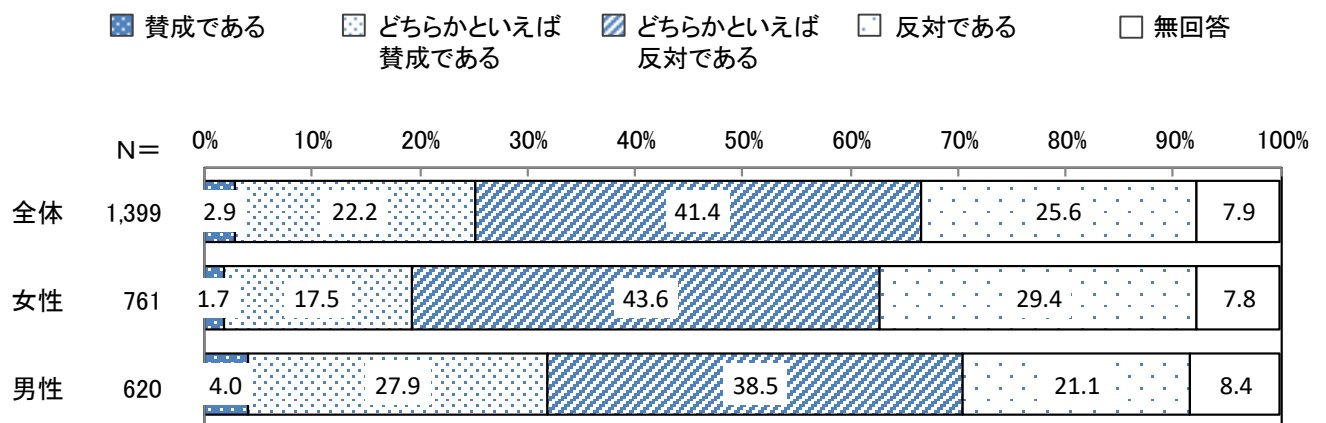
問2 「男は仕事、女は家庭」など、性別によって男女の役割を決めるような考え方についてどのように思いますか。(1つだけに○印)

- 性別役割分担について、女性では『否定的な意見』が7割強、男性でも6割弱に上っている。
- 『肯定的な意見』は男性が約3割、女性が約2割と、男性の方がやや高くなっている。
- 『否定的な意見』は男女ともにどの年代でも半数以上となっているが、『肯定的な意見』は男女ともに70歳以上で最も高くなっている。

男女の決められた役割分担の考えについて、全体では、「どちらかといえば反対である」が41.4%、「反対である」が25.6%と、『否定的な意見』は67.0%となっている。

性別でみると、『否定的な意見』は、女性(73.0%)が男性(59.6%)より13.4ポイント高くなっている。

図2-2-1 性別 男女の決められた役割分担についての考え



性年代別でみると、『否定的な意見』は、どの年代でも女性が男性よりも高く、最も差がみられた50歳代では女性(79.2%)が男性(61.6%)より17.6ポイント高くなっている。また、『肯定的な意見』では男女ともに70歳以上で最も高くなっている。

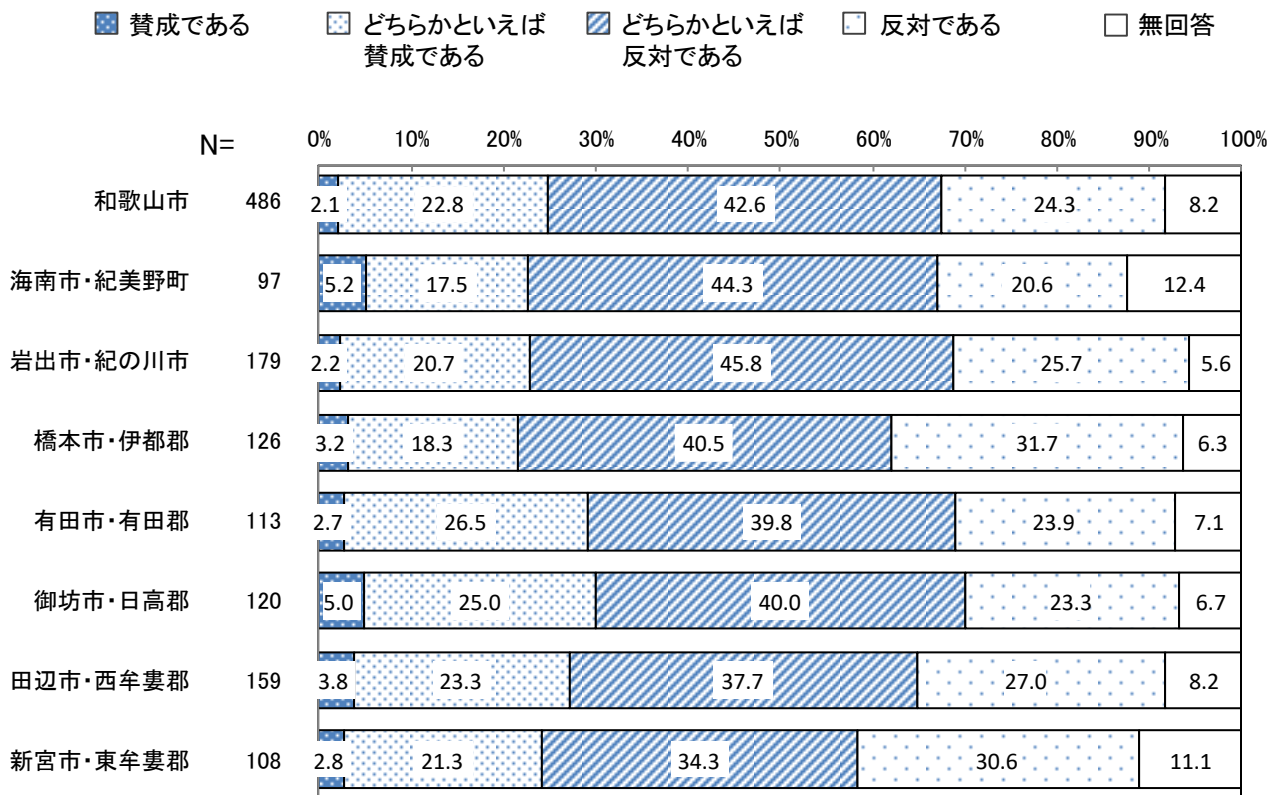
表2-2-1 性年代別 男女の決められた役割分担についての考え

(全体:件数、横:%)

	全体	賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらかといえば反対である	反対である	無回答	
全体	1399	2.9	22.2	41.4	25.6	7.9	
女性	20歳代	95	2.1	13.7	45.3	32.6	6.3
	30歳代	110	-	10.9	49.1	31.8	8.2
	40歳代	130	0.8	17.7	38.5	36.2	6.9
	50歳代	134	-	11.9	49.3	29.9	9.0
	60歳代	157	2.5	16.6	35.7	36.3	8.9
	70歳以上	135	4.4	31.9	46.7	10.4	6.7
男性	20歳代	63	6.3	20.6	42.9	23.8	6.3
	30歳代	70	2.9	25.7	32.9	32.9	5.7
	40歳代	86	1.2	27.9	38.4	27.9	4.7
	50歳代	104	3.8	25.0	40.4	21.2	9.6
	60歳代	157	3.2	28.7	39.5	17.8	10.8
	70歳以上	140	6.4	33.6	37.1	13.6	9.3

居住地域別で見ると、『肯定的な意見』はすべての地域で 2～3 割となり、有田市・有田郡、御坊市・日高郡ではそれぞれ 29.2%、30.0%と、他の地域に比べてやや高い。一方、『否定的な意見』はすべての地域で 6 割を超え、特に岩出市・紀の川市、橋本市・伊都郡でそれぞれ 71.5%、72.2%とやや高くなっている。

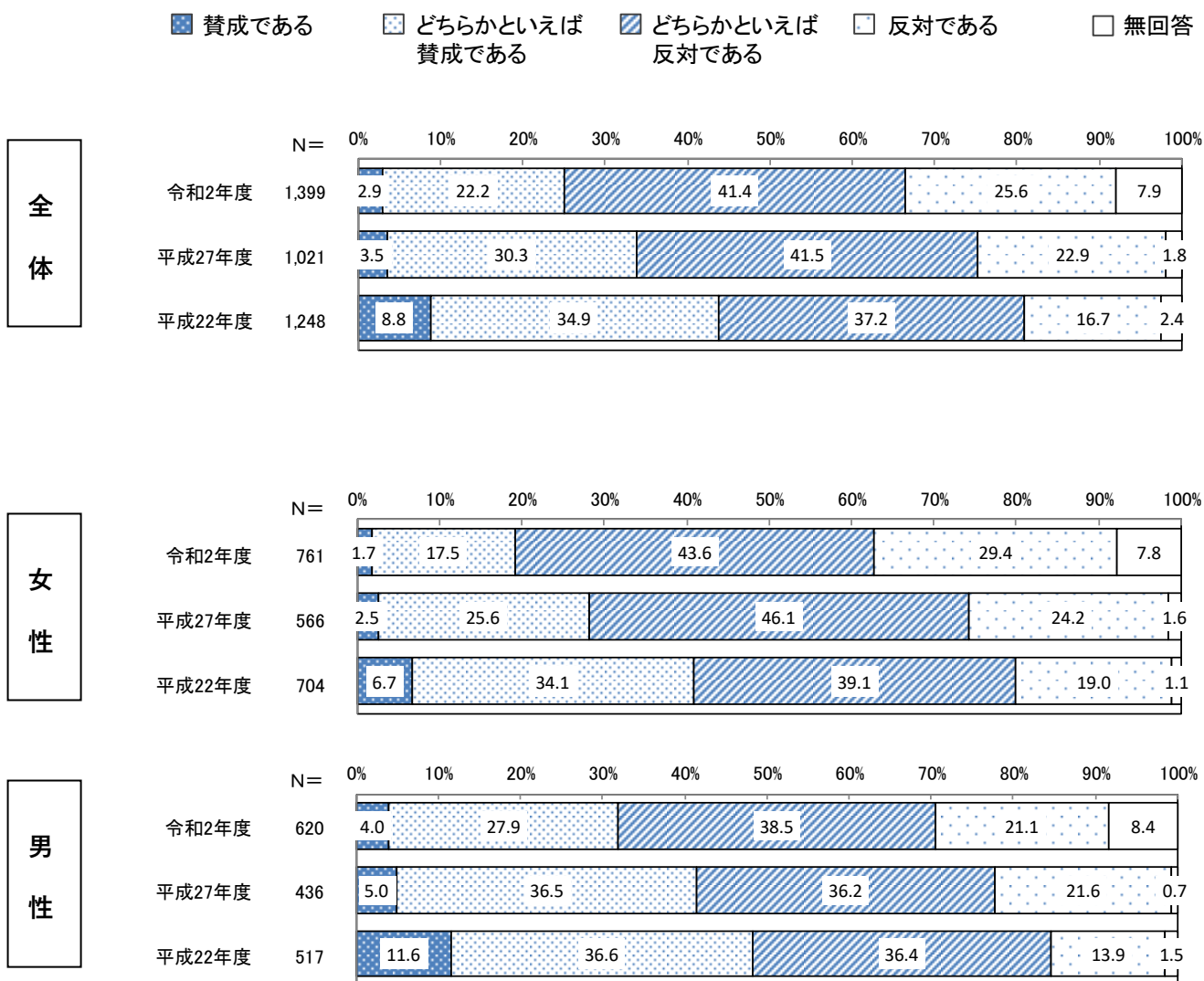
図 2-2-2 居住地域別 男女の決められた役割分担についての考え



過去調査と比較すると、『肯定的な意見』は前回調査(平成 27 年度)と比較して 8.7 ポイント減少、前々回調査(平成 22 年度)と比較して 18.6 ポイントと大幅に減少している。一方、『否定的な意見』は前回調査(平成 27 年度)と比較して 2.6 ポイント増加、前々回調査(平成 22 年度)と比較して 13.1 ポイント増加している。

性別でみても、『肯定的な意見』は女性で 8.9 ポイント、男性で 9.6 ポイントそれぞれ減少しており、全体と同じ減少傾向がみられた。男女間で最も差がみられたのは「反対である」の項目で、前回調査と比べて女性では 5.2 ポイント増加した一方、男性では 0.5 ポイント減少している。

図 2-2-3 過去調査比較 男女の決められた役割分担についての考え



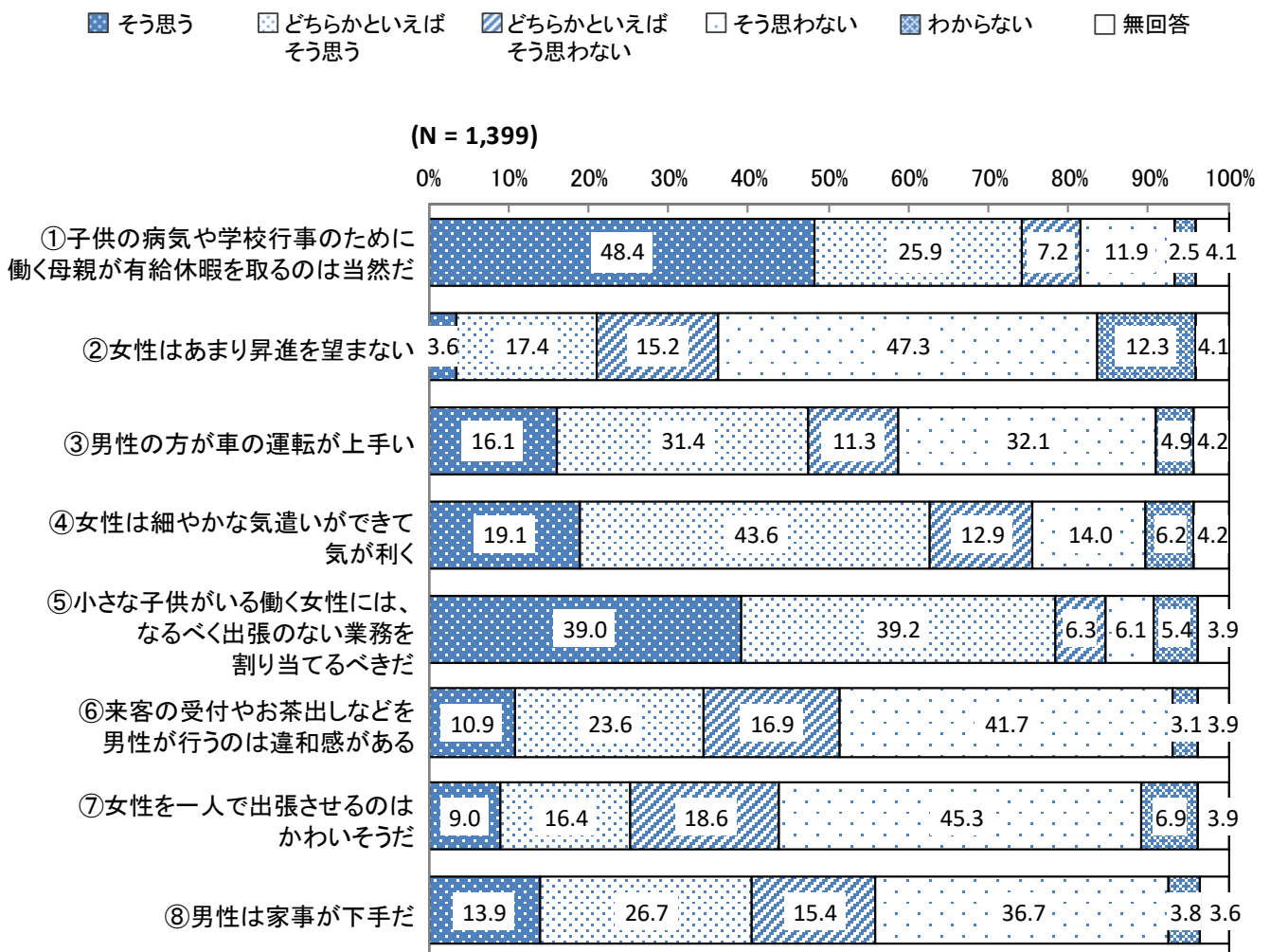
2-3 男女の役割等についての考え

問3 以下の内容について、あなたの意見に近いものはどれですか。
 (①～⑧の項目それぞれについて、1つだけに○印)

○『肯定的な意見』は、「①子供の病気や学校行事のために働く母親が有給休暇を取るのは当然だ」、「⑤小さな子供がいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」が7割を超えて高くなっている。
 ○『否定的な意見』は、「②女性はあまり昇進を望まない」、「⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ」が6割を超え、特に高くなっている。
 ○男女間で大きな差がみられたのは「③男性の方が車の運転が上手い」、「⑧男性は家事が下手だ」で、『否定的な意見』が女性で男性より10ポイント以上高くなっている。

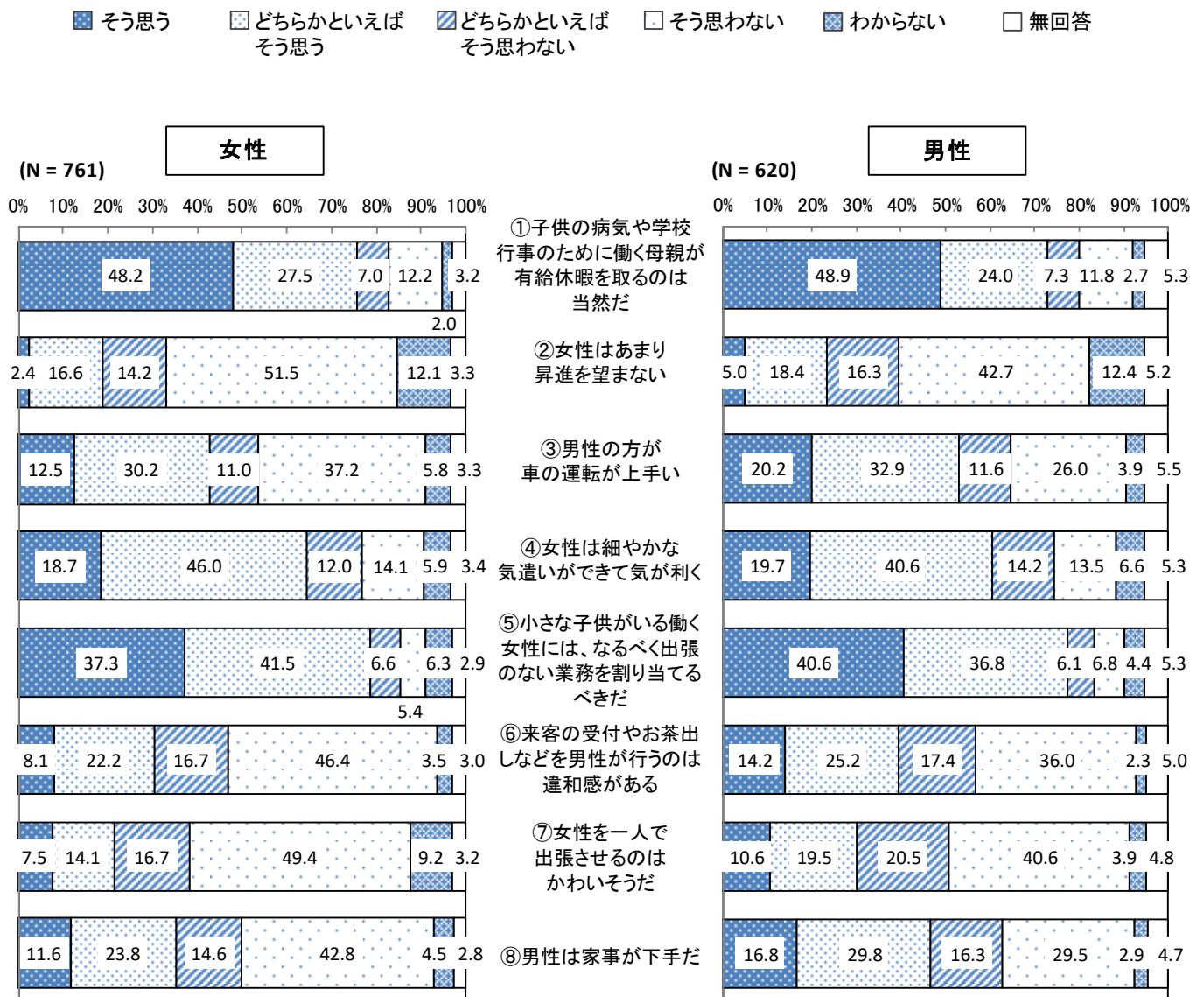
男女の役割等についての考えでは、『肯定的な意見』は「⑤小さな子供がいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」が78.2%で最も高く、次いで「①子供の病気や学校行事のために働く母親が有給休暇を取るのは当然だ」が74.3%、「④女性は細やかな気遣いができて気が利く」が62.7%となっている。一方、『否定的な意見』は、「⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ」が63.9%で最も高く、次いで「②女性はあまり昇進を望まない」が62.5%、「⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある」が58.6%と続いた。「③男性の方が車の運転が上手い」では大きな差はみられなかった。

図2-3-1 男女の役割等についての考え



性別でみると、男女ともに『肯定的な意見』が半数を超えたのは、「①子供の病気や学校行事のために働く母親が有給休暇を取るのは当然だ」(女性:75.7%、男性:72.9%)、「④女性は細やかな気遣いができて気が利く」(女性:64.7%、男性:60.3%)、「⑤小さな子供がいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」(女性:78.8%、男性:77.4%)であった。男女ともに『否定的な意見』が過半数を超えたのは、『②女性はあまり昇進を望まない』(女性:65.7%、男性:59.0%)、「⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある」(女性:63.1%、男性:53.4%)、「⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ」(女性:66.1%、男性:61.1%)となった。男女間で大きな差がみられたのは「③男性の方が車の運転が上手い」、「⑧男性は家事が下手だ」で、『否定的な意見』が女性より10ポイント以上高くなっている。

図2-3-2 性別 男女の役割等についての考え



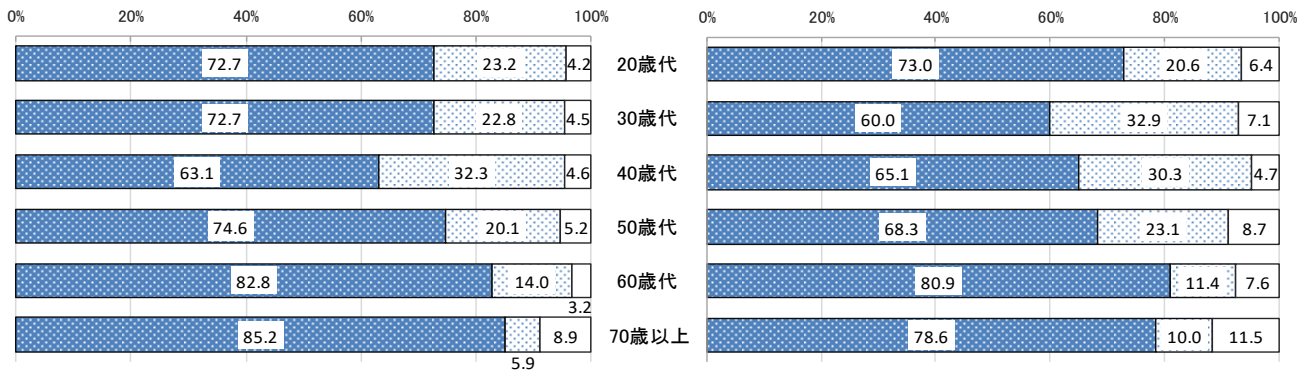
性年代別で見ると、『肯定的な意見』の割合が高かった「⑤小さな子供がいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ」では、どの年代も7割半ば超と高く、年代間の差はほとんどみられない。女性の60歳代では8割半ばと、全体と比較してやや高くなっている。『否定的な意見』の割合が高かった「⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ」では、女性の30歳代で79.1%と特に高くなっている。一方、男女ともに70歳以上では5割を下回り、低くなっている。

図2-3-3 性年代別 男女の役割等についての考え

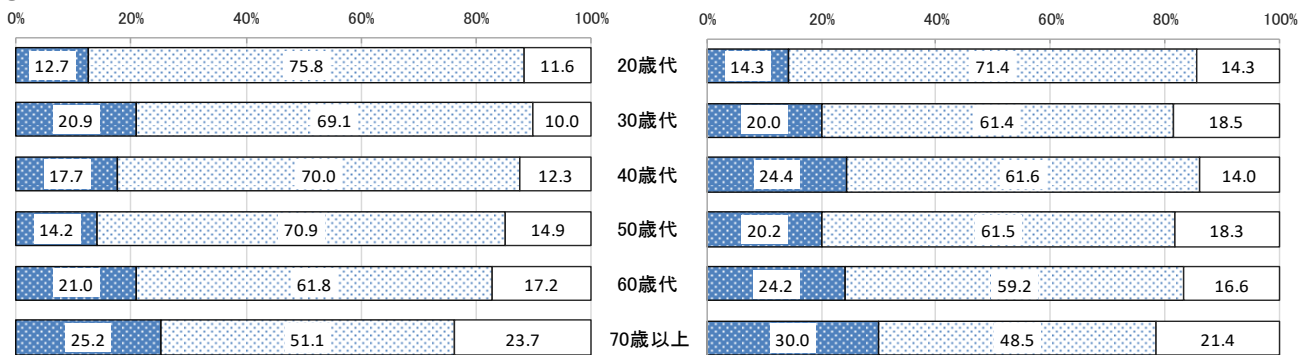
■『肯定的な意見』 ■『否定的な意見』 □『不明』

女性 男性

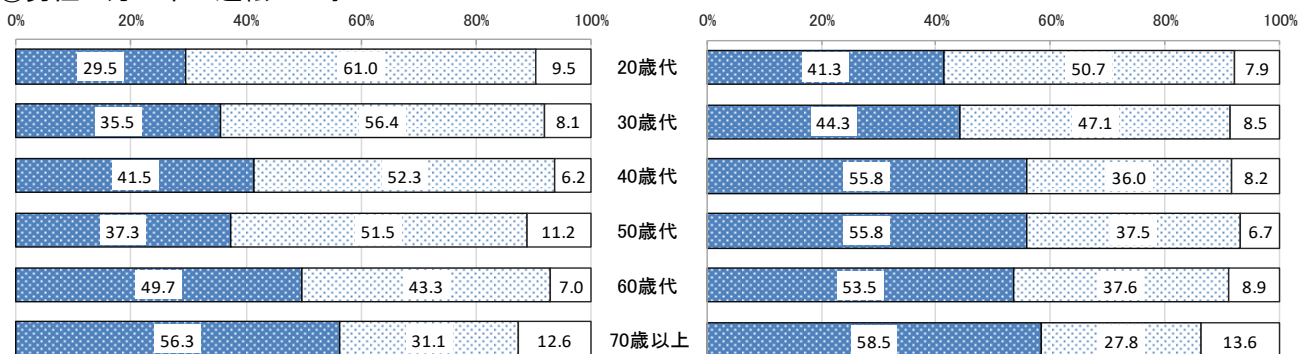
①子供の病気や学校行事のために働く母親が 有給休暇を取るのは当然だ



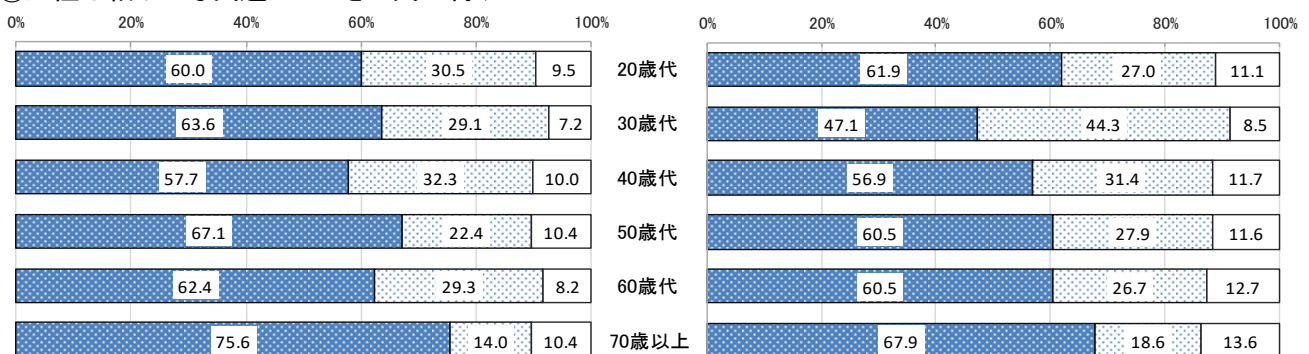
②女性はあまり昇進を望まない



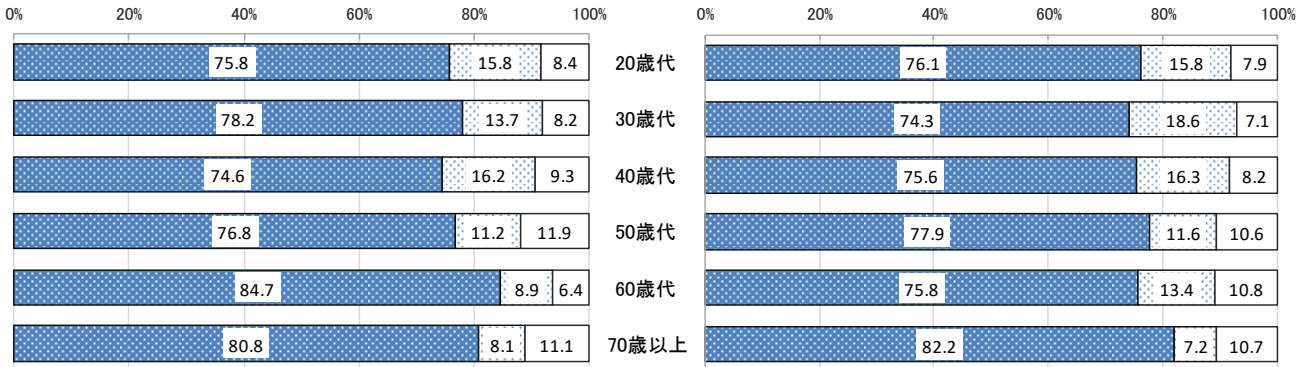
③男性の方が車の運転が上手い



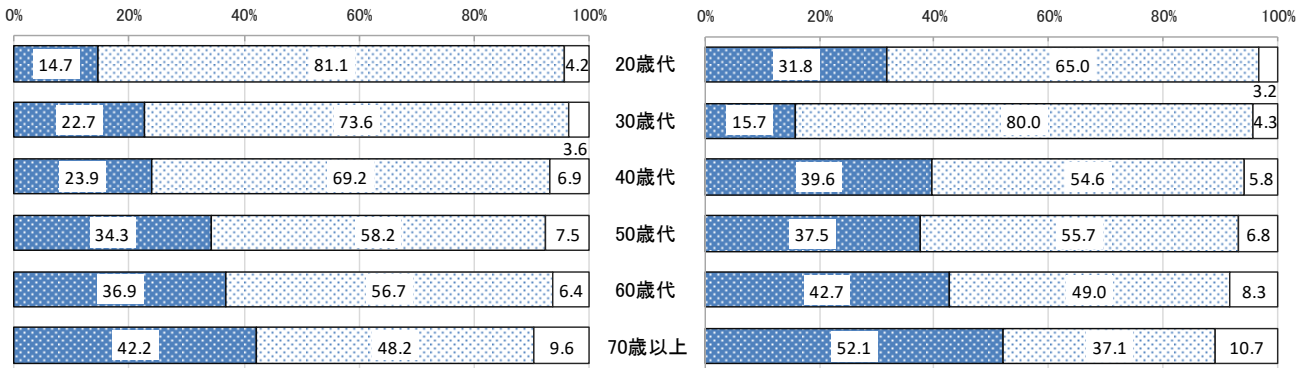
④女性は細やかな気遣いができて気が利く



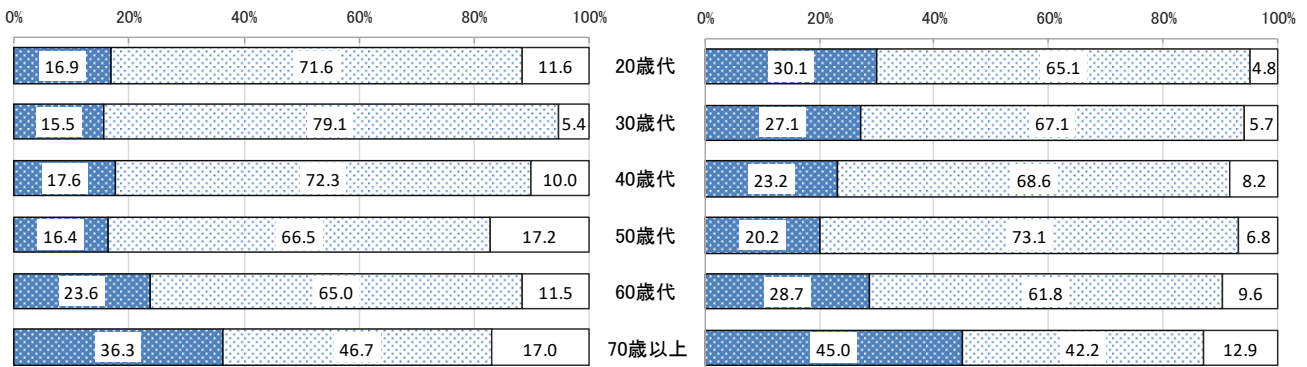
⑤小さな子供がいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ



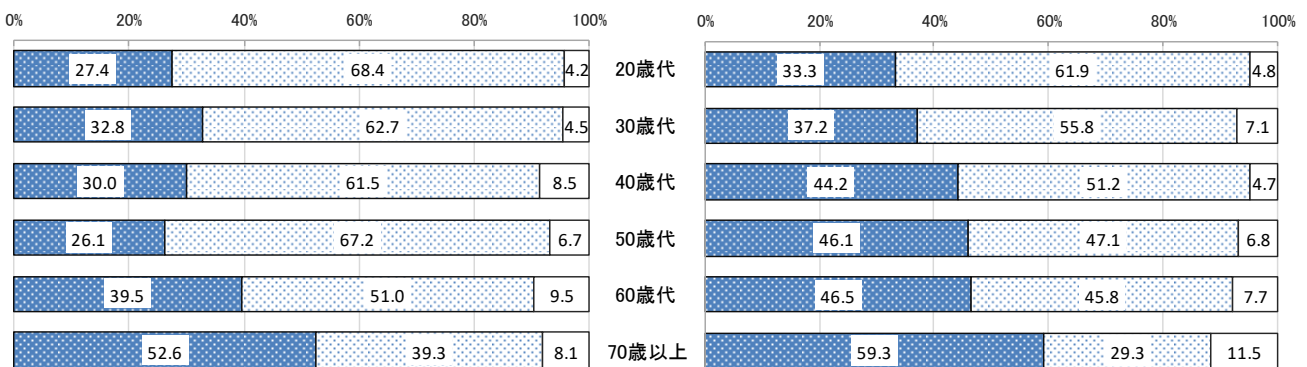
⑥来客の受付やお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある



⑦女性を一人で出張させるのはかわいそうだ



⑧男性は家事が下手だ



3. 家庭生活について

3-1 生活時間の配分

問4 あなたの普段（平日と休日）の生活時間について、1日に費やす時間はどのくらいですか。
 (①～⑥の項目それぞれについて、1つだけに○印)

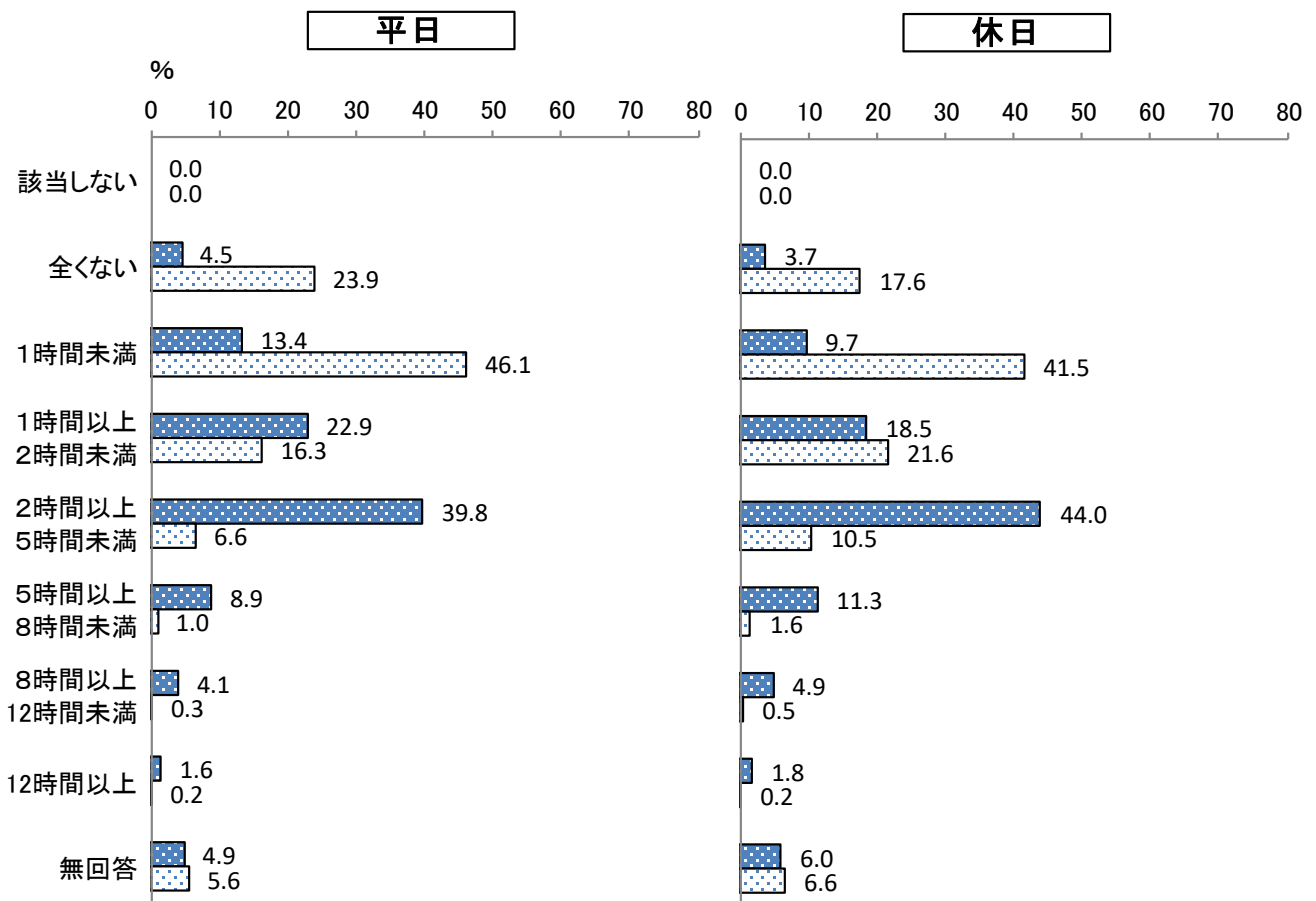
- 「①家事」では、平日、休日ともに女性は「2時間以上5時間未満」が最も高く、男性は「1時間未満」が最も高くなっている。
- 「⑤地域活動」では、「1時間未満」が平日は2割弱、休日は約2割で男性が女性より高くなっている。

「①家事」では、平日、休日の「2時間以上5時間未満」が女性は男性より30ポイント以上高く、大きな差がみられた。「②育児・子育て」では、女性は平日と休日で時間配分の差はほとんどみられないが、男性は「2時間以上5時間未満」で時間配分が増えている。「③介護」では、平日と休日で時間配分の差はみられない。「④収入を得る仕事」では、平日の「8時間以上12時間未満」が男性は女性より15.7ポイント高く、差がみられた。また、「⑤地域活動」の休日でも、「1時間未満」が男性は女性より10.4ポイント高く、他と比較して差がみられた。「⑥余暇や娯楽・趣味」では、平日の「1時間以上2時間未満」で、女性が男性より8.1ポイント高くなっている。

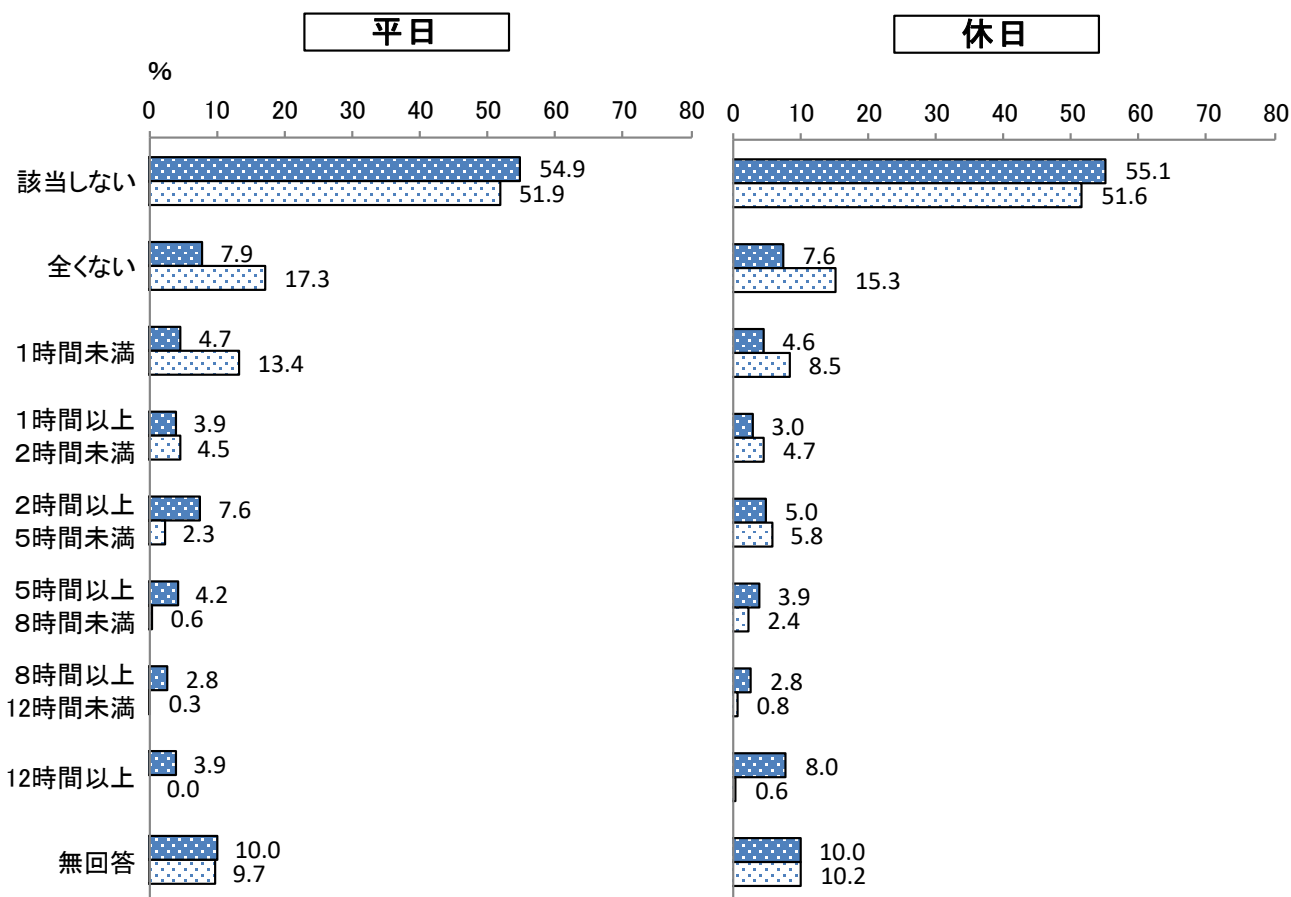
図3-1-1 性別 生活時間の配分

■ 女性 (N=761) □ 男性 (N=620)

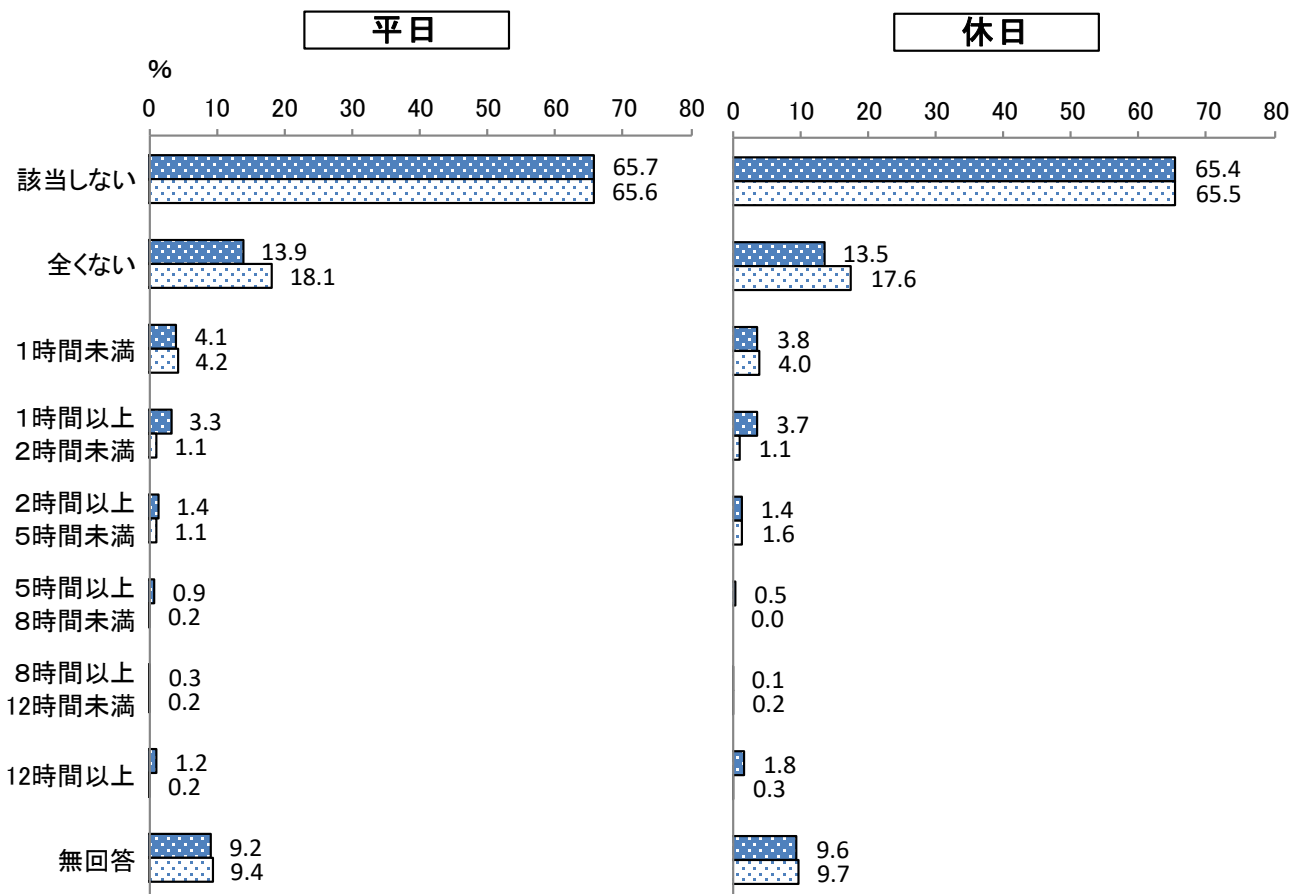
①家事



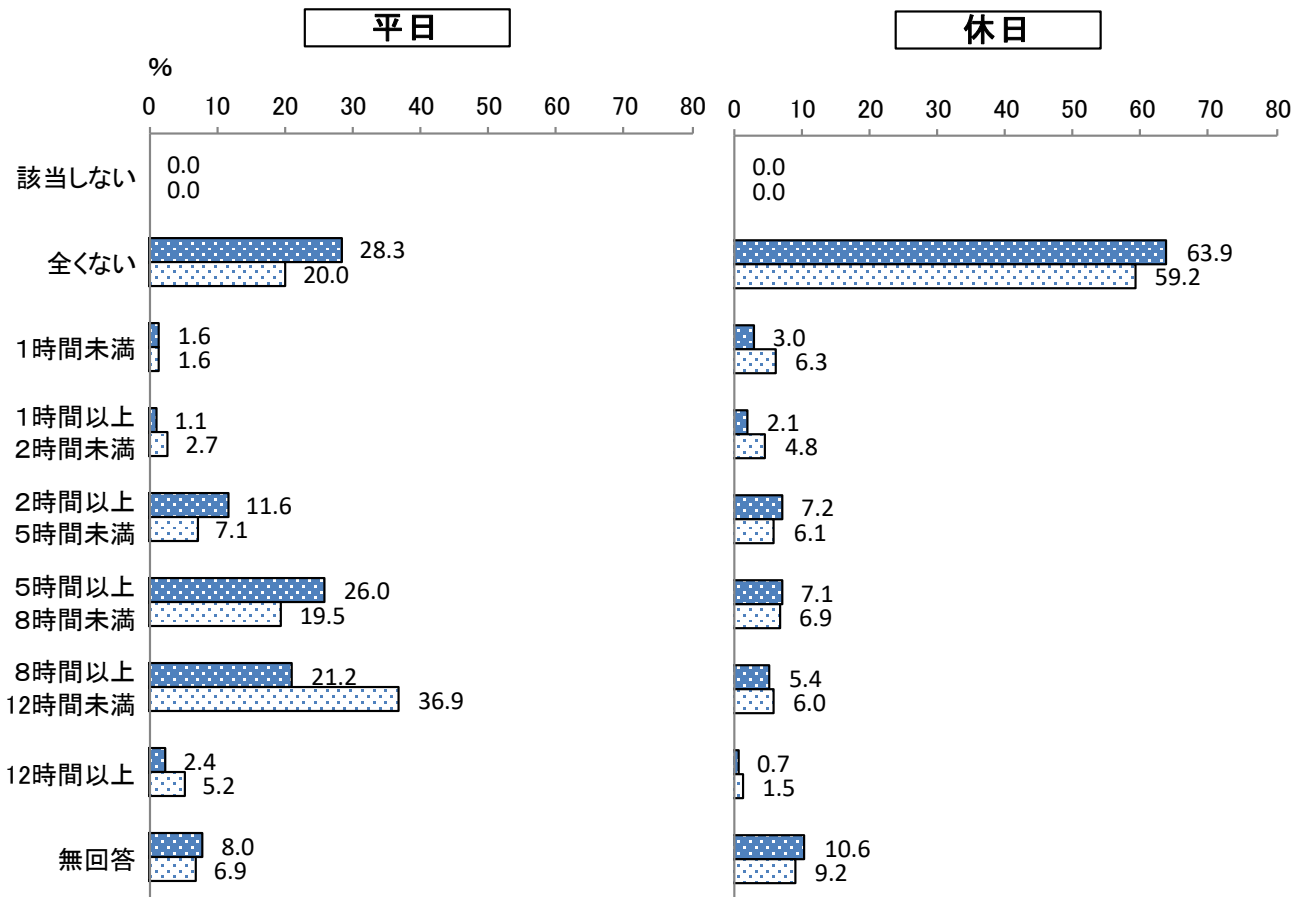
②育児・子育て



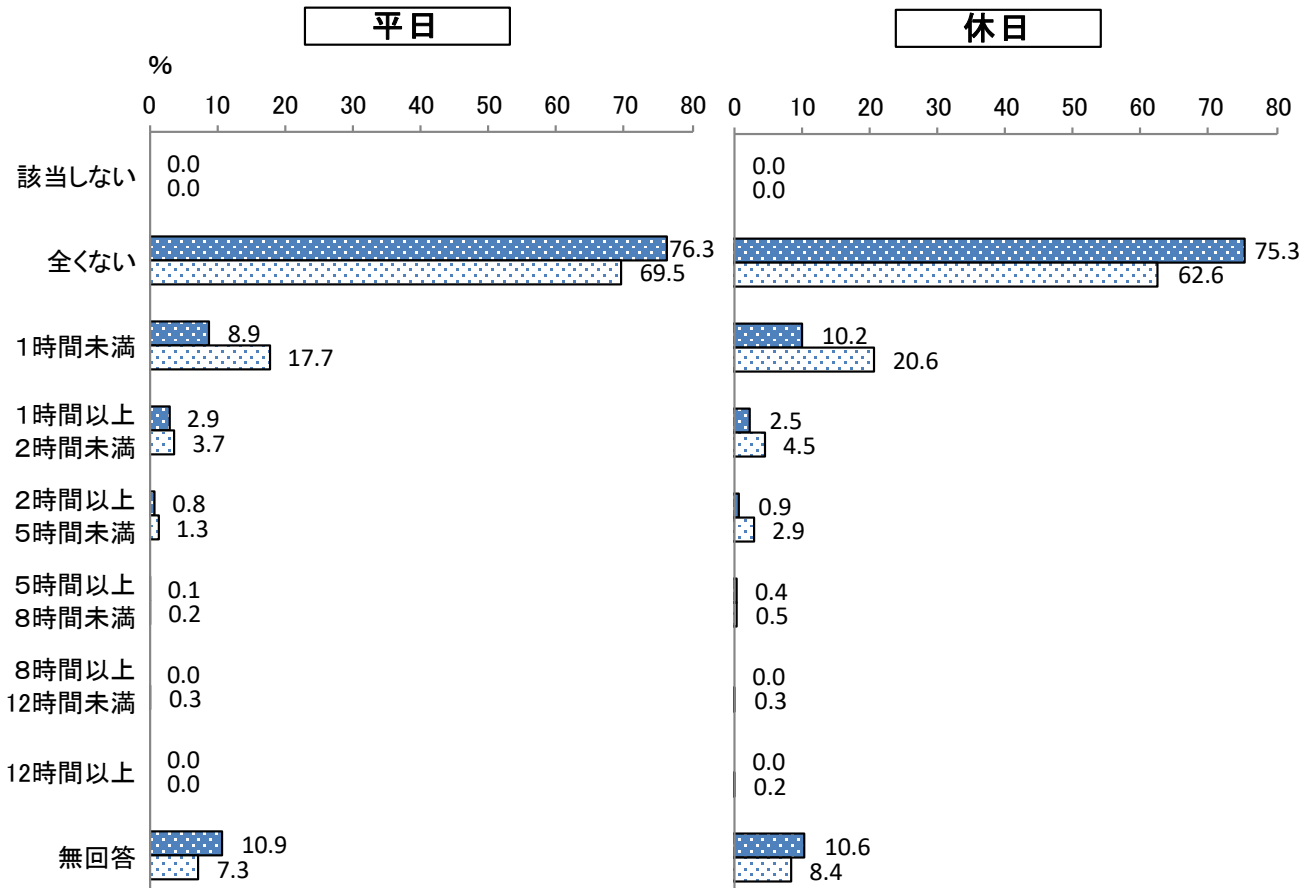
③介護



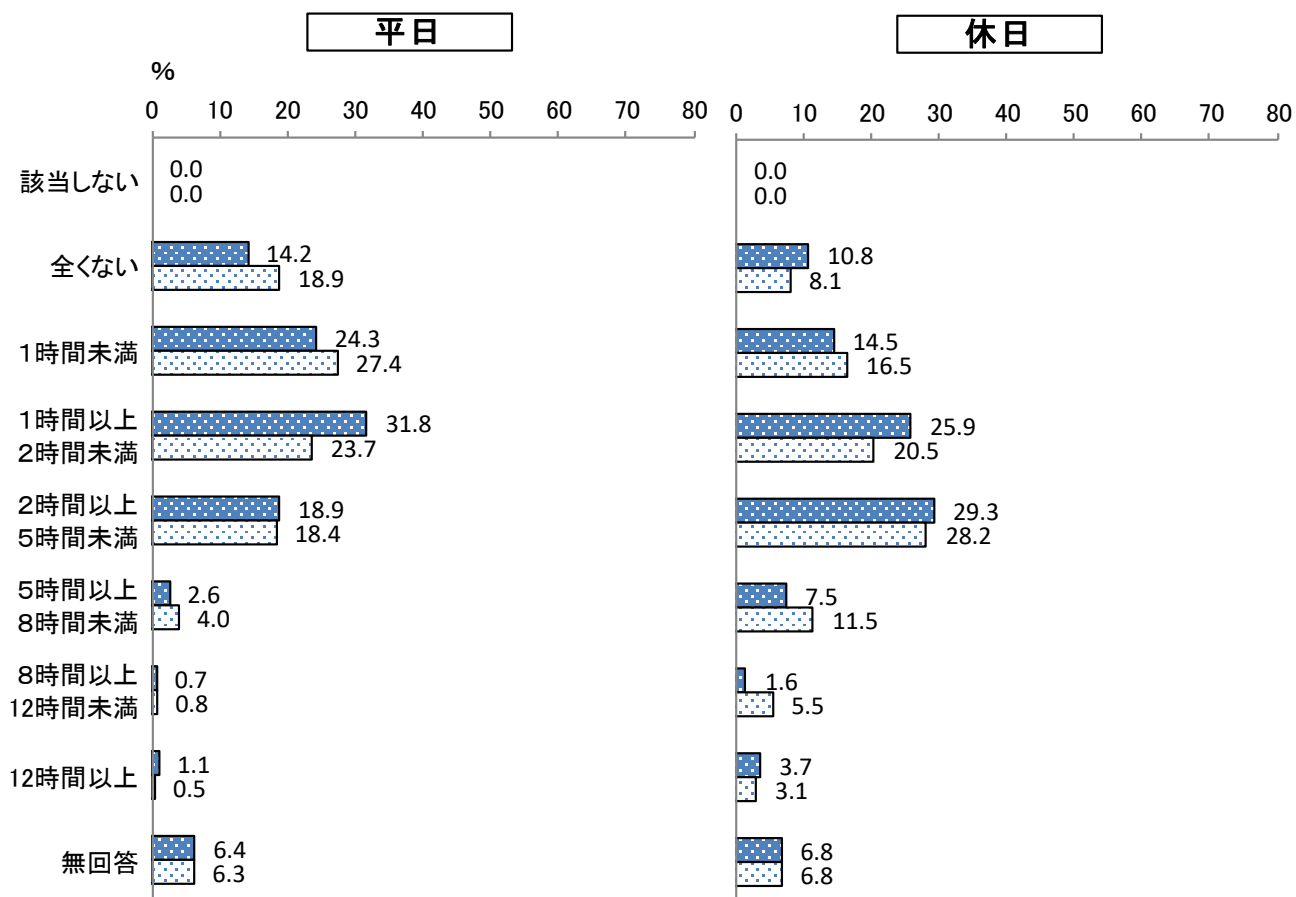
④収入を得る仕事



⑤地域活動



⑥余暇や娯楽・趣味



性年代別でみると、「①家事」は、平日、休日ともに「1時間未満」と回答した男性が女性より20ポイント以上高くなっている。また、平日の『2時間以上』は男性のいずれの年代も1割以下と低くなっている。一方、『2時間以上』は女性で高くなっているが、特に50～60歳代では男性より40ポイント以上高く、大きな差がみられた。

「②育児・子育て」は、女性の30歳代では『5時間以上』が平日36.3%、休日49.1%を占め、女性の40歳代でも平日16.9%、休日26.1%と比較的高くなっている。一方、男性の30歳代では平日は「1時間未満」が32.9%を占めるものの、休日は『1時間以上』の割合が増え、「5時間以上8時間未満」も12.9%と比較的高くなっている。

「③介護」では、平日、休日ともに50歳代で差がみられ、女性が男性より(平日:17.2ポイント、休日:15.0ポイント)高く、休日でも女性との差はほぼ変わっていない。

「④収入を得る仕事」では、平日の「8時間以上12時間未満」で大きな差がみられ、30～50歳代では男性が女性より30ポイント前後高くなっている。

「⑤地域活動」では、平日、休日ともに男性が女性より高い傾向がみられ、特に60歳代～70歳以上の男性では平日、休日ともに3割前後が地域活動に参加している。

「⑥余暇や娯楽・趣味」では、20歳代を除いた年代で2時間以上を境に、休日が平日より高くなっている。

表3-1-1 性年代別 生活時間の配分

①家事

(全体:件数、横:%)

【平日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答	
全体	1399	-	13.1	28.3	19.7	24.9	5.3	2.4	1.0	5.4	
女性	20歳代	95	-	15.8	30.5	33.7	16.8	1.1	1.1	-	1.1
	30歳代	110	-	4.5	20.9	21.8	33.6	6.4	5.5	4.5	2.7
	40歳代	130	-	2.3	14.6	17.7	47.7	10.8	4.6	-	2.3
	50歳代	134	-	0.7	5.2	26.9	48.5	10.4	3.7	-	4.5
	60歳代	157	-	1.9	7.0	17.8	51.0	9.6	2.5	3.8	6.4
	70歳以上	135	-	5.2	9.6	23.0	31.9	12.6	6.7	0.7	10.4
男性	20歳代	63	-	19.0	54.0	27.0	-	-	-	-	-
	30歳代	70	-	24.3	57.1	12.9	5.7	-	-	-	-
	40歳代	86	-	26.7	47.7	14.0	8.1	1.2	-	-	2.3
	50歳代	104	-	25.0	52.9	8.7	7.7	-	-	1.0	4.8
	60歳代	157	-	25.5	44.6	16.6	7.0	1.3	-	-	5.1
	70歳以上	140	-	21.4	32.9	20.0	7.9	2.1	1.4	-	14.3

【休日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答	
全体	1399	-	9.9	24.0	19.9	28.9	6.9	2.9	1.1	6.5	
女性	20歳代	95	-	8.4	28.4	26.3	31.6	2.1	2.1	-	1.1
	30歳代	110	-	3.6	15.5	13.6	41.8	10.0	7.3	5.5	2.7
	40歳代	130	-	1.5	8.5	14.6	50.0	16.2	6.2	0.8	2.3
	50歳代	134	-	0.7	2.2	18.7	56.0	11.9	5.2	-	5.2
	60歳代	157	-	3.8	3.2	17.2	45.2	15.3	3.2	3.8	8.3
	70歳以上	135	-	5.2	8.1	22.2	35.6	8.9	5.2	0.7	14.1
男性	20歳代	63	-	15.9	50.8	20.6	11.1	-	-	-	1.6
	30歳代	70	-	17.1	37.1	31.4	11.4	2.9	-	-	-
	40歳代	86	-	14.0	51.2	17.4	11.6	2.3	1.2	-	2.3
	50歳代	104	-	15.4	43.3	23.1	11.5	1.0	-	1.0	4.8
	60歳代	157	-	17.8	41.4	22.9	9.6	1.9	-	-	6.4
	70歳以上	140	-	22.1	32.1	17.1	9.3	1.4	1.4	-	16.4

②育児・子育て

(全体:件数、横:%)

【平日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答	
全体	1399	53.5	11.9	8.6	4.2	5.2	2.6	1.6	2.3	9.9	
女性	20歳代	95	75.8	6.3	-	1.1	-	4.2	5.3	4.2	3.2
	30歳代	110	30.9	1.8	1.8	5.5	18.2	13.6	8.2	14.5	5.5
	40歳代	130	37.7	1.5	11.5	7.7	21.5	8.5	4.6	3.8	3.1
	50歳代	134	63.4	10.4	9.0	4.5	3.0	-	0.7	0.7	8.2
	60歳代	157	67.5	12.1	3.8	1.9	3.8	0.6	-	1.3	8.9
	70歳以上	135	53.3	12.6	0.7	3.0	-	0.7	-	1.5	28.1
男性	20歳代	63	79.4	11.1	6.3	1.6	-	-	-	-	1.6
	30歳代	70	30.0	11.4	32.9	17.1	8.6	-	-	-	-
	40歳代	86	31.4	24.4	23.3	7.0	7.0	2.3	1.2	-	3.5
	50歳代	104	51.9	18.3	15.4	6.7	-	-	-	-	7.7
	60歳代	157	61.1	18.5	7.0	0.6	0.6	1.3	-	-	10.8
	70歳以上	140	52.9	16.4	6.4	0.7	0.7	-	0.7	-	22.1

【休日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答	
全体	1399	53.4	10.9	6.4	3.8	5.4	3.4	1.9	4.7	10.2	
女性	20歳代	95	76.8	5.3	-	-	3.2	5.3	6.3	3.2	
	30歳代	110	30.9	1.8	0.9	1.8	10.0	11.8	5.5	31.8	5.5
	40歳代	130	37.7	1.5	11.5	6.2	13.8	9.2	6.9	10.0	3.1
	50歳代	134	63.4	9.0	9.0	3.7	4.5	1.5	-	0.7	8.2
	60歳代	157	67.5	12.1	3.2	3.2	1.3	-	0.6	2.5	9.6
	70歳以上	135	53.3	13.3	1.5	2.2	0.7	-	-	1.5	27.4
男性	20歳代	63	79.4	9.5	-	-	6.3	1.6	-	-	3.2
	30歳代	70	28.6	10.0	8.6	20.0	17.1	12.9	1.4	1.4	-
	40歳代	86	31.4	16.3	20.9	9.3	11.6	1.2	2.3	3.5	3.5
	50歳代	104	51.9	14.4	11.5	5.8	5.8	1.9	-	-	8.7
	60歳代	157	60.5	18.5	5.7	-	1.9	1.3	0.6	-	11.5
	70歳以上	140	52.9	17.1	5.7	0.7	0.7	-	0.7	-	22.1

③介護

(全体:件数、横:%)

【平日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答	
全体	1399	65.7	15.7	4.1	2.3	1.4	0.6	0.2	0.8	9.4	
女性	20歳代	95	90.5	4.2	2.1	-	-	1.1	-	2.1	
	30歳代	110	72.7	17.3	2.7	-	0.9	1.8	-	0.9	3.6
	40歳代	130	75.4	13.8	5.4	2.3	-	-	0.8	-	2.3
	50歳代	134	54.5	14.9	8.2	9.0	3.0	2.2	-	1.5	6.7
	60歳代	157	65.0	14.0	2.5	1.9	3.2	1.3	-	1.9	10.2
	70歳以上	135	45.2	17.0	3.0	5.2	0.7	-	-	2.2	26.7
男性	20歳代	63	82.5	12.7	-	-	1.6	1.6	-	-	1.6
	30歳代	70	71.4	21.4	5.7	1.4	-	-	-	-	-
	40歳代	86	73.3	16.3	2.3	2.3	1.2	-	-	-	4.7
	50歳代	104	64.4	22.1	4.8	1.9	-	-	-	-	6.7
	60歳代	157	60.5	20.4	6.4	0.6	1.9	-	0.6	-	9.6
	70歳以上	140	57.1	14.3	3.6	0.7	1.4	-	-	0.7	22.1

【休日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答	
全体	1399	65.5	15.2	3.9	2.5	1.6	0.3	0.1	1.1	9.8	
女性	20歳代	95	90.5	5.3	2.1	-	-	-	-	2.1	
	30歳代	110	72.7	16.4	2.7	1.8	-	0.9	-	1.8	3.6
	40歳代	130	74.6	13.8	6.2	2.3	-	-	0.8	-	2.3
	50歳代	134	54.5	14.2	6.0	9.7	4.5	0.7	-	3.7	6.7
	60歳代	157	64.3	12.7	2.5	3.2	1.9	0.6	-	2.5	12.1
	70歳以上	135	45.2	17.0	3.0	3.7	1.5	0.7	-	2.2	26.7
男性	20歳代	63	84.1	12.7	-	-	-	-	-	-	3.2
	30歳代	70	71.4	21.4	4.3	1.4	1.4	-	-	-	-
	40歳代	86	73.3	15.1	2.3	-	2.3	-	-	1.2	5.8
	50歳代	104	63.5	20.2	4.8	2.9	1.9	-	-	-	6.7
	60歳代	157	59.9	19.1	6.4	1.3	1.9	-	0.6	-	10.8
	70歳以上	140	57.1	15.7	3.6	0.7	1.4	-	-	0.7	20.7

④収入を得る仕事

(全体:件数、横:%)

【平日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答	
全体	1399	-	24.6	1.6	1.8	9.5	23.1	28.2	3.6	7.6	
女性	20歳代	95	-	24.2	2.1	-	8.4	23.2	35.8	4.2	2.1
	30歳代	110	-	17.3	-	-	7.3	36.4	32.7	3.6	2.7
	40歳代	130	-	10.8	-	-	16.2	35.4	32.3	2.3	3.1
	50歳代	134	-	18.7	3.0	-	12.7	34.3	23.1	3.0	5.2
	60歳代	157	-	38.2	1.9	3.2	16.6	21.7	10.2	1.3	7.0
	70歳以上	135	-	54.8	2.2	2.2	5.9	7.4	1.5	0.7	25.2
男性	20歳代	63	-	17.5	3.2	1.6	12.7	20.6	34.9	7.9	1.6
	30歳代	70	-	8.6	1.4	-	-	18.6	60.0	11.4	-
	40歳代	86	-	1.2	1.2	-	2.3	19.8	65.1	7.0	3.5
	50歳代	104	-	6.7	-	1.9	1.9	21.2	53.8	8.7	5.8
	60歳代	157	-	26.8	1.3	1.9	8.9	26.1	28.0	1.3	5.7
	70歳以上	140	-	40.7	2.9	7.9	12.9	10.7	6.4	1.4	17.1

【休日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答	
全体	1399	-	61.8	4.5	3.4	6.7	6.9	5.6	1.0	10.2	
女性	20歳代	95	-	61.1	3.2	-	12.6	12.6	7.4	1.1	2.1
	30歳代	110	-	73.6	2.7	0.9	4.5	7.3	5.5	0.9	4.5
	40歳代	130	-	62.3	6.2	3.1	11.5	5.4	7.7	0.8	3.1
	50歳代	134	-	58.2	4.5	2.2	7.5	9.0	9.0	0.7	9.0
	60歳代	157	-	66.2	1.3	2.5	6.4	7.0	3.8	0.6	12.1
	70歳以上	135	-	62.2	0.7	3.0	2.2	3.0	-	-	28.9
男性	20歳代	63	-	61.9	9.5	3.2	7.9	7.9	6.3	1.6	1.6
	30歳代	70	-	61.4	11.4	4.3	10.0	5.7	5.7	-	1.4
	40歳代	86	-	60.5	7.0	4.7	2.3	9.3	7.0	3.5	5.8
	50歳代	104	-	59.6	7.7	4.8	1.9	6.7	10.6	2.9	5.8
	60歳代	157	-	61.8	2.5	4.5	7.6	7.6	5.1	0.6	10.2
	70歳以上	140	-	52.9	5.0	6.4	7.1	5.0	2.9	0.7	20.0

⑤地域活動

(全体:件数、横:%)

【平日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答
全体	1399	-	73.1	12.9	3.2	1.0	0.1	0.1	0.1	9.4
女性	20歳代	95	-	89.5	6.3	1.1	-	-	-	3.2
	30歳代	110	-	89.1	2.7	1.8	-	-	-	4.5
	40歳代	130	-	80.8	10.0	3.1	-	0.8	-	5.4
	50歳代	134	-	78.4	13.4	-	0.7	-	-	7.5
	60歳代	157	-	74.5	8.9	3.8	1.3	-	-	11.5
	70歳以上	135	-	52.6	10.4	6.7	0.7	-	-	29.6
男性	20歳代	63	-	88.9	6.3	1.6	-	-	-	3.2
	30歳代	70	-	85.7	12.9	-	-	-	-	1.4
	40歳代	86	-	79.1	15.1	-	1.2	-	-	4.7
	50歳代	104	-	73.1	14.4	2.9	1.0	-	1.0	7.7
	60歳代	157	-	66.2	22.3	5.7	0.6	-	0.6	4.5
	70歳以上	140	-	47.9	24.3	7.1	3.6	0.7	-	16.4

【休日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答
全体	1399	-	69.5	14.9	3.4	1.8	0.4	0.1	0.1	9.8
女性	20歳代	95	-	84.2	9.5	2.1	-	1.1	-	3.2
	30歳代	110	-	87.3	4.5	1.8	-	-	-	4.5
	40歳代	130	-	76.2	13.8	3.8	0.8	1.5	-	3.8
	50歳代	134	-	73.9	16.4	1.5	1.5	-	-	6.7
	60歳代	157	-	77.7	6.4	2.5	0.6	-	-	12.7
	70歳以上	135	-	57.0	10.4	3.0	0.7	-	-	28.9
男性	20歳代	63	-	88.9	6.3	1.6	-	-	-	3.2
	30歳代	70	-	81.4	17.1	-	1.4	-	-	-
	40歳代	86	-	69.8	17.4	2.3	3.5	-	1.2	4.7
	50歳代	104	-	54.8	28.8	3.8	3.8	-	1.0	7.7
	60歳代	157	-	55.4	25.5	7.0	2.5	0.6	-	8.9
	70歳以上	140	-	50.7	19.3	7.1	4.3	1.4	-	17.1

⑥余暇や娯楽・趣味

(全体:件数、横:%)

【平日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答
全体	1399	-	16.2	25.7	28.1	18.7	3.2	0.7	0.9	6.5
女性	20歳代	95	-	3.2	11.6	32.6	36.8	7.4	3.2	2.1
	30歳代	110	-	16.4	30.9	30.0	16.4	4.5	-	0.9
	40歳代	130	-	16.2	30.0	33.8	13.8	1.5	0.8	3.8
	50歳代	134	-	14.2	31.3	29.9	18.7	-	-	0.7
	60歳代	157	-	15.9	24.2	32.5	18.5	2.5	0.6	5.7
	70歳以上	135	-	16.3	15.6	31.9	14.1	1.5	-	2.2
男性	20歳代	63	-	3.2	19.0	19.0	39.7	12.7	3.2	1.6
	30歳代	70	-	20.0	34.3	20.0	20.0	2.9	-	2.9
	40歳代	86	-	16.3	32.6	26.7	19.8	-	-	4.7
	50歳代	104	-	33.7	29.8	22.1	9.6	-	-	4.8
	60歳代	157	-	20.4	30.6	21.0	15.9	6.4	0.6	5.1
	70歳以上	140	-	14.3	19.3	30.0	16.4	3.6	1.4	15.0

【休日】	全体	該当しない	全くない	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 5時間未満	5時間以上 8時間未満	8時間以上 12時間未満	12時間以上	無回答
全体	1399	-	9.5	15.2	23.5	28.8	9.1	3.3	3.5	7.0
女性	20歳代	95	-	2.1	4.2	17.9	32.6	22.1	6.3	13.7
	30歳代	110	-	8.2	15.5	30.9	29.1	11.8	0.9	2.7
	40歳代	130	-	8.5	13.1	26.9	35.4	4.6	1.5	5.4
	50歳代	134	-	8.2	17.9	27.6	33.6	5.2	0.7	1.5
	60歳代	157	-	14.0	18.5	24.8	31.2	4.5	0.6	6.4
	70歳以上	135	-	20.0	14.1	25.9	14.8	2.2	0.7	2.2
男性	20歳代	63	-	-	1.6	12.7	34.9	22.2	17.5	9.5
	30歳代	70	-	5.7	12.9	20.0	38.6	11.4	4.3	7.1
	40歳代	86	-	5.8	15.1	23.3	23.3	12.8	9.3	5.8
	50歳代	104	-	5.8	21.2	18.3	33.7	10.6	2.9	2.9
	60歳代	157	-	10.8	17.8	18.5	28.7	13.4	4.5	6.4
	70歳以上	140	-	12.9	20.7	26.4	18.6	4.3	1.4	15.7

3-2 生活時間における理想時間との差

問5 問4で回答された生活時間について、あなたの考える理想の時間より短いと思うものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○印)

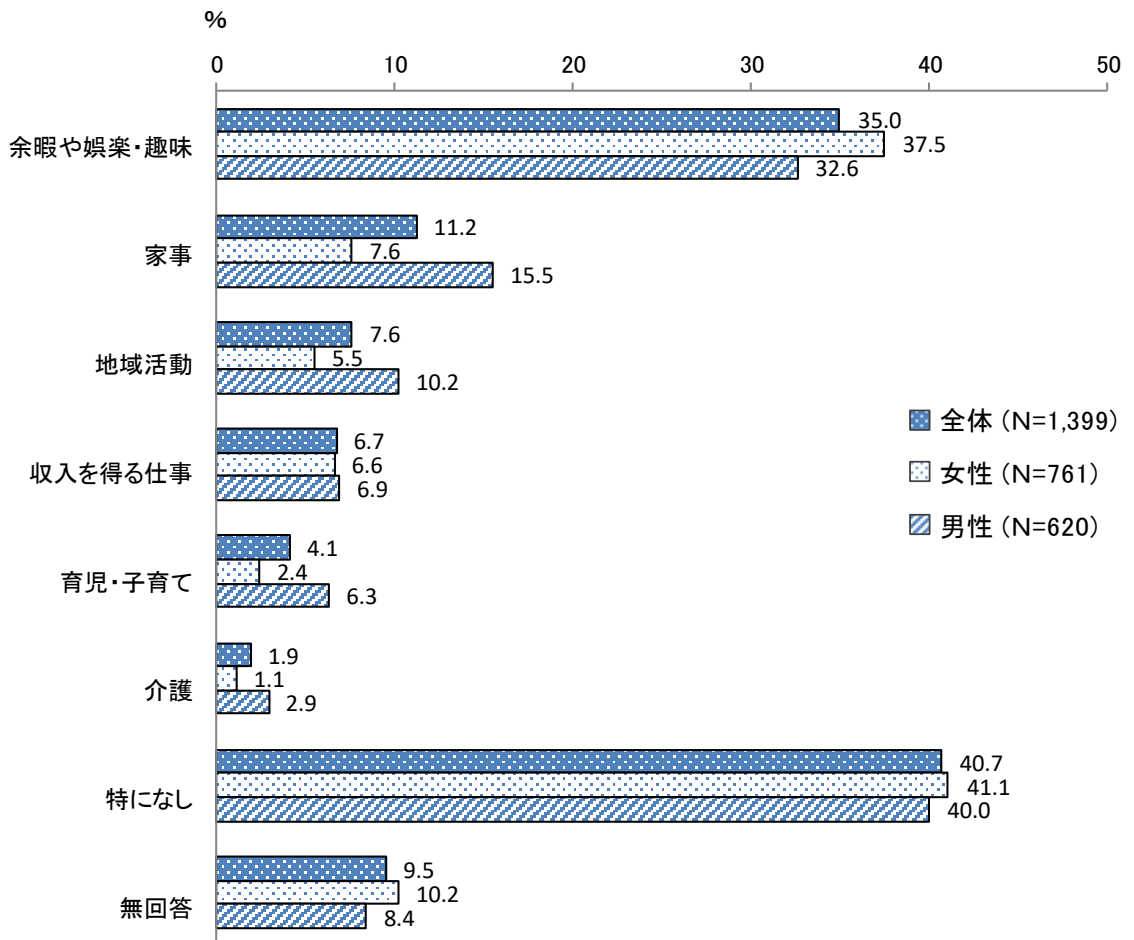
- 男女ともに「特になし」が4割以上となり、理想と実際の時間で差がないという割合が最も高くなっている。
- 理想の時間より短いと思うものは、男女ともに「余暇や娯楽・趣味」が3割超で最も高く、次いで「家事」となっている。
- 男女で最も差がみられたのは「家事」で、男性が女性より高くなっている。
- 「余暇や娯楽・趣味」は女性30歳代で唯一5割を超えている。

生活時間における理想時間との差では、「特になし」が40.7%に上り、理想と実際の時間で差がないという割合が最も高くなっている。

理想の時間より短いと思う生活時間については、「余暇や娯楽・趣味」が35.0%と最も高く、次いで「家事」が11.2%、「地域活動」が7.6%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「家事」では男性(15.5%)が女性(7.6%)より7.9ポイント高くなっている。

図3-2-1 性別 理想の時間より短いと思う生活時間



性年代別で見ると、「余暇や娯楽・趣味」は女性 30 歳代で 54.5%と唯一 5 割を超えた。また、「収入を得る仕事」は男性 20 歳代で 17.5%、「育児・子育て」は男性 30 歳代で 21.4%と、性年代ごとにそれぞれ特徴がみられた。

表 3-2-1 性年代別 理想の時間より短いと思う生活時間

(全体:件数、横:%)

		全体	家事	育児・子育て	介護	収入を得る仕事	地域活動	余暇や娯楽・趣味	特になし	無回答
全体		1399	11.2	4.1	1.9	6.7	7.6	35.0	40.7	9.5
女性	20歳代	95	15.8	1.1	-	5.3	2.1	37.9	45.3	2.1
	30歳代	110	10.0	6.4	-	7.3	1.8	54.5	30.9	4.5
	40歳代	130	7.7	4.6	2.3	9.2	3.1	43.1	39.2	6.2
	50歳代	134	5.2	-	1.5	7.5	7.5	39.6	42.5	8.2
	60歳代	157	5.1	2.5	0.6	6.4	10.2	31.8	41.4	14.6
	70歳以上	135	5.2	-	1.5	3.7	5.9	22.2	46.7	21.5
男性	20歳代	63	17.5	4.8	4.8	17.5	7.9	27.0	44.4	1.6
	30歳代	70	18.6	21.4	1.4	2.9	2.9	32.9	44.3	4.3
	40歳代	86	15.1	14.0	-	5.8	7.0	38.4	37.2	4.7
	50歳代	104	17.3	2.9	5.8	2.9	15.4	46.2	28.8	7.7
	60歳代	157	11.5	3.2	3.2	6.4	10.8	29.3	44.6	10.2
	70歳以上	140	16.4	0.7	2.1	8.6	12.1	25.0	40.7	14.3

3-3 男性の家事・育児等の積極的参加推進

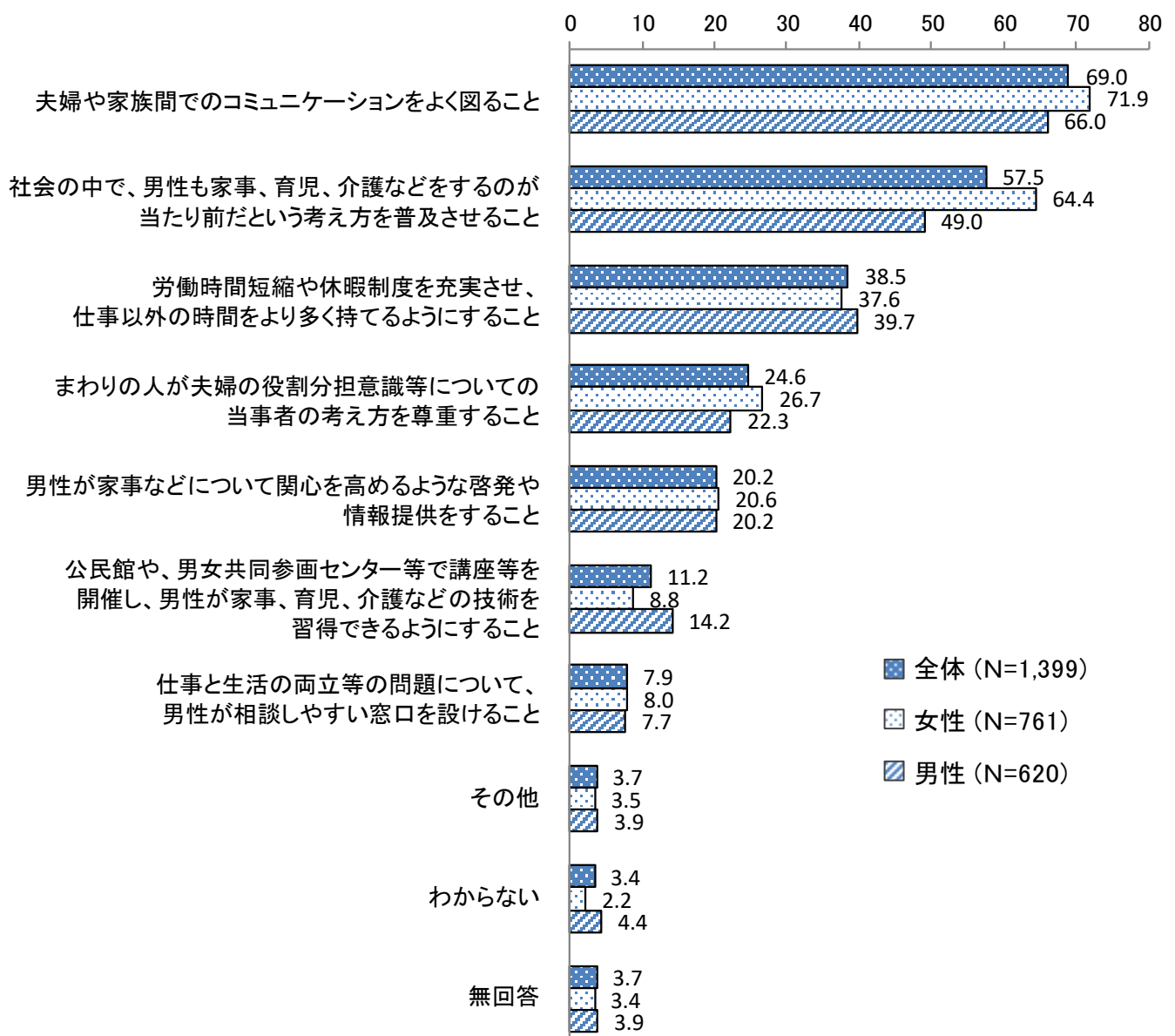
問6 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思いますか。
(3つまでに○印)

○男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が最も高くなっている。
○「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」は、女性が6割半ばとなり、男性と比較して大きな差がみられた。

男性の家事・育児等の積極的参加推進について、全体では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が69.0%と最も高く、次いで「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」が57.5%、「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が38.5%となっている。

性別でみると、最も差がみられたのは「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」で、女性(64.4%)が男性(49.0%)より15.4ポイント高くなっている。

図3-3-1 性別 男性の家事・育児等の積極的参加推進に必要なこと
%



性年代別でみると、男女ともにすべての年代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること」が6割以上となっている。女性の60歳代以下では「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」も6割以上となっている。また、男女ともに20～30歳代では「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が5割弱から5割半ばとなり、比較的高い割合となっている。

表3-3-1 性年代別 男性の家事・育児等の積極的参加推進に必要なこと

(全体:件数、横:%)

	全体	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	社会の中で、男性も家事、育児、介護などを普及させること	労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	まわりの人が夫婦の役割分担意識等に	男性が家事などについて関心を高めるような啓発や情報提供をすること	仕事と生活の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	公民館や、男女共同参画センター等での講座を開催し、男性が家事、育児、介護などの技術を習得できるようにすること	その他	わからない	無回答
全体	1399	69.0	57.5	38.5	24.6	20.2	7.9	11.2	3.7	3.4	3.7
女性	20歳代	95	70.5	70.5	49.5	23.2	17.9	13.7	5.3	5.3	1.1
	30歳代	110	73.6	65.5	55.5	24.5	17.3	10.9	4.5	2.7	1.8
	40歳代	130	69.2	72.3	38.5	26.9	24.6	3.8	4.6	3.1	0.8
	50歳代	134	73.9	73.1	26.9	26.1	23.1	6.0	5.2	5.2	0.7
	60歳代	157	77.7	63.7	40.1	25.5	21.7	8.9	10.8	1.9	1.9
	70歳以上	135	65.2	43.7	21.5	32.6	17.8	6.7	20.0	3.7	7.4
男性	20歳代	63	76.2	47.6	55.6	19.0	15.9	6.3	11.1	6.3	4.8
	30歳代	70	60.0	50.0	50.0	28.6	14.3	7.1	8.6	7.1	11.4
	40歳代	86	69.8	52.3	41.9	25.6	14.0	9.3	7.0	4.7	1.2
	50歳代	104	66.3	50.0	48.1	15.4	18.3	10.6	8.7	3.8	1.9
	60歳代	157	67.5	45.9	36.3	22.9	22.3	5.7	15.9	3.2	4.5
	70歳以上	140	60.0	50.0	23.6	22.9	27.9	7.9	25.0	1.4	4.3

3-4 家庭での介護の担い手

問7 現在、あなたの家庭に介護が必要な方がおられる場合、その方の介護は主にどなたがしていますか。
※介護が必要な方からみた続柄をお答えください。(1つだけに○印)

○全体では「介護が必要な人はいない」が6割を超えている。

○「介護が必要な人はいない」と「無回答」を除いた介護者の担い手では、女性が介護をしている割合が6割を超え、突出している。

家庭での介護の担い手について、全体では、「介護が必要な人はいない」が61.3%と最も高い。

「介護が必要な人はいない」と「無回答」を除いた介護者の担い手を見ると、『女性が介護』が61.1%と最も高く、次いで『男性が介護』が16.0%、「施設で介護をしている」が15.7%となった。

※『女性が介護』は、母、姉妹、妻、娘、息子の妻を合わせたもの。

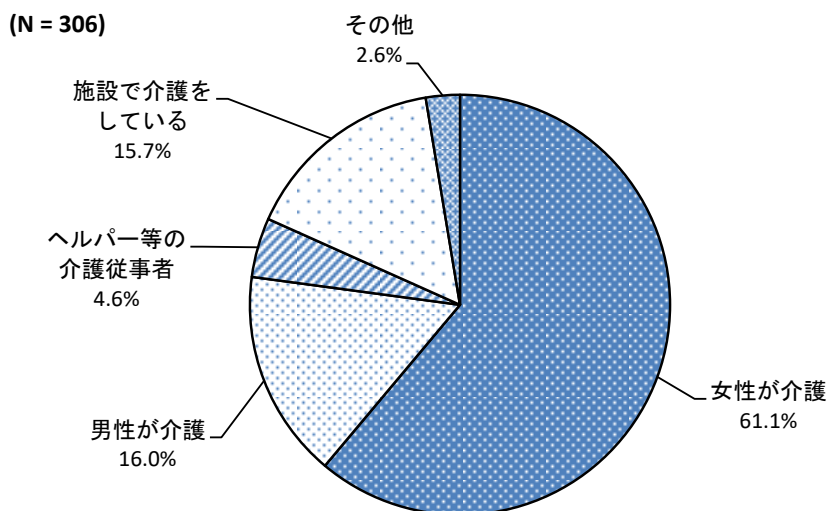
※『男性が介護』は、父、兄弟、夫、息子、娘の夫を合わせたもの。

表3-4-1 家庭での介護の担い手

(全体:件数、横:%)

	全体	父	母	兄弟	姉妹	夫	妻	息子	娘	息子の妻	娘の夫	ヘルパー等の介護従事者	施設で介護をしている	その他
全体	306	2.9	16.3	2.0	2.3	3.6	15.4	7.5	17.0	10.1	-	4.6	15.7	2.6

図3-4-1 性別 家庭での介護の担い手
(「介護が必要な人はいない」と「無回答」を除く)



4. 子育てや子供の教育について

4-1 理想の子供の人数、実際の子供の人数

問8 (1) あなたの理想とする子供の数は何人ですか。(1つだけに○印)
 (2) 実際の子供の数は何人ですか。(1つだけに○印)

- 「理想の子供の人数」は「2人」と「3人」が約4割となっている。
- 「実際の子供の人数」は「理想の子供の人数」と比べ、「0人」と「1人」の割合が高い。
- 「実際の子供の人数」と「理想の子供の人数」のいずれも男女の差はほとんどみられない。

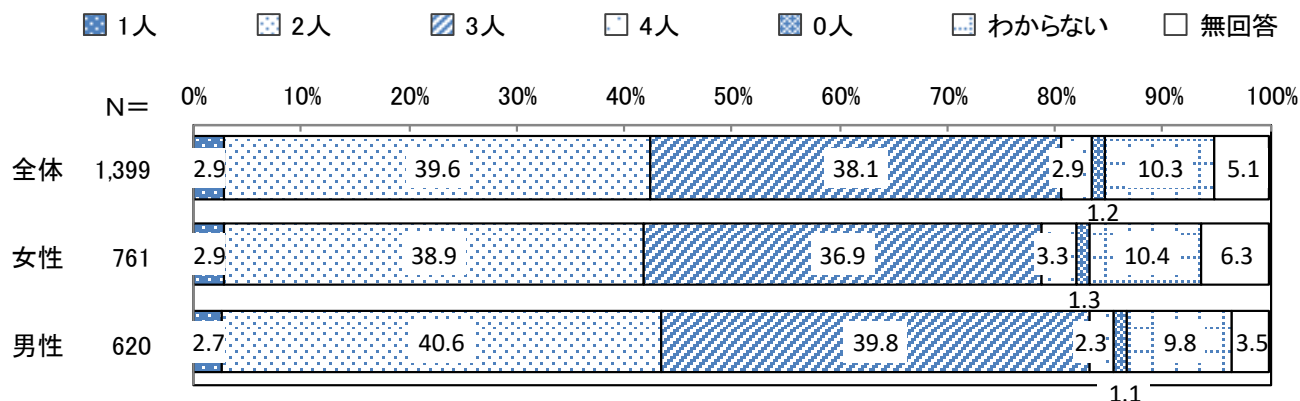
理想の子供の人数について、全体では、「2人」が39.6%と最も高く、次いで「3人」が38.1%、「わからない」が10.3%となっている。実際の子供の人数について、全体では、「2人」が39.5%と最も高く、次いで「0人」が25.4%、「3人」が15.3%となっている。

理想と実際の人数を比べると、「3人」では理想(38.1%)が実際(15.3%)より22.8ポイント高く、「0人」では実際(25.4%)が理想(1.2%)より24.2ポイント高くなっている。

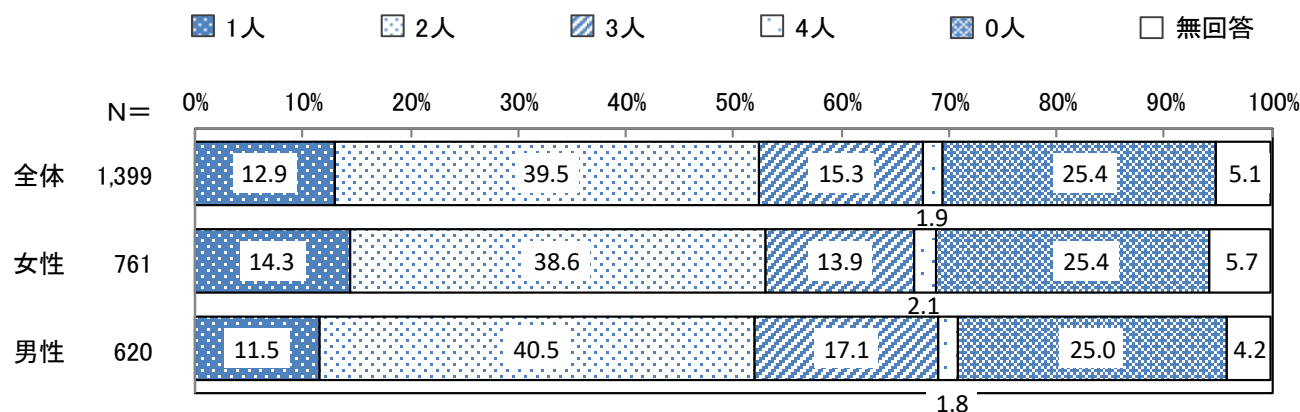
理想の子供の人数と実際の子供の人数を性別でみると、大きな差はみられないが、「3人」では理想と実際のいずれも男性が女性よりやや高くなっている。

図4-1-1 性別 理想の子供の人数、実際の子供の人数

【理想の子供の人数】



【実際の子供の人数】



理想の子供の人数を性年代別で見ると、女性の50歳代以下及び男性の40歳代以下では「2人」、それより上の年代では「3人」がそれぞれ最も高くなっている。実際の子供の人数を性年代別で見ると、男女ともに40歳代以上では「2人」、30歳代以下では「0人」がそれぞれ最も高くなっている。女性の30歳代では「1人」(30.0%)も比較的高い割合となっている。

表4-1-1 性年代別 理想の子供の人数、実際の子供の人数

【理想の子供の人数】

(全体:件数、横:%)

		全体	1人	2人	3人	4人	0人	わからない	無回答
全体		1399	2.9	39.6	38.1	2.9	1.2	10.3	5.1
女性	20歳代	95	3.2	46.3	35.8	1.1	2.1	9.5	2.1
	30歳代	110	7.3	50.0	22.7	3.6	1.8	7.3	7.3
	40歳代	130	3.1	37.7	33.8	5.4	3.1	14.6	2.3
	50歳代	134	2.2	38.1	36.6	3.7	0.7	14.2	4.5
	60歳代	157	1.9	38.2	42.7	2.5	0.6	7.0	7.0
	70歳以上	135	0.7	27.4	45.9	3.0	-	9.6	13.3
男性	20歳代	63	6.3	52.4	19.0	1.6	1.6	15.9	3.2
	30歳代	70	5.7	50.0	28.6	1.4	1.4	11.4	1.4
	40歳代	86	3.5	51.2	29.1	1.2	1.2	12.8	1.2
	50歳代	104	1.9	40.4	41.3	3.8	1.9	8.7	1.9
	60歳代	157	1.3	36.3	45.9	2.5	0.6	9.6	3.8
	70歳以上	140	1.4	29.3	53.6	2.1	0.7	5.7	7.1

【実際の子供の人数】

(全体:件数、横:%)

		全体	1人	2人	3人	4人以上	0人	無回答
全体		1399	12.9	39.5	15.3	1.9	25.4	5.1
女性	20歳代	95	10.5	4.2	-	1.1	81.1	3.2
	30歳代	110	30.0	20.9	6.4	2.7	31.8	8.2
	40歳代	130	13.8	34.6	17.7	2.3	29.2	2.3
	50歳代	134	9.7	47.8	17.2	3.0	18.7	3.7
	60歳代	157	12.1	56.1	18.5	2.5	6.4	4.5
	70歳以上	135	11.9	51.9	17.8	0.7	5.9	11.9
男性	20歳代	63	3.2	4.8	3.2	-	84.1	4.8
	30歳代	70	21.4	32.9	7.1	-	35.7	2.9
	40歳代	86	19.8	37.2	14.0	-	27.9	1.2
	50歳代	104	14.4	42.3	19.2	2.9	18.3	2.9
	60歳代	157	9.6	47.1	22.3	2.5	15.3	3.2
	70歳以上	140	5.0	53.6	22.9	2.9	7.1	8.6

20～40 歳代に限定し居住地別の回答をみると、理想の子供の数はいずれの地域でも「2 人」が最も高く、特に和歌山市、海南市・紀美野町では 5 割を超えている。次いでどの地域でも「3 人」が高くなっているが、橋本市・伊都郡、有田市・有田郡では「3 人」が 4 割前後に上り、他の地域に比べ高い。

同様に実際の子供の数をみると、海南市・紀美野町、岩出市・紀の川市、橋本市・伊都郡、有田市・有田郡では「3 人」と「4 人以上」を合わせた「3 人以上」が 13%前後と他の地域に比べて高い。「0 人」は海南市・紀美野町、御坊市・日高郡、田辺市・西牟婁郡で半数に上っている一方、有田市・有田郡では 3 割強にとどまっている。

表 4-1-2 居住地別 理想の子供の人数、実際の子供の人数 (20～40 歳代のみ)

【理想の子供の数】

(全体:件数、横:%)

		全体	1 人	2 人	3 人	4 人	0 人	わからない	無回答
全体		559	4.7	46.7	28.8	2.7	2.0	12.2	3.0
お住 まい の 地 域	和歌山市	209	6.7	51.7	24.9	2.4	1.0	12.0	1.4
	海南市・紀美野町	43	-	53.5	30.2	2.3	2.3	11.6	-
	岩出市・紀の川市	67	6.0	43.3	29.9	6.0	6.0	9.0	-
	橋本市・伊都郡	48	4.2	43.8	37.5	4.2	-	6.3	4.2
	有田市・有田郡	46	-	43.5	41.3	2.2	-	6.5	6.5
	御坊市・日高郡	46	6.5	45.7	28.3	-	2.2	15.2	2.2
	田辺市・西牟婁郡	54	3.7	42.6	25.9	1.9	3.7	14.8	7.4
	新宮市・東牟婁郡	45	2.2	35.6	26.7	2.2	2.2	22.2	8.9

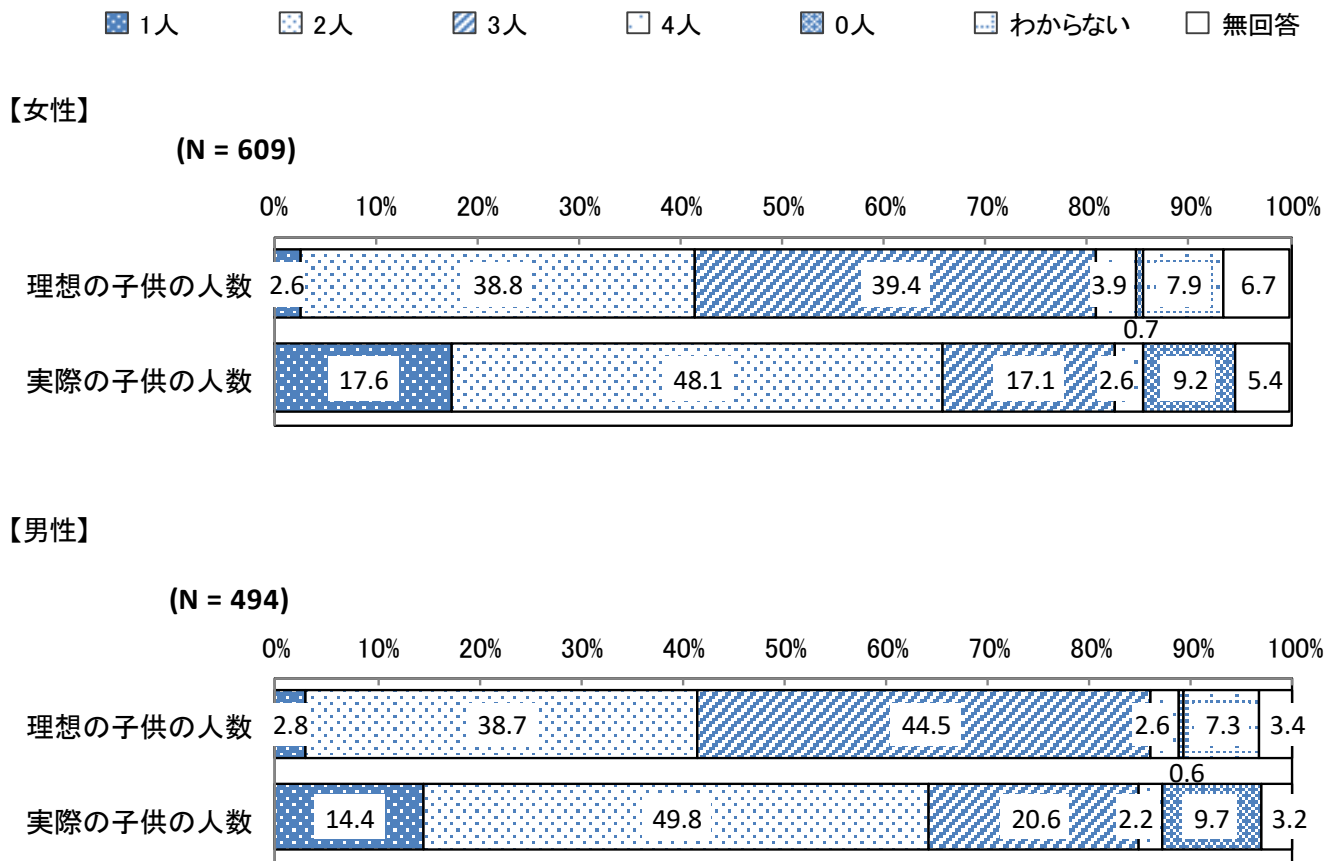
【実際の子供の数】

(全体:件数、横:%)

		全体	1 人	2 人	3 人	4 人以上	0 人	無回答
全体		559	17.0	23.4	8.8	1.3	45.6	3.9
お住 まい の 地 域	和歌山市	209	18.7	25.4	8.1	0.5	45.9	1.4
	海南市・紀美野町	43	9.3	23.3	11.6	2.3	53.5	-
	岩出市・紀の川市	67	14.9	25.4	10.4	3.0	43.3	3.0
	橋本市・伊都郡	48	16.7	18.8	10.4	2.1	47.9	4.2
	有田市・有田郡	46	23.9	23.9	8.7	4.3	32.6	6.5
	御坊市・日高郡	46	23.9	15.2	8.7	-	50.0	2.2
	田辺市・西牟婁郡	54	11.1	22.2	9.3	-	50.0	7.4
	新宮市・東牟婁郡	45	13.3	26.7	4.4	-	42.2	13.3

結婚経験者の「理想の子供の人数」は男女ともに「3人」が最も高いが、「実際の子供の人数」では「2人」が最も高くなっている。「実際の子供の人数」は「理想の子供の人数」より、男女ともに「1人」(女性:15.0ポイント、男性:11.6ポイント)と「2人」(女性:9.3ポイント、男性:11.1ポイント)で高く、また「0人」も実際に理想を(女性:8.5ポイント、男性:9.1ポイント)上回っている。

図4-1-2 理想の子供の人数、実際の子供の人数（結婚経験者のみ）



※「実際の子供の人数」では「わからない」という選択がない。

※「理想の子供の人数」での「4人」は、「実際の子供の人数」では「4人以上」となっている。

4-2 子供の減少の理由についての考え

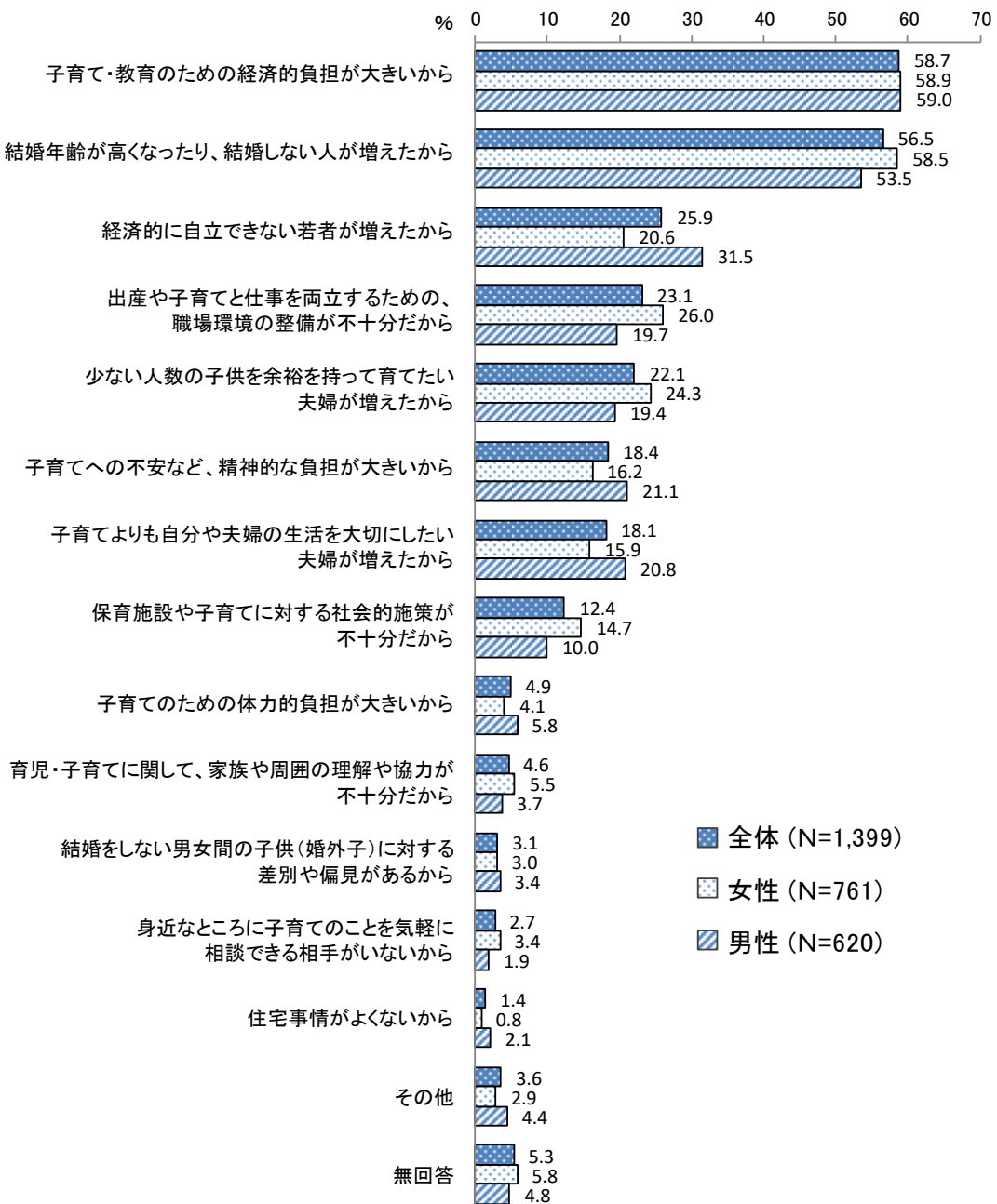
問9 最近、生まれてくる子供の数が減っています。それはなぜだと思いますか。(3つまでに○印)

- 「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」と「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」が5割半ばで高くなっている。
- 「経済的に自立できない若者が増えたから」では男性が女性より高く、大きな差がみられた。

子供の減少の理由についての考えについて、全体では、「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」が58.7%、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」が56.5%とともに5割を超えている。次いで、「経済的に自立できない若者が増えたから」が25.9%、「出産や子育てと仕事を両立するための、職場環境の整備が不十分だから」が23.1%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「経済的に自立できない若者が増えたから」では、男性(31.5%)が女性(20.6%)より10.9ポイント高くなっている。一方、女性が男性を上回った項目としては「出産や子育てと仕事を両立するための、職場環境の整備が不十分だから」(女性:26.0%、男性:19.7%、6.3ポイント差)が挙げられた。

図4-2-1 性別 子供の減少の理由についての考え



性年代別でみると、すべての区分で「子育て・教育のための経済的負担が大きいから」、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」が上位 2 項目となっている。女性の 20～40 歳代では「出産や子育てと仕事を両立するための、職場環境の整備が不十分だから」が 3 割前後、女性の 20 歳代では「保育施設や子育てに対する社会的施策が不十分だから」が 2 割半ば、男性の 20 歳代では「子育てへの不安など、精神的な負担が大きいから」(33.3%)が、それぞれ比較的高い割合となっている。

表 4-2-1 性年代別 子供の減少の理由についての考え

(全体:件数、横:%)

	全体	子育てよりも自分や夫婦の生活を大切にしたい夫婦が増えたから	少ない人数の子供を余裕を持って育てたい夫婦が増えたから	子育てへの不安など、精神的な負担が大きいから	子育てのための体力的負担が大きいから	子育て・教育のための経済的負担が大きいから	育児・子育てに関して、家族や周囲の理解や協力が不十分だから	身近なところに子育てのことを気軽に相談できる相手がいないから	結婚をしない男女間の子供(婚外子)に対する差別や偏見があるから	住宅事情がよくないから	経済的に自立できない若者が増えたから	職場環境の整備が不十分だから	出産や子育てと仕事を両立するための、保育施設や子育てに対する社会的施策が不十分だから	結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから	その他	無回答	
全体	1399	18.1	22.1	18.4	4.9	58.7	4.6	2.7	3.1	1.4	25.9	23.1	12.4	56.5	3.6	5.3	
女性	20歳代	95	12.6	17.9	18.9	7.4	62.1	5.3	3.2	2.1	12.6	32.6	25.3	58.9	1.1	2.1	
	30歳代	110	20.0	25.5	12.7	5.5	53.6	4.5	1.8	3.6	13.6	28.2	19.1	52.7	2.7	10.9	
	40歳代	130	10.8	22.3	13.8	6.2	60.8	6.2	2.3	3.1	0.8	16.2	30.0	14.6	62.3	8.5	3.8
	50歳代	134	17.2	23.9	20.9	-	64.9	5.2	2.2	5.2	-	20.1	24.6	9.7	53.0	2.2	6.0
	60歳代	157	21.7	23.6	18.5	3.2	59.9	5.7	3.2	1.9	1.9	28.0	27.4	14.0	61.8	0.6	4.5
	70歳以上	135	11.9	31.1	11.9	3.7	51.9	5.9	7.4	1.5	-	28.1	15.6	9.6	60.7	2.2	7.4
男性	20歳代	63	25.4	11.1	33.3	17.5	58.7	6.3	1.6	3.2	-	19.0	15.9	9.5	46.0	4.8	6.3
	30歳代	70	21.4	20.0	14.3	10.0	65.7	2.9	-	7.1	-	22.9	22.9	11.4	52.9	7.1	2.9
	40歳代	86	17.4	19.8	14.0	5.8	59.3	3.5	1.2	1.2	3.5	36.0	22.1	12.8	64.0	3.5	2.3
	50歳代	104	21.2	23.1	22.1	1.0	60.6	3.8	-	1.9	1.0	27.9	18.3	9.6	53.8	5.8	3.8
	60歳代	157	22.9	17.2	23.6	3.2	58.0	4.5	2.5	3.8	1.9	36.3	19.1	11.5	54.8	3.2	3.2
	70歳以上	140	17.9	22.1	20.0	5.0	55.7	2.1	4.3	3.6	4.3	35.7	20.0	6.4	49.3	3.6	9.3

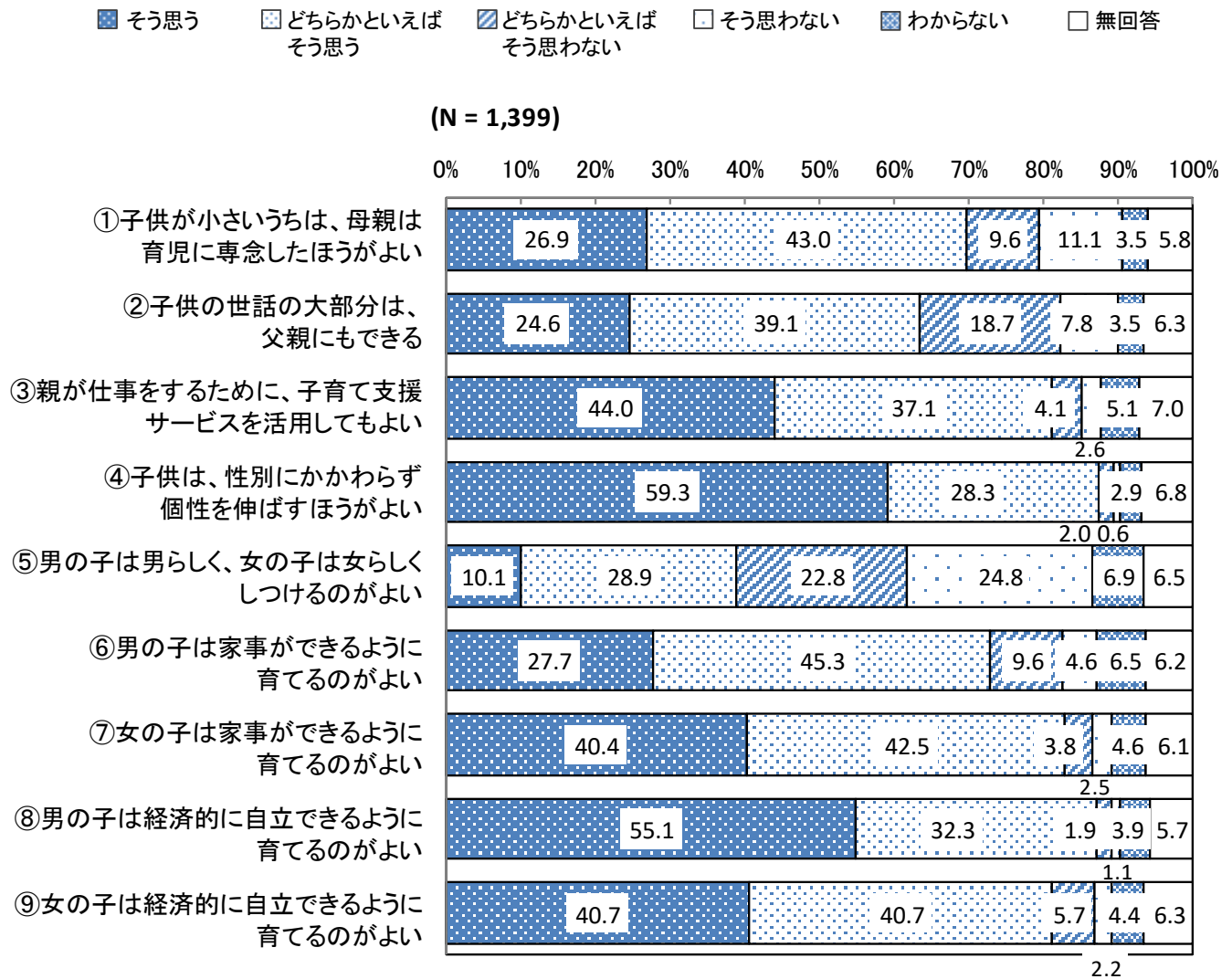
4-3 子育てについての考え

問10 子育てについて、あなたの意見に近いものはどれですか。
 (①～⑨の項目それぞれについて、1つだけに○印)

- 「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」を除いたすべての項目で『肯定的な意見』が6割を超えて高くなっている。
- 「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」では、『肯定的な意見』が男性は女性より高くなっている。
- このほかに男女間で大きな差がみられた「②子供の世話の大部分は、父親にもできる」では、『肯定的な意見』が男性は女性より14.8ポイント高く、「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」では、『肯定的な意見』が女性より13.3ポイント高くなっている。

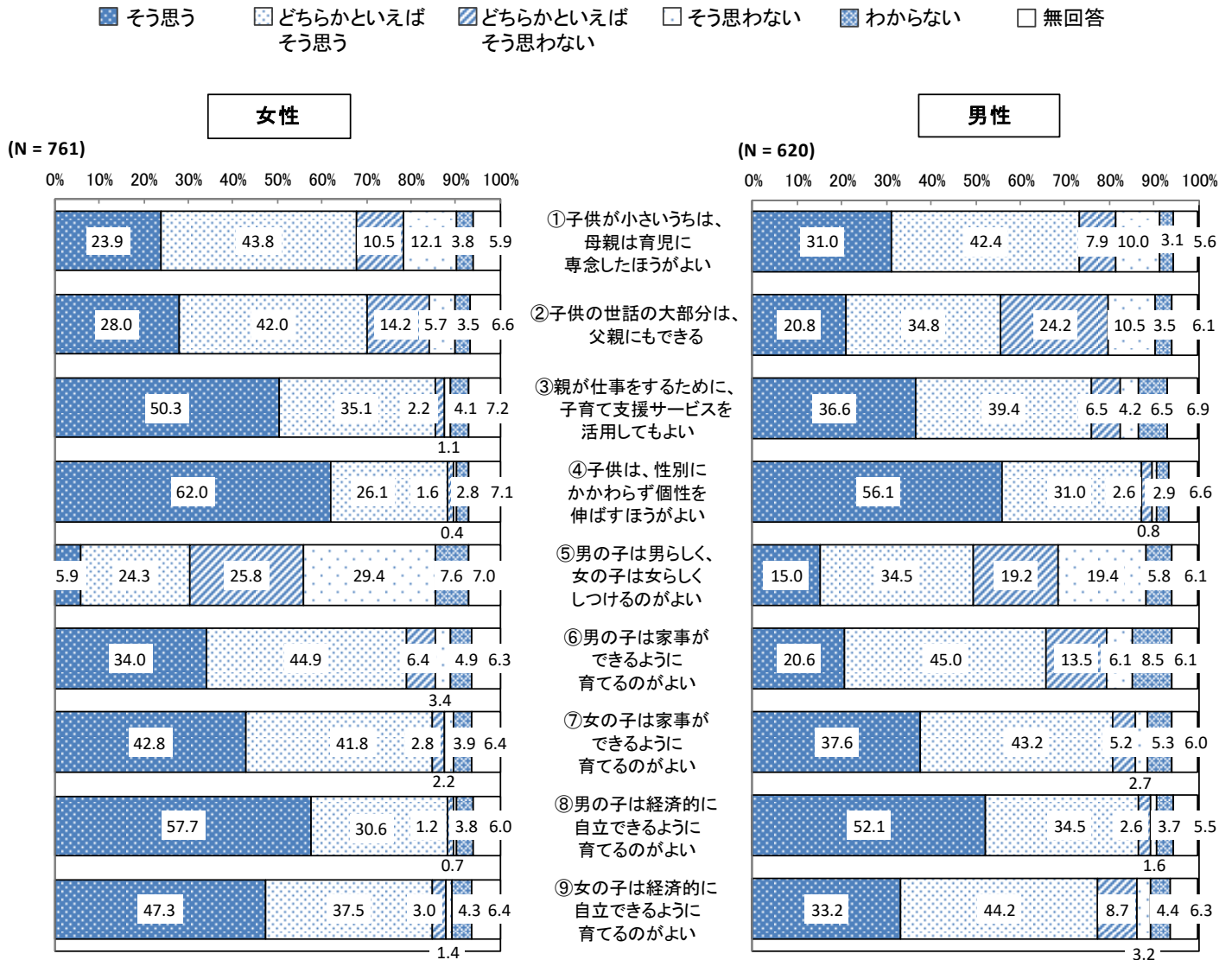
子育てについての考えについて、『肯定的な意見』が高かったのは「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」を除いたすべての項目となった。

図4-3-1 子育てについての考え



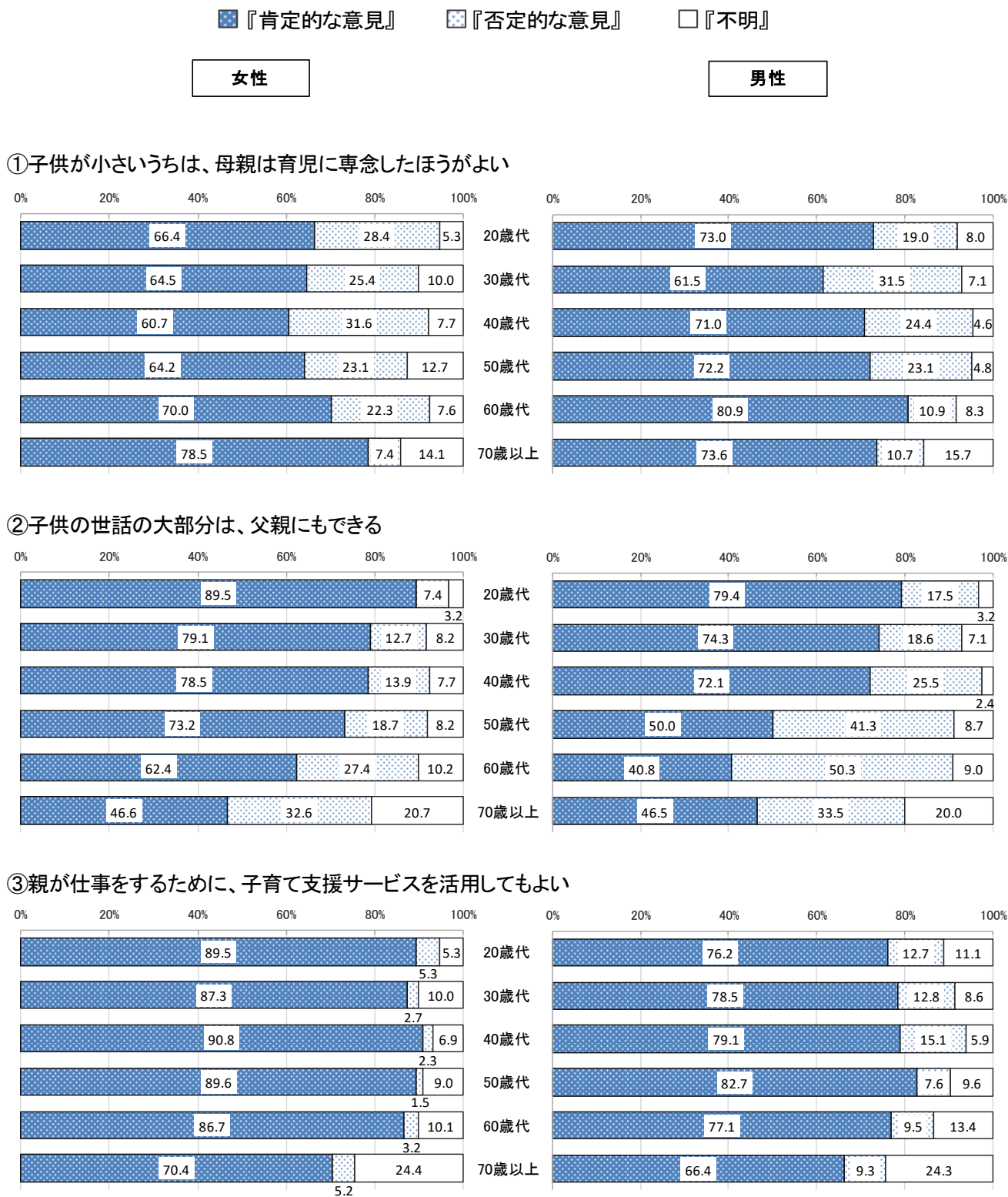
性別でみると、大きな差がみられたのは「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」で『肯定的な意見』が男性は女性より 19.3 ポイント高くなっている。また、「②子供の世話の大部分は、父親にもできる」では、『否定的な意見』が男性は女性より 14.8 ポイント高く、「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」では、『肯定的な意見』が女性は男性より 13.3 ポイント高くなっている。

図4-3-2 性別 子育てについての考え



性年代別でみると、「②子供の世話の大部分は、父親にもできる」、「③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい」、「⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」では、『肯定的な意見』がどの年代でも女性が男性より高くなっている。一方、「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」では、『肯定的な意見』がどの年代でも男性が女性より高くなっている。また、「②子供の世話の大部分は、父親にもできる」では『肯定的な意見』が50～60歳代で女性が男性より20ポイント余り高く、「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」では『肯定的な意見』が40～60歳代で男性が女性より20～30ポイント余り高く、特に大きな差がみられた。

図4-3-3 性年代別 子育てについての考え

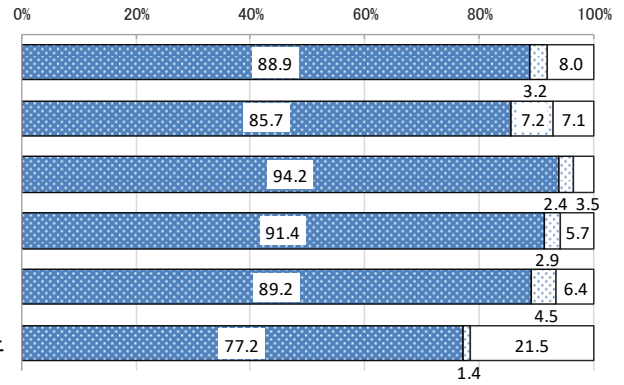
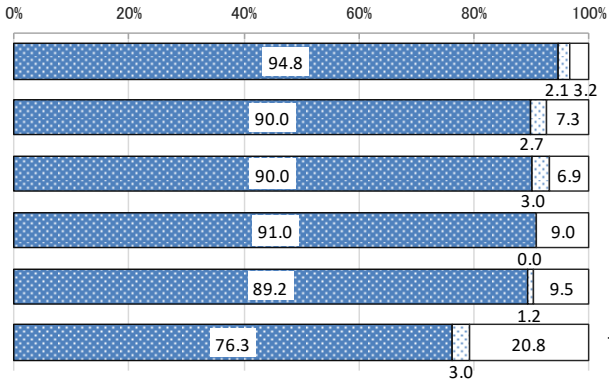


■『肯定的な意見』 ■『否定的な意見』 □『不明』

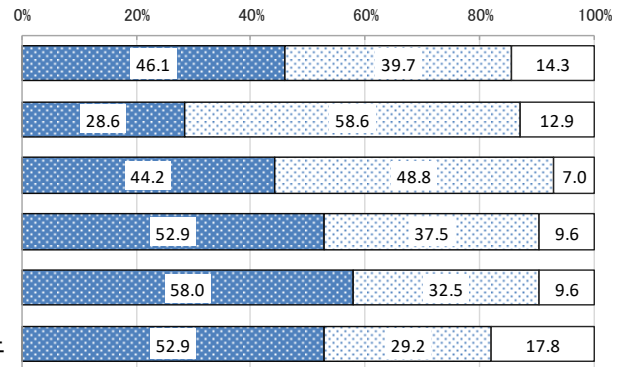
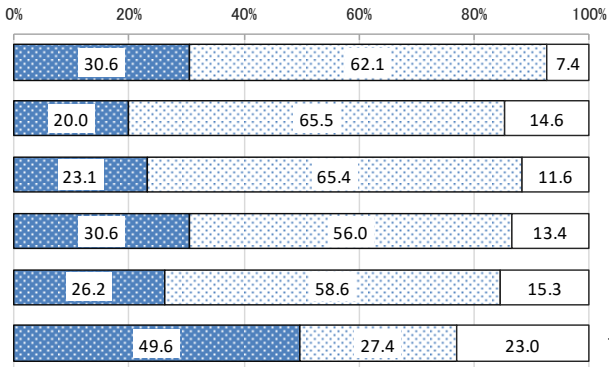
女性

男性

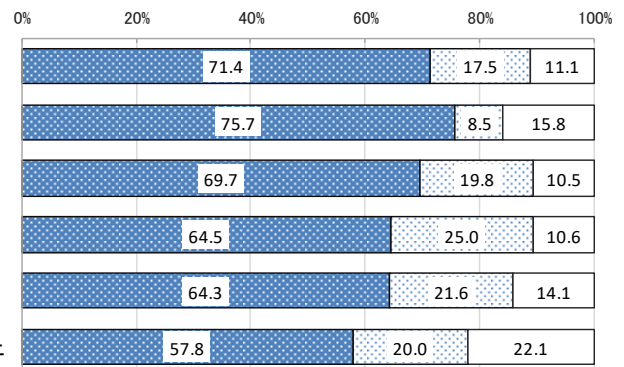
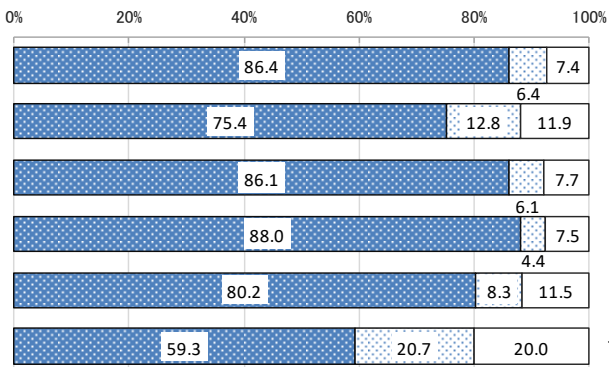
④子供は、性別にかかわらず個性を伸ばすほうがよい



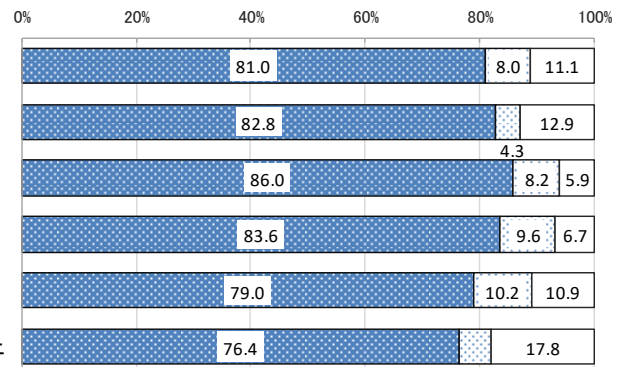
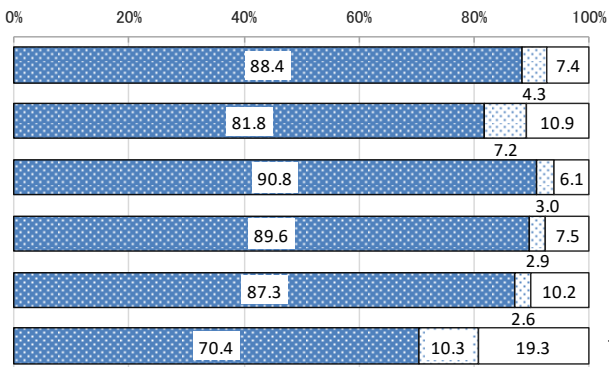
⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくつけるのがよい



⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい



⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい

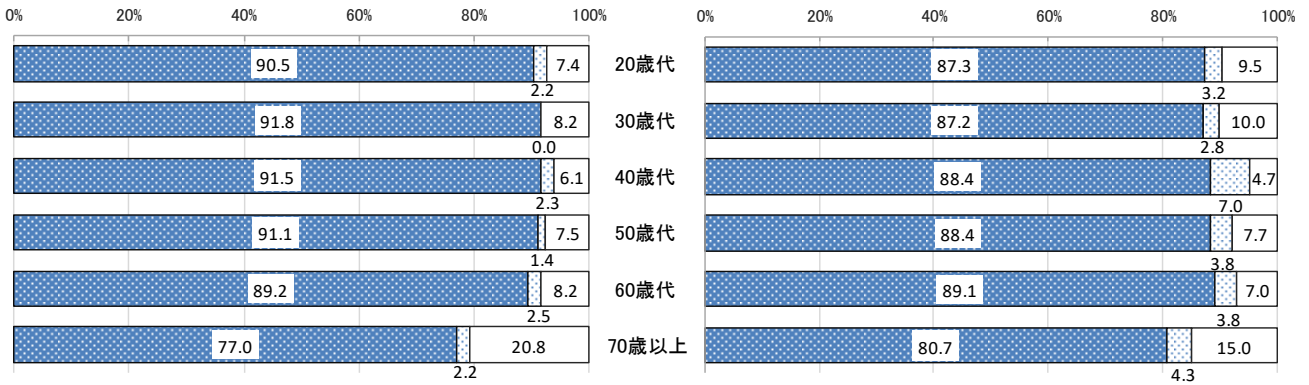


■『肯定的な意見』 ■『否定的な意見』 □『不明』

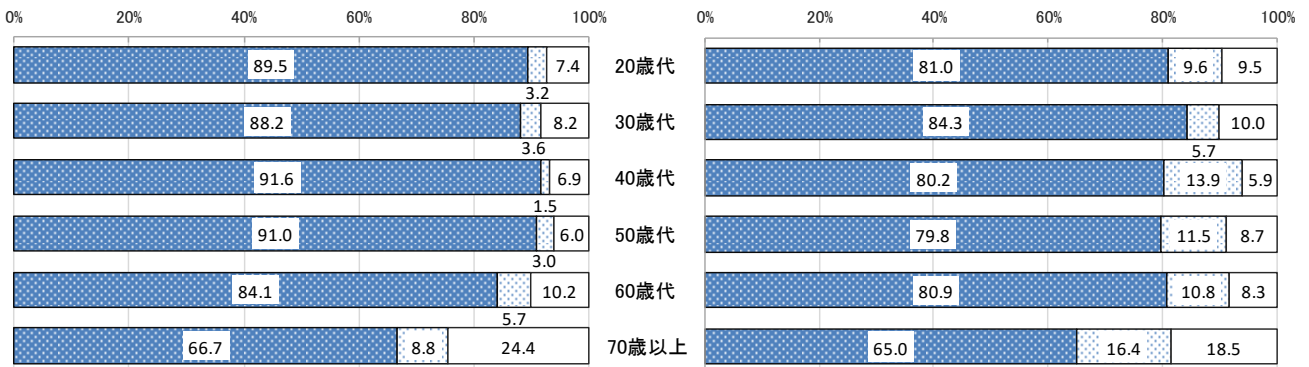
女性

男性

⑧男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい

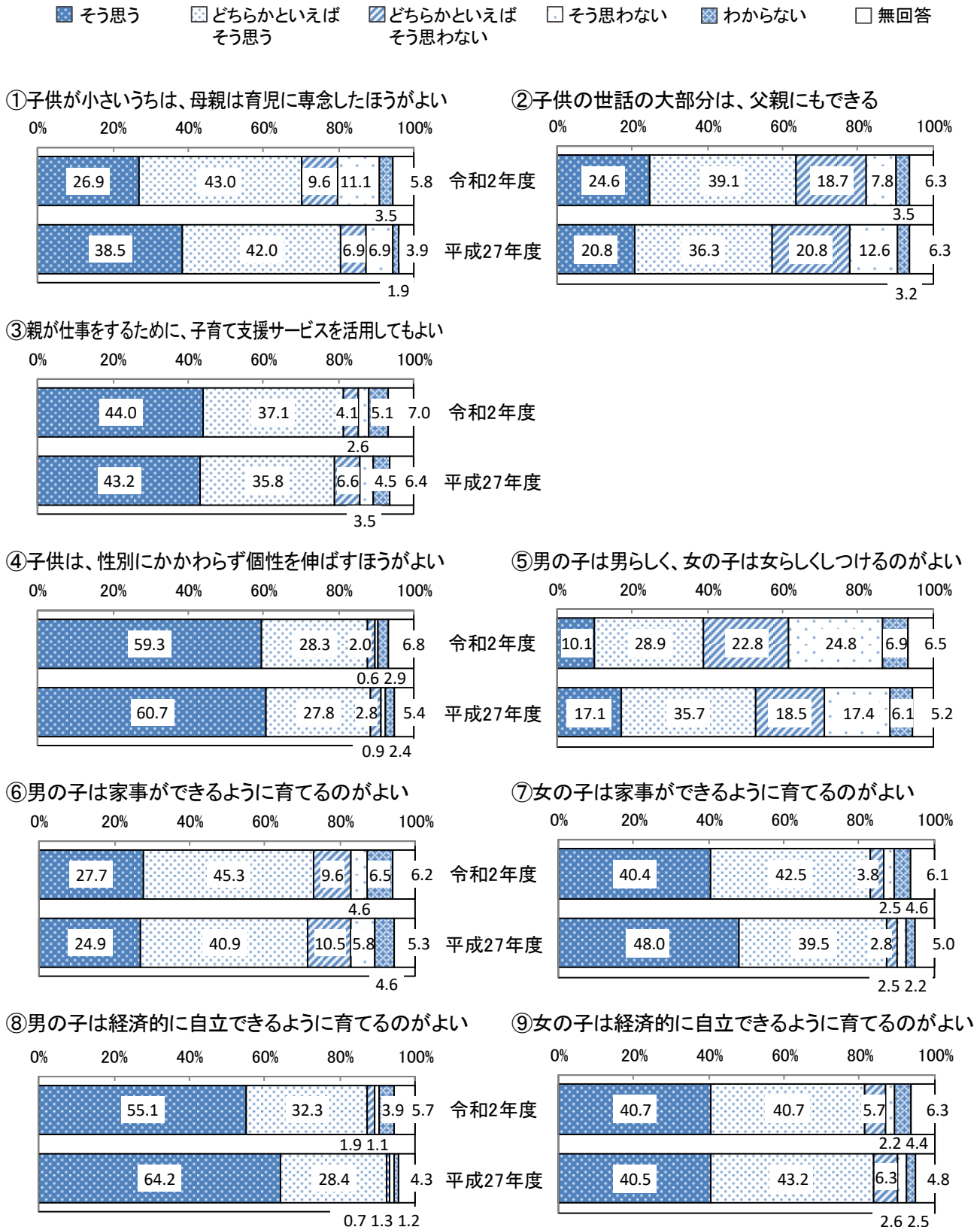


⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



前回調査と比較すると、5年前から最も大きな変化がみられたのは「⑤男の子は男の子らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」、「①子供が小さいうちは、母親は育児に専念した方がよい」で、『肯定的な意見』がそれぞれ13.8ポイント、10.6ポイント減少した。一方、「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」、「②子供の世話の大部分は、父親にもできる」では『肯定的な意見』がそれぞれ7.2ポイント、6.6ポイント増加している。

図4-3-4 前回調査比較 子育てについての考え



性別で前回調査と比較すると、5年前から最も大きな変化がみられたのは「①子供が小さいうちは、母親は育児に専念した方がよい」、「⑤男の子は男の子らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」で、『肯定的な意見』が「⑤男の子は男の子らしく、女の子は女らしく育てるのがよい」では女性15.7ポイント、男性12.6ポイント減少、「①子供が小さいうちは、母親は育児に専念した方がよい」も女性13.1ポイント、男性7.6ポイント減少している。また、「⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい」、「⑧男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」でも『肯定的な意見』が5ポイント前後減少している。一方、「②子供の世話の大部分は、父親にもできる」の『肯定的な意見』は、女性では前回より8.2ポイント増加、男性も4.5ポイントの増加となり、男性が育児を行うことに対する意識の変化がみられた。

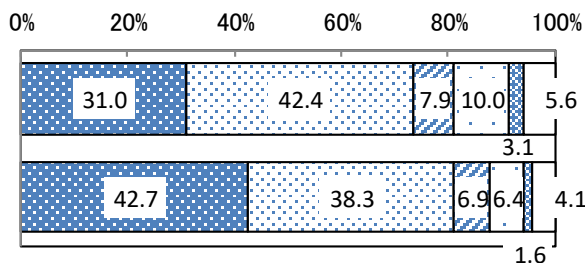
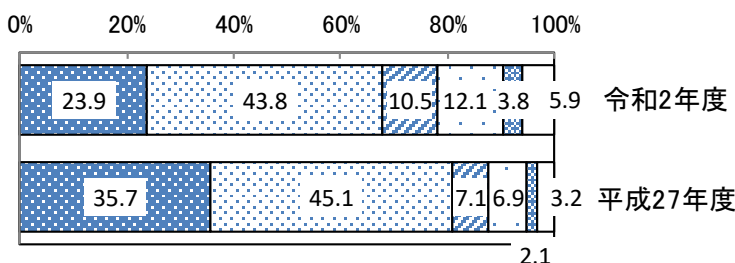
図4-3-5 前回調査比較 性別 子育てについての考え

■ そう思う ▨ どちらかといえば そう思う ▩ どちらかといえば そう思わない □ そう思わない ■ わからない □ 無回答

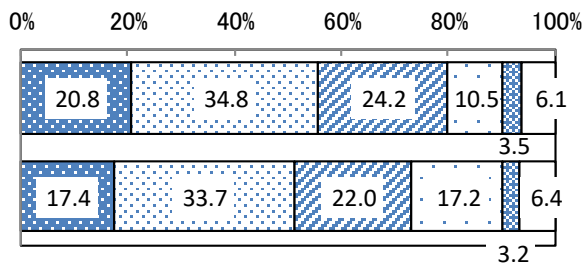
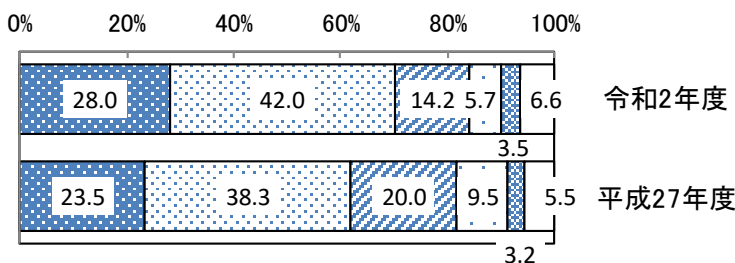
女性:今回 761件 前回:566件

男性:今回 620件 前回:436件

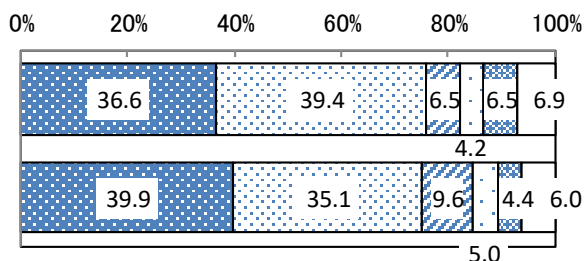
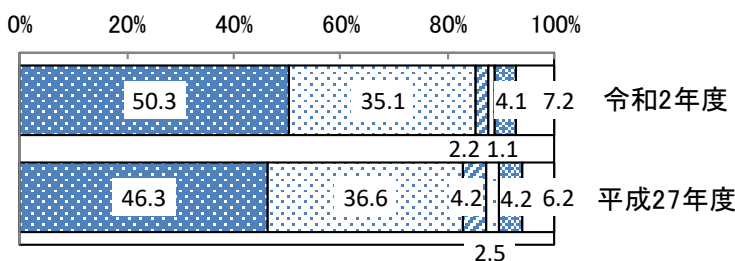
①子供が小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい



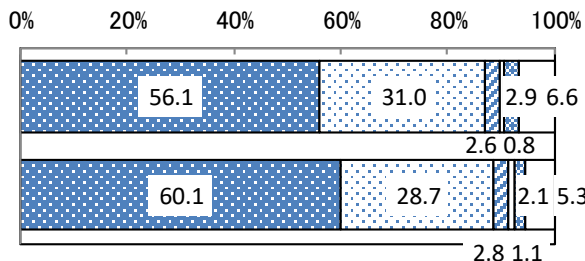
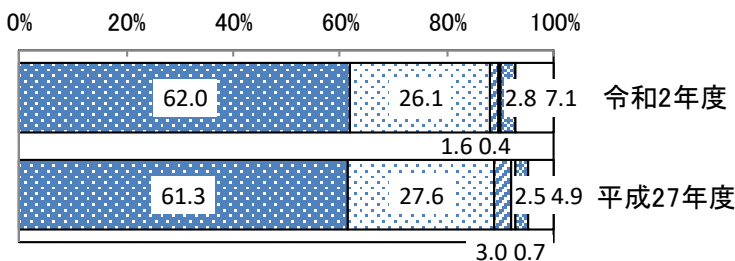
②子供の世話の大部分は、父親にもできる



③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい



④子供は、性別にかかわらず個性を伸ばすほうがよい

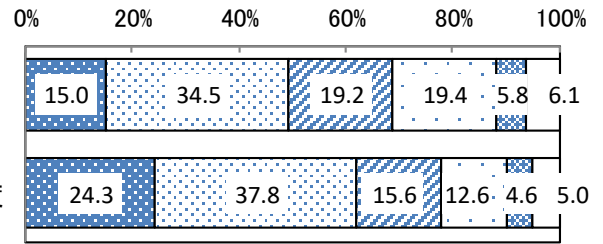
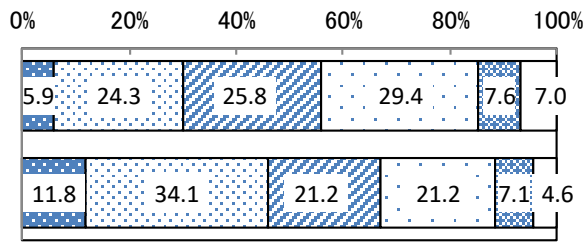


そう思う
 どちらかといえば
 そう思う
 どちらかといえば
 そう思わない
 そう思わない
 わからない
 無回答

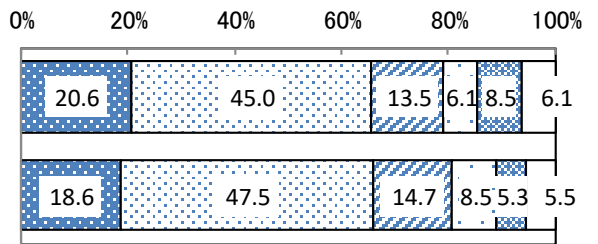
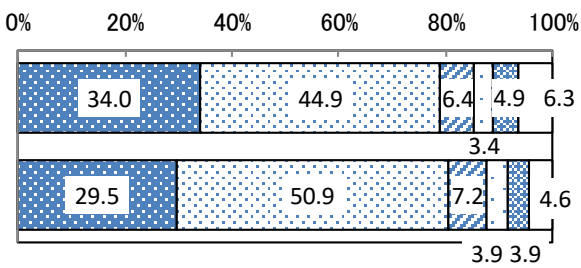
【女性】

【男性】

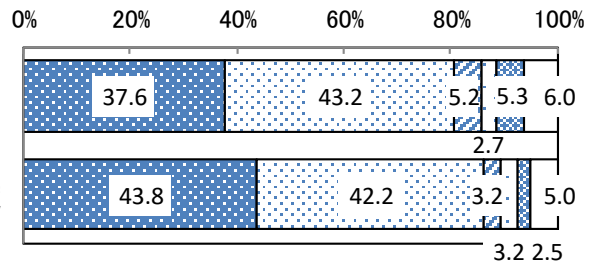
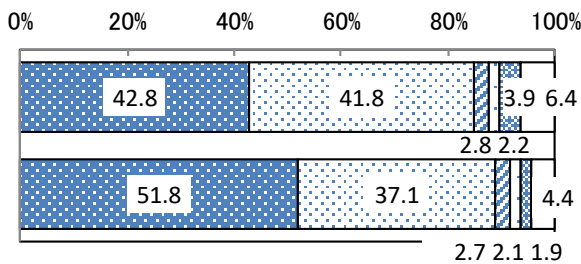
⑤ 男の子は男らしく、女の子は女らしくつけるのがよい



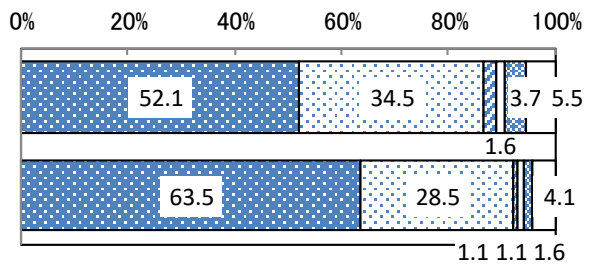
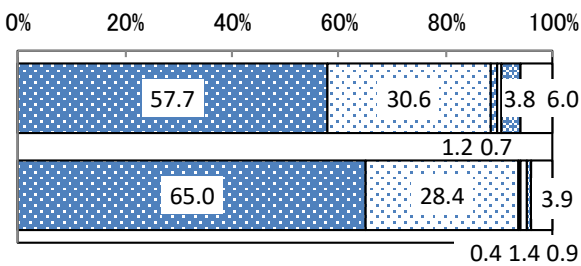
⑥ 男の子は家事ができるように育てるのがよい



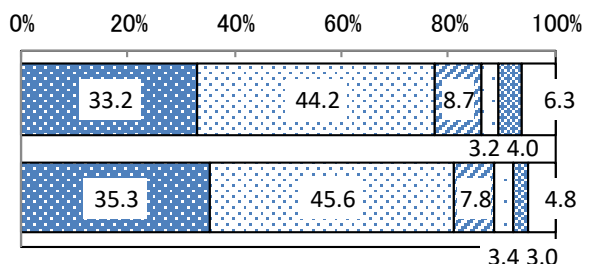
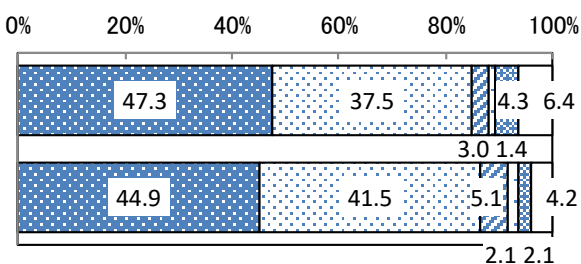
⑦ 女の子は家事ができるように育てるのがよい



⑧ 男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



⑨ 女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



4-4 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること

問11 男女平等教育をすすめるために、学校にどのようなことを期待しますか。(3つまでに○印)

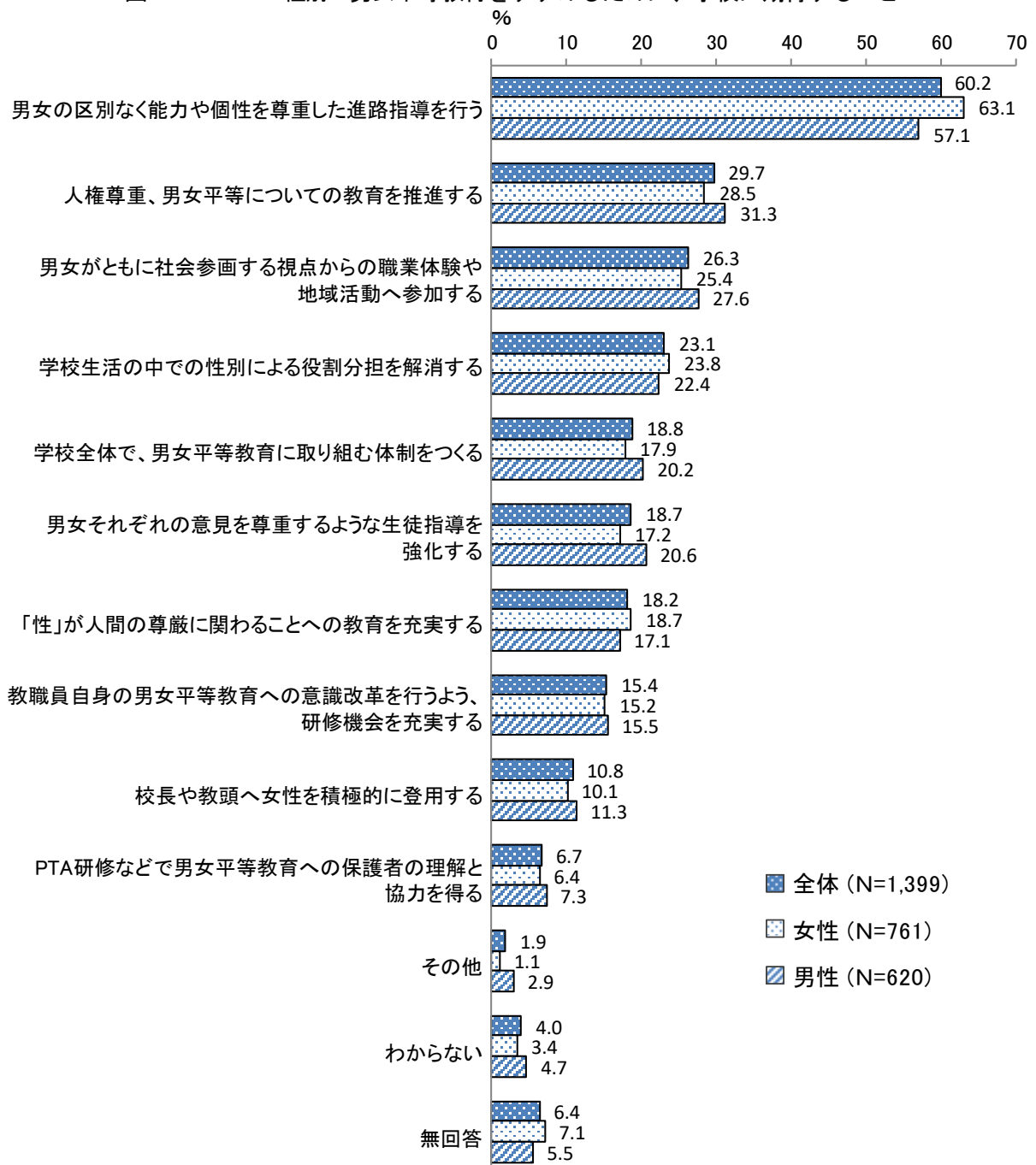
○「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」は6割を超えて、突出して高くなっている。

○「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」は女性が男性より高く、差がみられた。

男女平等教育をすすめるために、学校に期待することについて、全体では、「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」が60.2%と突出して高く、次いで「人権尊重、男女平等についての教育を推進する」が29.7%、「男女がともに社会参画する視点からの職業体験や地域活動へ参加する」が26.3%となっている。

性別でみると、「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う」で最も差がみられ、女性(63.1%)が男性(57.1%)より6.0ポイント高くなっている。他の項目では大きな差はみられない。

図4-4-1 性別 男女平等教育をすすめるために、学校に期待すること



5. 就労について

5-1 女性の理想の生き方・実際の生き方

問 12 次にあげる就職と結婚、出産を中心にした「女性」の生き方について、あなたほどの考えに近い
ですか。 ※なお、未婚の方は結婚したと仮定した上で、お答えください。（1つだけに○印）

○理想では「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が最も高く、実際では「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が最も高くなっている。

○「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」では、理想と実際ともに女性が男性よりも高くなっている。

○「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」は、理想では女性 30～60 歳代で 5 割超、実際では女性 30 歳代のみ 5 割超となっている。

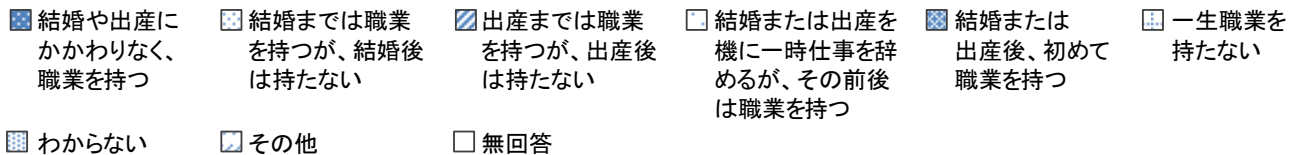
女性の理想の生き方について、全体では「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が 45.7%、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が 33.2%となり、その他は 5%未満となった。

性別でみると、最も差がみられたのは「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」で、女性(51.4%)が男性(38.9%)より 12.5 ポイント高くなっている。

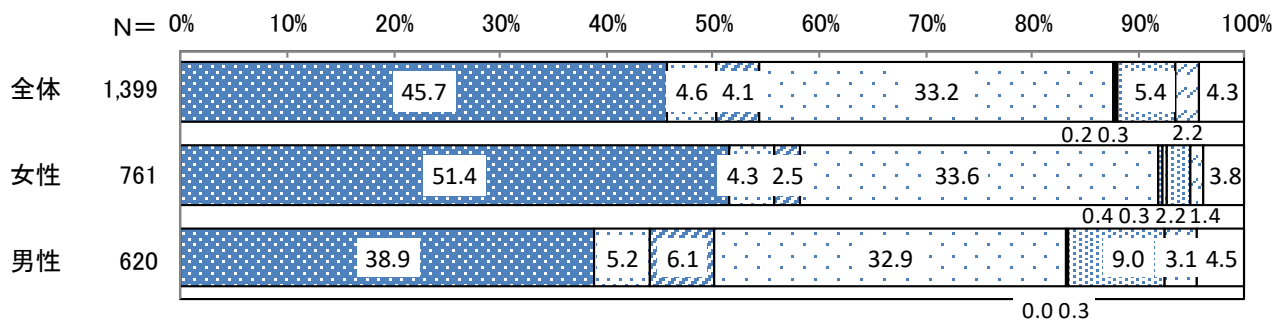
女性の実際の生き方について、全体では、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」が 38.4%と最も高く、次いで「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」が 31.2%、「わからない」が 8.3%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」では女性(36.0%)が男性(25.2%)より 10.8 ポイント高く、理想の生き方と同様 10 ポイント超の大きな差となっている。

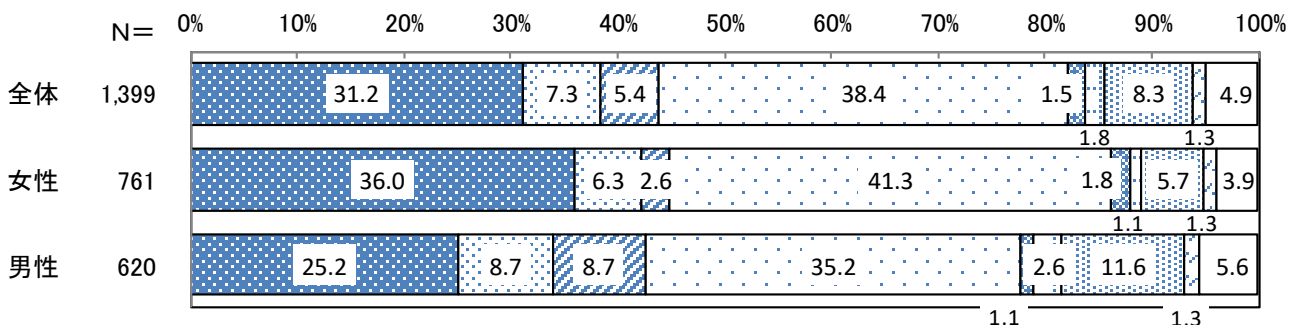
図 5-1-1 性別 女性の理想の生き方・実際の生き方



理想の（理想としていた）生き方



実際になりそうな（現実にならなっている）生き方



女性の理想の生き方別で女性の実際の生き方をみると、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は 63.6%、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は 54.6%となっている。

女性の20～40歳代に回答を絞ってみると、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は 67.5%、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は 59.6%となっており、理想の生き方が現実となっている女性は多い。一方、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」を理想としながら、実際には「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」生き方となっている割合は 31.7%、逆に「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」を理想としながら、実際には「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」生き方となっている割合も 21.4%となっており、理想と現実のギャップもみられる。

表 5-1-1 女性の理想の生き方別 実際の生き方

(全体:件数、横:%)

	全体	女性の実際の生き方									
		結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答	
全体	1399	31.2	7.3	5.4	38.4	1.5	1.8	8.3	1.3	4.9	
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	639	54.6	4.7	3.3	29.0	1.6	1.7	3.3	0.8	1.1
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	65	9.2	49.2	10.8	16.9	-	-	10.8	1.5	1.5
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	57	19.3	10.5	33.3	24.6	3.5	1.8	5.3	-	1.8
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	464	12.9	6.0	5.2	63.6	1.5	1.3	7.3	0.9	1.3
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	3	-	33.3	-	66.7	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	4	-	25.0	-	50.0	-	25.0	-	-	-
	わからない	76	3.9	3.9	2.6	18.4	1.3	6.6	61.8	1.3	-
	その他	31	16.1	-	3.2	35.5	3.2	3.2	12.9	22.6	3.2

【参考】

女性20～40歳代	全体	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答	
女性20～40歳代	335	42.4	3.3	3.0	43.6	0.3	0.9	5.4	0.3	0.9	
理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	183	59.6	2.7	2.2	31.7	-	1.1	2.7	-	-
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	15	26.7	20.0	6.7	26.7	-	-	20.0	-	-
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	8	25.0	-	25.0	37.5	-	-	12.5	-	-
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	117	21.4	1.7	2.6	67.5	0.9	-	5.1	0.9	-
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	2	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-
	わからない	3	-	-	-	33.3	-	-	66.7	-	-
その他	3	66.7	-	-	-	-	-	33.3	-	-	

地域ごとに女性の理想の生き方別で女性の実際の生き方をみると、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合は有田市・有田郡、御坊市・日高郡で 6 割を超え他の地域に比べて高くなっている一方、岩出市・紀の川市では 46.1%と唯一半数を下回った。「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」ことを理想とし、実際にそのような生き方になっている割合はすべての地域で 6 割を超えており、特に御坊市・日高郡では 75.0%と高くなっている。

表 5-1-2 地域別 女性の理想の生き方別 実際の生き方

①和歌山市

(全体:件数、横:%)

	全体	女性の実際の生き方									
		結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答	
全体	486	29.0	9.9	6.6	39.3	1.4	2.5	6.4	1.4	3.5	
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	217	50.7	7.8	4.1	30.9	0.9	0.9	2.8	0.9	0.9
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	21	9.5	61.9	9.5	-	-	-	14.3	-	4.8
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	21	19.0	19.0	38.1	14.3	4.8	4.8	-	-	-
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	167	12.0	7.2	6.6	61.1	1.8	3.0	5.4	1.2	1.8
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	4	-	25.0	-	50.0	-	25.0	-	-	-

②海南市・紀美野町

(全体:件数、横:%)

	全体	女性の実際の生き方									
		結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答	
全体	97	32.0	5.2	7.2	40.2	1.0	1.0	7.2	-	6.2	
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	48	52.1	6.3	8.3	27.1	-	2.1	2.1	-	2.1
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	3	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	3	33.3	-	-	66.7	-	-	-	-	-
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	35	11.4	5.7	5.7	62.9	2.9	-	11.4	-	-
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

③岩出市・紀の川市

(全体:件数、横:%)

	全体	女性の実際の生き方									
		結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答	
全体	179	29.1	6.7	7.3	40.8	3.4	0.6	9.5	0.6	2.2	
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	76	46.1	3.9	2.6	32.9	6.6	1.3	6.6	-	-
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	11	18.2	54.5	9.1	18.2	-	-	-	-	-
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	8	25.0	-	62.5	-	-	-	12.5	-	-
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	71	14.1	4.2	5.6	62.0	1.4	-	11.3	1.4	-
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

④橋本市・伊都郡

(全体:件数、横:%)

	全体	女性の実際の生き方									
		結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答	
全体	126	35.7	8.7	3.2	34.9	0.8	1.6	9.5	0.8	4.8	
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	64	57.8	3.1	-	29.7	1.6	3.1	3.1	1.6	-
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	5	-	80.0	-	20.0	-	-	-	-	-
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	6	16.7	16.7	50.0	-	-	-	16.7	-	-
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	38	18.4	7.9	2.6	60.5	-	-	10.5	-	-
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

⑤有田市・有田郡

(全体:件数、横:%)

	全体	女性の実際の生き方									
		結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答	
全体	113	31.9	4.4	1.8	40.7	1.8	2.7	8.8	-	8.0	
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	45	66.7	2.2	-	24.4	-	4.4	-	-	2.2
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	5	20.0	40.0	-	-	-	-	40.0	-	-
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	4	-	-	25.0	75.0	-	-	-	-	-
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	41	12.2	2.4	2.4	65.9	2.4	2.4	7.3	-	4.9
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

⑥御坊市・日高郡

(全体:件数、横:%)

	全体	女性の実際の生き方								
		結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答
全体	120	30.8	5.8	3.3	36.7	3.3	-	8.3	1.7	10.0
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	54	61.1	3.7	1.9	24.1	3.7	-	1.9	1.9
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	4	-	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	6	16.7	-	16.7	33.3	16.7	-	-	16.7
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	36	5.6	5.6	2.8	75.0	2.8	-	8.3	-
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	-	-	-	-	-	-	-	-	-

⑦田辺市・西牟婁郡

(全体:件数、横:%)

	全体	女性の実際の生き方								
		結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答
全体	159	33.3	4.4	5.0	36.5	-	1.9	13.2	1.3	4.4
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	77	59.7	1.3	5.2	27.3	-	1.3	3.9	1.3
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	12	-	25.0	16.7	50.0	-	-	8.3	-
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	46	15.2	4.3	4.3	65.2	-	-	6.5	2.2
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	-	-	-	-	-	-	-	-	-

⑧新宮市・東牟婁郡

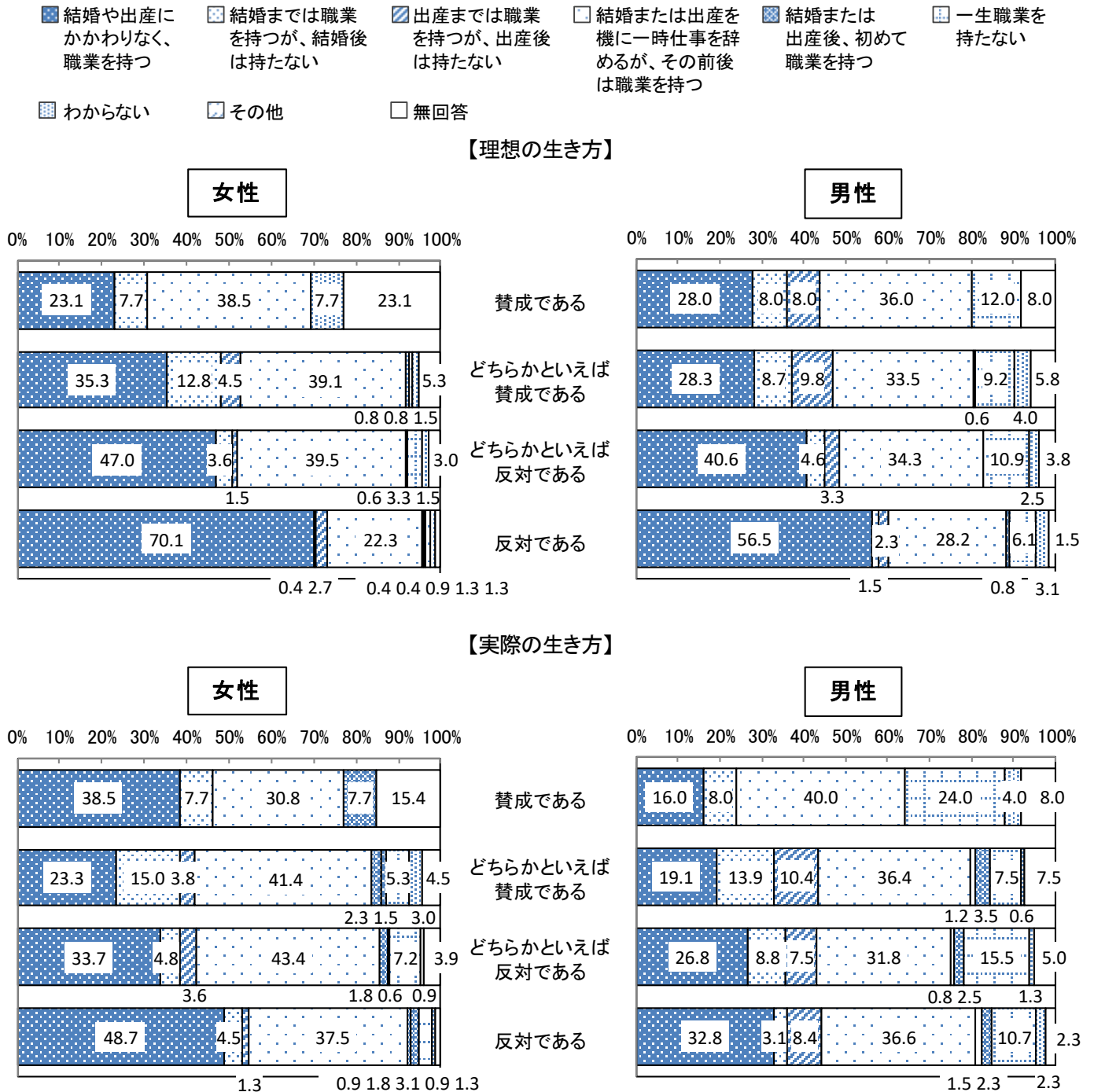
(全体:件数、横:%)

	全体	女性の実際の生き方								
		結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	結婚または出産後、初めて職業を持つ	一生職業を持たない	わからない	その他	無回答
全体	108	32.4	6.5	4.6	36.1	-	2.8	7.4	4.6	5.6
女性の理想の生き方	結婚や出産にかかわらず、職業を持つ	52	53.8	1.9	1.9	28.8	-	3.8	5.8	1.9
	結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない	4	-	50.0	-	-	-	-	25.0	25.0
	出産までは職業を持つが、出産後は持たない	7	28.6	-	14.3	57.1	-	-	-	-
	結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ	29	13.8	10.3	6.9	69.0	-	-	-	-
	結婚または出産後、初めて職業を持つ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	一生職業を持たない	-	-	-	-	-	-	-	-	-

女性の理想の生き方において、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」という人は、男女ともに固定的役割分担に否定的な人ほど高い傾向にあり、「反対である」と「賛成である」では、女性で 47.0 ポイント、男性で 28.5 ポイントの差がみられた。

女性の実際の生き方において、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」という人は、固定的役割分担に「賛成である」と答えた女性以外で理想の生き方と同じ傾向であったが、全体的に割合が低下しており、固定的役割分担意識にかかわらず理想と現実が乖離していることが分かった。

図5-1-2 固定的役割分担意識別 女性の理想の生き方・実際の生き方



(件)

	女性	男性
賛成である	13	25
どちらかといえば賛成である	133	173
どちらかといえば反対である	332	239
反対である	224	131

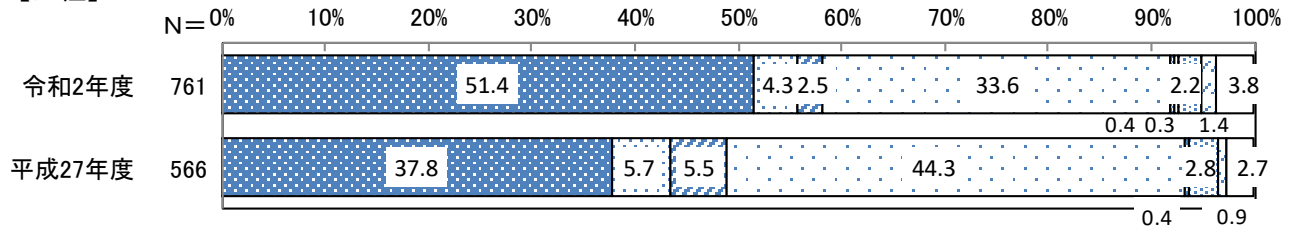
前回調査と比較すると、女性の理想の生き方では、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」(51.4%)は13.6ポイント増加し、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」(33.6%)は10.7ポイント減少している。女性の実際の生き方でも「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」(36.0%)は8.6ポイントと大きく増加したが、理想の生き方(51.4%)とは12.5ポイントの大きな差となっている。男性の考える女性の理想の生き方でも女性と同じ傾向がみられ、「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」は10.2ポイント増加し、「結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ」は10.2ポイント減少している。実際の生き方でも「結婚や出産にかかわらず、職業を持つ」(25.2%)は7.1ポイント増加したが、女性と同様、理想の生き方(38.9%)とは13.7ポイントの大きな差となっている。

図5-1-3 前回調査比較 女性の理想の生き方・実際の生き方

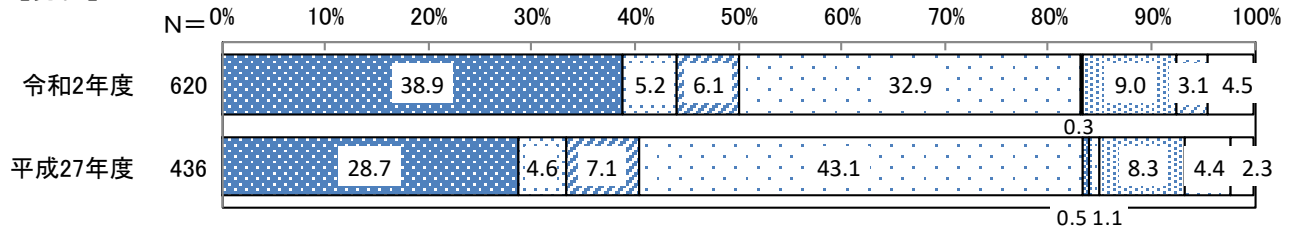
- 結婚や出産にかかわらず、職業を持つ
- 結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない
- 出産までは職業を持つが、出産後は持たない
- 結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ
- 結婚または出産後、初めて職業を持つ
- 一生職業を持たない
- わからない
- その他
- 無回答

【理想の生き方】

【女性】

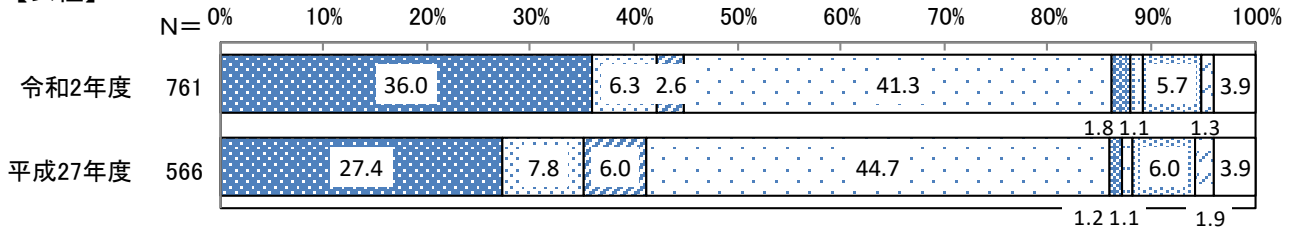


【男性】

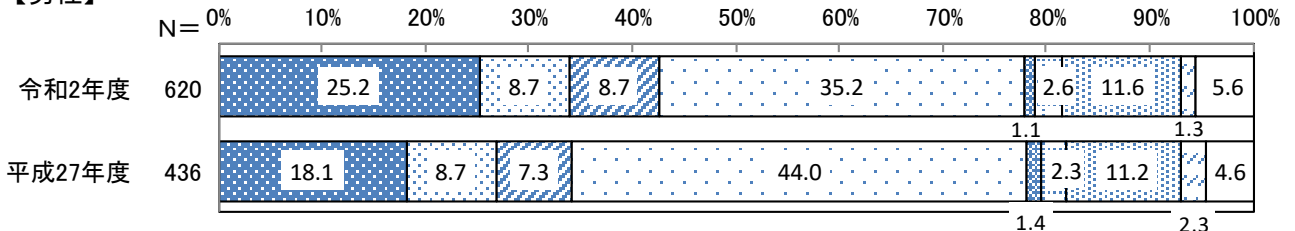


【実際の生き方】

【女性】



【男性】



5-2 働く場で男女が平等でないと思うこと

問 13 あなたの職場で、女性と男性は平等でないと思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)
 ※過去に就労し、現在は就労していない方は、過去の職場についてお答えください。

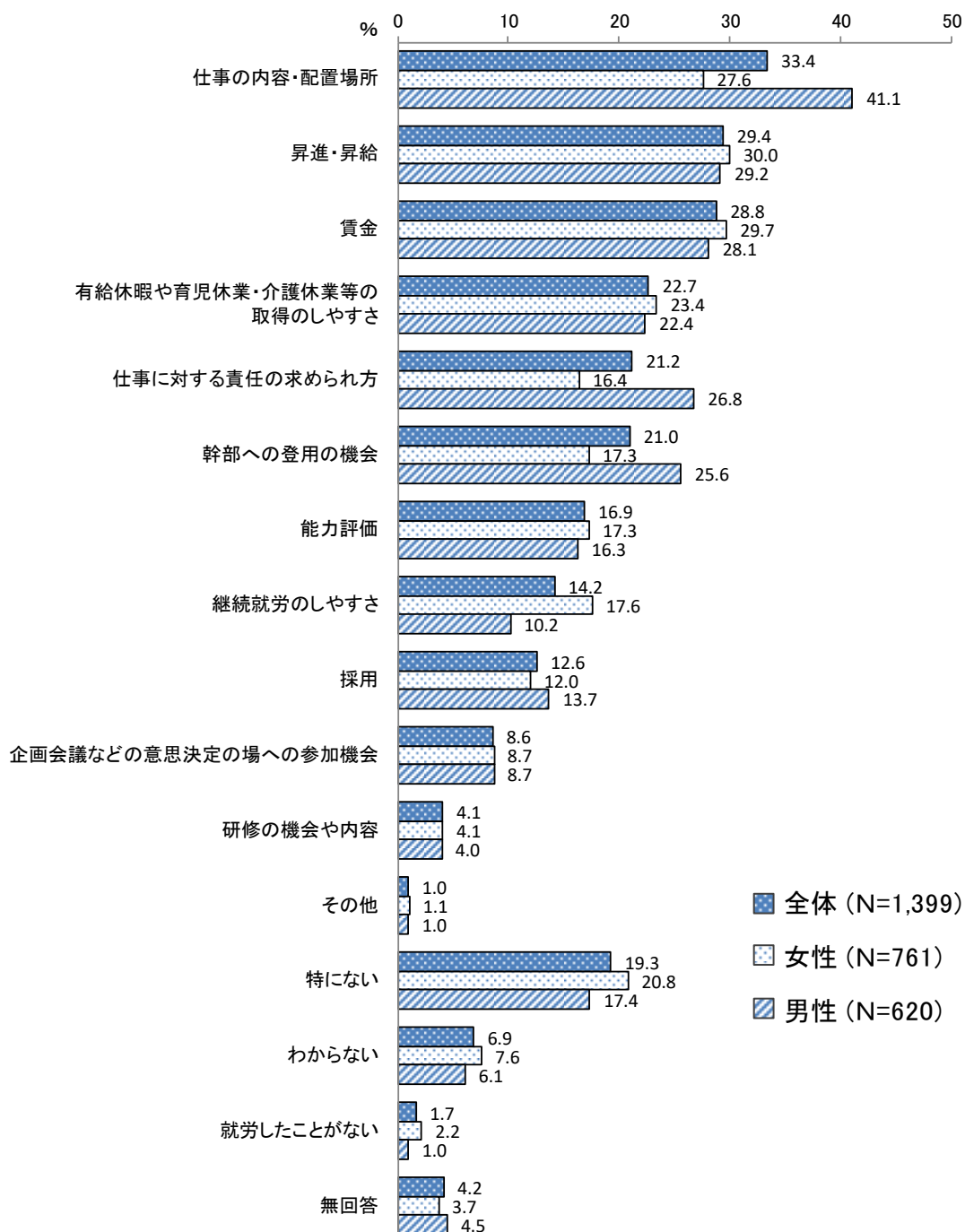
○男女ともに上位項目は、「仕事の内容・配置場所」、「昇進・昇給」、「賃金」となっている。

○「仕事の内容・配置場所」、「仕事に対する責任の求められ方」では、男性が女性より 10 ポイント以上高くなっている。

働く場で男女が平等でないと思うことについて、全体では「仕事の内容・配置場所」が 33.4%と最も高く、次いで「昇進・昇給」が 29.4%、「賃金」が 28.8%となっている。

性別でみると、差がみられた上位は「仕事の内容・配置場所」(13.5 ポイント差)、「仕事に対する責任の求められ方」(10.4 ポイント差)、「幹部への登用の機会」(8.3 ポイント差)で、いずれも男性が女性よりも高くなっている。一方、「継続就労のしやすさ」では女性(17.6%)が男性(10.2%)より 7.4 ポイント高くなっている。

図 5-2-1 性別 働く場で男女が平等でないと思うこと



性年代別でみると、女性の20～30歳代では「昇進・昇給」、「有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ」、男性の20～30歳代では「仕事の内容・配置場所」、「仕事に対する責任の求められ方」がそれぞれ上位2項目となっている。

表5-2-1 性年代別 働く場で男女が平等でないと思うこと

(全体:件数、横:%)

	全体	賃金	採用	昇進・昇給	能力評価	仕事の内容・配置場所	仕事に対する責任の求められ方	企画会議などの参加機会	幹部への登用の機会	研修の機会や内容	介護休業等の取得のしやすさ	有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ	継続就労のしやすさ	その他	特にない	わからない	就労したことがない	無回答
全体	1399	28.8	12.6	29.4	16.9	33.4	21.2	8.6	21.0	4.1	22.7	14.2	1.0	19.3	6.9	1.7	4.2	
女性	20歳代	95	16.8	7.4	32.6	8.4	17.9	16.8	5.3	11.6	1.1	30.5	16.8	2.1	20.0	10.5	5.3	1.1
	30歳代	110	19.1	11.8	28.2	14.5	20.9	15.5	8.2	18.2	4.5	32.7	23.6	1.8	28.2	5.5	-	-
	40歳代	130	30.0	13.1	31.5	20.8	38.5	20.0	10.8	20.8	3.1	29.2	17.7	2.3	21.5	4.6	-	-
	50歳代	134	32.1	14.9	32.8	18.7	29.9	13.4	8.2	17.9	3.7	17.9	19.4	0.7	26.1	8.2	-	1.5
	60歳代	157	36.9	15.3	32.5	19.1	34.4	19.7	11.5	18.5	5.7	20.4	19.1	-	17.8	6.4	1.9	4.5
	70歳以上	135	36.3	7.4	22.2	19.3	19.3	12.6	6.7	15.6	5.2	14.1	9.6	-	12.6	11.1	6.7	13.3
男性	20歳代	63	12.7	12.7	12.7	38.1	27.0	1.6	9.5	1.6	25.4	11.1	4.8	23.8	9.5	7.9	-	-
	30歳代	70	12.9	8.6	18.6	10.0	44.3	28.6	5.7	17.1	4.3	27.1	8.6	1.4	20.0	4.3	-	2.9
	40歳代	86	20.9	17.4	29.1	15.1	36.0	24.4	4.7	25.6	4.7	26.7	14.0	-	23.3	5.8	-	1.2
	50歳代	104	26.9	13.5	28.8	14.4	46.2	28.8	5.8	24.0	1.9	17.3	6.7	1.0	20.2	7.7	1.0	2.9
	60歳代	157	31.2	14.6	33.8	21.0	43.3	24.8	12.1	31.8	4.5	22.3	10.8	-	17.8	3.8	-	3.2
	70歳以上	140	44.3	13.6	37.1	17.9	37.9	27.9	14.3	31.4	5.7	20.0	10.0	0.7	7.1	7.1	-	12.1

職業別でみると、男性では、「会社などの役員」、「雇用者」とともに、「仕事の内容・配置場所」が4割半ばで最も高く、次いで「仕事に対する責任の求められ方」が3割から4割、「昇進・昇給」が3割弱と続いている。一方、女性では「会社などの役員」、「雇用者」とともに「昇進・昇給」が3割半ばから4割超と最も高く、次いで「会社などの役員」は「仕事の内容・配置場所」(35.7%)、「雇用者」は「有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ」(27.3%)を挙げている。特に男女の「会社などの役員」の間で10ポイント以上の差がみられたのは、「継続就労のしやすさ」(20.6ポイント差)をはじめ、「仕事に対する責任の求められ方」(18.6ポイント差)、「能力評価」(16.6ポイント差)、「企画会議などの意思決定の場への参加機会」(13.4ポイント差)、「昇進・昇給」(12.9ポイント差)となっている。

「自営業主」では、男女ともに「賃金」が最も高く、4割前後に上っている。

「家族従事者」について、女性では「昇進・昇給」(36.4%)が最も高い一方、男性では「幹部への登用の機会」(38.5%)が最も高い。また、「幹部への登用の機会」は男女間で26.4ポイント差、「昇進・昇給」は21.0ポイントの差がみられる。

表5-2-2 職業別 働く場で男女が平等でないと思うこと

(全体:件数、横:%)

	全体	賃金	採用	昇進・昇給	能力評価	仕事の内容・配置場所	仕事に対する責任の求められ方	企画会議などの参加機会	幹部への登用の機会	研修の機会や内容	介護休業等の取得のしやすさ	有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ	継続就労のしやすさ	その他	特にない	わからない	就労したことがない	無回答
全体	761	29.7	12.0	30.0	17.3	27.6	16.4	8.7	17.3	4.1	23.4	17.6	1.1	20.8	7.6	2.2	3.7	
女性	自営業主	41	39.0	14.6	19.5	9.8	22.0	14.6	2.4	12.2	2.4	19.5	17.1	0.0	22.0	9.8	0.0	7.3
	家族従事者	33	33.3	12.1	36.4	12.1	33.3	15.2	3.0	12.1	0.0	6.1	9.1	0.0	24.2	0.0	0.0	3.0
	会社などの役員	14	21.4	7.1	42.9	28.6	35.7	21.4	21.4	21.4	7.1	28.6	28.6	7.1	14.3	0.0	0.0	0.0
	雇用者	381	26.2	11.3	29.1	17.6	25.7	17.1	10.2	17.8	3.4	27.3	19.4	1.3	26.0	5.5	0.3	0.5
	無職	267	33.0	12.4	31.8	18.0	30.0	16.1	7.5	18.0	4.9	21.0	16.1	0.7	13.5	11.2	4.9	7.5
男性	自営業主	86	41.9	15.1	33.7	16.3	34.9	22.1	5.8	29.1	5.8	15.1	8.1	0.0	22.1	4.7	1.2	5.8
	家族従事者	13	15.4	15.4	15.4	23.1	30.8	23.1	7.7	38.5	0.0	7.7	7.7	0.0	23.1	15.4	0.0	7.7
	会社などの役員	25	16.0	16.0	28.0	12.0	44.0	40.0	8.0	24.0	4.0	24.0	8.0	4.0	24.0	4.0	0.0	0.0
	雇用者	324	21.9	12.3	25.0	14.8	46.0	28.4	7.4	19.8	4.0	22.8	10.2	1.5	20.4	4.6	0.0	3.1
	無職	144	35.4	17.4	36.1	18.8	36.1	24.3	13.9	36.1	4.2	27.1	13.2	0.0	9.7	8.3	3.5	6.3

5-3 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと

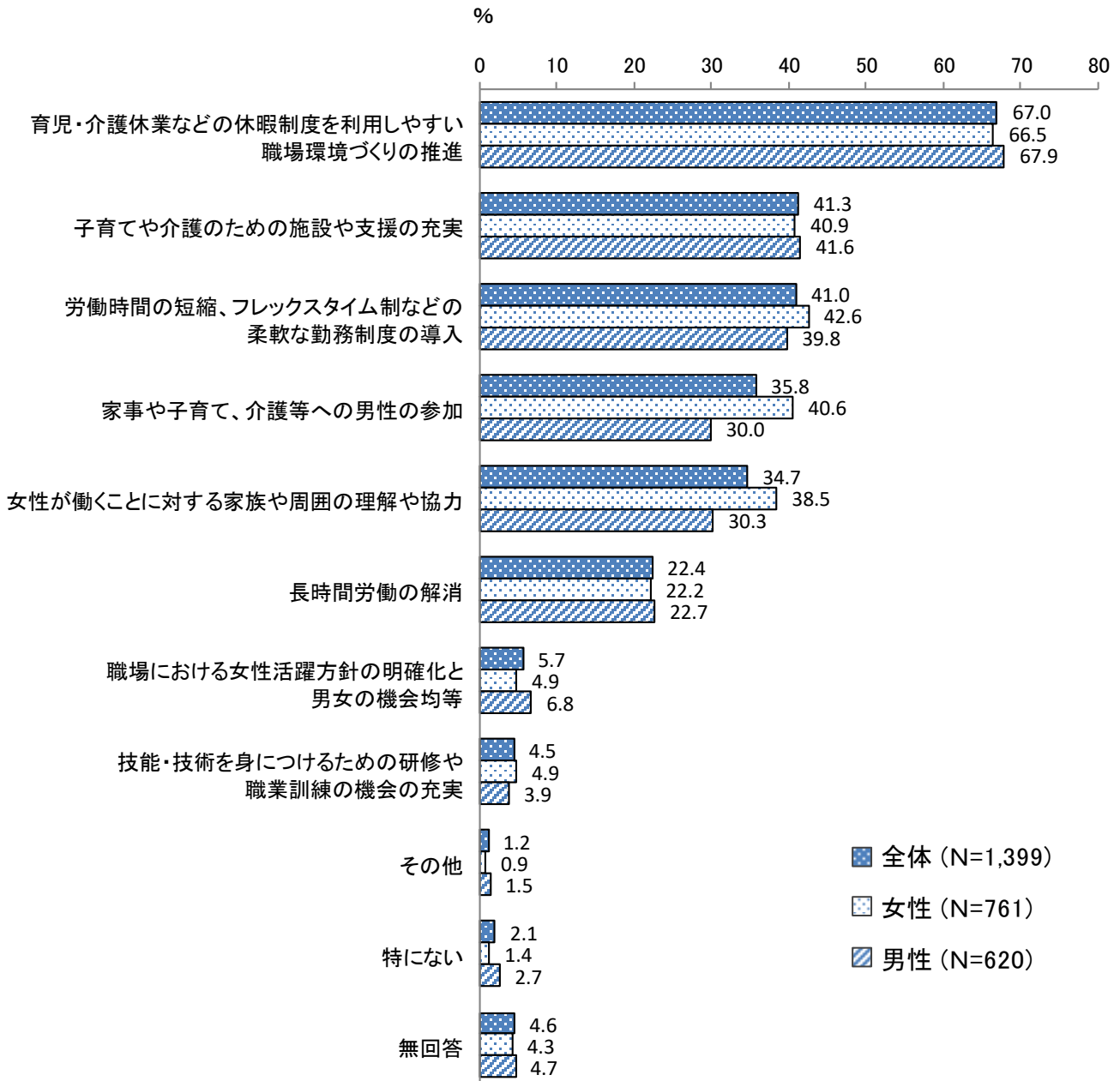
問 14 女性が結婚後、出産後も継続的に就労するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○印)

- 全体では「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が6割半ばで突出して高くなっている。
- 「家事や子育て、介護等への男性の参加」、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」では、女性が男性より高く、大きな差がみられた。

女性が継続的に就労するために必要だと思うことについて、全体では「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が67.0%と最も高く、次いで「子育てや介護のための施設や支援の充実」が41.3%、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が41.0%となっている。

性別でみると、差がみられた「家事や子育て、介護等への男性の参加」(10.6ポイント差)、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」(8.2ポイント差)では、ともに女性が男性より高くなっている。

図5-3-1 性別 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと



性年代別でみると、女性の20～40歳代、男性の30～50歳代で「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」が上位2項目となっている。女性の40～50歳代では「家事や子育て、介護等への男性の参加」が4割半ばと比較的高くなっている。

表5-3-1 性年代別 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと

(全体:件数、横:%)

	全体	育児・介護休業など の柔軟な勤務制度の 導入	労働時間の短縮、 フレックスタイム制 の導入	長時間労働の解消	職場における女性 活躍方針の明確化と 男女の機会均等	職業訓練の機会 の充実	子育てや介護のた めの施設や支援の 充実	女性が働くこと に対する家族や周 囲の理解や協力	家事や子育て、 介護等への男性 の参加	その他	特 に な い	無 回 答	
全体	1399	67.0	41.0	22.4	5.7	4.5	41.3	34.7	35.8	1.2	2.1	4.6	
女性	20歳代	95	72.6	55.8	28.4	6.3	3.2	36.8	27.4	43.2	-	1.1	1.1
	30歳代	110	70.9	57.3	25.5	3.6	4.5	39.1	33.6	33.6	2.7	0.9	2.7
	40歳代	130	66.2	53.1	23.1	1.5	6.9	33.1	37.7	46.2	1.5	0.8	0.8
	50歳代	134	64.9	35.8	16.4	5.2	6.7	41.0	41.8	47.0	0.7	2.2	4.5
	60歳代	157	66.9	33.8	19.1	7.0	2.5	49.0	42.0	42.0	-	0.6	5.1
	70歳以上	135	60.0	28.1	23.7	5.2	5.2	43.0	43.7	31.1	0.7	3.0	10.4
男性	20歳代	63	73.0	33.3	25.4	4.8	6.3	38.1	27.0	33.3	1.6	4.8	1.6
	30歳代	70	52.9	52.9	27.1	2.9	7.1	35.7	24.3	38.6	4.3	4.3	2.9
	40歳代	86	68.6	52.3	22.1	7.0	-	31.4	38.4	40.7	1.2	1.2	-
	50歳代	104	70.2	46.2	24.0	4.8	1.9	43.3	37.5	22.1	1.0	2.9	1.9
	60歳代	157	72.0	38.9	21.0	7.0	2.5	44.6	30.6	28.0	0.6	2.5	3.2
	70歳以上	140	66.4	25.0	20.7	10.7	6.4	47.9	24.3	25.7	1.4	2.1	13.6

職業別でみると、「自営業主」では「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」は男性が女性より14.9ポイント高く、「家事や子育て、介護等への男性の参加」では女性が男性より19.5ポイント高くなっている。「家族従事者」ではいずれの項目も女性が男性より高い傾向がみられ、「育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」と「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」では30ポイント超の差がみられた。

「会社などの役員」では「長時間労働の解消」、「子育てや介護のための施設や支援の充実」、「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」で男性が女性より10ポイント超高くなっている一方で、「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入」、「家事や子育て、介護等への男性の参加」では女性が男性より10ポイント超高くなっている。「雇用者」では「家事や子育て、介護等への男性の参加」、「無職」では「女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力」でそれぞれ女性が男性より10ポイント以上高くなっている。

表5-3-2 職業別 女性が継続的に就労するために必要だと思うこと

(全体:件数、横:%)

	全体	育児・介護休業などの柔軟な勤務制度の導入	労働時間の短縮、フレックスタイム制	長時間労働の解消	職場における女性活躍方針の明確化と男女の機会均等	職業訓練の機会を身につけるための研修や	実子育てや介護のための施設や支援の充	女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力	家事や子育て、介護等への男性の参加	その他	特にな	無回答	
全体	761	66.5	42.6	22.2	4.9	4.9	40.9	38.5	40.6	0.9	1.4	4.3	
女性	自営業主	41	53.7	31.7	26.8	0.0	17.1	34.1	43.9	0.0	4.9	7.3	
	家族従事者	33	78.8	27.3	18.2	6.1	0.0	36.4	33.3	0.0	0.0	0.0	
	会社などの役員	14	71.4	50.0	7.1	7.1	7.1	35.7	28.6	0.0	7.1	0.0	
	雇用者	381	67.7	49.9	20.5	4.7	5.0	39.6	36.7	46.5	0.5	0.8	2.6
	無職	267	65.5	36.0	25.1	6.0	3.0	44.6	39.7	34.1	1.9	1.9	5.6
全体	620	67.9	39.8	22.7	6.8	3.9	41.6	30.3	30.0	1.5	2.7	4.7	
男性	自営業主	86	68.6	34.9	19.8	5.8	4.7	34.9	39.5	24.4	2.3	3.5	4.7
	家族従事者	13	46.2	30.8	7.7	0.0	0.0	38.5	23.1	30.8	15.4	0.0	7.7
	会社などの役員	25	64.0	36.0	32.0	0.0	0.0	56.0	40.0	28.0	4.0	0.0	0.0
	雇用者	324	71.0	46.9	24.4	6.8	3.4	38.9	29.3	32.1	0.6	2.8	3.1
	無職	144	65.3	34.7	22.2	8.3	4.9	51.4	25.7	29.2	1.4	3.5	6.3

5-4 管理職以上に昇進することへのイメージ

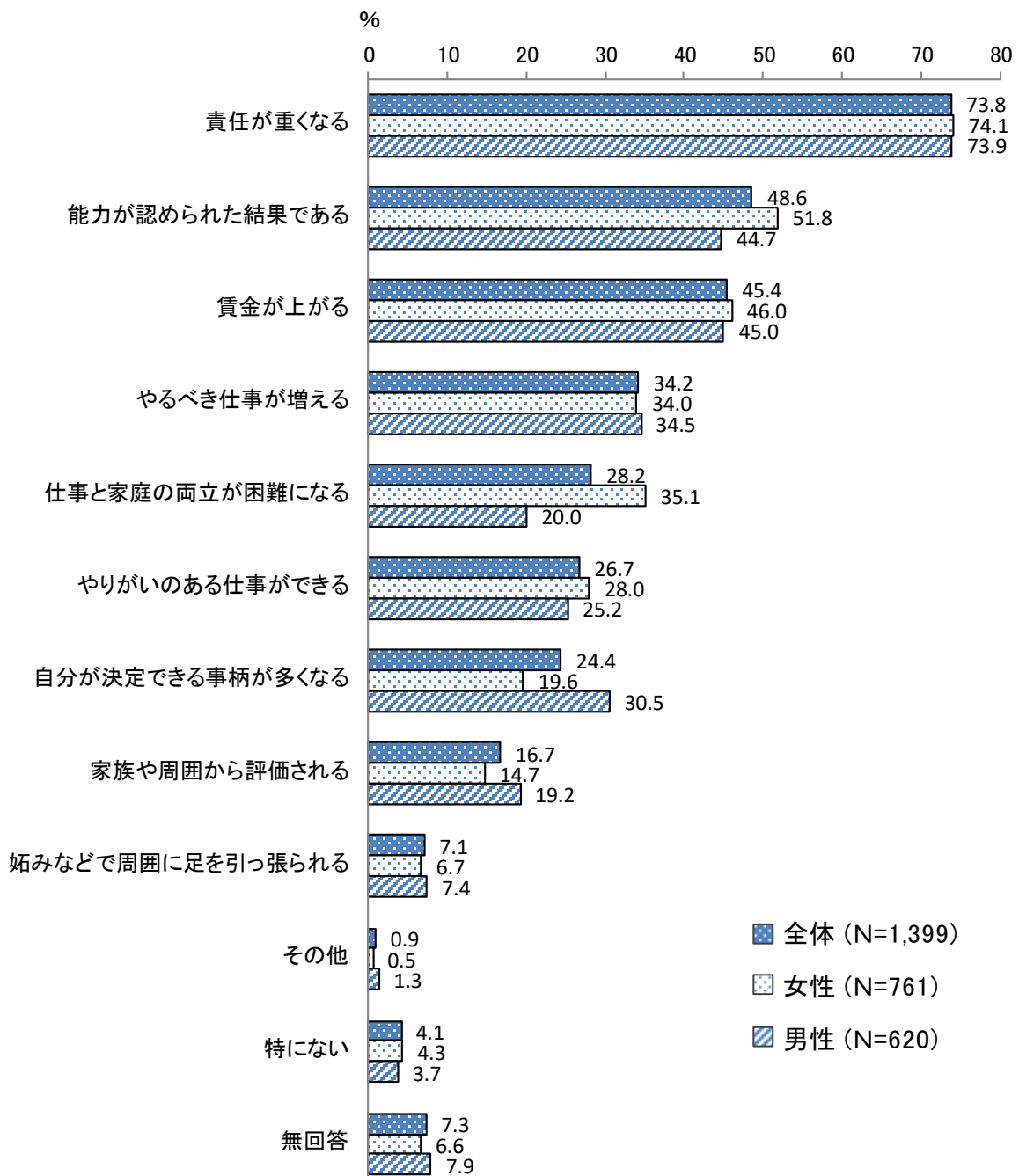
問 15 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。
(あてはまるものすべてに○印)

- 「責任が重くなる」が7割を超えて、突出して高くなっている。
- 「仕事と家庭の両立が困難になる」では、女性が男性より高く、大きな差がみられた。

管理職以上に昇進することへのイメージについて、全体では「責任が重くなる」が73.8%と最も高く、次いで「能力が認められた結果である」が48.6%、「賃金が上がる」が45.4%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「仕事と家庭の両立が困難になる」では、女性(35.1%)が男性(20.0%)より15.1ポイント高くなっている。次いで差がみられた「自分が決定できる事柄が多くなる」では、男性(30.5%)が女性(19.6%)より10.9ポイント高くなっている。

図5-4-1 性別 管理職以上に昇進することへのイメージ



性年代別で見ると、すべての区分で「責任が重くなる」が最も高くなっている。女性の30～40歳代では「仕事と家庭の両立が困難になる」が、男性の30～40歳代では「やるべき仕事が増える」がいずれも4割以上で比較的高い割合となっている。また女性の40歳代では「能力が認められた結果である」、「賃金が上がる」がともに6割前後と、他に比べ高くなっている。

表5-4-1 性年代別 管理職以上に昇進することへのイメージ

(全体:件数、横:%)

	全体	やりがいのある仕事ができる	能力が認められた結果である	賃金が上がる	家族や周囲から評価される	自分が決定できる事柄が多くなる	責任が重くなる	やるべき仕事が増える	妬みなどで周囲に足を引っ張られる	仕事と家庭の両立が困難になる	その他	特にない	無回答	
全体	1399	26.7	48.6	45.4	16.7	24.4	73.8	34.2	7.1	28.2	0.9	4.1	7.3	
女性	20歳代	95	31.6	54.7	56.8	18.9	22.1	84.2	42.1	7.4	24.2	-	1.1	3.2
	30歳代	110	26.4	44.5	52.7	14.5	16.4	82.7	40.9	2.7	40.0	1.8	1.8	1.8
	40歳代	130	28.5	60.0	59.2	12.3	21.5	83.1	42.3	10.8	42.3	0.8	-	2.3
	50歳代	134	27.6	56.0	40.3	9.7	17.9	73.1	28.4	7.5	35.1	-	6.0	5.2
	60歳代	157	28.7	55.4	42.0	17.2	24.2	71.3	31.8	6.4	33.8	-	5.1	7.0
	70歳以上	135	25.9	39.3	30.4	16.3	14.8	55.6	23.0	5.2	33.3	0.7	10.4	17.8
男性	20歳代	63	30.2	54.0	50.8	27.0	33.3	76.2	39.7	11.1	17.5	4.8	4.8	1.6
	30歳代	70	14.3	32.9	48.6	22.9	42.9	78.6	45.7	7.1	15.7	1.4	7.1	2.9
	40歳代	86	15.1	45.3	52.3	14.0	25.6	86.0	47.7	5.8	18.6	1.2	-	9.3
	50歳代	104	22.1	42.3	54.8	15.4	33.7	75.0	42.3	6.7	19.2	-	4.8	4.8
	60歳代	157	32.5	44.6	36.3	19.1	27.4	67.5	26.1	5.7	17.8	0.6	2.5	9.6
	70歳以上	140	28.6	47.9	38.6	20.0	27.1	69.3	22.1	9.3	27.1	1.4	4.3	12.9

5-5 退職した女性が再就職するために必要なこと

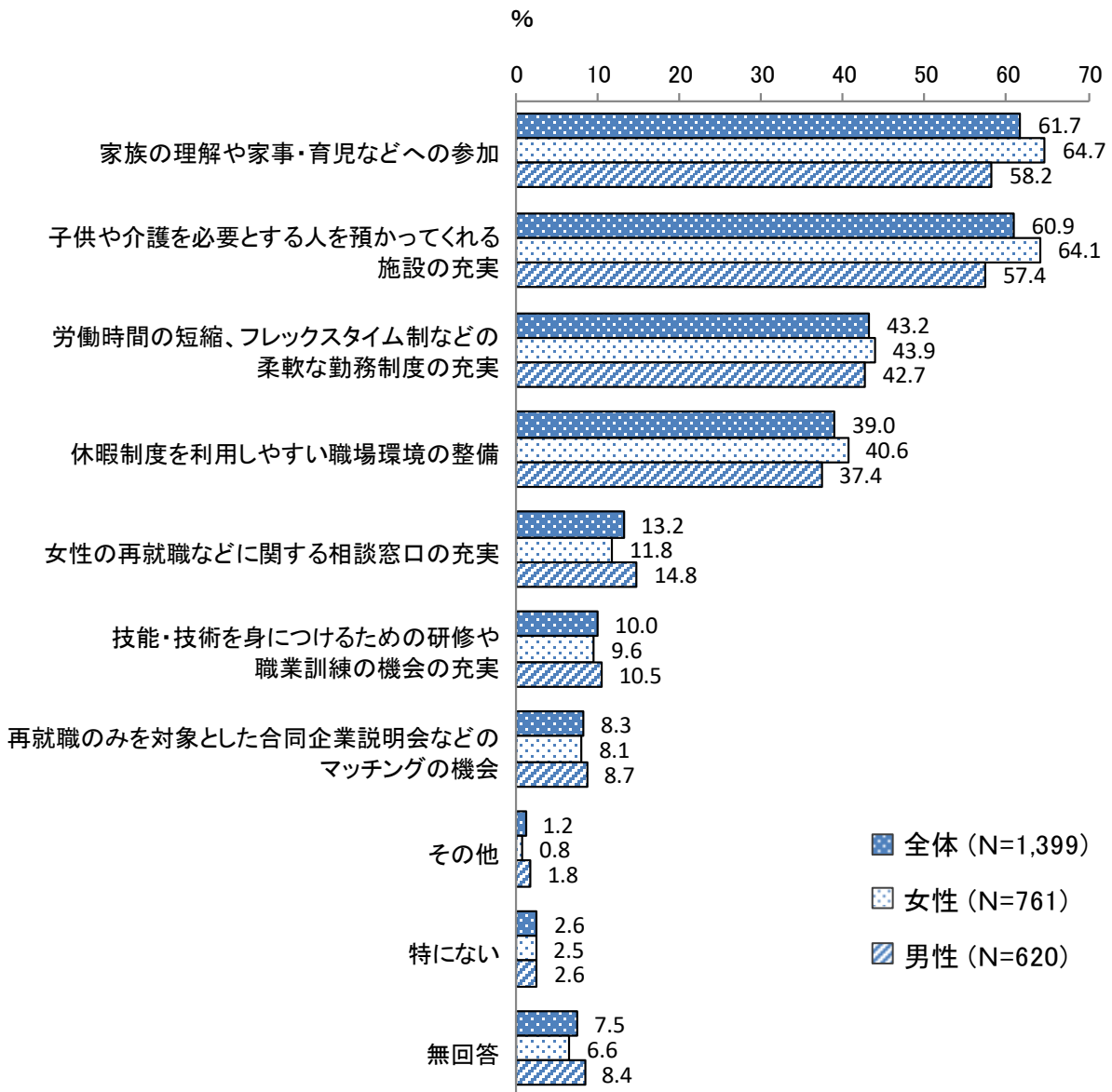
問 16 結婚や出産のために退職した女性が、再就職するために必要だと思うものは何ですか。
(3つまでに○印)

○全体では「家族の理解や家事・育児などへの参加」と「子供や介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」が6割を超え、高くなっており、ともに女性が男性より高くなっている。

退職した女性が再就職するために必要なことについて、全体では「家族の理解や家事・育児などへの参加」が61.7%、「子供や介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」が60.9%と、ともに6割を超え、次いで「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実」が43.2%、「休暇制度を利用しやすい職場環境の整備」が39.0%となっている。

性別では、差がみられた「子供や介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」(6.7ポイント差)、「家族の理解や家事・育児などへの参加」(6.5ポイント差)では、ともに女性が男性より高くなっている。他の項目では大きな差はみられない。

図5-5-1 性別 退職した女性が再就職するために必要なこと



性年代別では、すべての区分で「家族の理解や家事・育児などへの参加」が半数を超えている。女性の30歳代、男性の20歳代では「休暇制度を利用しやすい職場環境の整備」が5割強、女性の40歳代、男性の30歳代では「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実」が5割半ばで、いずれも比較的高い割合となっている。

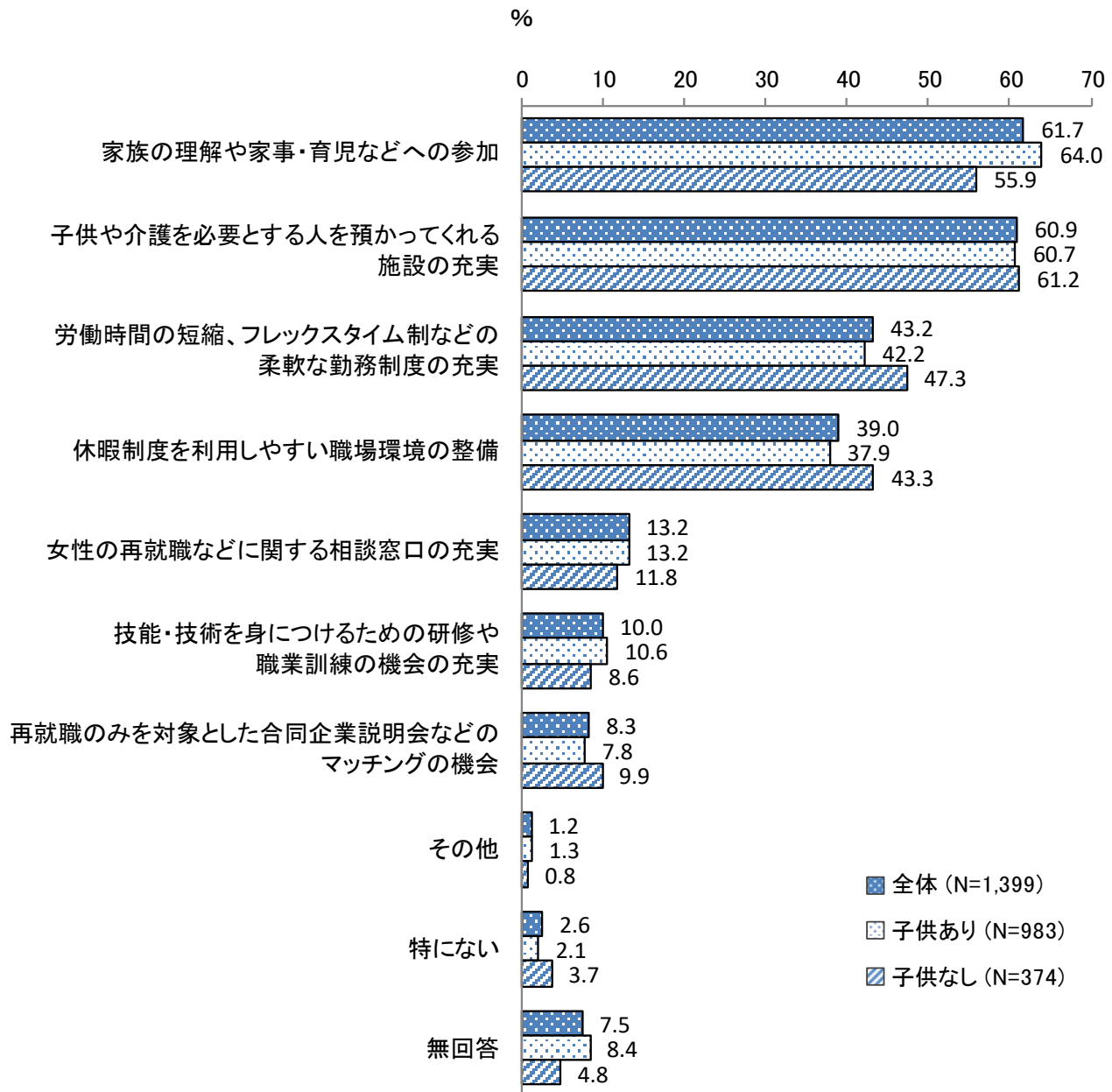
表5-5-1 性年代別 退職した女性が再就職するために必要なこと

(全体:件数、横:%)

	全体	家族の理解や家事・育児などへの参加	子供や介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実	女性の再就職などに関する相談窓口の充実	研修や職業訓練の機会の充実	技能・技術を身につけるための	休暇制度を利用しやすい職場環境の整備	労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実	再就職のみを対象とした合同企業説明会などのマッチングの機会	その他	特になし	無回答
全体	1399	61.7	60.9	13.2	10.0		39.0	43.2	8.3	1.2	2.6	7.5
女性	20歳代	95	58.9	64.2	8.4	5.3	42.1	51.6	5.3	-	3.2	5.3
	30歳代	110	59.1	67.3	11.8	9.1	53.6	47.3	10.9	1.8	-	3.6
	40歳代	130	71.5	62.3	9.2	10.8	43.8	56.2	6.9	1.5	-	3.1
	50歳代	134	70.1	66.4	10.4	9.7	39.6	36.6	14.2	-	2.2	5.2
	60歳代	157	65.0	71.3	15.3	11.5	36.3	43.3	4.5	0.6	2.5	7.6
	70歳以上	135	60.7	52.6	14.1	9.6	31.9	31.9	7.4	0.7	6.7	13.3
男性	20歳代	63	54.0	57.1	12.7	14.3	52.4	49.2	7.9	-	3.2	3.2
	30歳代	70	55.7	48.6	14.3	8.6	38.6	54.3	12.9	5.7	2.9	2.9
	40歳代	86	58.1	55.8	10.5	4.7	33.7	52.3	15.1	2.3	-	10.5
	50歳代	104	72.1	57.7	12.5	8.7	42.3	36.5	7.7	1.0	2.9	4.8
	60歳代	157	52.9	63.1	13.4	6.4	40.1	40.1	7.0	0.6	1.9	10.2
	70歳以上	140	57.1	56.4	22.1	19.3	25.7	35.7	5.7	2.1	4.3	12.9

退職した女性が再就職するために必要なことについて子供の有無別でみると、子供がいる人では「家族の理解や家事・育児などへの参加」が64.0%と最も高く、子供がいない人では「子供や介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実」が61.2%と最も高くなっている。「休暇制度を利用しやすい職場環境の整備」(43.3%)と「労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実」(47.3%)は子供がいない人が5ポイント余り高くなっている。

図5-5-2 子供の有無別 退職した女性が再就職するために必要なこと



5-6 就労意向の有無・希望する就労形態

【現在、職業（収入を得る仕事）を持っていない方にお聞きします。】

問 17 あなたは今後、適当な仕事があれば働きたいと思いませんか。（1つだけに○印）

問 17-1 働くとするば、どのような形で働きたいですか。（1つだけに○印）

○男女ともに「働きたいと思わない」が最も高く、『働きたい』という人の割合を上回っている。

○希望する就労形態は、女性では「パートタイム、アルバイト、嘱託」が5割半ば、男性では「正社員」が約5割で最も高くなっている。

就労意向の有無について、全体では「今すぐに働きたい」が12.6%、「将来的には働きたい」が21.8%、「働きたいと思わない」が46.5%となっている。「今すぐに働きたい」と「将来的に働きたい」を合わせた『働きたい』は34.4%となっている。

就労意向の有無を性別で見ると、「将来的には働きたい」では女性(24.7%)が男性(16.7%)より8.0ポイント高くなっている。一方、「働きたいと思わない」では男性(52.1%)が女性(43.4%)より8.7ポイント高くなっている。

就労意向のある人に希望する就労形態について尋ねたところ、全体では「パートタイム、アルバイト、嘱託」が49.3%と最も高く、次いで「正社員(正職員)」が31.0%、「家での内職」が4.9%となっている。

希望する就労形態を性別で見ると、「正社員(正職員)」では男性(48.7%)が女性(23.5%)より25.2ポイント高くなっている。一方、「パートタイム、アルバイト、嘱託」では女性(56.9%)が男性(30.8%)より26.1ポイント高くなっている。

図5-6-1 性別 就労意向の有無

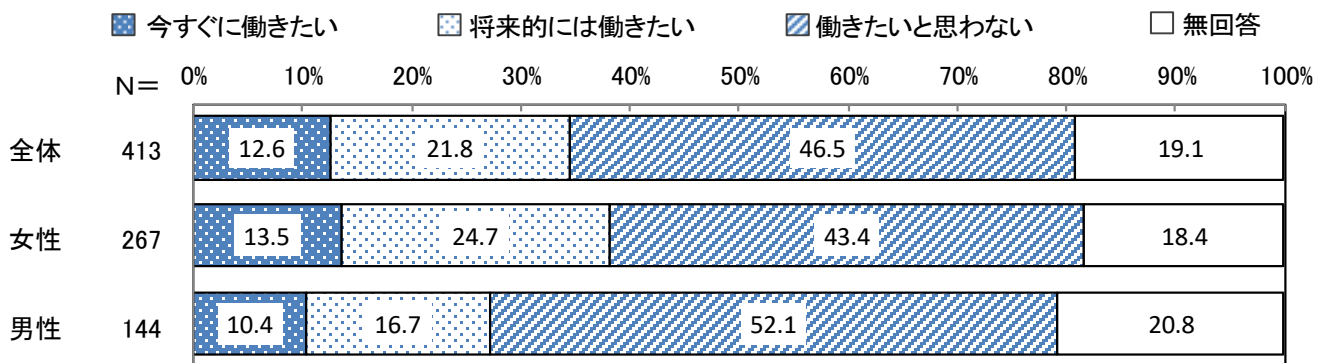
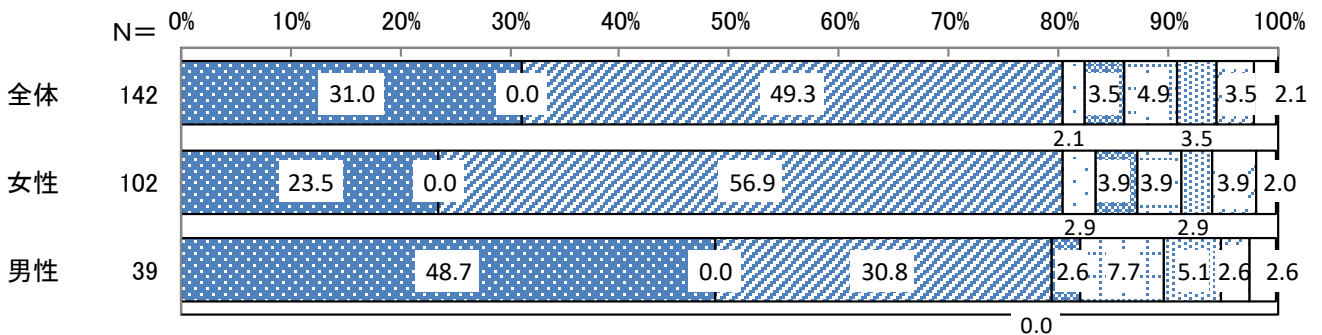


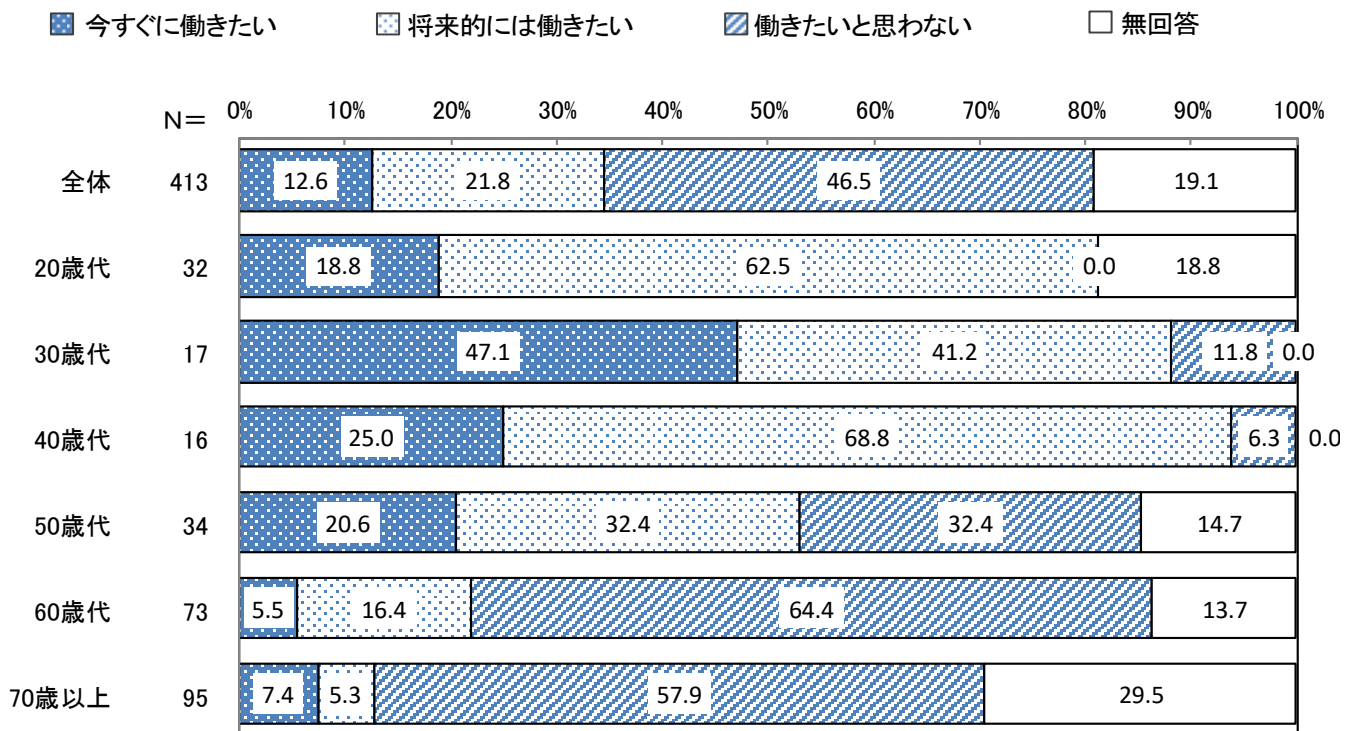
図5-6-2 性別 希望する就労形態

■ 正社員(正職員) ■ 派遣社員 ■ パートタイム、アルバイト、嘱託 ■ 自分で事業経営 ■ 家業の手伝い ■ 家での内職
 ■ その他 ■ わからない ■ 無回答



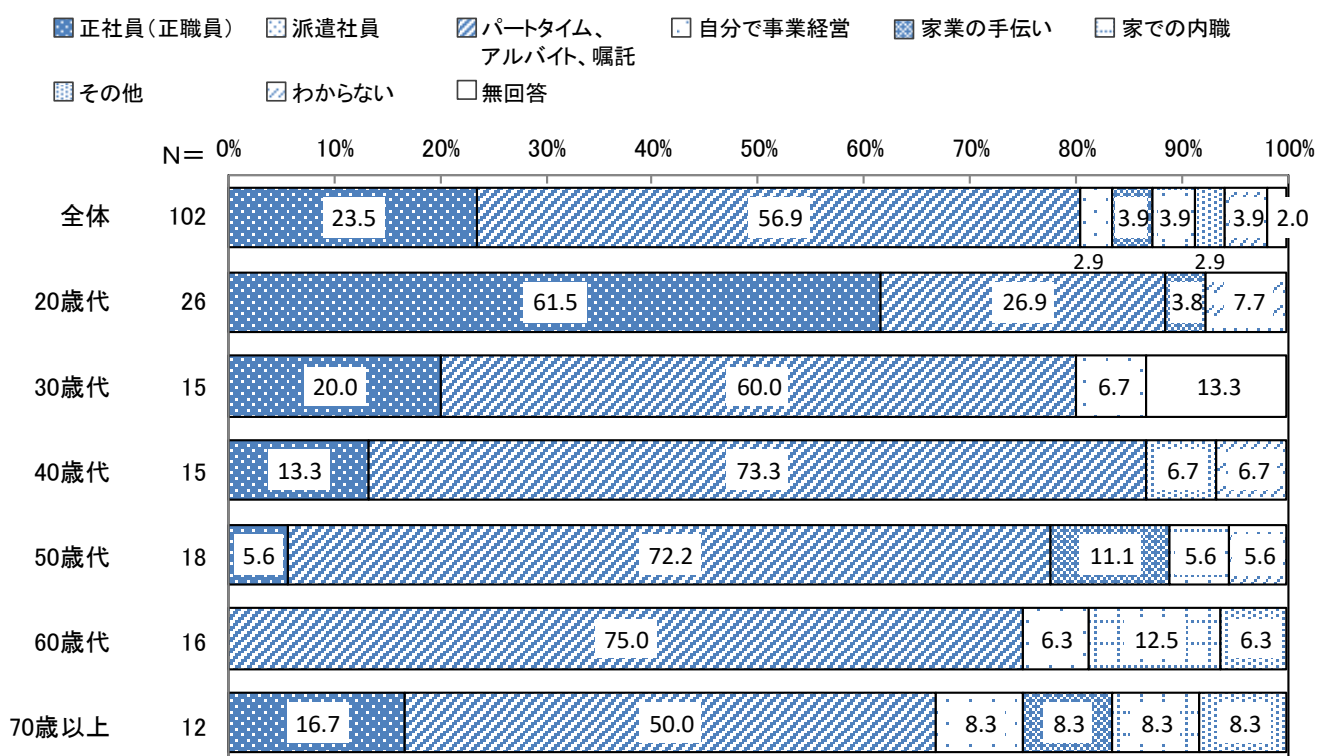
就労意向の有無を年代別で見ると、「今すぐに働きたい」は30歳代で47.1%と特に高くなっている。『働きたい』では、20～40歳代で8割以上となっている。

図5-6-3 年代別 就労意向の有無（女性のみ）



希望する就労形態を年代別で見ると、「正社員（正職員）」は20歳代で61.5%と最も高くなっている。「パートタイム、アルバイト、嘱託」は30歳代以上でそれぞれ5割以上となり、40～60歳代では7割以上と特に高くなっている。

図5-6-4 年代別 希望する就労形態（就労意向のある女性のみ）



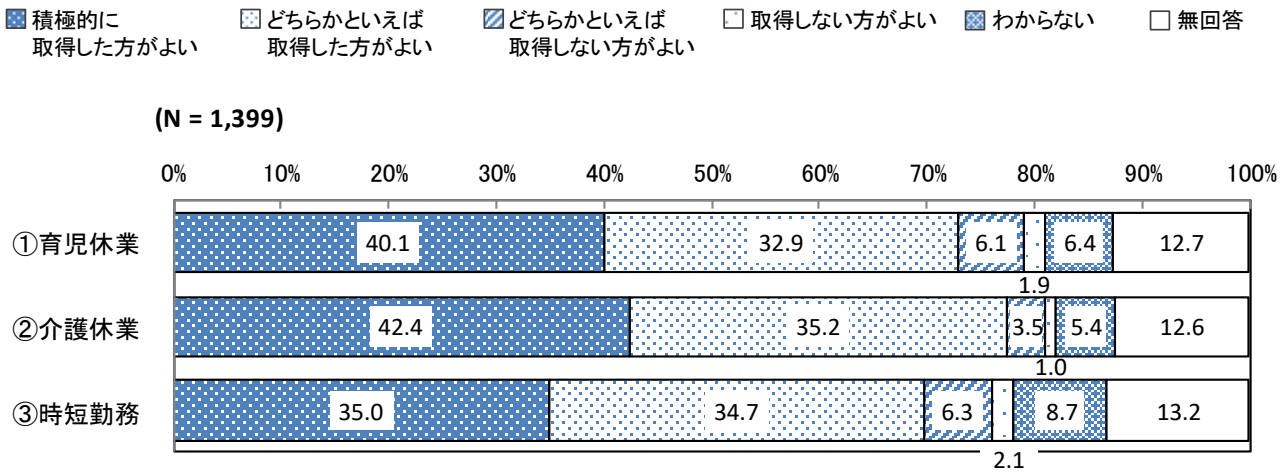
5-7 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて

問 18 男性が育児休業や介護休業、時短勤務を取得することについてどのように思いますか。
(それぞれ1つだけに○印)

- 育児休業・介護休業・時短勤務のいずれも、『肯定的な意見』は7割前後となっている。
- 育児休業・介護休業・時短勤務のいずれも、『肯定的な意見』は女性が男性よりも高くなっている。
- 育児休業の「積極的に取得した方がよい」では、女性20歳代で6割半ばと、突出して高くなっている。

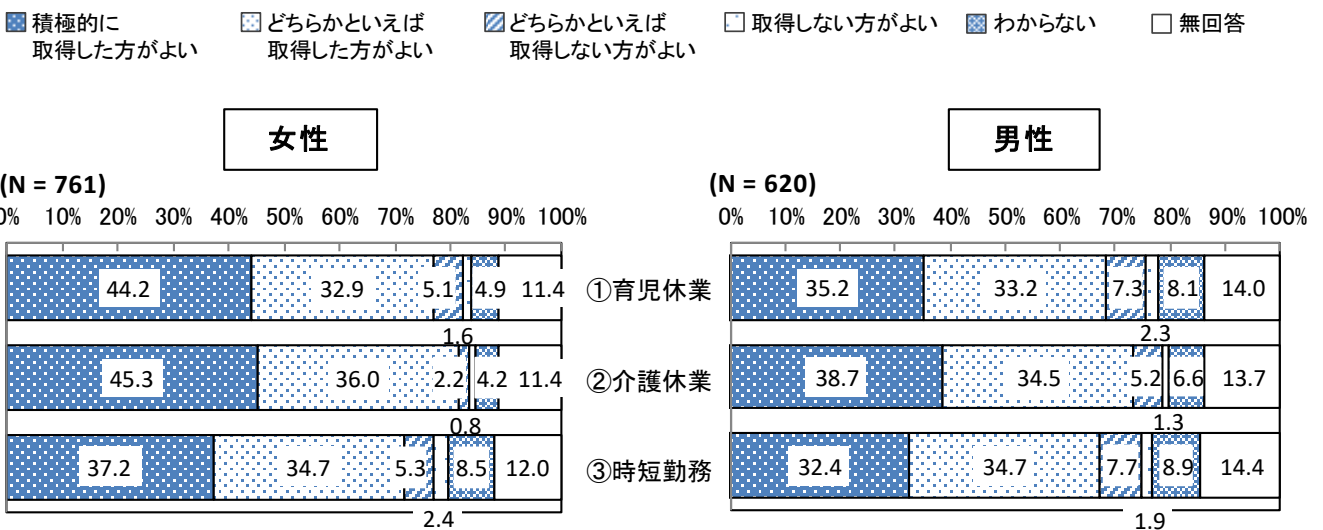
男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて、全体では『肯定的な意見』は「①育児休業」、「②介護休業」がともに7割超、「③時短勤務」は7割弱と、いずれも高くなっている。『否定的な意見』はいずれも1割未満となった。

図5-7-1 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて



性別でみると、育児休業・介護休業・時短勤務のいずれも、『肯定的な意見』は女性が男性よりも高く、「①育児休業」、「②介護休業」では8ポイント以上の差がみられた。

図5-7-2 性別 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて



性年代別でみると、「①育児休業」の「積極的に取得した方がよい」は、女性の20歳代で66.3%と突出して高い一方で、男女70歳以上では2割台にとどまっている。また、「②介護休業」、「③時短勤務」でも同様の傾向がみられ、「②介護休業」の「積極的に取得した方がよい」は、女性20～30歳代で5割超、男女70歳以上では2割台、「③時短勤務」の「積極的に取得した方がよい」でも、女性20歳代が約5割、男女70歳以上では2割台にとどまった。

表5-7-1 性年代別 男性が育児休業・介護休業・時短勤務を取得することについて

①育児休業

(全体:件数、横:%)

		全体	積極的に 取得した方 がよい	どちらか といえば取得 した方が よい	どちらか といえば取得 しない方が よい	取得しない 方がよい	わからない	無回答
全体		1399	40.1	32.9	6.1	1.9	6.4	12.7
女性	20歳代	95	66.3	21.1	5.3	-	1.1	6.3
	30歳代	110	49.1	33.6	4.5	2.7	1.8	8.2
	40歳代	130	47.7	34.6	4.6	3.1	3.1	6.9
	50歳代	134	47.0	37.3	3.0	-	6.0	6.7
	60歳代	157	38.9	36.3	5.7	1.3	6.4	11.5
	70歳以上	135	24.4	30.4	7.4	2.2	8.9	26.7
男性	20歳代	63	38.1	36.5	6.3	3.2	9.5	6.3
	30歳代	70	48.6	24.3	5.7	2.9	8.6	10.0
	40歳代	86	43.0	29.1	11.6	2.3	5.8	8.1
	50歳代	104	37.5	31.7	7.7	1.9	11.5	9.6
	60歳代	157	33.1	38.2	6.4	2.5	5.1	14.6
	70歳以上	140	22.9	34.3	6.4	1.4	9.3	25.7

②介護休業

全体		1399	42.4	35.2	3.5	1.0	5.4	12.6
女性	20歳代	95	58.9	31.6	2.1	-	1.1	6.3
	30歳代	110	53.6	34.5	1.8	0.9	0.9	8.2
	40歳代	130	49.2	34.6	3.1	1.5	3.8	7.7
	50歳代	134	49.3	37.3	1.5	-	6.0	6.0
	60歳代	157	40.8	39.5	2.5	-	5.7	11.5
	70歳以上	135	26.7	36.3	2.2	2.2	5.9	26.7
男性	20歳代	63	36.5	41.3	6.3	1.6	7.9	6.3
	30歳代	70	45.7	28.6	8.6	1.4	5.7	10.0
	40歳代	86	44.2	33.7	5.8	2.3	3.5	10.5
	50歳代	104	45.2	32.7	1.9	1.0	9.6	9.6
	60歳代	157	38.9	37.6	5.1	1.3	3.8	13.4
	70歳以上	140	27.9	32.9	5.0	0.7	9.3	24.3

③時短勤務

全体		1399	35.0	34.7	6.3	2.1	8.7	13.2
女性	20歳代	95	49.5	33.7	4.2	-	6.3	6.3
	30歳代	110	43.6	30.0	6.4	5.5	6.4	8.2
	40歳代	130	43.1	34.6	4.6	3.1	6.9	7.7
	50歳代	134	39.6	38.1	4.5	-	11.2	6.7
	60歳代	157	32.5	36.3	8.3	1.9	9.6	11.5
	70歳以上	135	20.7	34.1	3.0	3.7	9.6	28.9
男性	20歳代	63	34.9	33.3	7.9	-	17.5	6.3
	30歳代	70	40.0	31.4	8.6	1.4	8.6	10.0
	40歳代	86	39.5	34.9	8.1	3.5	3.5	10.5
	50歳代	104	33.7	35.6	5.8	3.8	11.5	9.6
	60歳代	157	31.8	36.9	8.9	1.9	5.7	14.6
	70歳以上	140	22.9	33.6	7.1	0.7	10.0	25.7

6. 社会活動、地域活動等について

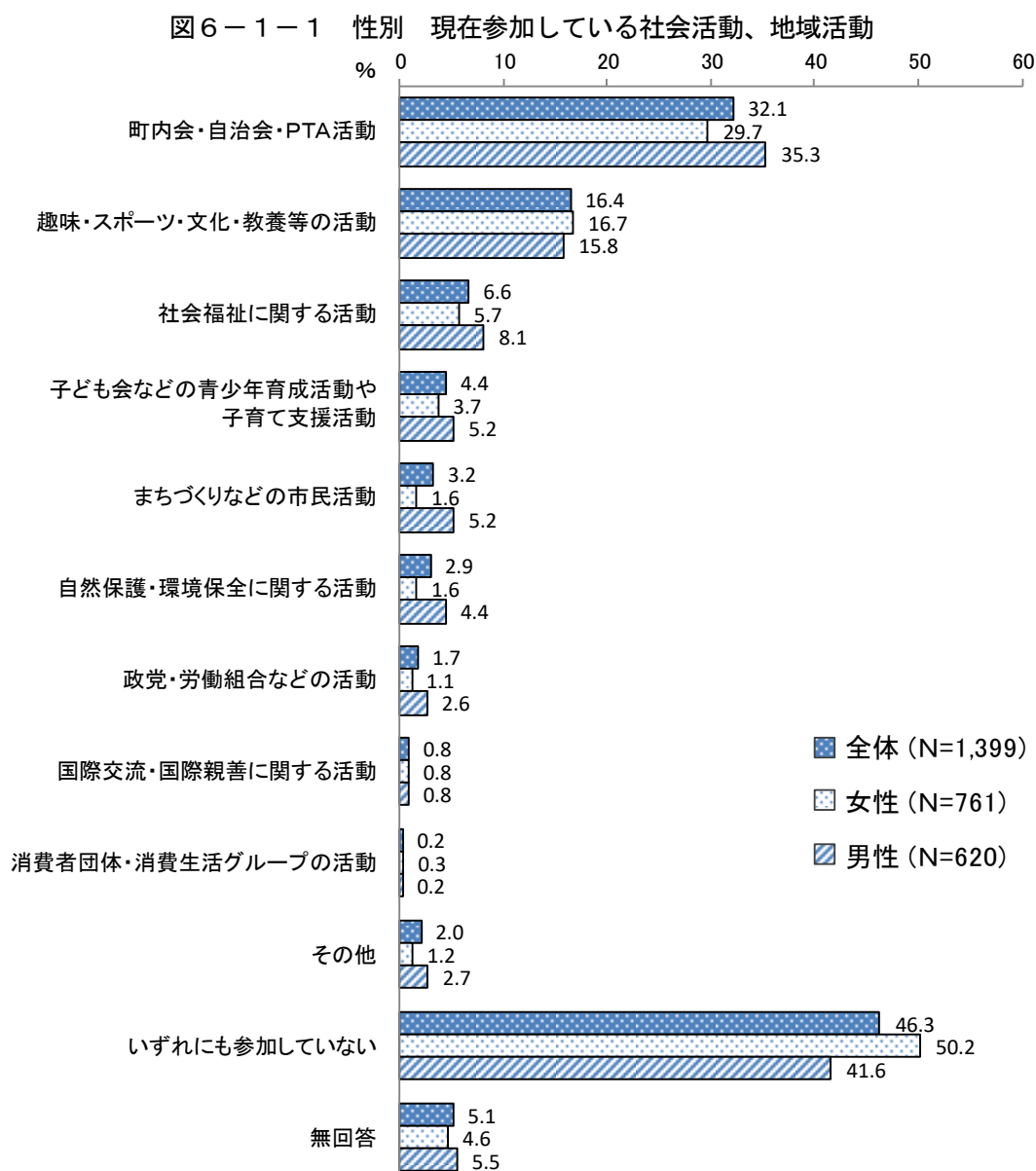
6-1 現在参加している社会活動、地域活動

問 19 あなたが現在参加している社会活動、地域活動をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

- 「町内会・自治会・PTA活動」が3割超で最も高く、次いで「趣味・スポーツ・文化・教養等の活動」が1割半ばとなり、他の項目では1割以下となっている。
- 「いずれにも参加していない」は男女ともに最も高く、特に女性が男性より高くなっている。

現在参加している社会活動、地域活動について、全体では「いずれにも参加していない」が46.3%と最も高い。参加している活動の中では、「町内会・自治会・PTA活動」が32.1%、「趣味・スポーツ・文化・教養等の活動」が16.4%、「社会福祉に関する活動」が6.6%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「いずれにも参加していない」では、女性(50.2%)が男性(41.6%)より8.6ポイント高くなっている。参加している活動としては男女ともに「町内会・自治会・PTA活動」が最も高くなったが、男性(35.3%)が女性(29.7%)より5.6ポイント高くなっている。



性年代別で見ると、男女ともに20～30歳代では「参加していない」が半数を超えている。女性の40歳代と男性の50歳代では「町内会・自治会・PTA活動」が、女性の60歳代以上では「趣味・スポーツ・文化・教養等の活動」が、それぞれ比較的高い割合となっている。

表6-1-1 性年代別 現在参加している社会活動、地域活動

(全体:件数、横:%)

	全体	町内会・自治会・PTA活動	子育て支援活動	子ども会などの青少年育成活動や	社会福祉に関する活動	消費者団体・消費生活グループの活動	趣味・スポーツ・文化・教養等の活動	国際交流・国際親善に関する活動	自然保護・環境保全に関する活動	まちづくりなどの市民活動	政党・労働組合などの活動	その他	いずれにも参加していない	無回答
全体	1399	32.1	4.4	6.6	0.2	16.4	0.8	2.9	3.2	1.7	2.0	46.3	5.1	
女性	20歳代	95	4.2	1.1	1.1	-	7.4	-	2.1	-	1.1	1.1	83.2	1.1
	30歳代	110	28.2	5.5	0.9	-	4.5	0.9	-	-	0.9	-	60.9	3.6
	40歳代	130	50.0	7.7	1.5	-	12.3	-	1.5	-	0.8	0.8	38.5	2.3
	50歳代	134	32.1	2.2	3.0	-	14.9	0.7	1.5	3.0	2.2	1.5	50.0	1.5
	60歳代	157	32.5	3.8	8.9	-	27.4	2.5	1.9	-	0.6	0.6	43.9	1.9
	70歳以上	135	23.7	1.5	15.6	1.5	26.7	-	2.2	5.9	0.7	3.0	37.0	16.3
男性	20歳代	63	6.3	-	4.8	-	11.1	-	-	1.6	3.2	1.6	76.2	-
	30歳代	70	30.0	5.7	7.1	-	8.6	-	2.9	-	2.9	2.9	52.9	2.9
	40歳代	86	34.9	2.3	3.5	-	20.9	-	4.7	2.3	4.7	1.2	41.9	3.5
	50歳代	104	47.1	6.7	8.7	-	13.5	1.9	3.8	6.7	1.0	3.8	30.8	5.8
	60歳代	157	37.6	4.5	6.4	0.6	14.6	0.6	3.2	7.0	1.3	1.9	35.7	7.0
	70歳以上	140	40.0	8.6	14.3	-	21.4	1.4	8.6	7.9	3.6	4.3	35.0	8.6

6-2 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと

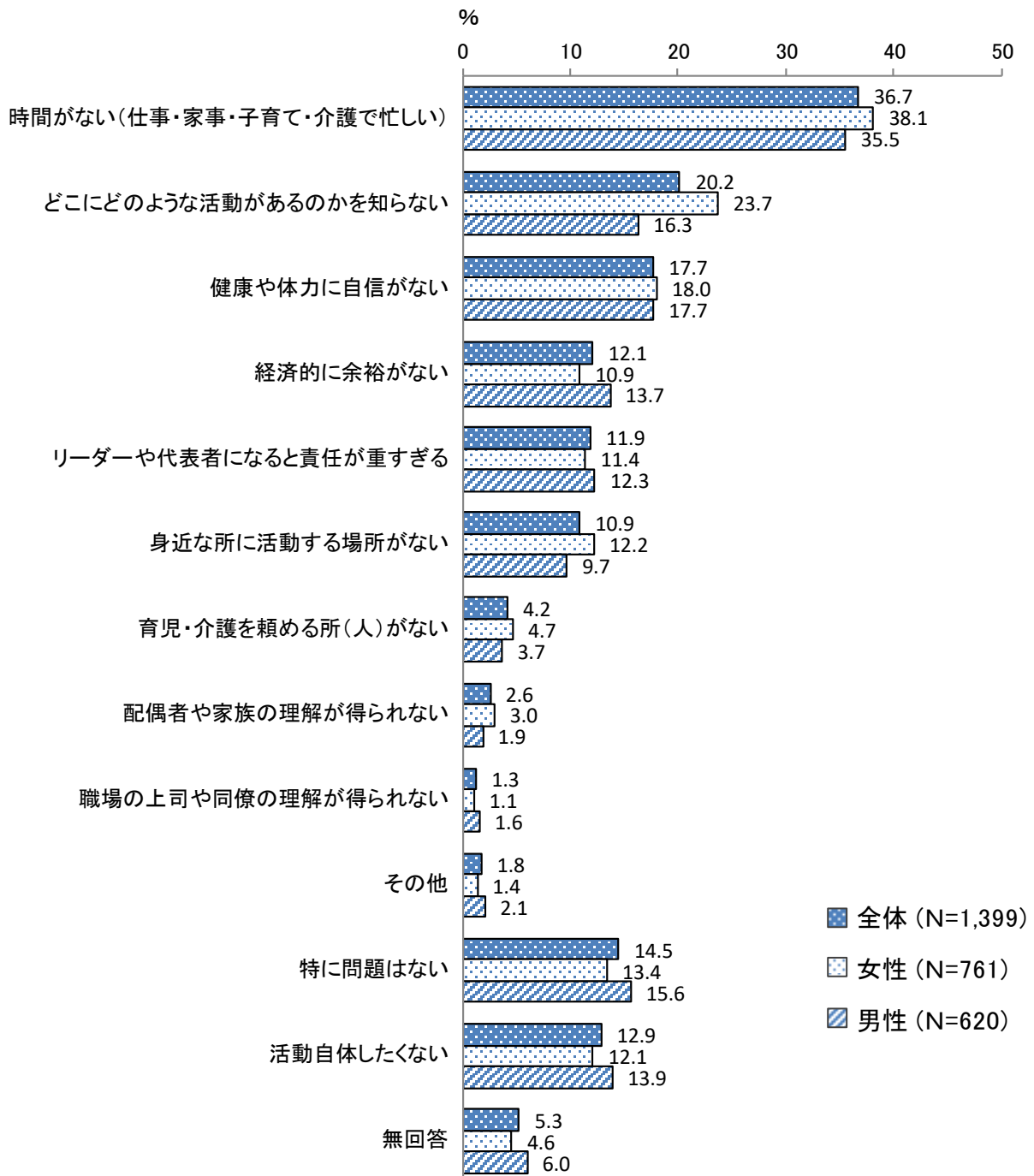
問 20 あなたが社会活動、地域活動を行う上で、どのようなことが問題になると思いますか。
(あてはまるものすべてに○印)

○「時間がない(仕事・家事・子育て・介護で忙しい)」は男女ともに3割を超えて高くなっている。
○「どこにどのような活動があるのかを知らない」では、女性が男性より高く、大きな差がみられた。

社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うことについて、全体では「時間がない(仕事・家事・子育て・介護で忙しい)」が36.7%と最も高く、次いで「どこにどのような活動があるのかを知らない」が20.2%、「健康や体力に自信がない」が17.7%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「どこにどのような活動があるのかを知らない」では、女性(23.7%)が男性(16.3%)より7.4ポイント高くなっている。他の項目では大きな差はみられない。

図6-2-1 性別 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと



性年代別で見ると、男女ともに 60 歳代以下では「時間がない(仕事・家事・子育て・介護で忙しい)」が最も高く、30 歳代では半数以上となっている。また、男女ともに 70 歳以上では「健康や体力に自信がない」が 3 割を超え最も高くなっている。男女ともに 20 歳代では「どこにどのような活動があるのかを知らない」が 4 割前後で比較的高い割合となっている。

表 6-2-1 性年代別 社会活動、地域活動を行う上で、問題になると思うこと

(全体:件数、横:%)

	全体	時間がない(仕事・家事・子育て・介護で忙しい)	育児・介護を頼める所(人)がない	健康や体力に自信がない	身近な所に活動する場所がない	経済的に余裕がない	配偶者や家族の理解が得られない	職場の上司や同僚の理解が得られない	リーダーや代表者になると責任が重すぎる	どこにどのような活動があるのかを知らない	その他	特に問題はない	活動自体したくない	無回答	
全体	1399	36.7	4.2	17.7	10.9	12.1	2.6	1.3	11.9	20.2	1.8	14.5	12.9	5.3	
女性	20歳代	95	48.4	8.4	6.3	26.3	11.6	1.1	1.1	9.5	43.2	-	8.4	9.5	-
	30歳代	110	56.4	13.6	5.5	9.1	7.3	1.8	0.9	2.7	32.7	2.7	9.1	12.7	4.5
	40歳代	130	44.6	3.8	10.8	8.5	14.6	2.3	1.5	16.2	23.8	3.1	11.5	18.5	1.5
	50歳代	134	44.0	0.7	21.6	14.9	14.2	3.7	1.5	15.7	21.6	-	14.9	8.2	0.7
	60歳代	157	31.2	2.5	25.5	9.6	12.1	5.1	1.3	12.7	18.5	0.6	19.1	10.2	2.5
	70歳以上	135	11.9	2.2	31.1	8.9	5.2	3.0	-	9.6	10.4	2.2	14.1	13.3	17.0
男性	20歳代	63	41.3	3.2	11.1	17.5	15.9	-	3.2	9.5	38.1	-	9.5	19.0	-
	30歳代	70	50.0	4.3	4.3	15.7	11.4	2.9	4.3	10.0	27.1	-	10.0	21.4	2.9
	40歳代	86	48.8	7.0	7.0	3.5	14.0	1.2	3.5	10.5	11.6	2.3	15.1	17.4	3.5
	50歳代	104	49.0	1.9	10.6	12.5	17.3	1.9	1.0	18.3	8.7	2.9	14.4	10.6	4.8
	60歳代	157	27.4	2.5	19.1	7.0	14.6	1.9	0.6	14.0	14.6	-	21.7	10.2	8.3
	70歳以上	140	16.4	4.3	37.9	7.9	10.0	2.9	-	9.3	11.4	5.7	15.7	12.1	10.0

6-3 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること

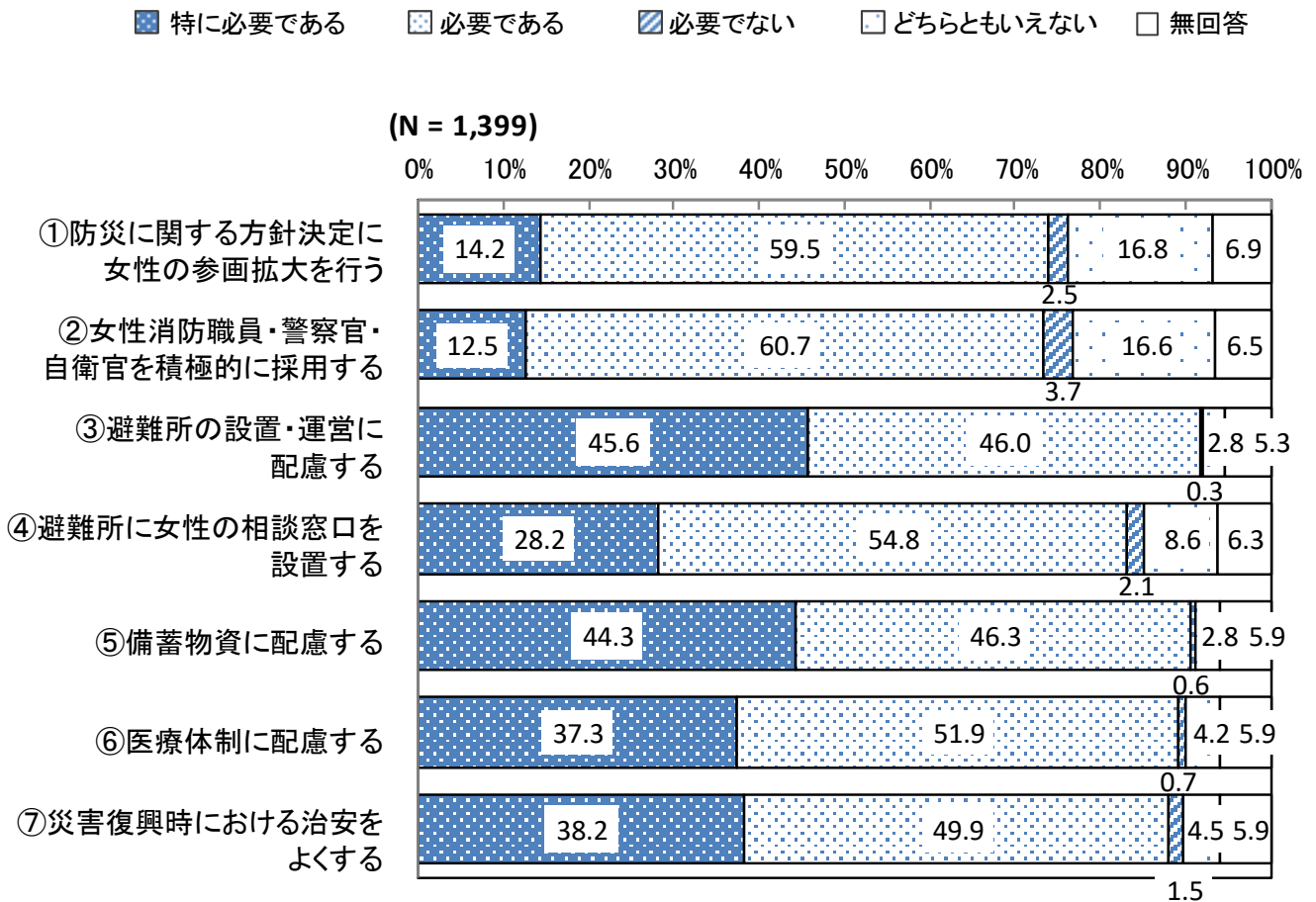
問 21 防災・災害対策における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思うものをお答えください。
 (①～⑦の項目それぞれについて、1つだけに○印)

○『必要である』*は、「③避難所の設置・運営に配慮する」と「⑤備蓄物資に配慮する」で9割を超えて、特に高くなっている。
 ○「①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う」では、男性が女性より高く、差がみられた。

※「特に必要である」と「必要である」を合わせたもの。

防災・災害対策で女性に配慮する必要があることについて、全体では『必要である』はすべての項目で7割を超えている。「③避難所の設置・運営に配慮する」と「⑤備蓄物資に配慮する」では9割を超え、特に高くなっている。

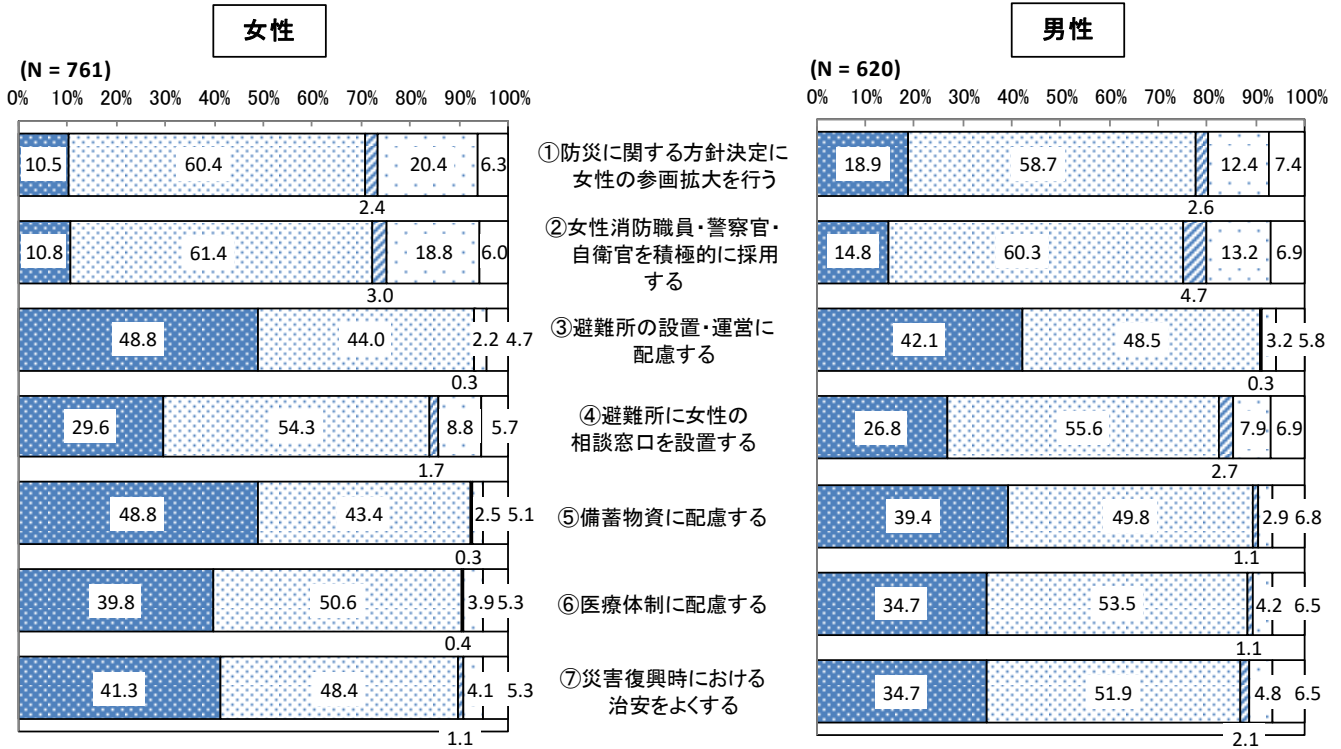
図6-3-1 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること



性別でみると、『必要である』で最も差がみられた「①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う」では、男性(77.6%)が女性(70.9%)より6.7ポイント高くなっている。他の項目では大きな差はみられない。

図6-3-2 性別 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること

■ 特に必要である ■ 必要である ■ 必要でない ■ どちらともいえない □ 無回答



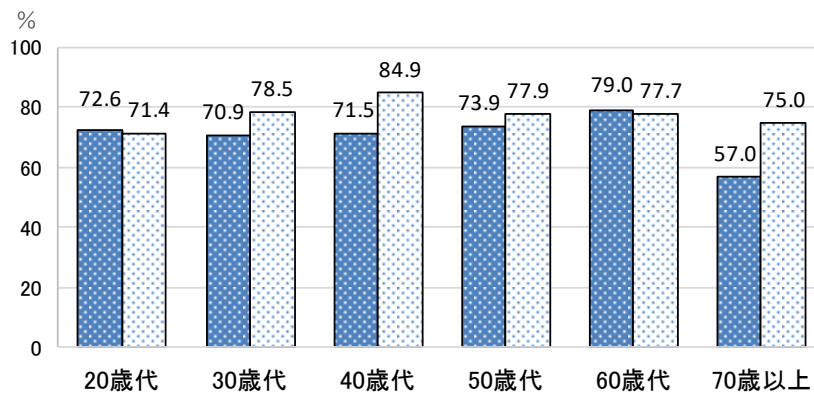
性年代別でみると、「③避難所の設置・運営に配慮する」では性年代別であまり差がみられない一方、「①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う」では40歳代で13.4ポイント差、「②女性消防職員・警察官・自衛官を積極的に採用する」では20歳代で13.8ポイント差となっている。また、すべての項目で女性70歳以上は最も低くなっている。

図6-3-3 性年代別 防災・災害対策で女性に配慮する必要があること

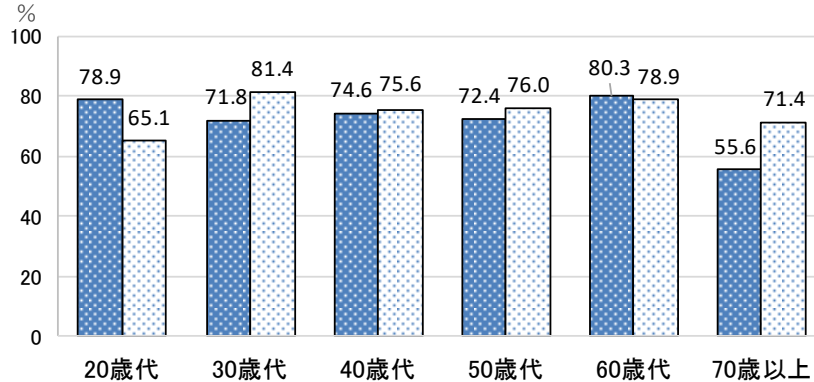
【『必要である』と答えた人の割合】

■ 女性 □ 男性

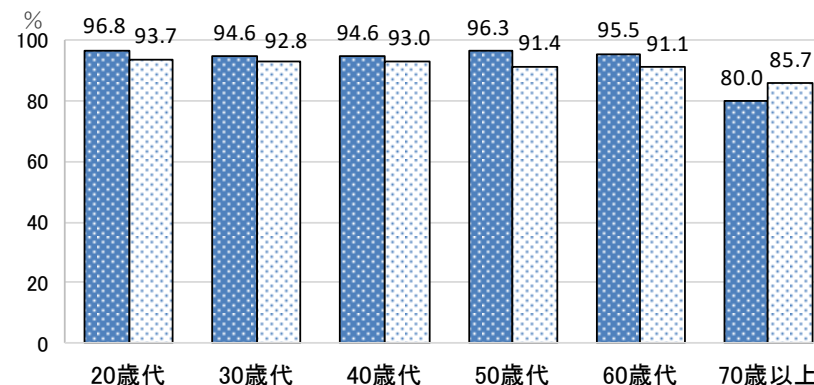
①防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う



②女性消防職員・警察官・自衛官を積極的に採用する

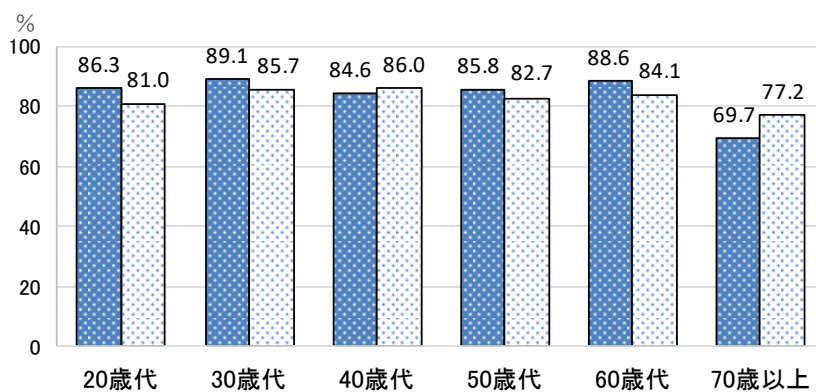


③避難所の設置・運営に配慮する

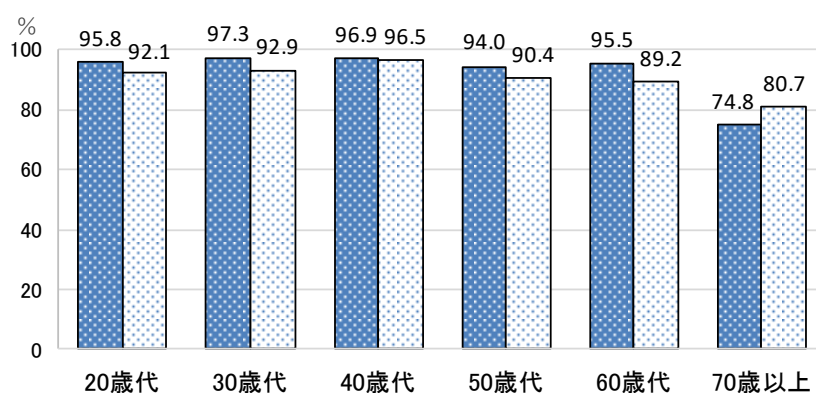


■ 女性 □ 男性

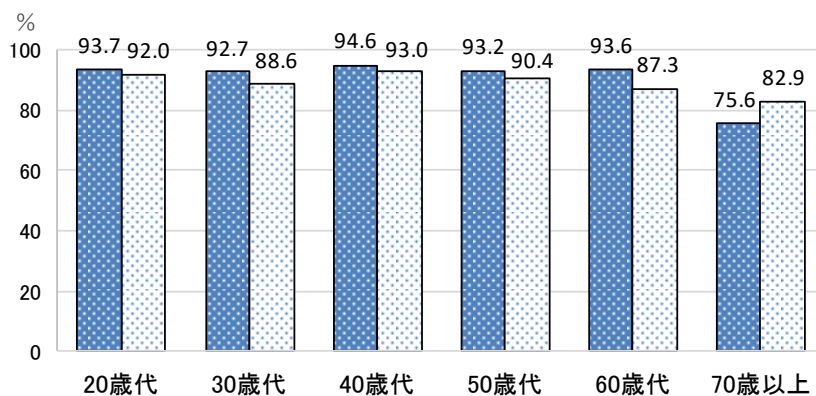
④ 避難所に女性の相談窓口を設置する



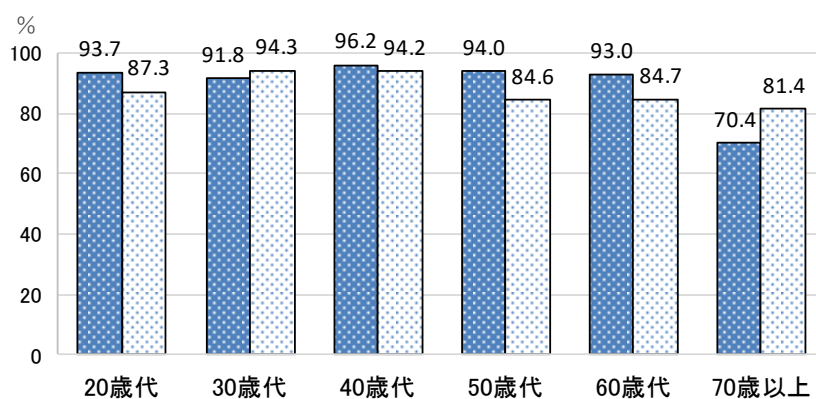
⑤ 備蓄物資に配慮する



⑥ 医療体制に配慮する



⑦ 災害復興時における治安をよくする



7. 人権、DV（配偶者等からの暴力）について

7-1 暴力と思う行為

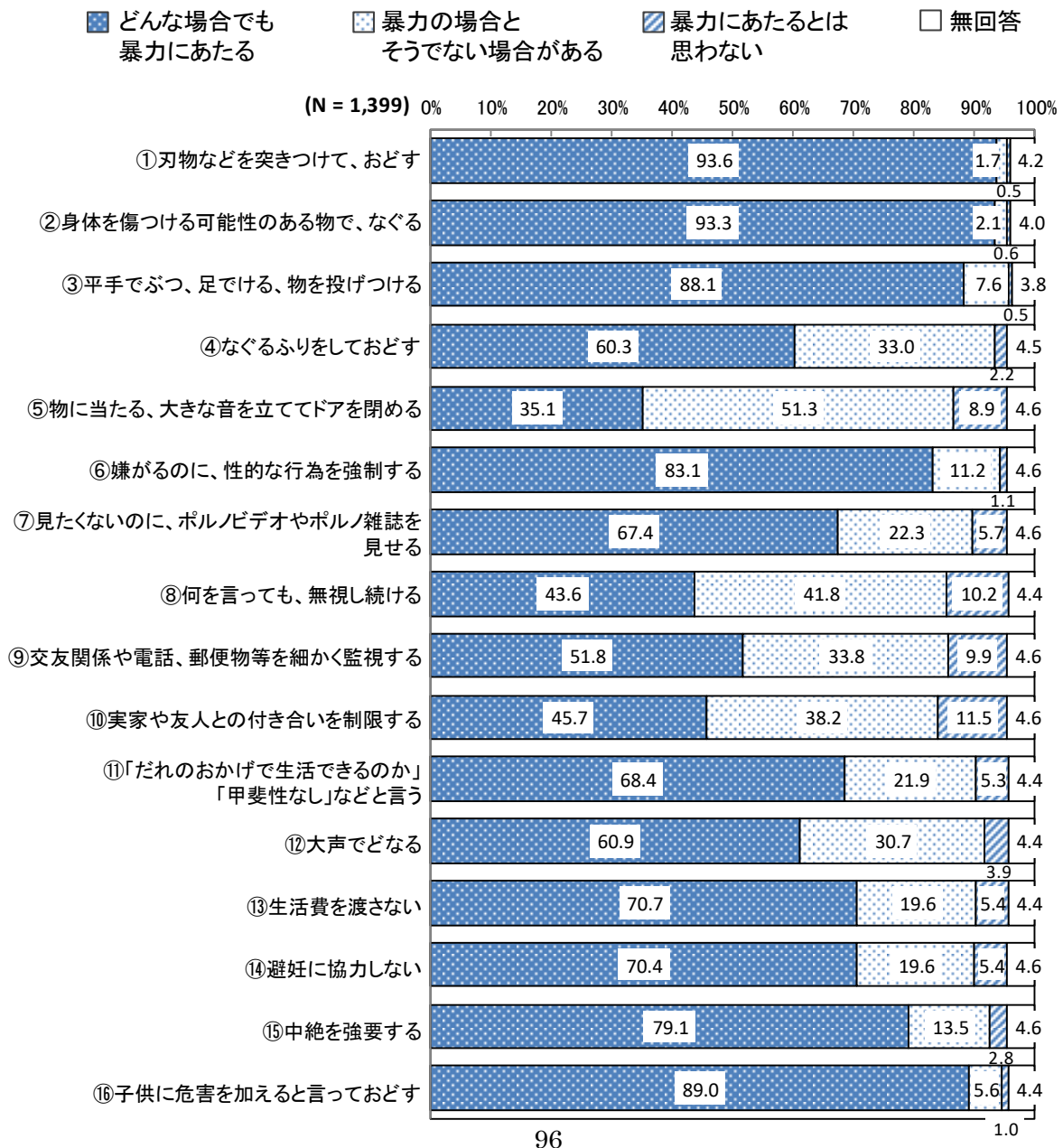
問 22 次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（①～⑯の項目それぞれについて1つだけに○印）

○「どんな場合でも暴力にあたる」は、すべての項目で女性が男性より高くなっている。

○「④なぐるふりをしておどす」、「⑦見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」、「⑫大声でどなる」、「⑭避妊に協力しない」の「どんな場合でも暴力にあたる」は、男女ともに60歳以下の年代で5割超となっている一方で、70歳以上では5割以下と低くなっている。

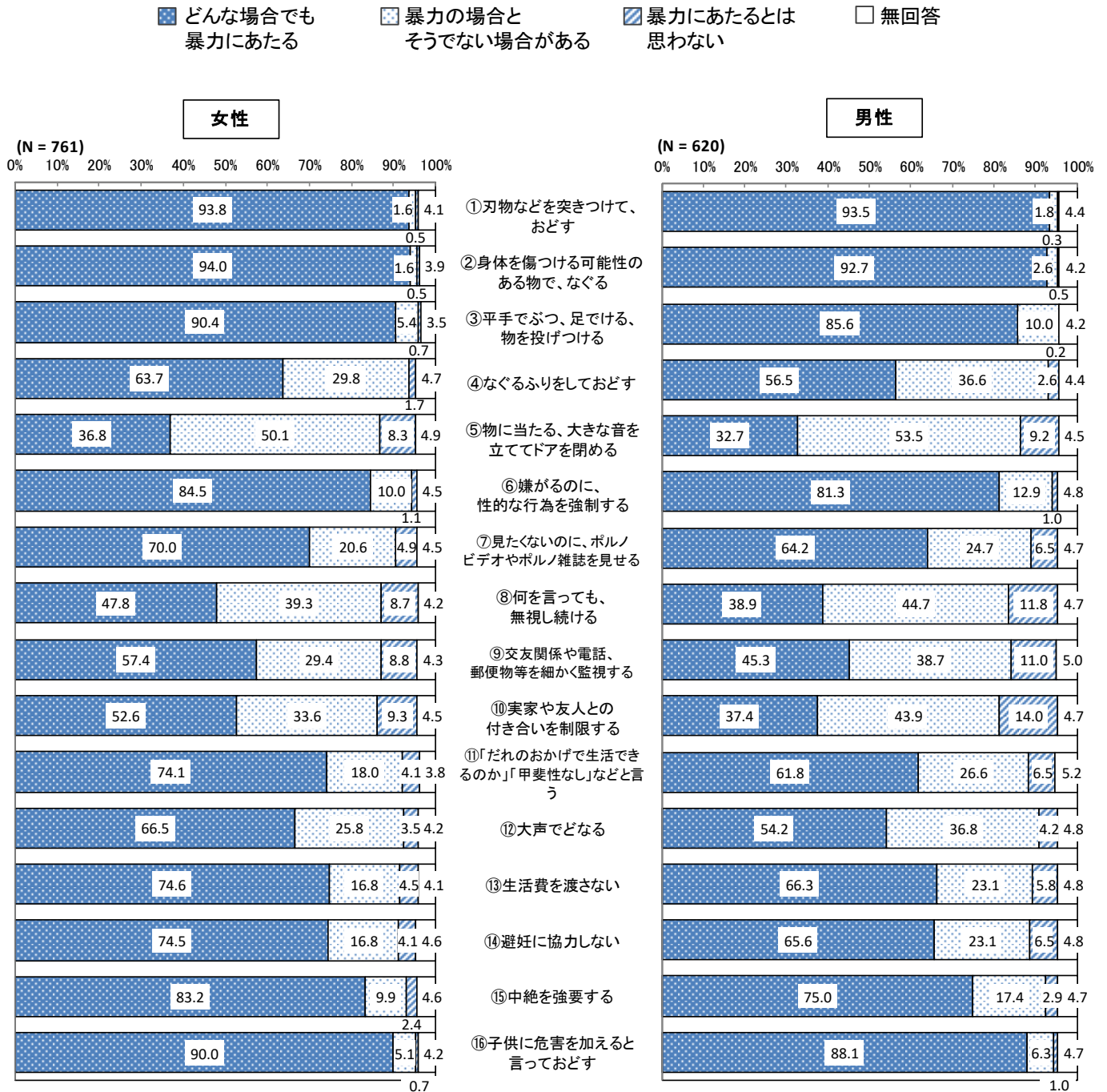
暴力と思う行為について、全体では、「どんな場合でも暴力にあたる」は「①刃物などを突きつけて、おどす」が93.6%と最も高く、次いで「②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる」が93.3%、「⑯子供に危害を加えると言っておどす」が89.0%となっている。

図7-1-1 暴力と思う行為



性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は、すべての項目で女性が男性より高く、特に「⑨交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」、「⑩実家や友人との付き合いを制限する」、「⑪『だれのおかげで生活できるのか』『甲斐性なし』などと言う」、「⑫大声でどなる」では10ポイント以上の差がみられた。

図7-1-2 性別 暴力と思う行為



性年代別でみると、「⑤物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める」を除いたすべての項目で「どんな場合でも暴力にあたる」は70歳以上が最も低くなっており、特に「⑭避妊に協力しない」では、「どんな場合でも暴力にあたる」が男女ともに全体と比較して20ポイント以上低くなっている。

表7-1-1 性年代別 暴力と思う行為

①刃物などを突きつけて、おどす

(全体:件数、横:%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	1399	93.6	1.7	0.5	4.2	
女性	20歳代	95	97.9	1.1	-	1.1
	30歳代	110	96.4	-	2.7	0.9
	40歳代	130	99.2	-	-	0.8
	50歳代	134	97.0	1.5	0.7	0.7
	60歳代	157	95.5	2.5	-	1.9
	70歳以上	135	78.5	3.7	-	17.8
	男性	20歳代	63	93.7	4.8	-
30歳代		70	97.1	-	1.4	1.4
40歳代		86	100.0	-	-	-
50歳代		104	96.2	1.9	-	1.9
60歳代		157	93.6	2.5	0.6	3.2
70歳以上		140	85.7	1.4	-	12.9

②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる

(全体:件数、横:%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	1399	93.3	2.1	0.6	4.0	
女性	20歳代	95	97.9	1.1	-	1.1
	30歳代	110	96.4	0.9	2.7	-
	40歳代	130	98.5	0.8	-	0.8
	50歳代	134	98.5	-	0.7	0.7
	60歳代	157	94.9	3.2	-	1.9
	70歳以上	135	79.3	3.0	-	17.8
	男性	20歳代	63	95.2	4.8	-
30歳代		70	95.7	1.4	1.4	1.4
40歳代		86	97.7	2.3	-	-
50歳代		104	94.2	1.9	-	3.8
60歳代		157	93.6	3.2	0.6	2.5
70歳以上		140	85.0	2.1	0.7	12.1

③平手でぶつ、足でける、物を投げつける

(全体:件数、横:%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	1399	88.1	7.6	0.5	3.8	
女性	20歳代	95	91.6	7.4	-	1.1
	30歳代	110	90.9	7.3	1.8	-
	40歳代	130	93.8	5.4	-	0.8
	50歳代	134	97.0	1.5	0.7	0.7
	60歳代	157	92.4	5.1	0.6	1.9
	70歳以上	135	77.0	6.7	0.7	15.6
	男性	20歳代	63	88.9	11.1	-
30歳代		70	84.3	12.9	1.4	1.4
40歳代		86	87.2	12.8	-	-
50歳代		104	88.5	8.7	-	2.9
60歳代		157	86.6	10.2	-	3.2
70歳以上		140	80.7	7.1	-	12.1

④なぐるふりをしておどす

(全体:件数、横:%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	1399	60.3	33.0	2.2	4.5	
女性	20歳代	95	76.8	21.1	1.1	1.1
	30歳代	110	66.4	30.9	1.8	0.9
	40歳代	130	76.2	22.3	0.8	0.8
	50歳代	134	73.9	23.9	1.5	0.7
	60歳代	157	57.3	38.9	0.6	3.2
	70歳以上	135	37.8	37.8	4.4	20.0
	男性	20歳代	63	74.6	23.8	1.6
30歳代		70	68.6	27.1	2.9	1.4
40歳代		86	62.8	34.9	2.3	-
50歳代		104	56.7	39.4	1.0	2.9
60歳代		157	53.5	40.1	2.5	3.8
70歳以上		140	41.4	42.1	4.3	12.1

⑤物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める

(全体:件数、横:%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	1399	35.1	51.3	8.9	4.6	
女性	20歳代	95	40.0	47.4	11.6	1.1
	30歳代	110	40.9	50.9	8.2	-
	40歳代	130	42.3	53.1	3.8	0.8
	50歳代	134	42.5	51.5	3.7	2.2
	60歳代	157	35.7	53.5	8.9	1.9
	70歳以上	135	21.5	43.0	14.1	21.5
	男性	20歳代	63	39.7	50.8	9.5
30歳代		70	35.7	51.4	11.4	1.4
40歳代		86	31.4	60.5	8.1	-
50歳代		104	42.3	46.2	8.7	2.9
60歳代		157	26.8	60.5	8.3	4.5
70歳以上		140	28.6	49.3	10.0	12.1

⑥嫌がるのに、性的な行為を強制する

(全体:件数、横:%)

	全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答	
全体	1399	83.1	11.2	1.1	4.6	
女性	20歳代	95	92.6	6.3	-	1.1
	30歳代	110	87.3	10.0	2.7	-
	40歳代	130	89.2	10.0	-	0.8
	50歳代	134	91.0	6.7	0.7	1.5
	60歳代	157	87.3	9.6	0.6	2.5
	70歳以上	135	62.2	16.3	2.2	19.3
	男性	20歳代	63	90.5	7.9	1.6
30歳代		70	85.7	10.0	2.9	1.4
40歳代		86	90.7	9.3	-	-
50歳代		104	86.5	10.6	-	2.9
60歳代		157	80.9	15.9	-	3.2
70歳以上		140	65.7	17.1	2.1	15.0

⑦見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	67.4	22.3	5.7	4.6
女性	20歳代	95	82.1	15.8	1.1	1.1
	30歳代	110	70.0	23.6	6.4	-
	40歳代	130	77.7	18.5	3.1	0.8
	50歳代	134	78.4	17.2	3.7	0.7
	60歳代	157	69.4	23.6	5.1	1.9
	70歳以上	135	46.7	23.7	8.9	20.7
	男性	20歳代	63	73.0	20.6	6.3
30歳代		70	74.3	20.0	4.3	1.4
40歳代		86	67.4	22.1	10.5	-
50歳代		104	72.1	22.1	2.9	2.9
60歳代		157	63.7	28.0	4.5	3.8
70歳以上		140	47.9	28.6	10.0	13.6

⑧何を言っても、無視し続ける

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	43.6	41.8	10.2	4.4
女性	20歳代	95	51.6	41.1	6.3	1.1
	30歳代	110	46.4	45.5	8.2	-
	40歳代	130	56.9	36.9	5.4	0.8
	50歳代	134	56.7	36.6	6.0	0.7
	60歳代	157	47.8	40.1	9.6	2.5
	70歳以上	135	28.9	37.0	15.6	18.5
	男性	20歳代	63	42.9	47.6	9.5
30歳代		70	38.6	48.6	11.4	1.4
40歳代		86	41.9	46.5	11.6	-
50歳代		104	55.8	34.6	6.7	2.9
60歳代		157	36.3	45.9	14.0	3.8
70歳以上		140	25.7	46.4	14.3	13.6

⑨交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	51.8	33.8	9.9	4.6
女性	20歳代	95	64.2	24.2	10.5	1.1
	30歳代	110	61.8	29.1	9.1	-
	40歳代	130	68.5	23.1	6.9	1.5
	50歳代	134	67.9	26.9	4.5	0.7
	60歳代	157	50.3	36.3	11.5	1.9
	70歳以上	135	36.3	34.1	10.4	19.3
	男性	20歳代	63	49.2	46.0	4.8
30歳代		70	54.3	34.3	10.0	1.4
40歳代		86	48.8	33.7	17.4	-
50歳代		104	51.9	37.5	6.7	3.8
60歳代		157	43.9	38.9	12.7	4.5
70歳以上		140	33.6	41.4	11.4	13.6

⑩実家や友人との付き合いを制限する

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	45.7	38.2	11.5	4.6
女性	20歳代	95	63.2	26.3	9.5	1.1
	30歳代	110	57.3	33.6	9.1	-
	40歳代	130	61.5	30.0	7.7	0.8
	50歳代	134	61.9	32.1	5.2	0.7
	60歳代	157	47.8	39.5	10.2	2.5
	70歳以上	135	28.9	37.0	14.1	20.0
	男性	20歳代	63	42.9	46.0	11.1
30歳代		70	51.4	37.1	10.0	1.4
40歳代		86	37.2	41.9	20.9	-
50歳代		104	38.5	49.0	9.6	2.9
60歳代		157	35.7	47.8	12.7	3.8
70歳以上		140	29.3	39.3	17.9	13.6

⑪「だれのおかげで生活できるのか」「甲斐性なし」などと言う

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	68.4	21.9	5.3	4.4
女性	20歳代	95	87.4	8.4	3.2	1.1
	30歳代	110	78.2	17.3	4.5	-
	40歳代	130	72.3	24.6	2.3	0.8
	50歳代	134	85.8	11.2	2.2	0.7
	60歳代	157	73.9	18.5	5.7	1.9
	70歳以上	135	51.9	25.2	5.9	17.0
	男性	20歳代	63	71.4	22.2	6.3
30歳代		70	65.7	27.1	5.7	1.4
40歳代		86	62.8	26.7	10.5	-
50歳代		104	70.2	22.1	4.8	2.9
60歳代		157	59.2	32.5	4.5	3.8
70歳以上		140	51.4	25.0	7.9	15.7

⑫大声でどなる

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	60.9	30.7	3.9	4.4
女性	20歳代	95	69.5	28.4	1.1	1.1
	30歳代	110	70.9	25.5	3.6	-
	40歳代	130	70.8	27.7	0.8	0.8
	50歳代	134	76.1	19.4	3.7	0.7
	60歳代	157	68.2	24.2	5.1	2.5
	70歳以上	135	45.2	30.4	5.9	18.5
	男性	20歳代	63	63.5	31.7	4.8
30歳代		70	61.4	34.3	2.9	1.4
40歳代		86	55.8	39.5	4.7	-
50歳代		104	58.7	36.5	1.9	2.9
60歳代		157	51.6	40.8	3.2	4.5
70歳以上		140	45.0	34.3	7.1	13.6

⑬生活費を渡さない

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	70.7	19.6	5.4	4.4
女性	20歳代	95	69.5	25.3	4.2	1.1
	30歳代	110	82.7	12.7	4.5	-
	40歳代	130	78.5	17.7	3.1	0.8
	50歳代	134	88.1	7.5	3.7	0.7
	60歳代	157	75.8	17.8	4.5	1.9
	70歳以上	135	53.3	21.5	6.7	18.5
	男性	20歳代	63	73.0	22.2	4.8
30歳代		70	64.3	30.0	4.3	1.4
40歳代		86	67.4	22.1	10.5	-
50歳代		104	72.1	21.2	3.8	2.9
60歳代		157	68.2	22.9	4.5	4.5
70歳以上		140	57.1	22.1	7.1	13.6

⑭避妊に協力しない

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	70.4	19.6	5.4	4.6
女性	20歳代	95	86.3	11.6	1.1	1.1
	30歳代	110	82.7	14.5	2.7	-
	40歳代	130	82.3	15.4	1.5	0.8
	50歳代	134	85.1	11.9	2.2	0.7
	60歳代	157	68.2	22.9	5.1	3.8
	70歳以上	135	48.9	21.5	10.4	19.3
	男性	20歳代	63	74.6	19.0	6.3
30歳代		70	78.6	15.7	4.3	1.4
40歳代		86	70.9	24.4	4.7	-
50歳代		104	73.1	20.2	3.8	2.9
60歳代		157	64.3	24.2	7.0	4.5
70歳以上		140	47.9	28.6	10.0	13.6

⑮中絶を強要する

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	79.1	13.5	2.8	4.6
女性	20歳代	95	92.6	6.3	-	1.1
	30歳代	110	89.1	8.2	2.7	-
	40歳代	130	90.0	7.7	0.8	1.5
	50歳代	134	88.8	8.2	2.2	0.7
	60歳代	157	82.2	12.7	1.9	3.2
	70歳以上	135	60.7	14.1	5.9	19.3
	男性	20歳代	63	77.8	19.0	3.2
30歳代		70	91.4	5.7	1.4	1.4
40歳代		86	80.2	17.4	2.3	-
50歳代		104	83.7	11.5	1.9	2.9
60歳代		157	70.1	22.3	3.8	3.8
70歳以上		140	61.4	21.4	3.6	13.6

⑯子供に危害を加えると言っておどす

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	89.0	5.6	1.0	4.4
女性	20歳代	95	96.8	2.1	-	1.1
	30歳代	110	96.4	0.9	2.7	-
	40歳代	130	96.2	3.1	-	0.8
	50歳代	134	94.0	4.5	0.7	0.7
	60歳代	157	92.4	5.1	-	2.5
	70歳以上	135	67.4	13.3	0.7	18.5
	男性	20歳代	63	93.7	6.3	-
30歳代		70	95.7	1.4	1.4	1.4
40歳代		86	93.0	5.8	1.2	-
50歳代		104	92.3	4.8	-	2.9
60歳代		157	90.4	4.5	1.3	3.8
70歳以上		140	72.9	12.1	1.4	13.6

表7-1-2 地域別 暴力と思う行為

①刃物などを突きつけて、おどす

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	93.6	1.7	0.5	4.2
お住まいの地域	和歌山市	486	94.9	1.2	1.2	2.7
	海南市・紀美野町	97	91.8	2.1	-	6.2
	岩出市・紀の川市	179	96.1	1.1	0.6	2.2
	橋本市・伊都郡	126	96.0	1.6	-	2.4
	有田市・有田郡	113	86.7	4.4	-	8.8
	御坊市・日高郡	120	92.5	2.5	-	5.0
	田辺市・西牟婁郡	159	91.8	2.5	-	5.7
	新宮市・東牟婁郡	108	93.5	-	-	6.5

②身体を傷つける可能性のある物で、なぐる

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	93.3	2.1	0.6	4.0
お住まいの地域	和歌山市	486	93.8	2.3	1.4	2.5
	海南市・紀美野町	97	90.7	3.1	-	6.2
	岩出市・紀の川市	179	95.5	1.1	0.6	2.8
	橋本市・伊都郡	126	96.0	1.6	-	2.4
	有田市・有田郡	113	91.2	1.8	-	7.1
	御坊市・日高郡	120	90.8	4.2	-	5.0
	田辺市・西牟婁郡	159	92.5	1.3	-	6.3
	新宮市・東牟婁郡	108	92.6	1.9	-	5.6

③平手でぶつ、足でける、物を投げつける

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	88.1	7.6	0.5	3.8
お住まいの地域	和歌山市	486	89.1	8.0	0.8	2.1
	海南市・紀美野町	97	87.6	6.2	-	6.2
	岩出市・紀の川市	179	89.9	6.1	1.1	2.8
	橋本市・伊都郡	126	92.1	5.6	0.8	1.6
	有田市・有田郡	113	83.2	8.8	-	8.0
	御坊市・日高郡	120	86.7	9.2	-	4.2
	田辺市・西牟婁郡	159	88.7	6.3	-	5.0
	新宮市・東牟婁郡	108	82.4	10.2	-	7.4

④なぐるふりをしておどす

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	60.3	33.0	2.2	4.5
お住まいの地域	和歌山市	486	60.3	34.2	2.3	3.3
	海南市・紀美野町	97	63.9	28.9	1.0	6.2
	岩出市・紀の川市	179	59.2	36.3	1.1	3.4
	橋本市・伊都郡	126	57.1	38.9	1.6	2.4
	有田市・有田郡	113	55.8	33.6	1.8	8.8
	御坊市・日高郡	120	56.7	34.2	3.3	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	63.5	26.4	5.0	5.0
	新宮市・東牟婁郡	108	67.6	25.0	0.9	6.5

⑤物に当たる、大きな音を立ててドアを開める

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	35.1	51.3	8.9	4.6
お住まいの地域	和歌山市	486	34.8	52.5	9.3	3.5
	海南市・紀美野町	97	39.2	43.3	11.3	6.2
	岩出市・紀の川市	179	37.4	53.1	6.1	3.4
	橋本市・伊都郡	126	35.7	50.0	11.1	3.2
	有田市・有田郡	113	27.4	54.9	10.6	7.1
	御坊市・日高郡	120	34.2	51.7	9.2	5.0
	田辺市・西牟婁郡	159	35.8	49.7	7.5	6.9
	新宮市・東牟婁郡	108	34.3	52.8	6.5	6.5

⑥嫌がるのに、性的な行為を強制する

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	83.1	11.2	1.1	4.6
お住まいの地域	和歌山市	486	84.0	11.1	1.6	3.3
	海南市・紀美野町	97	82.5	10.3	1.0	6.2
	岩出市・紀の川市	179	84.4	10.6	1.1	3.9
	橋本市・伊都郡	126	87.3	10.3	-	2.4
	有田市・有田郡	113	77.0	13.3	1.8	8.0
	御坊市・日高郡	120	84.2	9.2	1.7	5.0
	田辺市・西牟婁郡	159	79.9	13.2	0.6	6.3
	新宮市・東牟婁郡	108	80.6	13.0	-	6.5

⑦見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	67.4	22.3	5.7	4.6
お住まいの地域	和歌山市	486	69.3	22.2	5.6	2.9
	海南市・紀美野町	97	68.0	18.6	6.2	7.2
	岩出市・紀の川市	179	67.0	24.6	5.0	3.4
	橋本市・伊都郡	126	72.2	21.4	4.0	2.4
	有田市・有田郡	113	58.4	23.9	8.8	8.8
	御坊市・日高郡	120	70.0	15.8	8.3	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	63.5	26.4	4.4	5.7
	新宮市・東牟婁郡	108	64.8	24.1	4.6	6.5

⑧何を言っても、無視し続ける

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	43.6	41.8	10.2	4.4
お住まいの地域	和歌山市	486	46.5	40.1	10.3	3.1
	海南市・紀美野町	97	41.2	39.2	13.4	6.2
	岩出市・紀の川市	179	45.8	38.5	12.8	2.8
	橋本市・伊都郡	126	40.5	43.7	13.5	2.4
	有田市・有田郡	113	41.6	39.8	10.6	8.0
	御坊市・日高郡	120	39.2	50.8	4.2	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	42.1	45.3	6.9	5.7
	新宮市・東牟婁郡	108	42.6	41.7	9.3	6.5

⑨交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	51.8	33.8	9.9	4.6
お住まいの地域	和歌山市	486	55.6	31.7	9.9	2.9
	海南市・紀美野町	97	50.5	30.9	12.4	6.2
	岩出市・紀の川市	179	49.2	38.5	10.1	2.2
	橋本市・伊都郡	126	54.0	28.6	15.1	2.4
	有田市・有田郡	113	42.5	34.5	12.4	10.6
	御坊市・日高郡	120	52.5	35.0	5.8	6.7
	田辺市・西牟婁郡	159	50.3	35.2	8.8	5.7
	新宮市・東牟婁郡	108	50.9	37.0	4.6	7.4

⑩実家や友人との付き合いを制限する

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	45.7	38.2	11.5	4.6
お住まいの地域	和歌山市	486	52.5	34.8	10.1	2.7
	海南市・紀美野町	97	38.1	42.3	12.4	7.2
	岩出市・紀の川市	179	41.9	41.3	14.0	2.8
	橋本市・伊都郡	126	46.0	34.1	16.7	3.2
	有田市・有田郡	113	38.9	37.2	15.0	8.8
	御坊市・日高郡	120	42.5	44.2	7.5	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	39.6	44.7	10.1	5.7
	新宮市・東牟婁郡	108	47.2	35.2	10.2	7.4

⑪「だれのおかげで生活できるのか」「甲斐性なし」などと言う

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	68.4	21.9	5.3	4.4
お住まいの地域	和歌山市	486	71.4	21.0	4.9	2.7
	海南市・紀美野町	97	61.9	26.8	4.1	7.2
	岩出市・紀の川市	179	69.8	24.0	3.4	2.8
	橋本市・伊都郡	126	61.9	23.8	11.9	2.4
	有田市・有田郡	113	61.1	23.0	7.1	8.8
	御坊市・日高郡	120	74.2	15.0	5.0	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	65.4	25.8	3.1	5.7
	新宮市・東牟婁郡	108	70.4	18.5	4.6	6.5

⑫大声でどなる

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	60.9	30.7	3.9	4.4
お住まいの地域	和歌山市	486	61.9	31.5	3.9	2.7
	海南市・紀美野町	97	63.9	28.9	1.0	6.2
	岩出市・紀の川市	179	63.1	31.3	2.8	2.8
	橋本市・伊都郡	126	57.9	31.0	7.9	3.2
	有田市・有田郡	113	54.0	32.7	5.3	8.0
	御坊市・日高郡	120	60.8	29.2	4.2	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	58.5	31.4	3.8	6.3
	新宮市・東牟婁郡	108	63.9	25.9	2.8	7.4

⑬生活費を渡さない

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	70.7	19.6	5.4	4.4
お住まいの地域	和歌山市	486	75.5	17.3	4.5	2.7
	海南市・紀美野町	97	69.1	17.5	7.2	6.2
	岩出市・紀の川市	179	70.9	20.7	5.6	2.8
	橋本市・伊都郡	126	69.8	16.7	11.1	2.4
	有田市・有田郡	113	61.9	24.8	4.4	8.8
	御坊市・日高郡	120	68.3	20.8	5.0	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	66.0	25.8	2.5	5.7
	新宮市・東牟婁郡	108	70.4	17.6	4.6	7.4

⑭避妊に協力しない

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	70.4	19.6	5.4	4.6
お住まいの地域	和歌山市	486	74.9	16.5	5.1	3.5
	海南市・紀美野町	97	67.0	21.6	5.2	6.2
	岩出市・紀の川市	179	67.6	22.3	7.3	2.8
	橋本市・伊都郡	126	64.3	26.2	7.1	2.4
	有田市・有田郡	113	65.5	20.4	5.3	8.8
	御坊市・日高郡	120	75.0	13.3	5.8	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	67.9	22.6	3.1	6.3
	新宮市・東牟婁郡	108	69.4	20.4	3.7	6.5

⑮中絶を強要する

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	79.1	13.5	2.8	4.6
お住まいの地域	和歌山市	486	82.9	11.7	2.1	3.3
	海南市・紀美野町	97	78.4	11.3	4.1	6.2
	岩出市・紀の川市	179	81.0	12.8	3.4	2.8
	橋本市・伊都郡	126	77.8	15.9	4.0	2.4
	有田市・有田郡	113	73.5	15.0	3.5	8.0
	御坊市・日高郡	120	78.3	13.3	2.5	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	74.2	17.6	1.3	6.9
	新宮市・東牟婁郡	108	76.9	13.0	3.7	6.5

⑯子供に危害を加えると言っておどす

(全体:件数、横:%)

		全体	どんな場合でも暴力にあたる	暴力の場合とそうでない場合がある	暴力にあたるとは思わない	無回答
全体		1399	89.0	5.6	1.0	4.4
お住まいの地域	和歌山市	486	92.2	3.9	1.0	2.9
	海南市・紀美野町	97	85.6	7.2	1.0	6.2
	岩出市・紀の川市	179	89.9	6.7	0.6	2.8
	橋本市・伊都郡	126	92.1	4.8	0.8	2.4
	有田市・有田郡	113	84.1	7.1	0.9	8.0
	御坊市・日高郡	120	86.7	5.8	1.7	5.8
	田辺市・西牟婁郡	159	83.0	10.1	0.6	6.3
	新宮市・東牟婁郡	108	88.9	3.7	0.9	6.5

7-2 配偶者や恋人からの暴力の経験

問 23 あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。
 (①～⑤の項目それぞれについて1つだけに○印)

- 「②精神的暴力」では、『DV 経験あり』*が2割を超えている。
- すべての項目で『DV 経験あり』は女性が男性より高くなっている。
- DV 経験が最も高いのは男女ともに「②精神的暴力」で、女性は50歳代(33.6%)、男性は40歳代(25.6%)が高くなっている。

*「何回もあった」と「1、2回あった」を合わせたもの。

配偶者や恋人からの暴力の経験について、全体では、DV 経験が1度でもあったという回答は「②精神的暴力」で21.1%と最も高く、次いで「①身体的暴力」が17.3%、「④経済的暴力」が7.0%となっている。

性別でみると、すべての項目でDV 経験は女性が男性より高く、最も差がみられた「①身体的暴力」では女性(21.9%)が男性(11.4%)より10.5ポイント高くなっている。

図7-2-1 配偶者や恋人からの暴力の経験

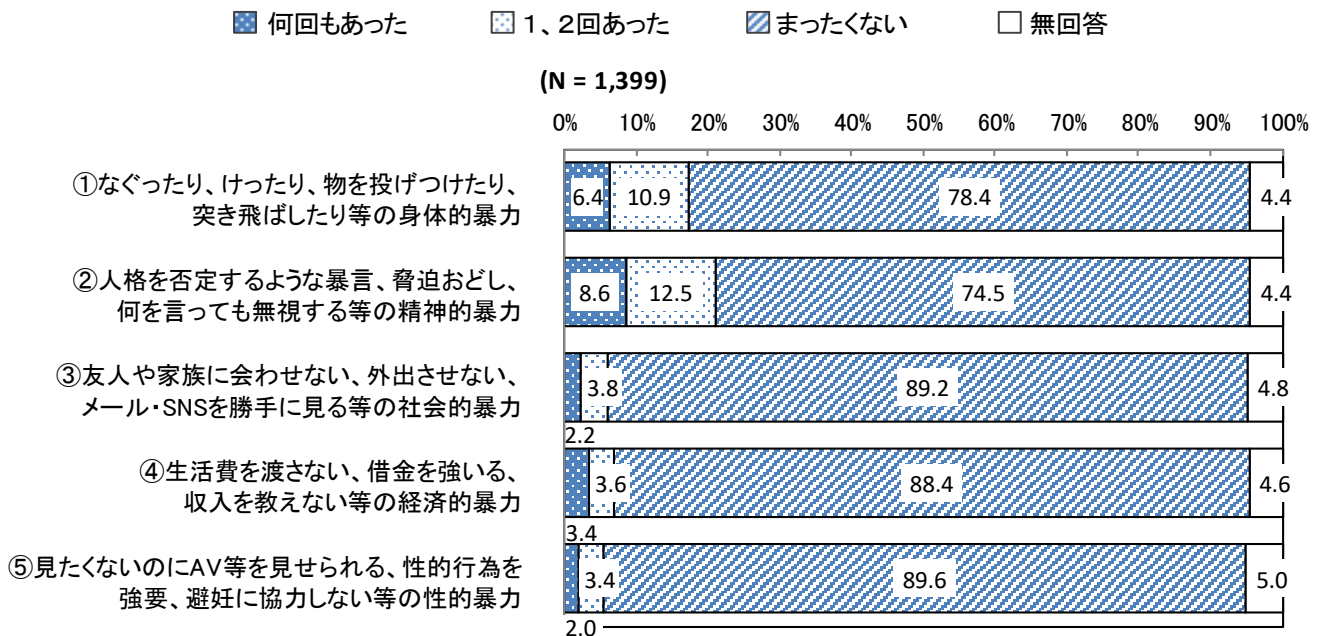
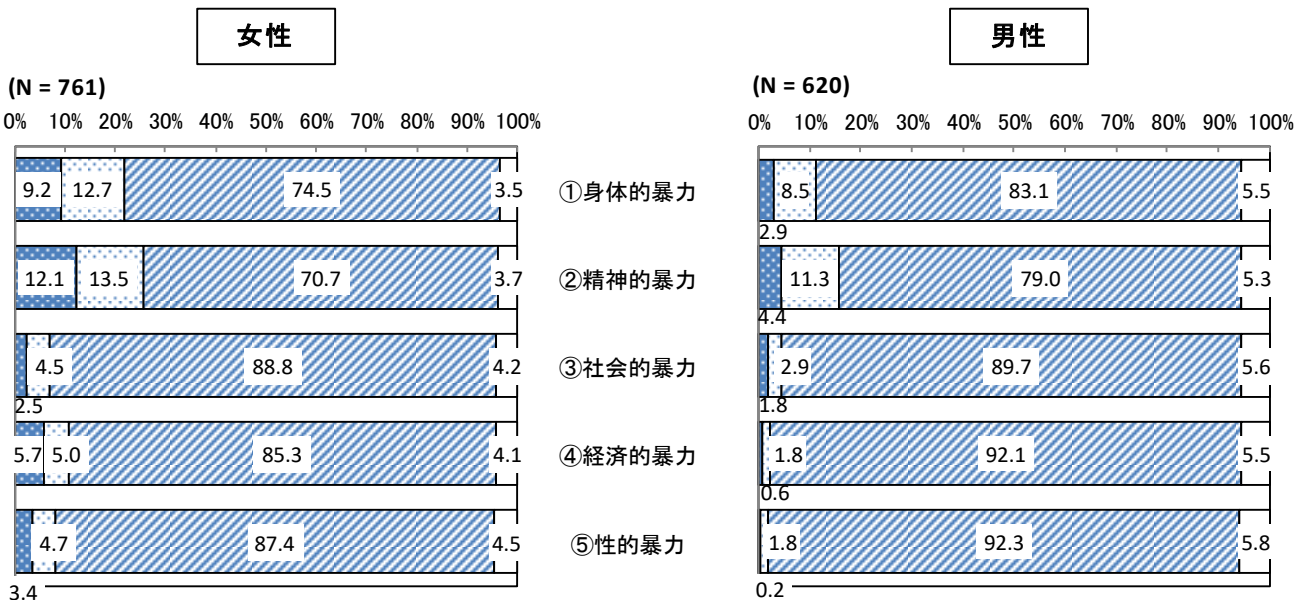


図7-2-2 性別 配偶者や恋人からの暴力の経験

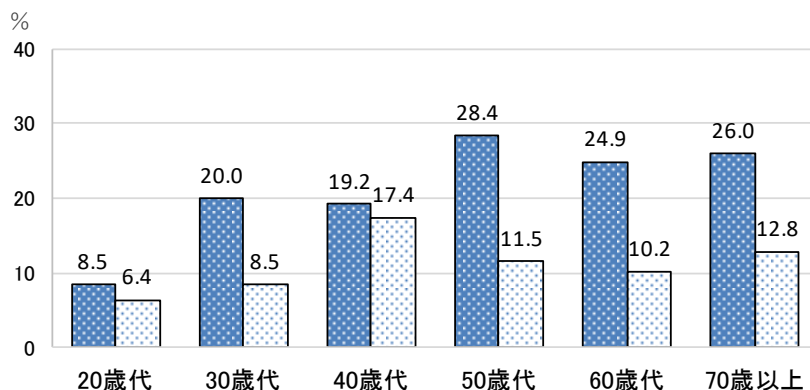


性年代別で見ると、「①身体的暴力」は、女性の50歳以上ではいずれの年代でも2割半ばとなり、男性の40歳代では17.4%と高くなっている。また、「②精神的暴力」は、女性の50歳代で33.6%、男性の40歳代では25.6%と高くなっている。

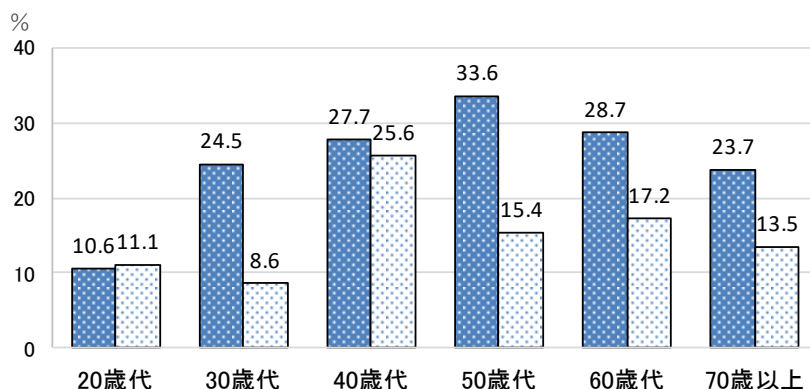
図7-2-3 性年代別 配偶者や恋人からの暴力の経験

■ 女性 □ 男性

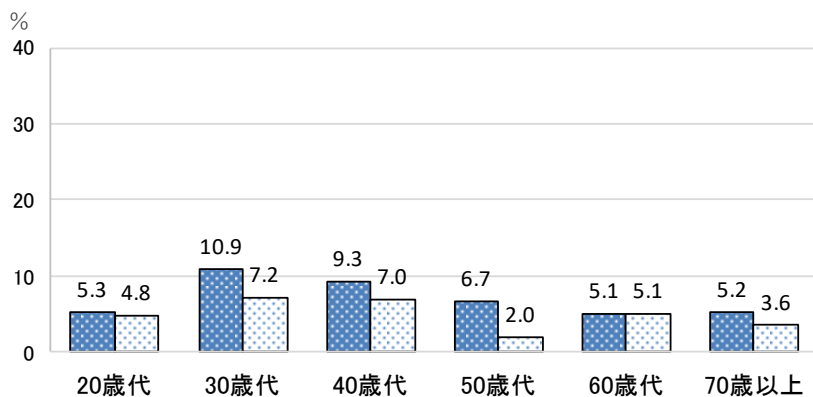
①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり等の身体的暴力



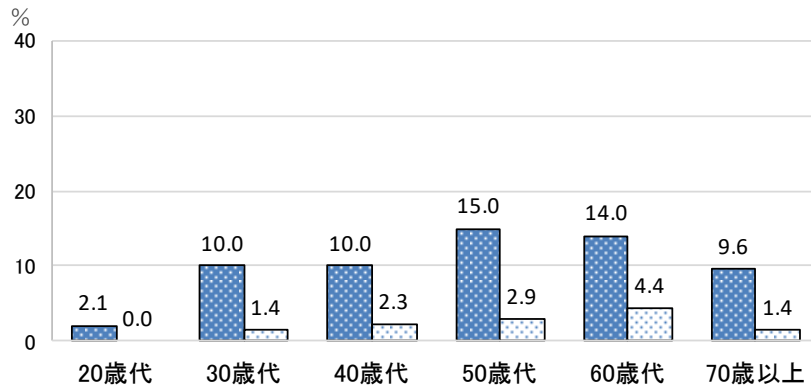
②人格を否定するような暴言、脅迫おどし、何を言っても無視する等の精神的暴力



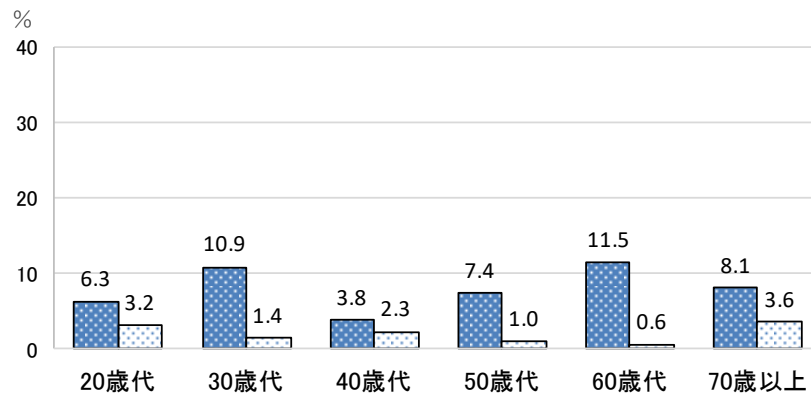
③友人や家族に会わせない、外出させない、メール・SNSを勝手に見る等の社会的暴力



④生活費を渡さない、借金を強いる、収入を教えない等の経済的暴力

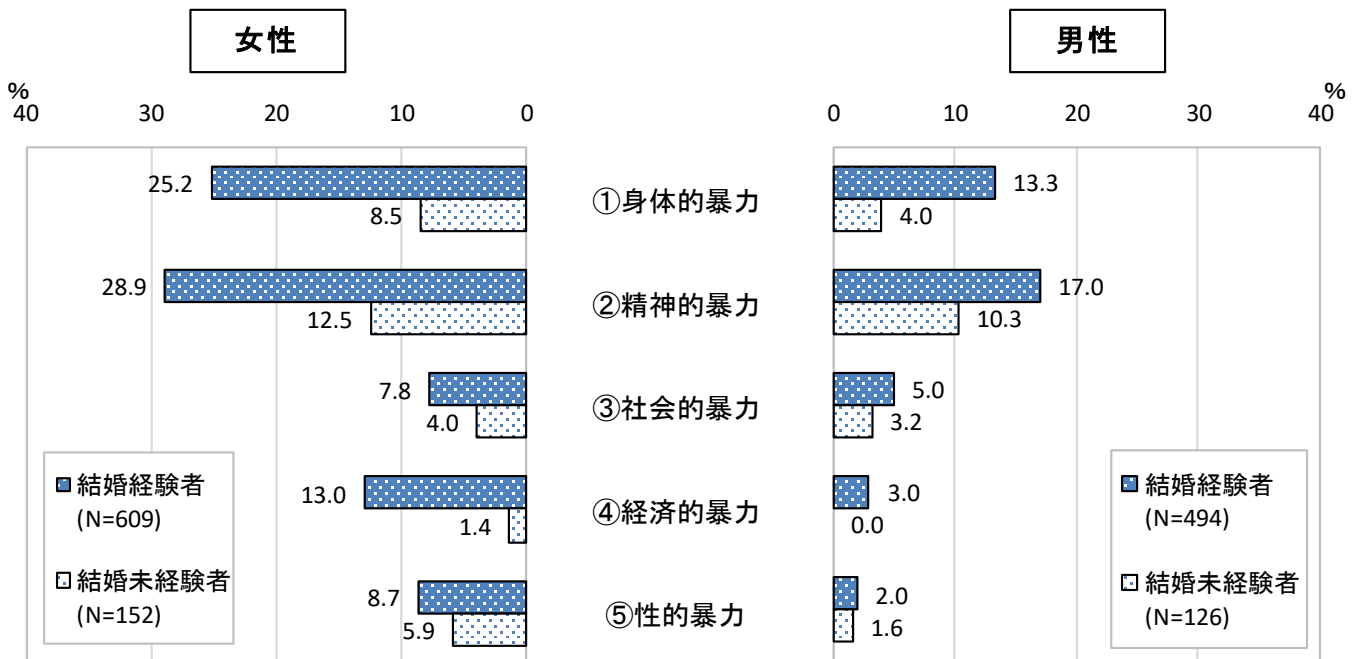


⑤見たくないのに AV 等を見せられる、性的行為を強要、避妊に協力しない等の性的暴力



結婚経験の有無別でみると、男女ともにすべての項目で DV 経験があるという回答は、結婚経験者の方が高くなっている。「①身体的暴力」と「②精神的暴力」は、女性の結婚経験者では 2 割半ばと特に高いが、男性の結婚経験者でも 1 割半ばとなっている。

図 7-2-4 結婚の有無別 配偶者や恋人からの暴力の経験



7-3 実際の相談先

【問 23 の①～⑤のうち、1、2にひとつでも○印をつけた方にお聞きします。】

問 24 あなたはこれまでに、問 22 であげたような配偶者や恋人からの行為について、だれかに打ち明けた
り、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○印)

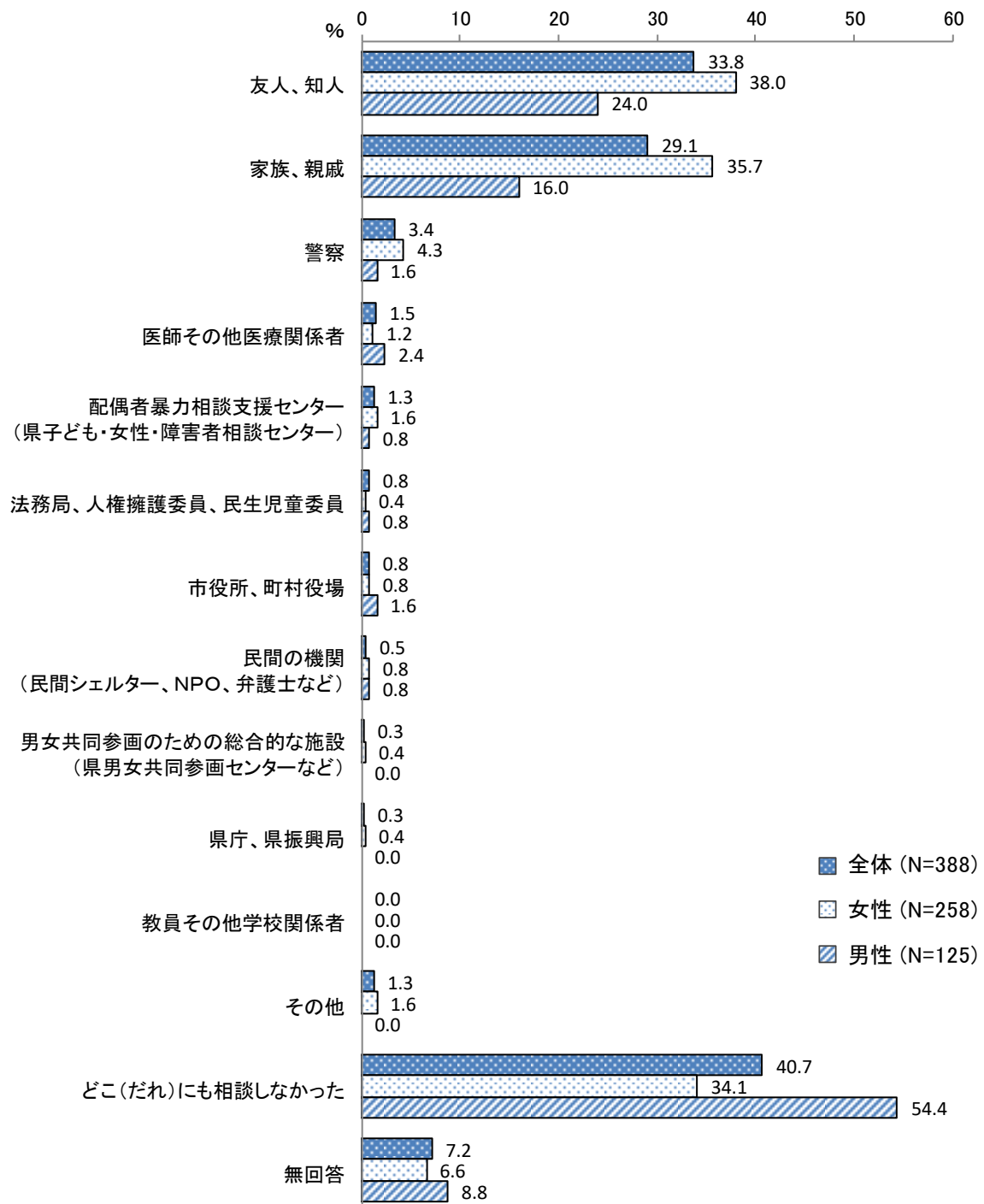
○相談先は「友人、知人」と「家族、親戚」が3割前後となった一方で、他の項目は1割以下と低くなっている。
○「どこ(だれ)にも相談しなかった」は4割超となっている。

実際の相談先について、全体では「どこ(だれ)にも相談しなかった」が40.7%と最も高い。

相談した先の中では「友人、知人」が33.8%、「家族、親戚」が29.1%と、3割前後に上っている。

性別では、「家族、親戚」(19.7ポイント差)、「友人、知人」(14.0ポイント差)はともに女性が男性より高くなっている。一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」では、男性(54.4%)が女性(34.1%)より20.3ポイント高くなっている。

図7-3-1 性別 実際の相談先



性年代別では、女性では20～40歳代で「友人、知人」、50歳代で「家族、親戚」、60歳代以上で「どこ(だれ)にも相談しなかった」が最も高くなっている。男性では40歳代以上で「どこ(だれ)にも相談しなかった」が4割を超え、最も高くなっている。

表7-3-1 性年代別 実際の相談先

(全体:件数、横:%)

	全体	警察	法務局、人権擁護委員、民生児童委員	女性・障害者相談センター(県子ども・配偶者暴力相談支援センター)	男女共同参画センターなどの総合的な施設(県男女共同参画センターなど)	県庁、県振興局	市役所、町村役場	弁護士など)	民間の機関(民間シェルター、NPO、)	医師その他医療関係者	教員その他学校関係者	家族、親戚	友人、知人	その他	どこ(だれ)にも相談しなかった	無回答
全体	388	3.4	0.8	1.3	0.3	0.3	0.8	0.5	1.5	-	-	29.1	33.8	1.3	40.7	7.2
女性	20歳代	15	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	26.7	60.0	-	33.3	-
	30歳代	37	2.7	-	2.7	-	-	-	-	-	-	43.2	51.4	2.7	21.6	5.4
	40歳代	42	7.1	-	2.4	-	-	-	4.8	-	-	31.0	45.2	-	35.7	2.4
	50歳代	56	1.8	-	1.8	-	-	-	1.8	-	-	44.6	42.9	1.8	30.4	3.6
	60歳代	58	5.2	-	1.7	-	1.7	3.4	1.7	-	-	29.3	34.5	1.7	37.9	8.6
	70歳以上	50	4.0	2.0	-	2.0	-	-	2.0	-	-	34.0	14.0	2.0	42.0	14.0
	男性	8	-	-	12.5	-	-	-	-	12.5	-	-	37.5	50.0	-	37.5
30歳代	13	7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23.1	38.5	-	38.5	-
40歳代	27	3.7	-	-	-	-	-	-	3.7	-	-	7.4	25.9	3.7	59.3	7.4
50歳代	20	-	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	10.0	15.0	-	70.0	5.0
60歳代	29	-	3.4	-	-	-	3.4	-	-	-	-	17.2	24.1	-	44.8	17.2
70歳以上	28	-	-	-	-	-	-	-	3.6	-	-	17.9	14.3	-	60.7	10.7

7-4 相談しなかった理由

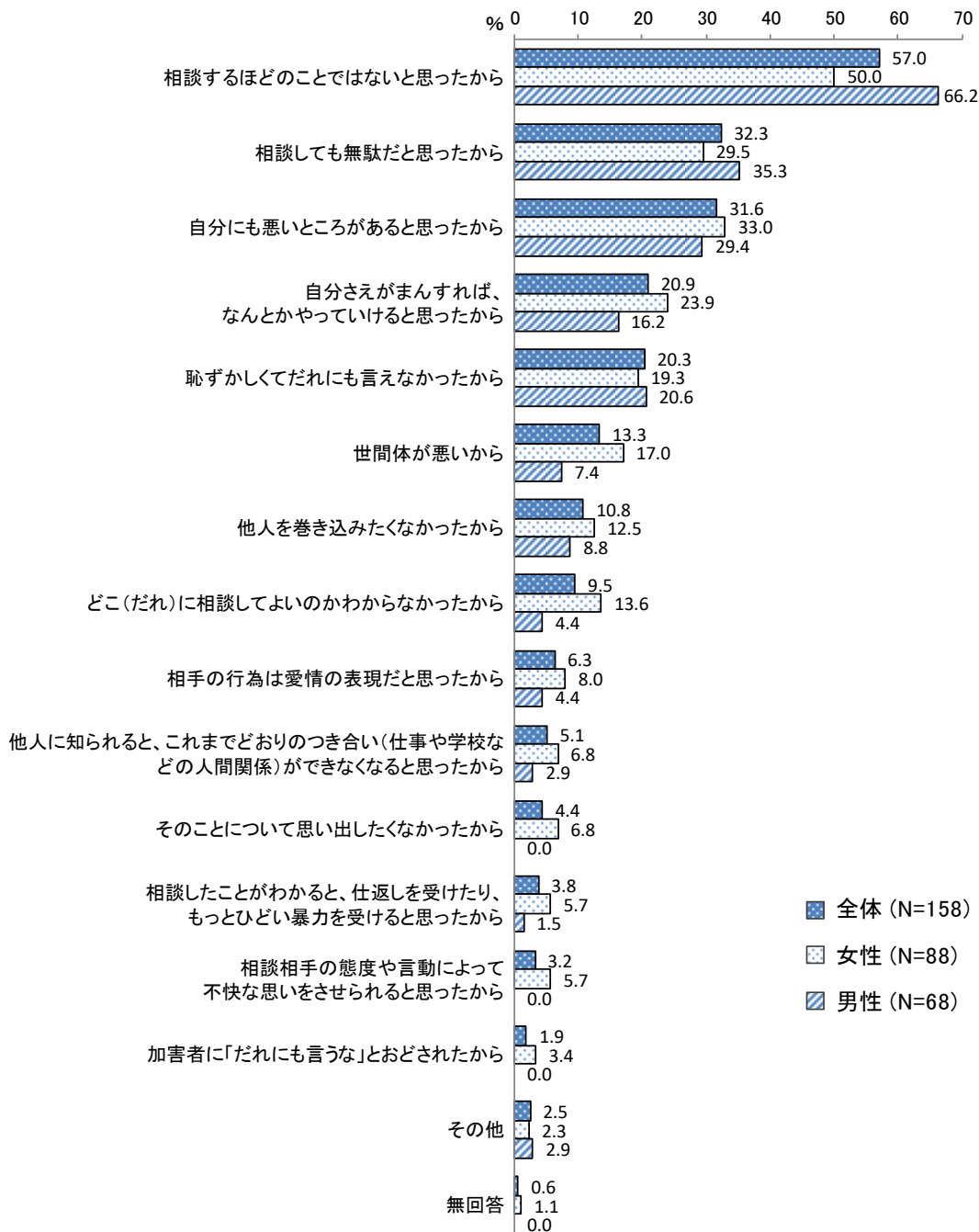
【問 24 で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。
問 25 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○印）

- 男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が 5 割以上となり、特に男性で高くなっている。
- 「世間体が悪いから」、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」では、いずれも女性が男性より高く、差がみられた。

相談しなかった理由について、全体では「相談するほどのことではないと思ったから」が 57.0%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が 32.3%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 31.6%となっている。

性別では、最も差がみられた「相談するほどのことではないと思ったから」では男性(66.2%)が女性(50.0%)より 16.2 ポイント高くなっている。「世間体が悪い」では女性(17.0%)が男性(7.4%)より 9.6 ポイント、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」では、女性(13.6%)が男性(4.4%)より 9.2 ポイントそれぞれ高くなっている。

図 7-4-1 性別 相談しなかった理由



性年代別では、男女ともに40歳代以上では「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高くなっている。男性では70歳以上で「自分にも悪いところがあると思ったから」が5割を超え、比較的高い割合となっている。

表7-4-1 性年代別 相談しなかった理由

(全体:件数、横:%)

	全体	か っ た か ら	ど こ へ だ れ に 相 談 し て よ い の か わ か ら な か つ た か ら	恥 ず か し く て だ れ に も 言 え な か つ た か ら	相 談 し て も 無 駄 だ と 思 っ た か ら	相 談 し た こ と が わ か る と、 仕 返 し を 受 け た ら、 も っ と ひ ど い 暴 力 を 受 け る と 思 っ た か ら	加 害 者 に 「 だ れ に も 言 う な 」 と お ど さ れ た か ら	相 談 相 手 の 態 度 や 言 動 に よ つ て 不 快 な 思 い を さ せ ら れ る と 思 っ た か ら	自 分 さ え が ま ん す れ ば、 な ん と か や つ て い け る と 思 っ た か ら	世 間 体 が 悪 い か ら	他 人 を 巻 き 込 み た く な か つ た か ら	合 い が で き な く な る と 思 っ た か ら	他 人 に 知 ら れ る と、 こ れ ま で お り の つ き	そ の こ と に つ い て 思 い 出 し た く な か つ た か ら	自 分 に も 悪 い と こ ろ が あ る と 思 っ た か ら	相 手 の 行 為 は 愛 情 の 表 現 だ と 思 っ た か ら	相 談 す る ほ ど の こ と で は な い と 思 っ た か ら	そ の 他	無 回 答
全体	158	9.5	20.3	32.3	3.8	1.9	3.2	20.9	13.3	10.8	5.1	4.4	31.6	6.3	57.0	2.5	0.6		
女性	20歳代	5	40.0	-	40.0	-	20.0	-	40.0	20.0	20.0	-	20.0	80.0	-	60.0	-	-	
	30歳代	8	12.5	25.0	37.5	-	-	12.5	-	12.5	-	12.5	-	37.5	25.0	37.5	-	-	
	40歳代	15	6.7	33.3	26.7	13.3	13.3	6.7	26.7	26.7	20.0	13.3	20.0	26.7	20.0	53.3	13.3	-	
	50歳代	17	17.6	17.6	17.6	-	-	-	11.8	17.6	11.8	5.9	-	29.4	-	47.1	-	-	
	60歳代	22	9.1	18.2	40.9	9.1	-	13.6	22.7	9.1	13.6	9.1	4.5	36.4	4.5	50.0	-	-	
	70歳以上	21	14.3	14.3	23.8	4.8	-	-	38.1	19.0	9.5	-	4.8	23.8	4.8	52.4	-	4.8	
男性	20歳代	3	33.3	33.3	66.7	-	-	-	33.3	33.3	-	-	-	33.3	33.3	66.7	-	-	
	30歳代	5	-	-	40.0	20.0	-	-	20.0	-	20.0	-	-	40.0	-	60.0	-	-	
	40歳代	16	-	6.3	25.0	-	-	-	6.3	-	6.3	-	-	18.8	6.3	68.8	6.3	-	
	50歳代	14	7.1	35.7	28.6	-	-	-	35.7	14.3	7.1	-	-	14.3	-	85.7	-	-	
	60歳代	13	7.7	15.4	46.2	-	-	-	7.7	7.7	15.4	15.4	-	23.1	-	53.8	7.7	-	
	70歳以上	17	-	29.4	35.3	-	-	-	11.8	5.9	5.9	-	-	52.9	5.9	58.8	-	-	

7-5 実際に求める支援

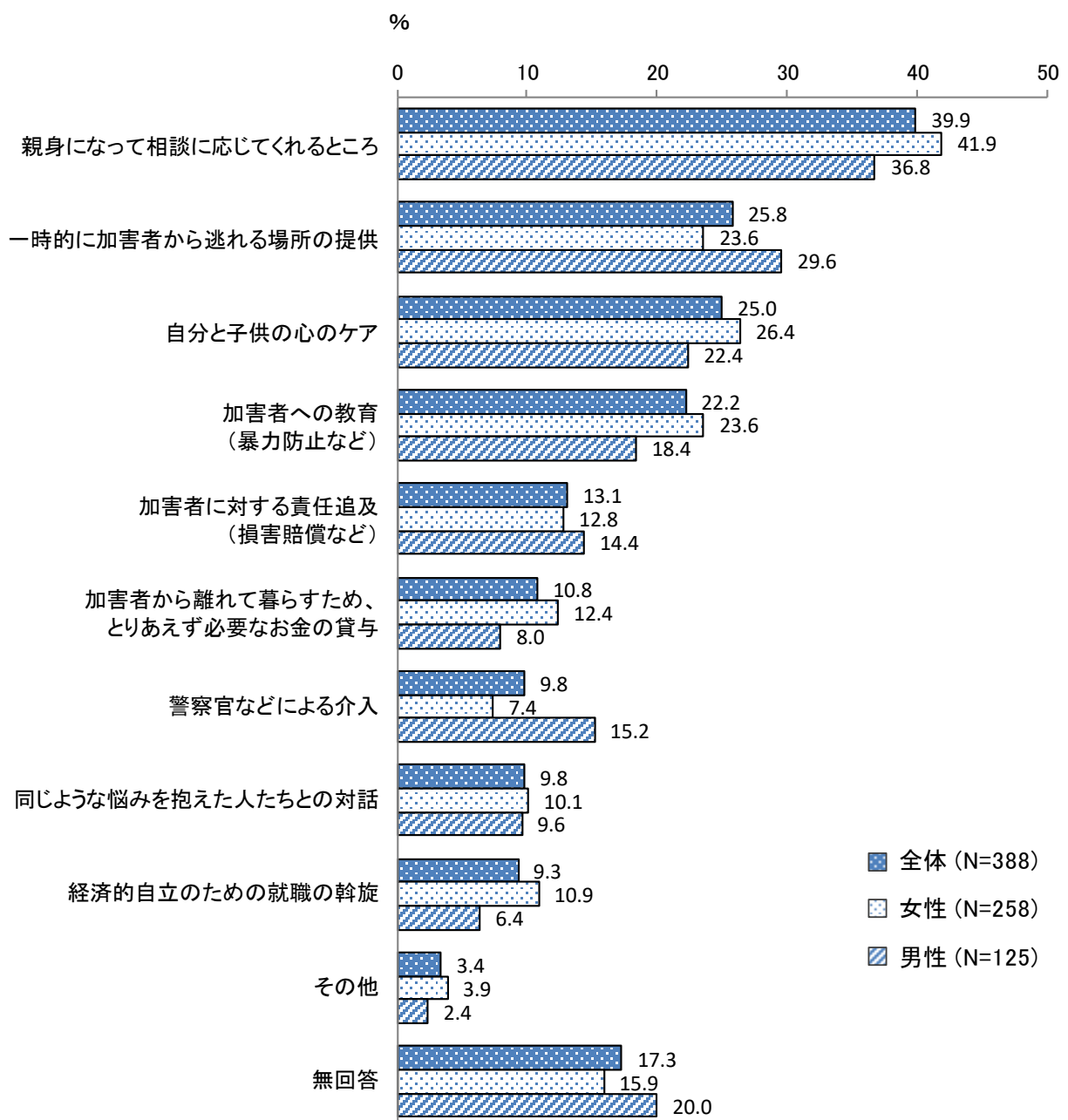
問 26 あなたは、配偶者や恋人から暴力を受けたとき、どのような助けがほしいと思いましたか。
(あてはまるものすべてに○印)

○「親身になって相談に応じてくれるところ」が約 4 割で最も高く、次いで「一時的に加害者から逃れる場所の提供」と「自分と子供の心のケア」が 2 割半ばとなっている。

実際に求める支援について、全体では「親身になって相談に応じてくれるところ」が 39.9%と最も高く、次いで「一時的に加害者から逃れる場所の提供」が 25.8%、「自分と子供の心のケア」が 25.0%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「警察官などによる介入」では、男性(15.2%)が女性(7.4%)より 7.8 ポイント高くなっている。

図 7-5-1 性別 実際に求める支援



性年代別でみると、女性の20歳代と男性の30～40歳代では「警察官などによる介入」、女性の20～30歳代と男性の40歳代では「加害者に対する責任追及（損害賠償など）」が2割以上と比較的高くなっている。女性の30歳代では「加害者から離れて暮らすため、とりあえず必要なお金の貸与」も2割半ばと比較的高くなっている。

表7-5-1 性年代別 実際に求める支援

(全体:件数、横:%)

	全体	一時的に加害者から逃れる場所の提供	警察官などによる介入	親身になって相談に応じてくれるところ	経済的自立のための就職の斡旋	加害者から離れて暮らすため、とりあえず必要なお金の貸与	自分と子供の心のケア	同じような悩みを抱えた人たちとの対話	加害者に対する責任追及（損害賠償など）	加害者への教育（暴力防止など）	その他	無回答
全体	388	25.8	9.8	39.9	9.3	10.8	25.0	9.8	13.1	22.2	3.4	17.3
女性	20歳代	15	20.0	20.0	33.3	-	6.7	26.7	13.3	26.7	6.7	20.0
	30歳代	37	29.7	16.2	43.2	5.4	24.3	29.7	8.1	29.7	-	8.1
	40歳代	42	28.6	4.8	33.3	14.3	11.9	28.6	16.7	7.1	26.2	9.5
	50歳代	56	17.9	1.8	48.2	19.6	8.9	32.1	14.3	10.7	32.1	12.5
	60歳代	58	24.1	8.6	39.7	6.9	12.1	22.4	3.4	12.1	22.4	20.7
	70歳以上	50	22.0	4.0	46.0	10.0	10.0	20.0	8.0	4.0	16.0	24.0
男性	20歳代	8	37.5	12.5	62.5	12.5	12.5	37.5	25.0	12.5	-	-
	30歳代	13	30.8	23.1	23.1	-	7.7	30.8	15.4	15.4	-	15.4
	40歳代	27	33.3	25.9	25.9	7.4	11.1	22.2	11.1	29.6	3.7	25.9
	50歳代	20	35.0	10.0	30.0	5.0	-	20.0	15.0	15.0	-	15.0
	60歳代	29	20.7	10.3	37.9	10.3	10.3	20.7	3.4	13.8	3.4	20.7
	70歳以上	28	28.6	10.7	50.0	3.6	7.1	17.9	3.6	-	7.1	25.0

7-6 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの

問 27 配偶者や恋人の間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関のうち、知っている所はどこですか。(あてはまるものすべてに○印)

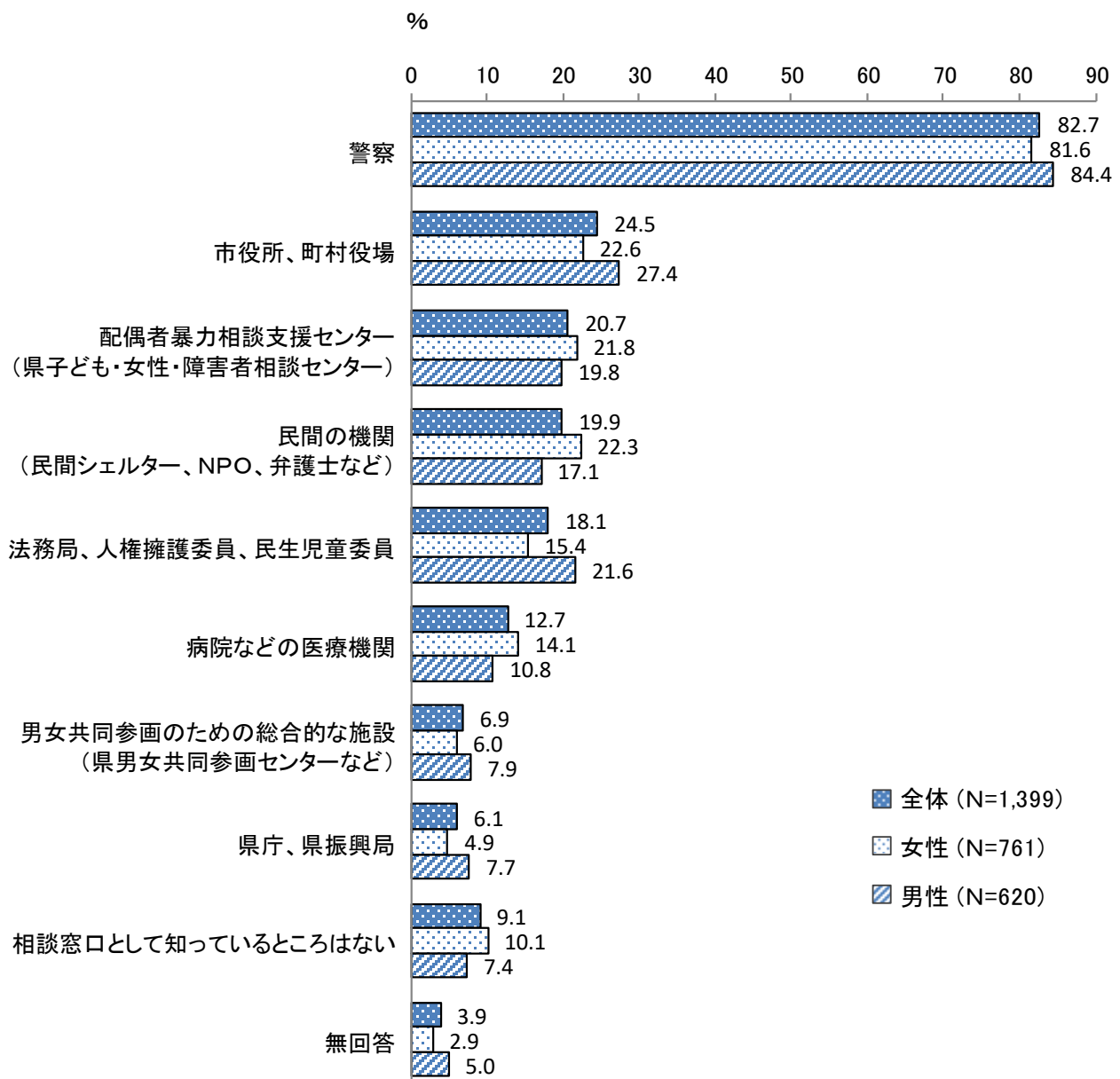
○「警察」は8割超と、突出して高くなっている。

○「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」は男性が女性より高く、「民間の機関(民間シェルター、NPO、弁護士など)」は女性が男性より高く、差がみられた。

配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているものについて、全体では「警察」が82.7%と突出して高く、次いで「市役所、町村役場」が24.5%、「配偶者暴力相談支援センター(県子ども・女性・障害者相談センター)」が20.7%となっている。

性別でみると、男女ともに「警察」が8割を超え、最も高くなっている。差がみられた「法務局、人権擁護委員、民生児童委員」では男性(21.6%)が女性(15.4%)より6.2ポイント、「民間の機関(民間シェルター、NPO、弁護士など)」では女性(22.3%)が男性(17.1%)より5.2ポイント高くなっている。

図7-6-1 性別 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの



性年代別でみると、女性の20歳代と40歳代で「民間の機関(民間シェルター、NPO、弁護士など)」が3割強、「病院などの医療機関」も2割強と、比較的高い割合となっている。

表7-6-1 性年代別 配偶者や恋人からの暴力についての相談窓口として知っているもの

(全体:件数、横:%)

	全体	警察	児童委員	法務局、人権擁護委員、民生	配偶者暴力相談支援センター	男女共同参画のための総合的な施設	県庁、県振興局	市役所、町村役場	病院などの医療機関	民間の機関	相談窓口として知っているところはない	無回答
全体	1399	82.7	18.1	20.7	6.9	6.1	24.5	12.7	19.9	9.1	3.9	
女性	20歳代	95	88.4	9.5	20.0	5.3	10.5	26.3	23.2	31.6	6.3	1.1
	30歳代	110	80.0	7.3	21.8	7.3	6.4	24.5	17.3	21.8	10.9	-
	40歳代	130	85.4	10.0	26.9	7.7	2.3	23.1	20.8	30.8	5.4	1.5
	50歳代	134	85.1	14.2	25.4	7.5	3.7	19.4	14.9	22.4	9.0	0.7
	60歳代	157	84.1	22.9	22.9	4.5	5.1	22.3	9.6	17.8	12.1	1.9
	70歳以上	135	68.1	23.7	13.3	4.4	3.0	21.5	3.0	13.3	15.6	11.1
男性	20歳代	63	95.2	3.2	12.7	4.8	6.3	25.4	19.0	20.6	1.6	1.6
	30歳代	70	87.1	17.1	27.1	12.9	10.0	28.6	17.1	17.1	8.6	1.4
	40歳代	86	93.0	11.6	22.1	3.5	3.5	27.9	14.0	16.3	3.5	3.5
	50歳代	104	85.6	25.0	24.0	10.6	8.7	25.0	13.5	24.0	7.7	3.8
	60歳代	157	86.0	27.4	17.8	8.9	9.6	31.8	4.5	19.1	5.7	4.5
	70歳以上	140	70.0	29.3	17.1	6.4	7.1	24.3	7.1	8.6	13.6	10.7

7-7 セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

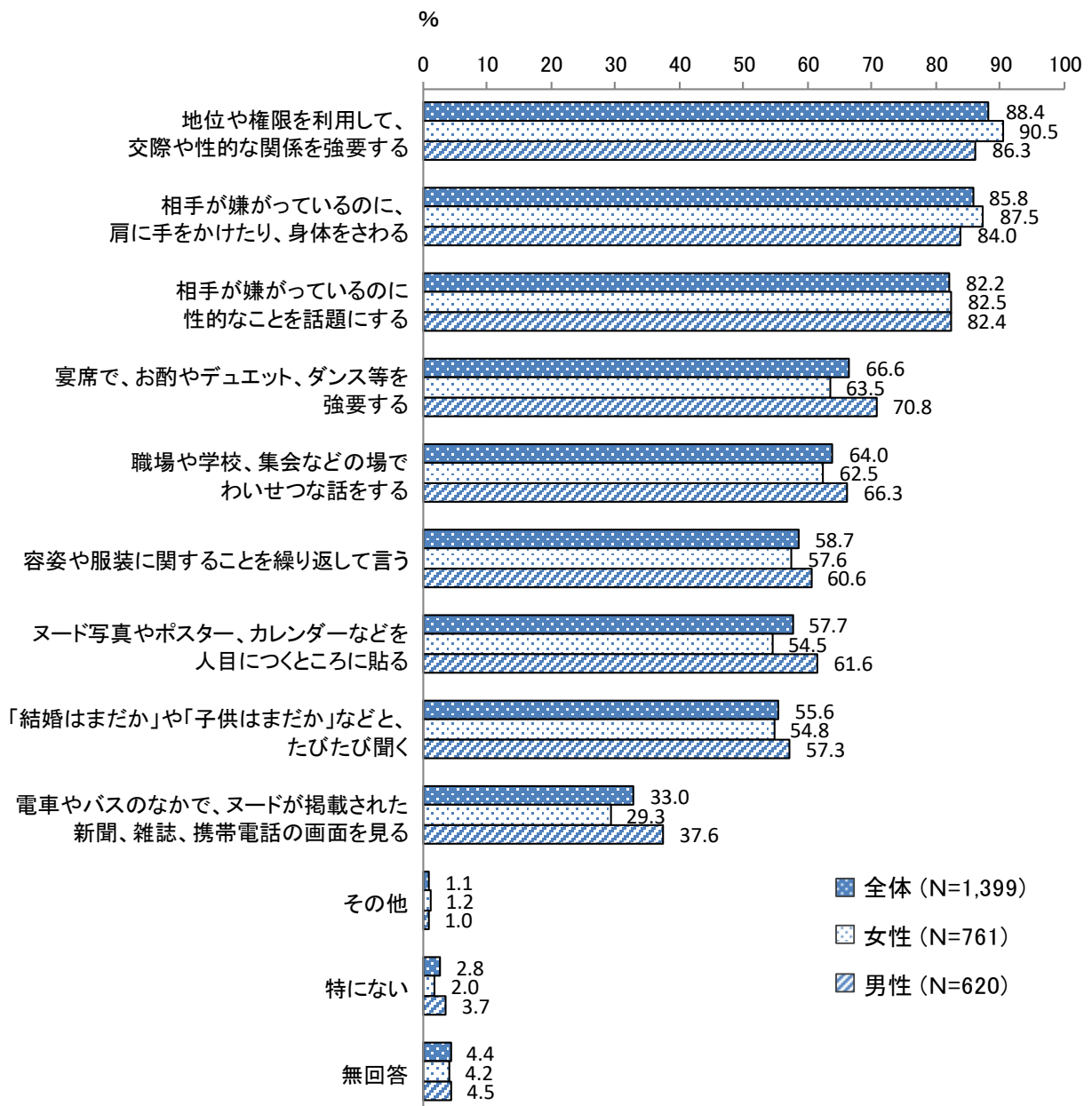
問 28 次にあげることのうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うことはどれですか。
(あてはまるものすべてに○印)

○「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体をさわる」、「相手が嫌がっているのに性的なことを話題にする」は8割超となっている。

セクシュアル・ハラスメントだと思うことについて、全体では「地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する」が88.4%と最も高く、次いで「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体をさわる」が85.8%、「相手が嫌がっているのに性的なことを話題にする」が82.2%となっている。

性別でみると、差がみられた上位項目「電車やバスのなかで、ヌードが掲載された新聞、雑誌、携帯電話の画面を見る」(8.3ポイント差)、「宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する」(7.3ポイント差)、「ヌード写真やポスター、カレンダーなどを人目につくところに貼る」(7.1ポイント差)は、いずれも男性が女性よりも高くなっている。

図7-7-1 性別 セクシュアル・ハラスメントだと思うこと



性年代別で見ると、男女とも70歳以上では、「その他」、「特にない」を除いた具体的な項目のいずれにおいても、他に比べて低い割合となっている。男性の30歳代では「電車やバスのなかで、ヌードが掲載された新聞、雑誌、携帯電話の画面を見る」が5割を超え、比較的高い割合となっている。

表7-7-1 性年代別 セクシュアル・ハラスメントだと思うこと

(全体:件数、横:%)

	全体	関係を強要する	地位や権限を利用して、交際や性的な	かけたり、身体をさわる	相手が嫌がっているのに、肩に手を	宴席で、お酌やデュエット、ダンス等を強要する	容姿や服装に関することを繰り返して言う	話題にする	相手が嫌がっているのに性的なことを	職場や学校、集会などの場でわいせつな話をする	職場や学校、集会などの場に貼る	ヌード写真やポスター、カレンダーなどを人目につくところに貼る	新聞、雑誌、携帯電話の画面を見る	電車やバスのなかで、ヌードが掲載された	「結婚はまだか」や「子供はまだか」などと、たびたび聞く	その他	特にない	無回答
全体	1399	88.4	85.8	66.6	58.7	82.2	64.0	57.7	33.0	55.6	1.1	2.8	4.4					
女性	20歳代	95	90.5	96.8	63.2	63.2	91.6	68.4	54.7	30.5	67.4	2.1	-	1.1				
	30歳代	110	97.3	94.5	64.5	63.6	88.2	68.2	64.5	30.0	61.8	0.9	-	-				
	40歳代	130	96.2	91.5	63.8	61.5	86.2	69.2	62.3	33.8	60.8	-	-	3.1				
	50歳代	134	96.3	92.5	71.6	64.2	88.8	64.2	59.0	30.6	62.7	1.5	1.5	1.5				
	60歳代	157	90.4	87.3	68.2	58.0	86.6	65.6	52.9	28.0	48.4	1.9	2.5	2.5				
	70歳以上	135	74.1	66.7	48.9	37.8	57.0	42.2	36.3	23.7	34.1	0.7	6.7	15.6				
男性	20歳代	63	90.5	92.1	68.3	61.9	93.7	68.3	66.7	33.3	57.1	1.6	-	-				
	30歳代	70	85.7	90.0	70.0	60.0	91.4	75.7	70.0	51.4	64.3	1.4	2.9	1.4				
	40歳代	86	88.4	91.9	76.7	67.4	90.7	68.6	70.9	38.4	65.1	-	2.3	2.3				
	50歳代	104	90.4	85.6	74.0	68.3	82.7	71.2	67.3	38.5	62.5	-	3.8	3.8				
	60歳代	157	89.2	86.6	78.3	62.4	83.4	66.9	58.6	38.2	54.1	0.6	3.2	2.5				
	70歳以上	140	77.1	68.6	57.9	48.6	66.4	55.0	48.6	30.7	48.6	2.1	7.1	12.1				

7-8 メディアにおける性や暴力表現についての考え

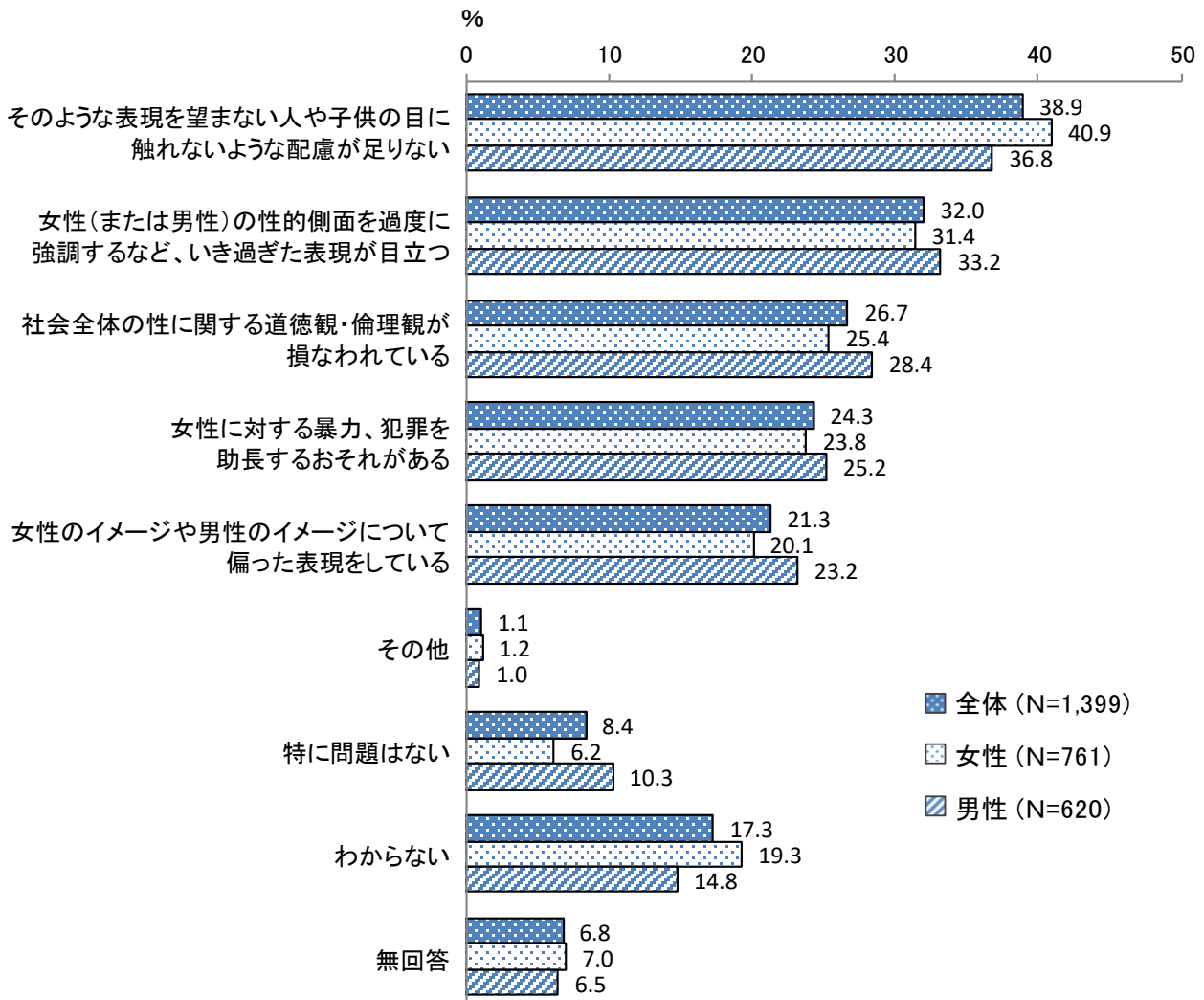
問 29 メディア（新聞・雑誌・テレビ・インターネット等）における性・暴力表現について、あなたはどのようにお考えですか。（3つまでに○印）

- 「そのような表現を望まない人や子供の目に触れないような配慮が足りない」が4割弱で最も高く、次いで「女性（または男性）の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ」が3割強となっている。
- 男女の考えに大きな差はみられない。

メディアにおける性や暴力表現についての考えについて、全体では「そのような表現を望まない人や子供の目に触れないような配慮が足りない」が38.9%と最も高く、次いで「女性（または男性）の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ」が32.0%、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が26.7%となっている。

性別でみると、すべての項目において差は5ポイント以下と大きな差はみられない。「そのような表現を望まない人や子供の目に触れないような配慮が足りない」では、女性（40.9%）が男性（36.8%）より4.1ポイント高くなっている。

図7-8-1 性別 メディアにおける性や暴力表現についての考え



性年代別でみると、男性の20歳代では「女性(または男性)の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ」が5割弱、「女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている」が3割半ばと比較的高い割合となっている。また、男女とも60歳代以上では「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が3割を超え、他に比べ高くなっている。

表7-8-1 性年代別 メディアにおける性や暴力表現についての考え

(全体:件数、横:%)

	全体	表現が目立つ	過度に強調するなど、いき過ぎた	女性(または男性)の性的側面を	倫理観が損なわれている	社会全体の性に関する道徳観・	女性に対する暴力、犯罪を助長す	る女性に対する暴力、犯罪を助長す	りない	その目に触れないような配慮が足	に女性イメージや男性のイメージ	その他	特に問題はない	わからない	無回答
全体	1399	32.0	26.7	24.3	38.9	21.3	1.1	8.4	17.3	6.8					
女性	20歳代	95	26.3	15.8	16.8	42.1	30.5	2.1	8.4	17.9	4.2				
	30歳代	110	24.5	20.0	19.1	38.2	29.1	0.9	13.6	21.8	1.8				
	40歳代	130	36.9	17.7	30.0	38.5	20.0	2.3	3.8	17.7	4.6				
	50歳代	134	30.6	19.4	27.6	45.5	18.7	0.7	7.5	18.7	6.0				
	60歳代	157	34.4	35.7	24.8	45.2	17.8	1.3	3.2	17.2	8.3				
	70歳以上	135	32.6	37.8	21.5	34.8	9.6	-	3.0	23.0	14.8				
男性	20歳代	63	47.6	12.7	20.6	34.9	34.9	1.6	14.3	11.1	1.6				
	30歳代	70	20.0	24.3	21.4	37.1	30.0	1.4	10.0	20.0	2.9				
	40歳代	86	33.7	20.9	27.9	40.7	20.9	1.2	12.8	12.8	4.7				
	50歳代	104	33.7	22.1	17.3	35.6	24.0	1.9	11.5	13.5	3.8				
	60歳代	157	33.8	40.1	32.5	38.9	22.3	0.6	10.8	15.9	3.2				
	70歳以上	140	32.1	33.6	25.0	33.6	16.4	-	5.7	15.0	17.1				

7-9 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと

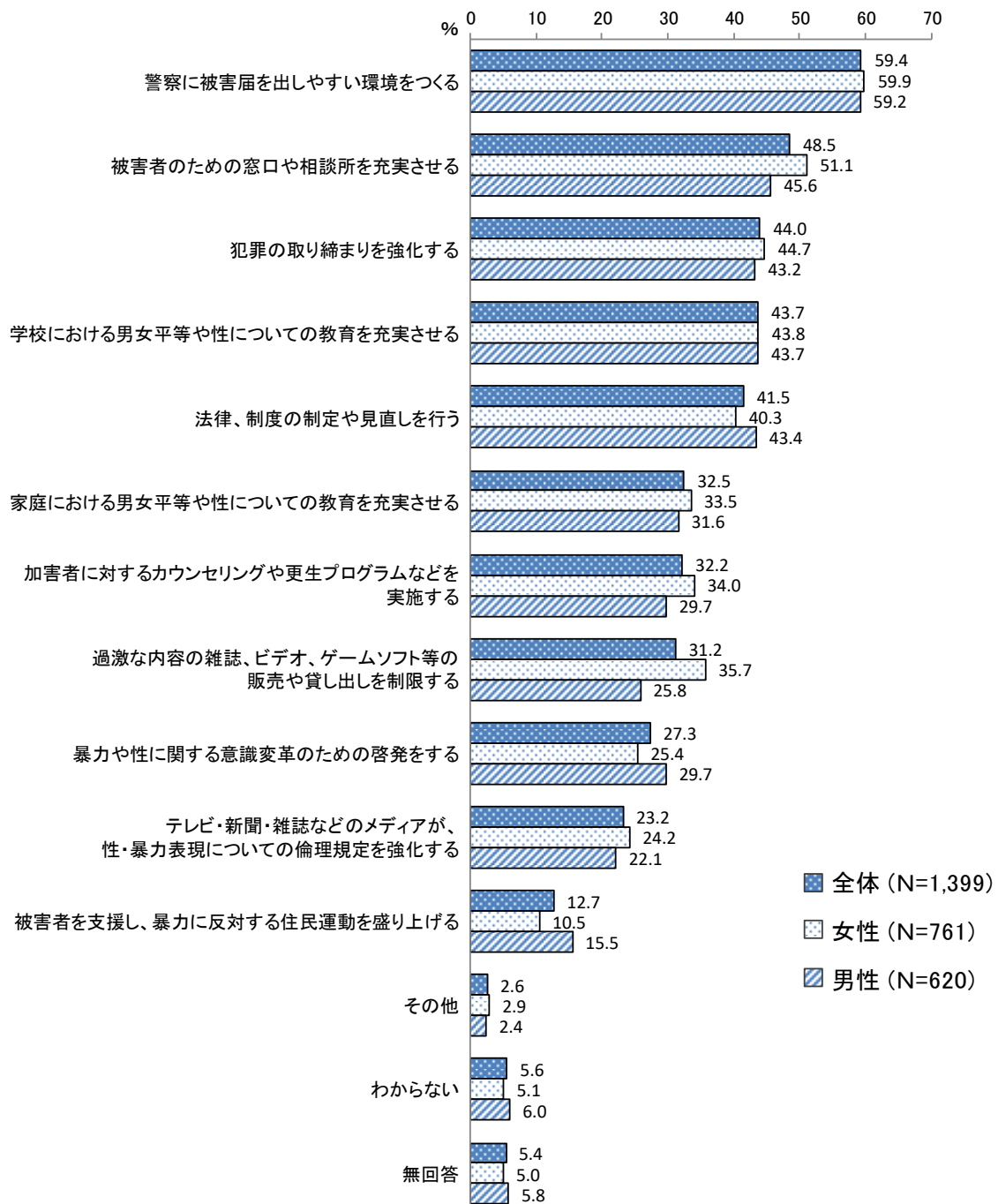
問 30 性犯罪、DV（配偶者等からの暴力）、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○印）

- 「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」は男女ともに約6割と、最も高くなっている。
- 「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」では、女性が男性より約10ポイント高く、大きな差がみられた。

性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なことについて、全体では「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が59.4%と最も高く、次いで「被害者のための窓口や相談所を充実させる」が48.5%、「犯罪の取り締まりを強化する」が44.0%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」では、女性(35.7%)が男性(25.8%)より9.9ポイント高くなっている。

図7-9-1 性別 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと



性年代別でみると、女性の20～30歳代、男性の20歳代では「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」が7割強、女性の60歳代では「被害者のための窓口や相談所を充実させる」が6割強と、それぞれ比較的高くなっている。男性の20～40歳代では「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」、「テレビ・新聞・雑誌などのメディアが、性・暴力表現についての倫理規定を強化する」がいずれも2割を下回り、他に比べ低い割合となっている。

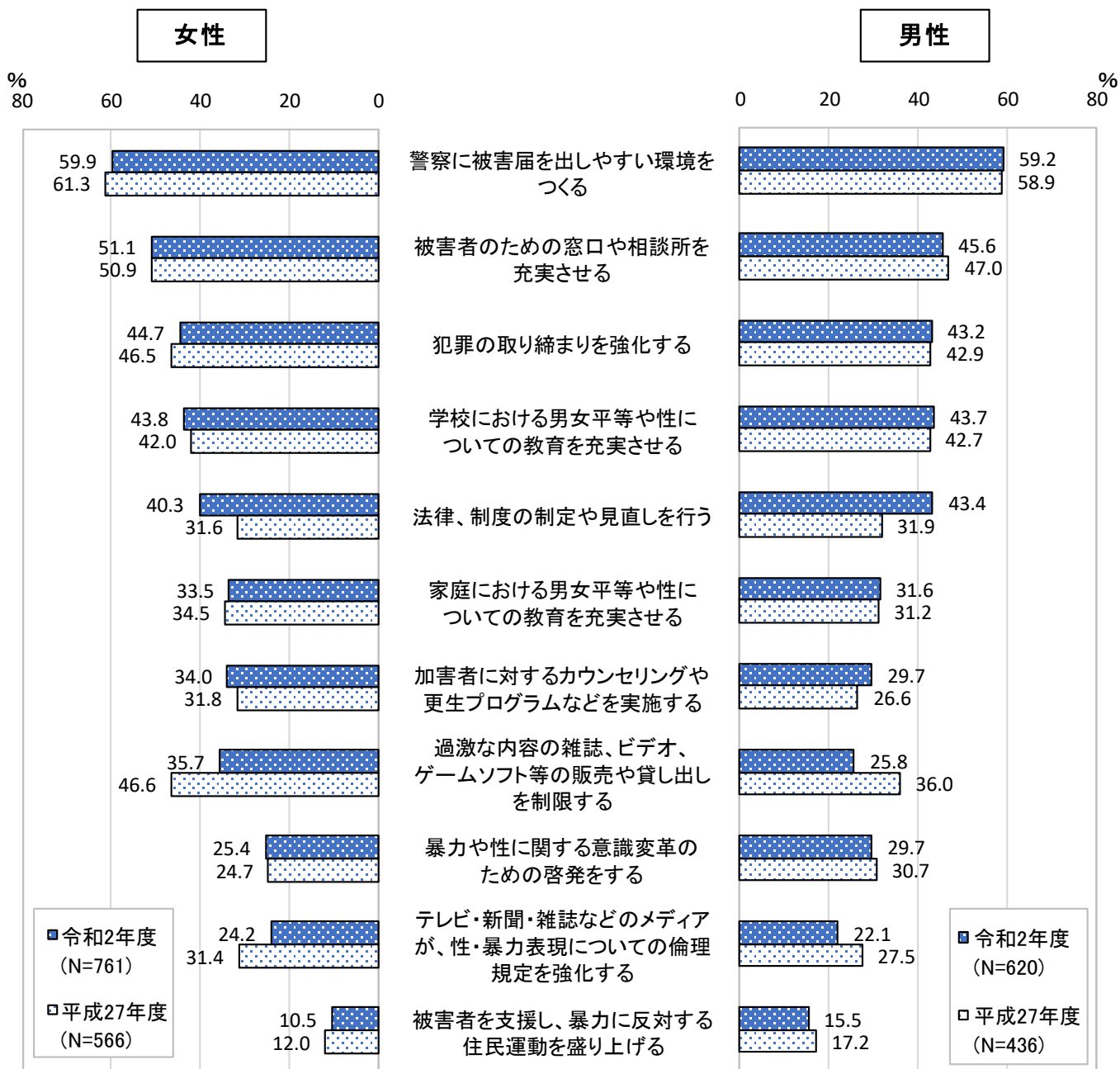
表7-9-1 性年代別 性犯罪や配偶者からの暴力をなくするために必要なこと

(全体:件数、横:%)

	全体	るに家庭	るに学校	の暴力	被害者の	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者
	全体	るに家庭	るに学校	の暴力	被害者の	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者	被害者
全体	1399	32.5	43.7	27.3	48.5	12.7	32.2	59.4	41.5	44.0	31.2	23.2	2.6	5.6	5.4		
女性	20歳代	95	37.9	54.7	22.1	51.6	8.4	32.6	71.6	48.4	45.3	28.4	22.1	4.2	1.1	2.1	
	30歳代	110	36.4	41.8	27.3	45.5	8.2	40.9	70.9	45.5	44.5	32.7	20.0	4.5	3.6	-	
	40歳代	130	25.4	34.6	26.2	50.8	10.0	33.8	59.2	53.1	52.3	33.8	22.3	5.4	4.6	4.6	
	50歳代	134	34.3	44.0	29.1	47.8	9.7	33.6	57.5	38.1	44.0	30.6	25.4	3.0	1.5	3.7	
	60歳代	157	40.1	46.5	29.3	63.7	13.4	36.3	60.5	40.1	40.8	47.1	29.3	0.6	4.5	3.2	
	70歳以上	135	27.4	43.0	17.0	44.4	11.9	27.4	45.2	20.7	42.2	37.0	23.7	0.7	14.1	14.8	
男性	20歳代	63	44.4	50.8	28.6	55.6	14.3	42.9	71.4	47.6	49.2	14.3	14.3	1.6	1.6	1.6	
	30歳代	70	24.3	34.3	22.9	44.3	14.3	28.6	58.6	45.7	51.4	17.1	14.3	4.3	8.6	4.3	
	40歳代	86	30.2	38.4	31.4	43.0	16.3	31.4	61.6	54.7	47.7	14.0	17.4	2.3	5.8	2.3	
	50歳代	104	29.8	37.5	28.8	46.2	13.5	28.8	65.4	51.0	46.2	28.8	24.0	2.9	5.8	1.9	
	60歳代	157	33.8	47.1	31.2	43.9	12.7	26.8	57.3	43.3	43.3	26.8	25.5	3.2	3.2	3.8	
	70歳以上	140	29.3	49.3	31.4	45.0	20.7	27.1	50.0	27.9	31.4	39.3	27.1	0.7	10.0	15.7	

前回の調査と比較すると、「法律、制度の制定や見直しを行う」は、男女ともに前回調査より大きく増加し、女性は 8.7 ポイント、男性は 11.5 ポイントの増加となった。一方、前回調査より減少したものは「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」で、女性は 10.9 ポイント、男性は 10.2 ポイントとそれぞれ大きく減少した。また、「テレビ・新聞・雑誌などのメディアが、性・暴力表現についての倫理規定を強化する」でも男女ともに前回調査より減少し、女性は 7.2 ポイント、男性は 5.4 ポイントの減少となった。他の項目では大きな差はみられない。

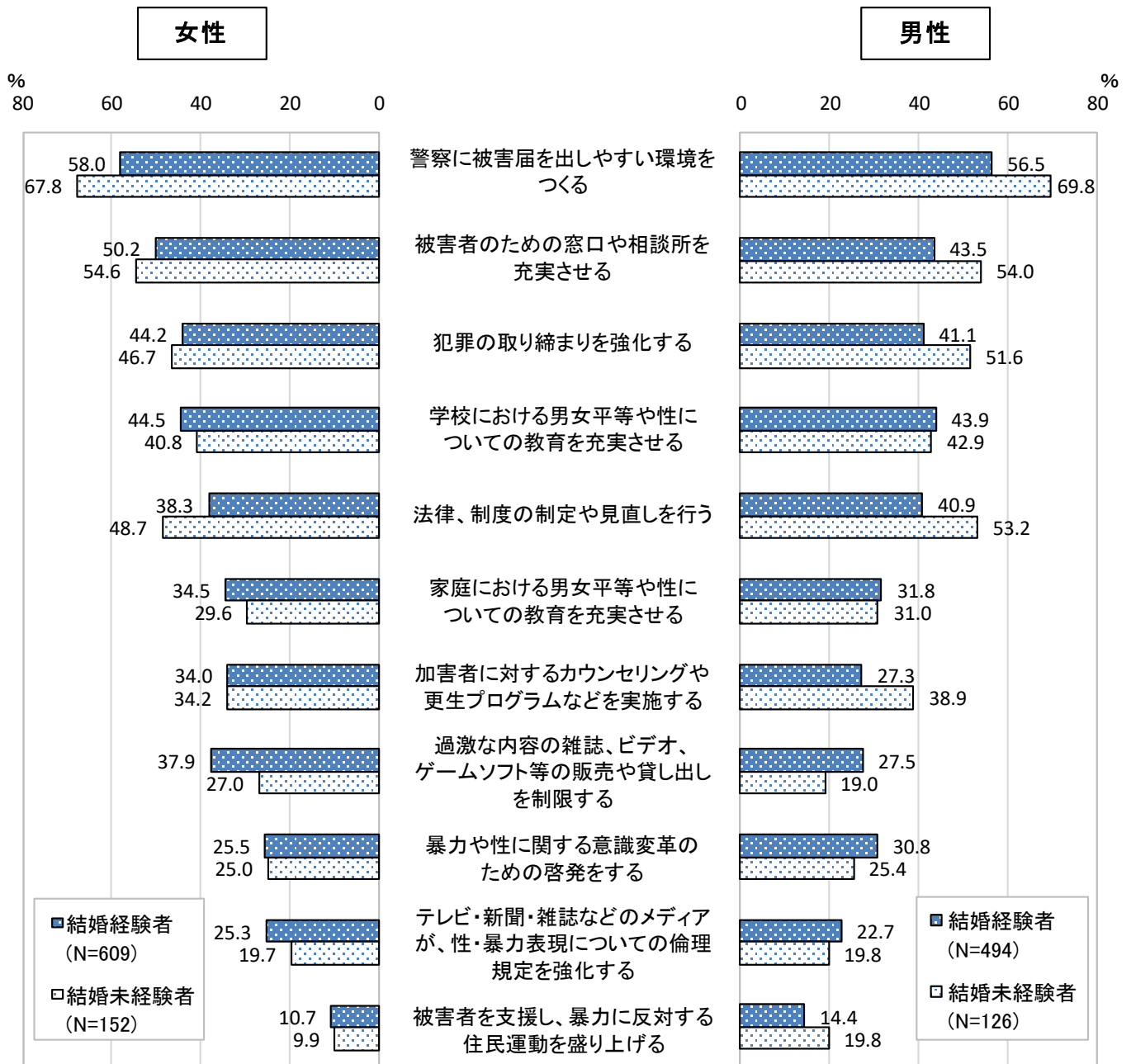
図 7-9-2 前回調査比較 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと



結婚の有無別でみると、女性で最も差がみられた「過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する」では、結婚経験者(37.9%)が結婚未経験者(27.0%)より 10.9 ポイント高くなっている。一方、「法律、制度の制定や見直しを行う」では、結婚未経験者(48.7%)が結婚経験者(38.3%)より 10.4 ポイント高くなっている。

男性で最も差がみられた「警察に被害届を出しやすい環境をつくる」では、結婚未経験者(69.8%)が結婚経験者(56.5%)より 13.3 ポイント高くなっている。他にも「法律、制度の制定や見直しを行う」、「加害者に対するカウンセリングや更生プログラムなどを実施する」、「被害者のための窓口や相談所を充実させる」、「犯罪の取り締まりを強化する」で、結婚未経験者が結婚経験者より 10 ポイント以上高く、大きな差がみられた。

図 7-9-3 結婚の有無別 性犯罪や配偶者からの暴力をなくすために必要なこと



8. 男女共同参画施策等について

8-1 男女共同参画の言葉についての認知度

問 31 あなたは次の用語を知っていますか。(①～⑬の項目それぞれについて、1つだけに○印)

- 『知っている』※は「②男女雇用機会均等法」、「⑥DV防止法」が8割前後と高い。
- 「⑧性暴力救援センター和歌山(わかやま mine(マイン))」、「⑩面前DV」、「⑬アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)」は「知らない」が8割前後で高くなっている。
- 男女の認知度に大きな差がみられたのは「⑦和歌山県男女共同参画センター『りいぶる』」で、『知っている』は女性が男性より高くなっている。

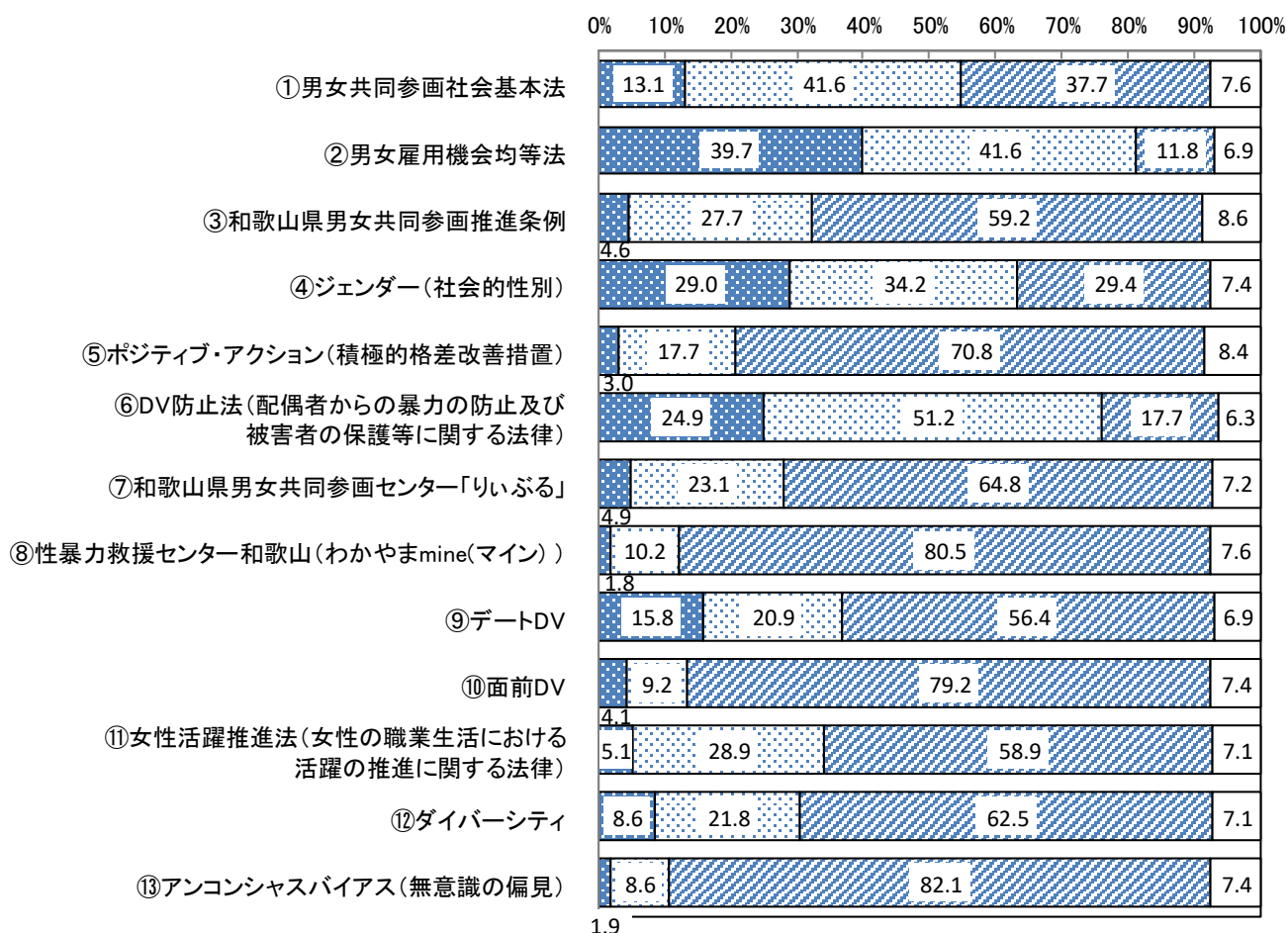
※「内容も含め知っている」と「聞いたことがある」を合わせたもの。

男女共同参画の言葉の認知度について、全体では、『知っている』は「②男女雇用機会均等法」が81.3%と最も高く、次いで「⑥DV防止法」が76.1%、「④ジェンダー」が63.2%となっている。「知らない」は「⑧性暴力救援センター和歌山(わかやま mine(マイン))」、「⑬アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)」が8割を超え、高くなっている。

図 8-1-1 男女共同参画の言葉についての認知度

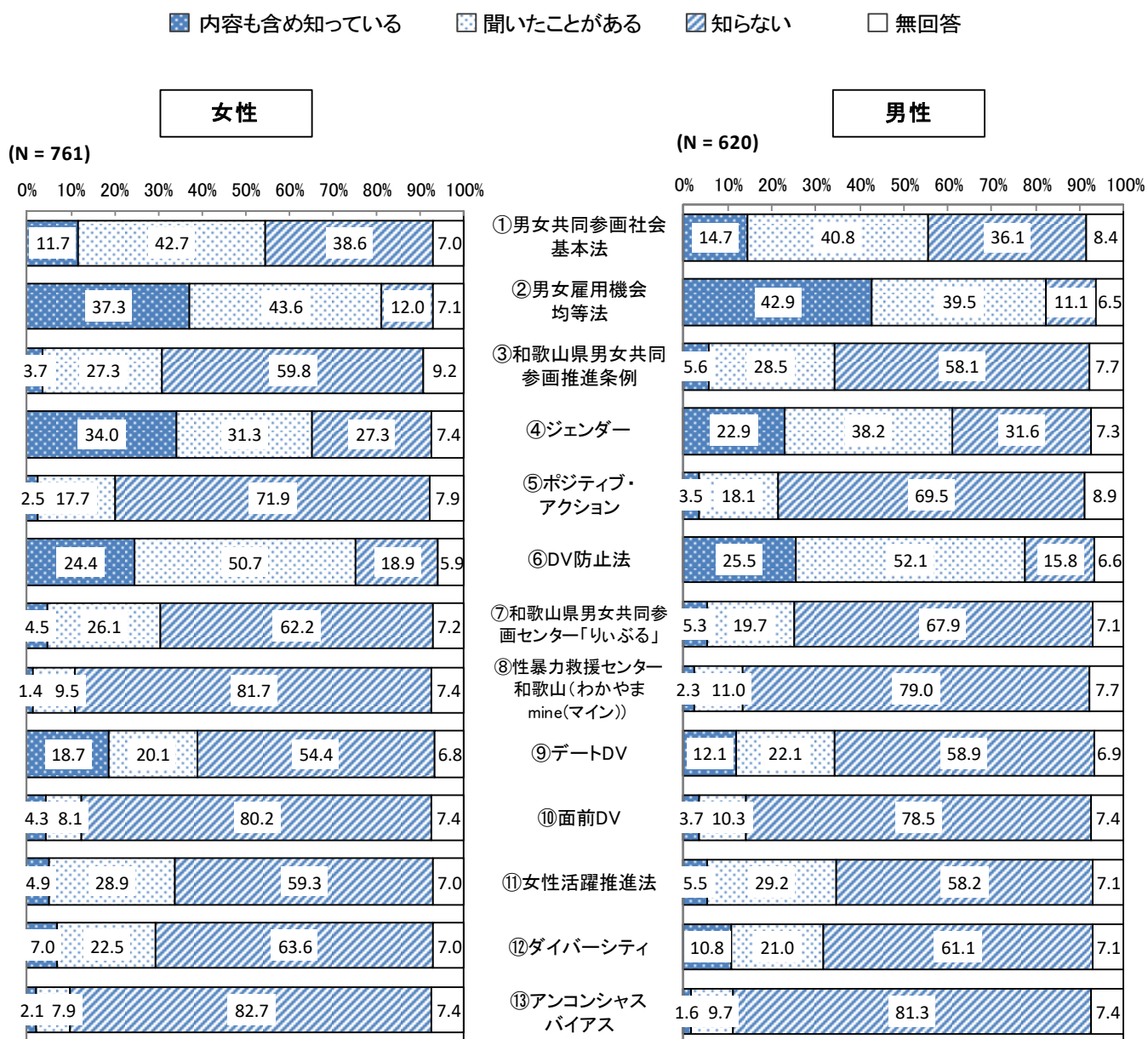
■ 内容も含め知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない □ 無回答

(N = 1,399)



性別でみると、男女の認知度に最も差がみられたのは「⑦和歌山県男女共同参画センター『りいぶる』」で、女性が男性より5.6ポイント高くなっている。

図8-1-2 性別 男女共同参画の言葉についての認知度



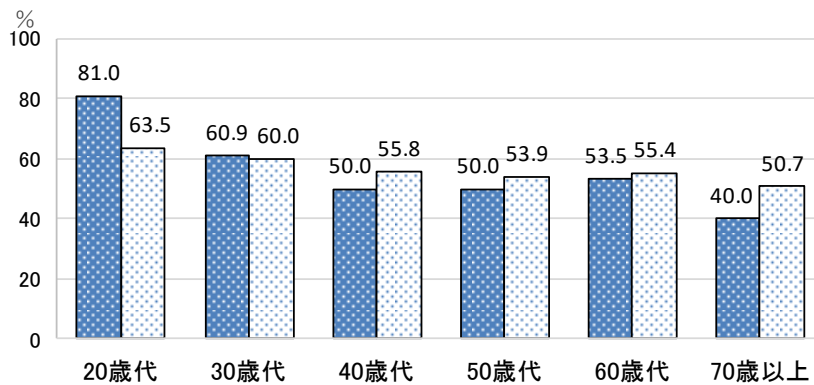
性年代別でみると、性別、年代に関わらず、「①男女共同参画社会」、「②男女雇用機会均等法」、「④ジェンダー(社会的性別)」、「⑥DV 防止法」は、認知度が高くなっている。「①男女共同参画社会基本法」では、男女ともに年齢が高いほど、認知度が低い傾向がみられる。「④ジェンダー(社会的性別)」では、男女ともに70歳以上が4割以下と低くなっている。

図8-1-3 性年代別 男女共同参画の言葉についての認知度

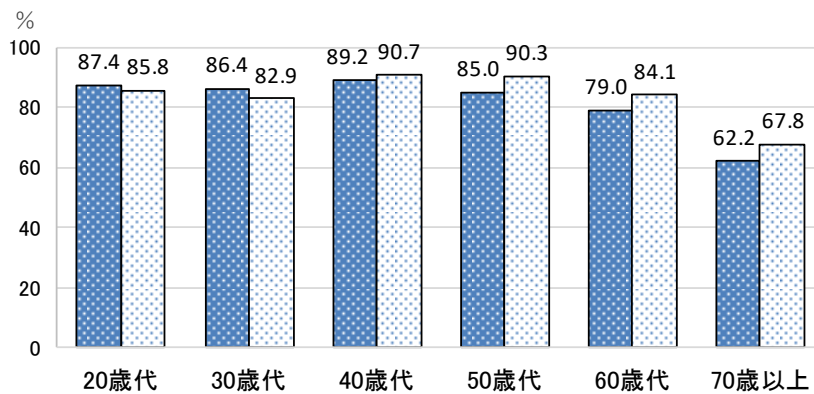
【『知っている』と答えた人の割合】

■ 女性 □ 男性

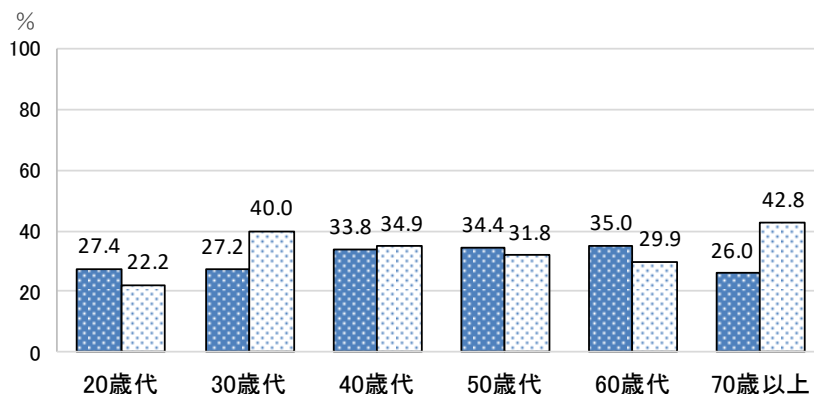
①男女共同参画社会基本法



②男女雇用機会均等法

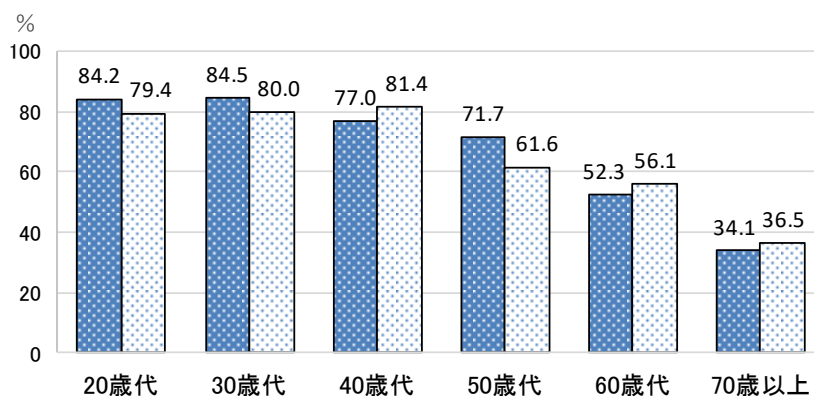


③和歌山県男女共同参画推進条例

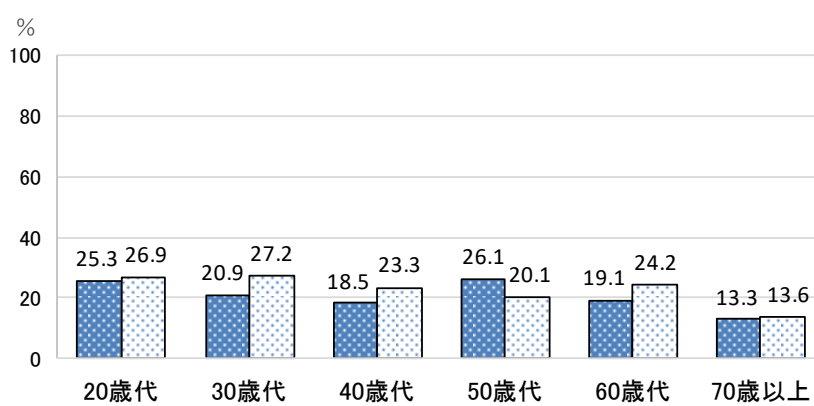


■ 女性 □ 男性

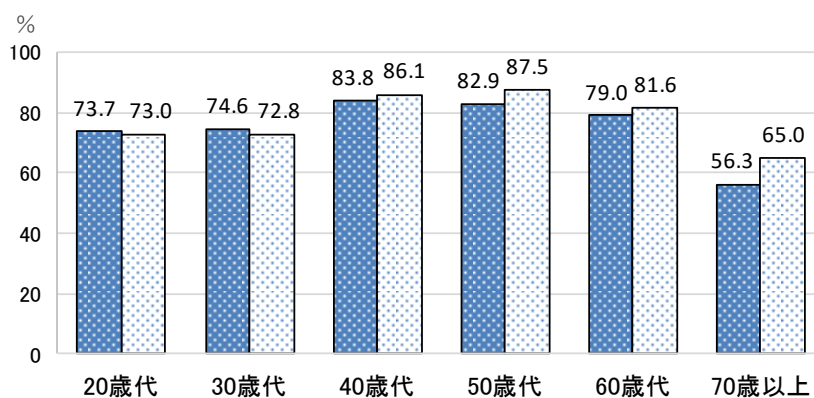
④ジェンダー(社会的性別)



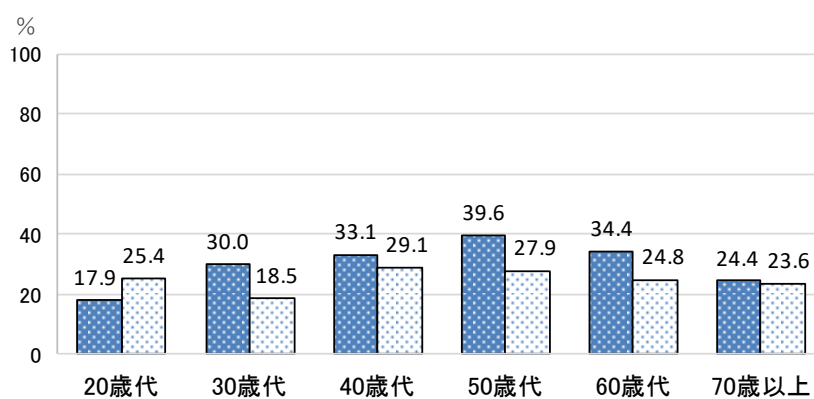
⑤ポジティブ・アクション(積極的格差改善措置)



⑥DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)

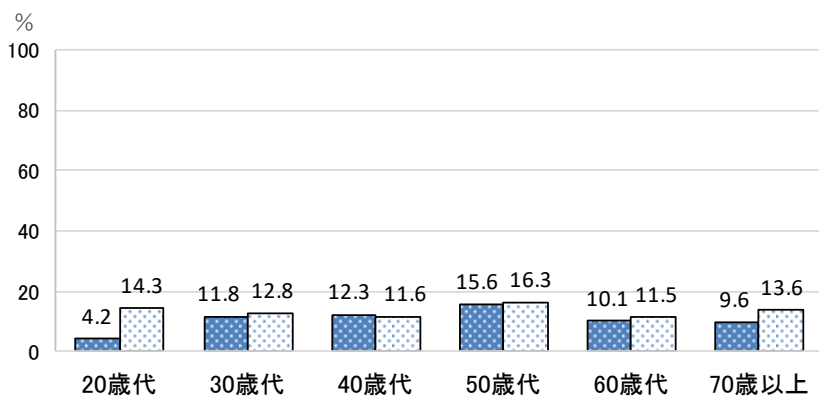


⑦和歌山県男女共同参画センター「りいぶる」

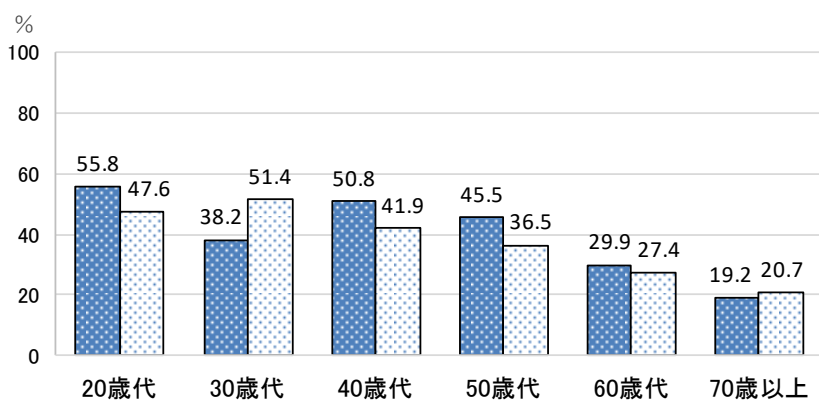


■ 女性 □ 男性

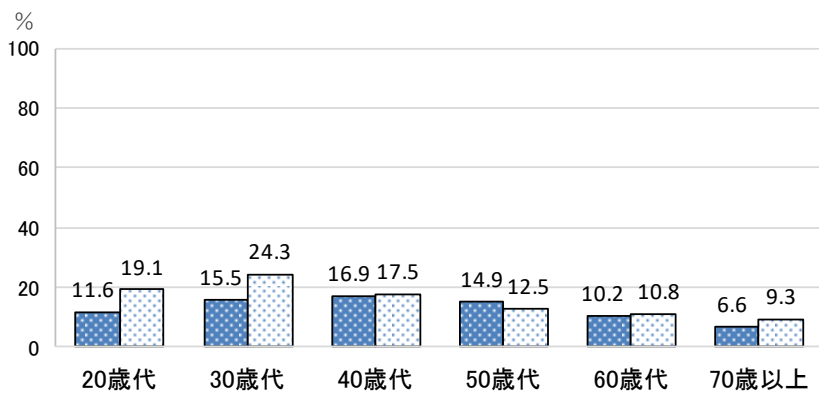
⑧性暴力救援センター和歌山(わかやま mine(マイン))



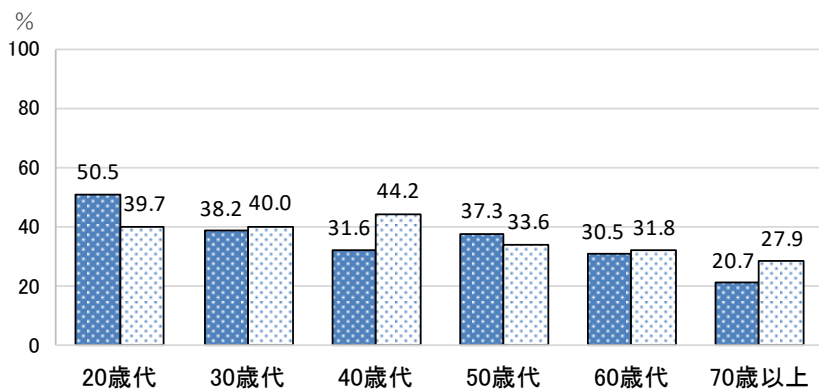
⑨デートDV



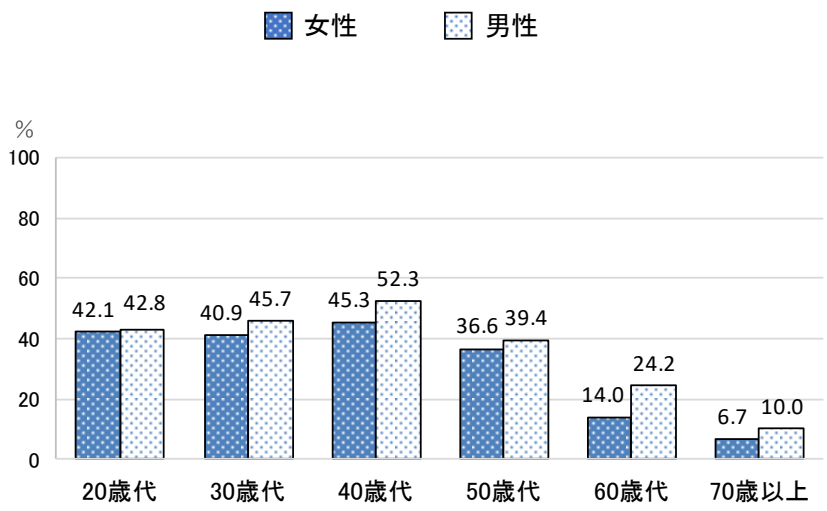
⑩面前DV



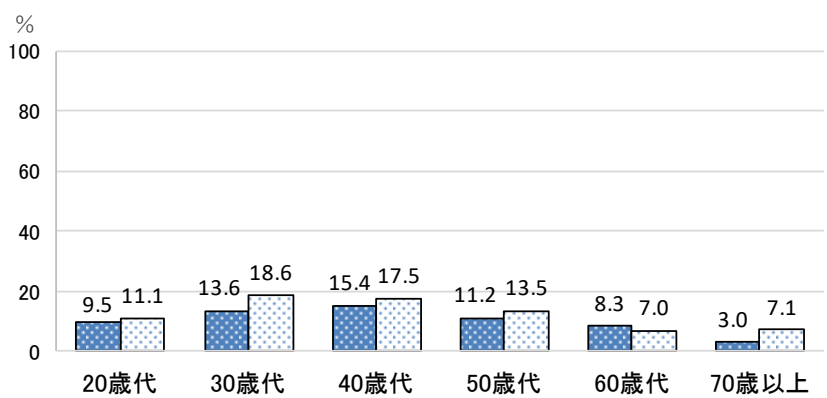
⑪女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)



⑫ダイバーシティ



⑬アンコンシャスバイアス(無意識の偏見)



8-2 女性が增える方が良い役職・公職

問 32 あなたが次にあげるような役職、公職において今後女性が增えるほうがよいと思うものはどれですか。
(3つまでに○印)

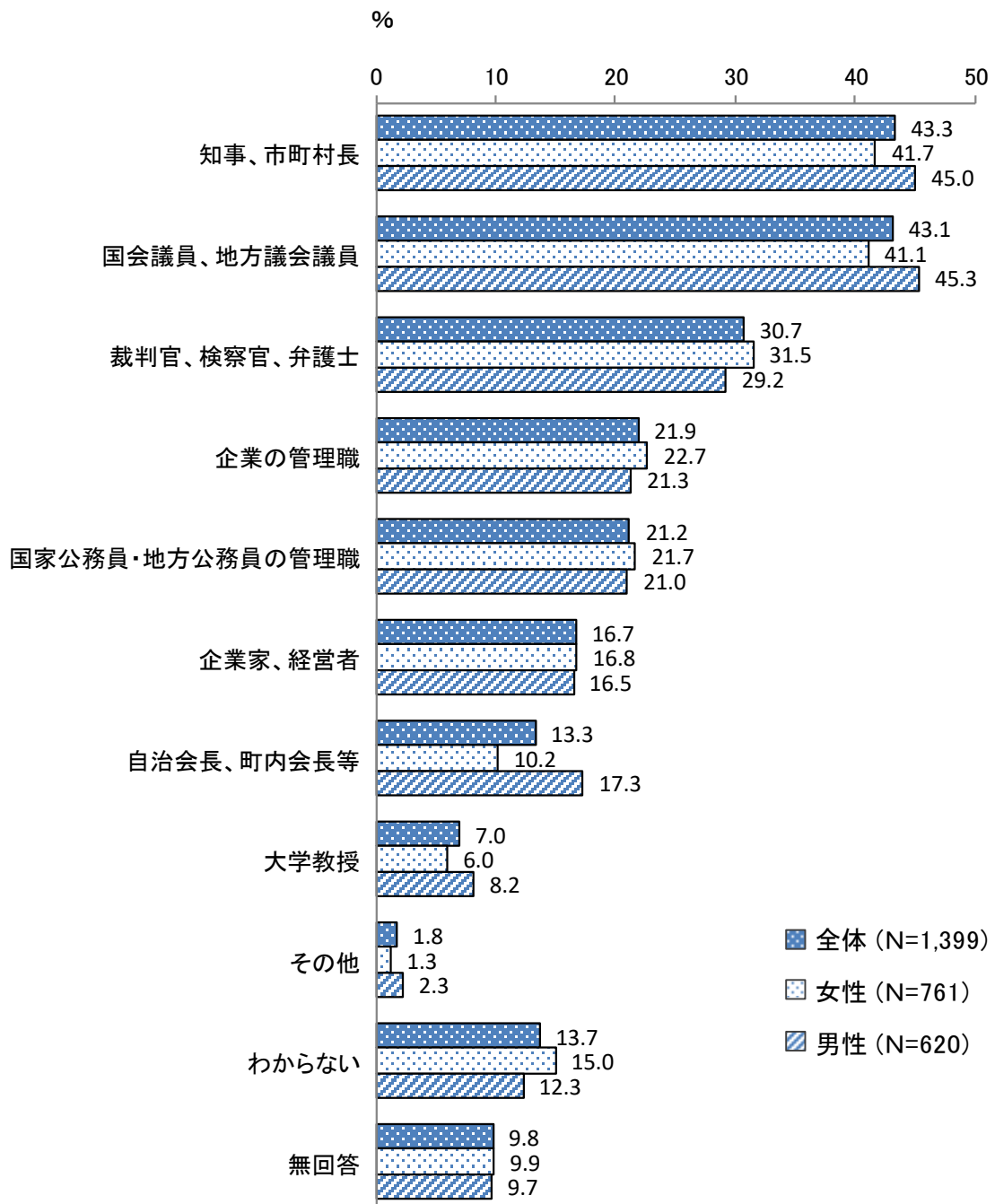
○「知事、市町村長」、「国会議員、地方議会議員」は、男女ともに4割を超えて高くなっている。

○「自治会長、町内会長等」は、男性が女性より高く、最も差がみられる。

女性が增える方が良い役職・公職について、全体では「知事、市町村長」が43.3%、「国会議員、地方議会議員」が43.1%でそれぞれ4割を超え、次いで「裁判官、検察官、弁護士」が30.7%、「企業の管理職」が21.9%、「国家公務員・地方公務員の管理職」が21.2%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「自治会長、町内会長等」では男性(17.3%)が女性(10.2%)より7.1ポイント高くなっている。他の項目では大きな差はみられない。

図8-2-1 性別 女性が增える方が良い役職・公職



性年代別で見ると、すべての区分で「知事、市町村長」、「国会議員、地方議会議員」、「裁判官、検察官、弁護士」が上位3項目となっている。男性の70歳以上では「自治会長、町内会長等」(23.6%)が比較的高い割合となっている。

表8-2-1 性年代別 女性が増える方が良い役職・公職

(全体:件数、横:%)

		全体	知事、 市町村長	国会議員、 地方議会 議員	国家公務員・ 地方公務員 の管理職	裁判官、 検察官、 弁護士	大学教授
全体		1399	43.3	43.1	21.2	30.7	7.0
女性	20歳代	95	34.7	43.2	21.1	31.6	10.5
	30歳代	110	47.3	40.0	20.0	31.8	7.3
	40歳代	130	43.1	46.2	20.8	30.8	6.2
	50歳代	134	38.8	39.6	17.2	35.8	6.0
	60歳代	157	45.9	40.8	25.5	33.1	2.5
	70歳以上	135	38.5	37.8	24.4	25.9	5.9
男性	20歳代	63	38.1	50.8	23.8	30.2	11.1
	30歳代	70	40.0	32.9	18.6	32.9	5.7
	40歳代	86	50.0	44.2	16.3	34.9	10.5
	50歳代	104	51.0	48.1	23.1	27.9	6.7
	60歳代	157	47.8	46.5	16.6	28.0	10.2
	70歳以上	140	40.0	46.4	27.1	25.7	5.7

(全体:件数、横:%)

		企業の 管理職	企業家、 経営者	自治会長、 町内会長等	その他	わからない	無回答
全体		21.9	16.7	13.3	1.8	13.7	9.8
女性	20歳代	16.8	21.1	6.3	2.1	17.9	9.5
	30歳代	28.2	17.3	4.5	-	14.5	8.2
	40歳代	29.2	14.6	8.5	3.1	11.5	7.7
	50歳代	20.9	17.2	8.2	1.5	17.2	11.9
	60歳代	26.1	16.6	11.5	1.3	14.0	7.0
	70歳以上	14.1	15.6	20.0	-	15.6	14.8
男性	20歳代	25.4	22.2	7.9	4.8	11.1	4.8
	30歳代	21.4	12.9	21.4	5.7	15.7	8.6
	40歳代	18.6	19.8	17.4	-	14.0	5.8
	50歳代	25.0	17.3	10.6	1.9	16.3	6.7
	60歳代	18.5	19.1	17.8	1.9	11.5	8.3
	70歳以上	21.4	10.0	23.6	1.4	7.9	18.6

8-3 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

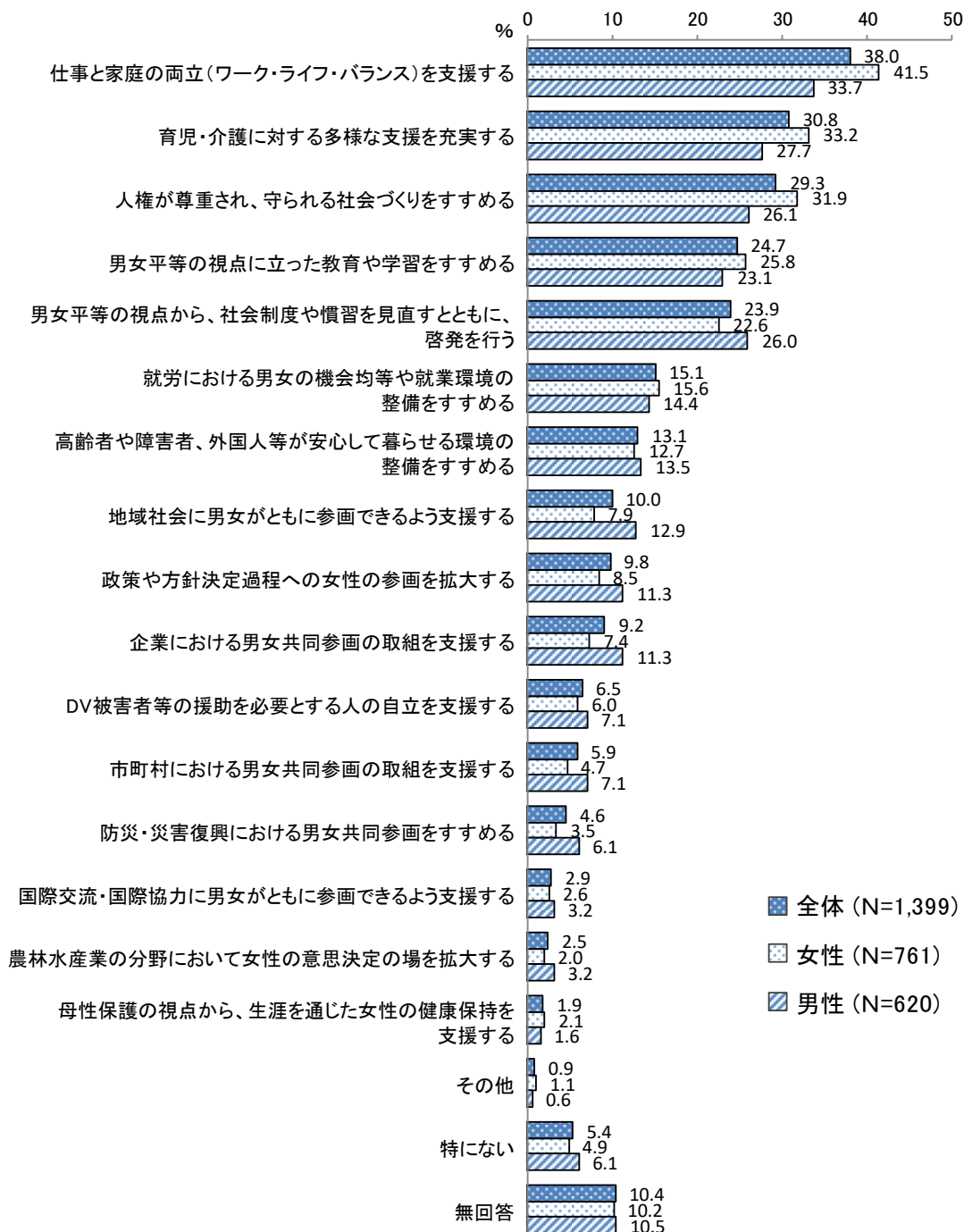
問 33 今後、和歌山県で男女共同参画を推進するために、県は特にどのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。(3つまでに○印)

- 男女ともに上位項目は「仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)を支援する」、「育児・介護に対する多様な支援を充実する」、「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」となっている。
- 上位項目のいずれも女性が男性よりも5ポイント以上高くなっている。

男女共同参画を推進するために力を入れるべきことについて、全体では「仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)を支援する」が38.0%と最も高く、次いで「育児・介護に対する多様な支援を充実する」が30.8%、「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」が29.3%となっている。

性別でみると、最も差がみられた「仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)を支援する」では女性(41.5%)が男性(33.7%)より7.8ポイント高くなっている。

図8-3-1 性別 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと



性年代別で見ると、男女とも20～30歳代で「仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)を支援する」が5割を超え、特に女性の30歳代では6割強と高い割合となっている。また、女性の20～30歳代では「育児・介護に対する多様な支援を充実する」も4割を超えており、他に比べて高くなっている。男性の20歳代では「男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直す」とともに、「啓発を行う」が3割半ばと比較的高くなっている。

表8-3-1 性年代別 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

(全体:件数、横:%)

		全体	男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すとともに、啓発を行う	農林水産業の分野において女性の意思決定の場を拡大する	男女平等の視点に立った教育や学習をすすめる	人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる	政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する	地域社会に男女がともに参画できるような支援する
全体		1399	23.9	2.5	24.7	29.3	9.8	10.0
女性	20歳代	95	25.3	1.1	31.6	32.6	7.4	10.5
	30歳代	110	16.4	2.7	18.2	26.4	6.4	5.5
	40歳代	130	25.4	1.5	20.8	29.2	9.2	6.2
	50歳代	134	23.1	1.5	33.6	34.3	9.0	8.2
	60歳代	157	23.6	1.3	28.0	38.9	8.3	8.9
	70歳以上	135	21.5	3.7	22.2	28.1	10.4	8.1
男性	20歳代	63	34.9	4.8	22.2	30.2	4.8	12.7
	30歳代	70	18.6	-	27.1	21.4	10.0	5.7
	40歳代	86	18.6	2.3	24.4	23.3	14.0	9.3
	50歳代	104	27.9	2.9	26.0	33.7	10.6	9.6
	60歳代	157	29.3	3.2	17.2	26.1	12.1	14.0
	70歳以上	140	25.0	5.0	25.0	22.9	12.9	20.0

		国際交流・国際協力に男女がともに参画できるような支援する	企業における男女共同参画の取組を支援する	防災・災害復興における男女共同参画をすすめる	就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる	仕事と家庭の両立(ワーク・ライフ・バランス)を支援する	育児・介護に対する多様な支援を充実する	母性保護の視点から、生涯を通じた女性の健康保持を支援する
全体		2.9	9.2	4.6	15.1	38.0	30.8	1.9
女性	20歳代	2.1	13.7	2.1	16.8	53.7	44.2	2.1
	30歳代	2.7	8.2	7.3	21.8	62.7	40.9	4.5
	40歳代	0.8	4.6	4.6	19.2	44.6	36.2	3.1
	50歳代	5.2	6.0	0.7	14.2	38.8	32.1	-
	60歳代	2.5	8.3	2.5	18.5	34.4	33.8	1.3
	70歳以上	2.2	5.2	4.4	4.4	23.7	17.0	2.2
男性	20歳代	1.6	14.3	4.8	15.9	54.0	28.6	3.2
	30歳代	4.3	7.1	10.0	20.0	51.4	28.6	1.4
	40歳代	1.2	19.8	7.0	16.3	41.9	36.0	1.2
	50歳代	3.8	14.4	3.8	12.5	32.7	36.5	2.9
	60歳代	4.5	9.6	2.5	14.6	31.8	27.4	0.6
	70歳以上	2.9	6.4	10.0	10.7	13.6	15.7	1.4

		高齢者や障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備をすすめる	DV被害者等の援助を必要とする人の自立を支援する	市町村における男女共同参画の取組を支援する	その他	特になし	無回答
全体		13.1	6.5	5.9	0.9	5.4	10.4
女性	20歳代	7.4	8.4	3.2	2.1	2.1	2.1
	30歳代	9.1	7.3	5.5	-	1.8	7.3
	40歳代	6.9	10.0	5.4	1.5	5.4	8.5
	50歳代	14.2	6.0	4.5	1.5	4.5	6.7
	60歳代	12.7	5.1	5.1	0.6	4.5	12.1
	70歳以上	23.7	0.7	4.4	0.7	9.6	21.5
男性	20歳代	6.3	7.9	6.3	1.6	3.2	1.6
	30歳代	12.9	4.3	4.3	2.9	11.4	4.3
	40歳代	4.7	14.0	9.3	-	5.8	5.8
	50歳代	17.3	4.8	3.8	1.0	6.7	3.8
	60歳代	15.3	8.9	8.3	-	3.8	14.6
	70歳以上	17.9	3.6	8.6	-	7.1	20.7

居住地域別でみると、「仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を支援する」では、海南市・紀美野町（43.3%）と新宮市・東牟婁郡（41.7%）で4割を超えて高くなっている。「男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すとともに、啓発を行う」では、橋本市・伊都郡（31.7%）が唯一3割を超えて高くなっている。

表8-3-2 居住地域別 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

（全体：件数、横：%）

		全体	男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すとともに、啓発を行う	農林水産業の分野において女性の意思決定の場を拡大する	男女平等の視点に立った教育や学習をすすめる	人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる	政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する	地域社会に男女がともに参画できるような支援する
全体		1399	23.9	2.5	24.7	29.3	9.8	10.0
お住まいの地域	和歌山市	486	23.9	1.6	27.4	26.7	10.5	9.5
	海南市・紀美野町	97	26.8	1.0	25.8	29.9	12.4	9.3
	岩出市・紀の川市	179	27.9	1.7	25.1	28.5	8.9	7.3
	橋本市・伊都郡	126	31.7	-	23.8	25.4	12.7	14.3
	有田市・有田郡	113	20.4	3.5	27.4	34.5	5.3	11.5
	御坊市・日高郡	120	18.3	6.7	20.8	35.0	6.7	6.7
	田辺市・西牟婁郡	159	23.9	3.8	18.2	32.7	10.1	10.7
	新宮市・東牟婁郡	108	16.7	4.6	21.3	27.8	10.2	14.8
		国際交流・国際協力に男女がともに参画できるような支援する	企業における男女共同参画の取組を支援する	防災・災害復興における男女共同参画をすすめる	就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる	仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を支援する	育児・介護に対する多様な支援を充実する	母性保護の視点から、生涯を通じた女性の健康保持を支援する
全体		2.9	9.2	4.6	15.1	38.0	30.8	1.9
お住まいの地域	和歌山市	2.9	9.1	5.8	15.4	38.3	31.7	1.2
	海南市・紀美野町	1.0	12.4	2.1	9.3	43.3	36.1	1.0
	岩出市・紀の川市	3.4	7.3	6.1	19.6	38.0	26.8	2.2
	橋本市・伊都郡	4.0	9.5	2.4	12.7	32.5	32.5	0.8
	有田市・有田郡	0.9	12.4	7.1	17.7	35.4	24.8	0.9
	御坊市・日高郡	2.5	9.2	2.5	13.3	38.3	32.5	5.8
	田辺市・西牟婁郡	5.0	12.6	3.1	12.6	37.1	30.8	4.4
	新宮市・東牟婁郡	2.8	0.9	4.6	16.7	41.7	30.6	-
		高齢者や障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備をすすめる	DV被害者等の援助を必要とする人の自立を支援する	市町村における男女共同参画の取組を支援する	その他	特になし	無回答	
全体		13.1	6.5	5.9	0.9	5.4	10.4	
お住まいの地域	和歌山市	14.0	9.3	5.1	1.2	3.9	9.9	
	海南市・紀美野町	7.2	8.2	8.2	1.0	2.1	10.3	
	岩出市・紀の川市	10.1	3.9	5.0	0.6	6.7	12.8	
	橋本市・伊都郡	19.0	4.8	9.5	-	7.9	7.1	
	有田市・有田郡	10.6	4.4	5.3	-	10.6	8.0	
	御坊市・日高郡	10.0	7.5	5.0	1.7	4.2	10.8	
	田辺市・西牟婁郡	15.1	2.5	5.0	0.6	4.4	11.9	
	新宮市・東牟婁郡	14.8	6.5	7.4	0.9	7.4	12.0	

職業別でみると、「仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を支援する」は、男女ともに「会社などの役員」と「雇用者」で4割以上と高くなっている一方で、「自営業主」は男女ともに3割を下回り、低くなっている。「人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる」は、女性の「家族従事者」で42.4%と、唯一4割を超えている。

表8-3-3 職業別 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

(全体:件数,横:%)

	全体	男女平等の視点から、啓発を行う	農林水産業の分野において女性の意思決定の場を拡大する	男女平等の視点に立った教育や学習をすすめる	人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる	政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する	地域社会に男女がともに参画できるように支援する	国際交流・国際協力に男女がともに参画できるように支援する	企業における男女共同参画の取組を支援する	防災・災害復興における男女共同参画をすすめる	就業環境を整備をすすめる	仕事と家庭の両立（ワーク・ライフ・バランス）を支援する	育児・介護に対する多様な支援を充実する	母性保護の視点から、生涯を通じた女性の健康保持を支援する	高齢者や障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備をすすめる	DV被害者等の援助を必要とする人の自立を支援する	市町村における男女共同参画の取組を支援する	その他	特にない	無回答	
全体	761	22.6	2.0	25.8	31.9	8.5	7.9	2.6	7.4	3.5	15.6	41.5	33.2	2.1	12.7	6.0	4.7	1.1	4.9	10.2	
女性	自営業主	41	14.6	7.3	29.3	24.4	14.6	19.5	4.9	7.3	4.9	9.8	29.3	19.5	0.0	14.6	4.9	7.3	0.0	9.8	14.6
	家族従事者	33	24.2	0.0	36.4	42.4	0.0	6.1	0.0	3.0	3.0	15.2	18.2	39.4	0.0	15.2	3.0	6.1	0.0	0.0	15.2
	会社などの役員	14	35.7	7.1	35.7	35.7	14.3	7.1	7.1	21.4	0.0	21.4	42.9	7.1	0.0	0.0	14.3	7.1	0.0	7.1	7.1
	雇用者	381	23.4	1.6	24.9	32.5	7.6	5.8	1.8	8.7	3.7	18.1	48.3	38.1	2.9	9.7	7.9	4.7	1.3	3.9	6.6
	無職	267	22.8	1.9	24.7	31.8	9.7	9.4	3.4	6.0	3.7	13.5	37.5	28.8	1.9	16.9	4.1	4.5	1.1	5.6	12.4
全体	620	26.0	3.2	23.1	26.1	11.3	12.9	3.2	11.3	6.1	14.4	33.7	27.7	1.6	13.5	7.1	7.1	0.6	6.1	10.5	
男性	自営業主	86	18.6	8.1	16.3	26.7	11.6	10.5	2.3	14.0	2.3	11.6	27.9	25.6	4.7	16.3	4.7	4.7	1.2	8.1	15.1
	家族従事者	13	0.0	0.0	30.8	15.4	7.7	0.0	15.4	23.1	7.7	15.4	38.5	15.4	0.0	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	15.4
	会社などの役員	25	28.0	0.0	8.0	20.0	4.0	20.0	12.0	12.0	4.0	8.0	40.0	36.0	4.0	4.0	8.0	4.0	4.0	8.0	12.0
	雇用者	324	26.9	2.2	25.9	28.4	11.7	10.2	2.8	12.0	6.5	15.7	41.4	31.8	1.5	12.3	8.3	7.1	0.3	5.6	5.6
	無職	144	31.3	3.5	23.6	22.9	13.2	18.8	2.1	7.6	6.3	15.3	21.5	20.8	0.0	18.1	6.3	7.6	0.0	6.3	14.6

9. 自由意見

子育て・家事・就労についての意見

- ・ 男性は、出産、子育てを経験しないから、女性の立場に立って、物事を考えるのは難しいかもしれない。だから、女性がトップに立って、考え、決定し、社会へ広めていくのが良いのではないかと思う。現在、子供1人、フルタイムで働いているが、限られた有休で、子供を病院や行事に参加したりと、母親の負担が大きい。有休がなくなると、欠勤になり、評価は下がり、なかなか継続していくのは難しいように感じる。中小企業ほど、男女差が大きいように思う。

(女性 30 歳代)
- ・ 再就職のための相談窓口がほしい。育児や出産で社会から一度はなれると、もう一度職業につくことが難しいと感じている。子育て世代への支援を充実しないといけないと思う。

(女性 30 歳代)
- ・ 学校のPTA会長が、慣習的に、男性となっているのに違和感を覚えます。学校という教育現場において、また、男女共同参画の面においても、ふさわしくないとします。地方においては、保守的な考え方が強いですが、見直せる所は積極的に変えていった方がいいと思います。

(女性 40 歳代)
- ・ 結婚や出産で一時的に職を離れた場合でも、再び職に就きやすい環境を進めて仕事や育児・生活のバランスを保てるように官・民・企業が連携して、政策や社会的意識の変革を促すような啓発や教育を拡大し、育児・介護に対する多様な支援や協力をもっと充実する。

(女性 40 歳代)
- ・ 和歌山県ではまだまだ男性の育休などを可能とする企業が少ないと思う。身近では無いと思う。女性の育休が無いところも多い。子育てに関する援助も少なく子育てに厳しい県(市)だと思う。

(女性 40 歳代)
- ・ 街中でよく見かけるのが女性のパート労働者です。特に接客業では過半数を占めています。女性ばかりを優遇するのはどうかと思います。この先男性の就職率は落ちていき無職になる男性が増え、深刻な状況になります。女性優位な社会を改め男女平等にするように心掛けてください。

(男性 20 歳代)
- ・ 会社員には、有休のように、子供が生まれた場合には5日間などといった休みをとらなければいけない制度が必要。子供が3才未満の場合は、男性に時短勤務が必要。男性の育休の義務化。

(男性 30 歳代)
- ・ 夫婦共に地方公務員として定年を迎えることができた。ワーク・ライフ・バランスに関しては、就職時と比較して格段に意識が向上したと思います。男女共同参画を推進していくに際して、経済の活性化も並行して行って頂きたいと思います。他府県に比べて、就職口の差は少ないが、賃金が低すぎます。これでは、婚因、子育て、経済による問題が生じ、男女共同参画は実現できないと思います。

(男性 60 歳代)
- ・ 民間企業が家庭の仕事(家事・育児・介護)で有給休暇等がとりやすい体制にしていけるように行政の立場から指導、監督を強化していく必要があると思います。

(男性 60 歳代)

教育・啓発についての意見

- ・ 男女共同参画をすすめるにあたり、男女平等の意識変革のための啓発運動をもっと増やしたら良いと考えます。また、DVやハラスメントを受けた、あるいは、精神障がい者がもっと気軽に色々と相談できるような窓口が必要とも考えます(相談、就労指導等含めたもの)。本当に男女平等が浸透する事を願っています。どうぞ、よろしく願います。

(女性 20 歳代)
- ・ なるべく多くの方に男女共同参画という言葉を目にする機会を増やすべきだと思います。どんな形であってもいいと思います。

(男性 40 歳代)
- ・ 県民の男女共同参画についての認知度はかなり低いと思います。啓発運動を強く求めます。市町村長(首長)等への促進も合わせて要望します。

(男性 60 歳代)
- ・ 男女の性の違いの良さを尊重する教育も大切である。女性が男性の分野において活躍しようという意欲も大事である。男性も女性の分野で挑戦しようという意欲も大事である。共に今よりその性の違いや良さを理解する、教育のレベル向上が必要と思われる。行政はそれを側面的に支援してあげてほしいと思う。

(男性 70 歳以上)
- ・ 特に地域に於いて、高齢者の間では、男尊女卑の意識が根強く残っており、高齢者を対象とした男女平等、男女共同参画の研修・講演、啓発を行うべきである。又、最近の若い世代は、相反して、男女平等より、男性が特に機会均等がズレており、頼りない若者(男子)が増えているような気がいたします。世代のギャップを少なくするためにも、高齢者と若い世代がともに参画できる場を設けることも必要ではないかと思えます。

(性別年齢 不明)

個性の尊重についての意見

- ・ 「みんな平等」、「普通」などを大切にしているのであろう日本の教育、社会風土から、個性や能力を發揮すること自体がイメージしにくい事も問題であると思います。男女共同参画の実現のためには、社会全体で根本の「平等・普通」といった意識を変えていく必要があるのかなとも思います。

(女性 30 歳代)
- ・ 「多様な個人の選択が叶う社会へ」のスローガンの通り、個々の人生を充実させる為にそれぞれの生き方が尊重され、多様な働き方が認められてこそ、社会の“幸福度”が上がる、その為に具体的に何をすべきか…という意識改革を促す教育、宣伝が必要だと感じます(全く足りてないと思います)。働き方に関しては、和歌山は中小企業やそれ以下の会社が多く、そういった零細企業への周知や支援が特に重要だと思います。また、“働かず又は、少ししか働かず、他の活動(子育てやボランティア活動等)に専念する”という生き方も尊重されるべき事も周知が必要だと思います。ハローワークとの連携も良いのに…と思います。

(女性 30 歳代)

男女共同参画に否定的な意見

- ・ 「男は仕事、女は家庭」という考えを改めることが必要なのは、十分理解できるけど、実際のところは、難しい事だと感じる。自分自身が、家庭の事をしていた方が、職業をもつということより自分のペースで動けて気楽に感じるので、家庭の事を優先してしまう。
(女性 40 歳代)
- ・ 男女には、肉体的に決定的な差異があり、その意味では「平等」というのは建前に過ぎない。ことさらに、男女平等をとねえることには違和感がある。非常に難しい問題と思う。
(男性 60 歳代)
- ・ 男女は平等ですが同質ではない。大きな会社であるのに社会的な体面だけを気にしているので働いている者としてはとても困難である。またこの様なアンケートを書かせる事そのことも男女差別をしている前提のように思えて仕方がない。
(女性 50 歳代)

防災についての意見

- ・ 南海地震の発生が懸念される和歌山県なので、防災の観点から男女平等、男女共同参画の重要性を地域・社会全般の事柄に広げて行くのも一つだと考えます。
(男性 50 歳代)

その他

- ・ 「男女共同参画社会の実現化」に向けて、これからも様々な政策や支援を検討や施行して頂けるように、和歌山県民の一人として自覚をもち、生活できればと思います。これからの政策や支援が良きものとなるよう願っています。
(女性 20 歳代)

IV 調查票

令和2年度

男女共同参画に関する県民意識調査

調査のお願い

皆様には、白鶴から、和歌山県政に御協力をいただき、ありがとうございます。本県では、男女が互いに人権を尊重しつつ、性別にかかわらず、個性や能力を十分に発揮することができる「男女共同参画社会」の実現に向けて取り組んでいるところです。この調査は、県民の皆様が男女共同参画に対する考えや意見を把握し、今後の施策を検討する上での資料とするために実施します。調査対象は、県内にお住まいの20歳以上の男女各1,500人を市町村の住民基本台帳から無作為に選んでいます。アンケート用紙にあなたのお名前を記入していただく必要はありません。また、回答していただいた内容を本調査の目的以外に利用することはありません。お忙しいところ誠に勝手ですが、調査の趣旨を御理解いただき、御協力いただきますようお願い申し上げます。

令和2年8月 和歌山県

あなた自身とあなたの御家族について

F 1 あなたの性別をお答えください。

1 女性	3 その他 ()
2 男性	4 回答しない

F 2 あなたの年齢をお答えください。(令和2年4月1日現在) (1つだけ○印)

1 20～29歳	4 50～59歳
2 30～39歳	5 60～69歳
3 40～49歳	6 70歳以上

F 3 あなたが現在生活している御家庭の家族構成をお答えください。(1つだけ○印)

1 一人ぐらし (単身世帯)	4 祖父母と親と子など (3世代世帯)
2 夫婦のみ	5 その他 (員別)
3 親と子など (2世代世帯)	

F 4 あなたは結婚していますか。*結婚には事実婚を含みます。(1つだけ○印)

1 結婚している
2 過去に結婚していたが、離別または死別した
3 結婚していない

F 4-1 御夫婦の職業の有無をお答えください。(1つだけ○印)

*職業とは収入を伴う仕事のこと。パート・アルバイトを含みます。

1 どちらも職業がある	3 配偶者のみ職業がある
2 自分のみ職業がある	4 どちらも職業がない

F 5 あなたには子供がいますか。(1つだけ○印)

1 いる	2 いない
------	-------

F 5-1 一番年のお子さんは、現在のどちらにあらはまりますか。(1つだけ○印)

1 6歳未満	2 6歳以上
--------	--------

記入にあたってのお願い

- この調査は個人を対象としていますので、あて名の芳名自身が記入してください。本人による記入が困難な場合は、御家族などが聞き取って代筆をお願いします。
- 回答は、筆色又は青色のボールペンや鉛筆で、この調査票に直接記入してください。
- 回答は、問1から順に、質問ごとに用意した回答の中から、あなたの考えにあてはまる番号に○印をつけてください。「その他」にあてはまる場合は、()内に具体的な内容を記入してください。
- 質問によっては、ある条件に該当する方だけに回答していただくものがありますが、その場合は説明に従ってお答えください。
- 回答が終わりましたら、アンケート用紙を筒封の返信用封筒に入れて、**令和2年9月4日(金)**までに切手を貼らずに投函してください。(アンケート用紙、返信用封筒に、お名前、居住所を記入していただく必要はありません。)

この調査についてのお問い合わせ先

わからないことがあれば御連絡ください

和歌山県 青少年・男女共同参画課

電話：073-441-2510 ファックス：073-441-2501

F 640-8585 和歌山市小松原道1-1

F 6 あなたの職業をお答えください。(1つだけ○印)

1 農林漁業	1 自営業主
2 商工サービス業	2 自営業 (自由業等)
3 その他の自営業 (自由業等)	3 家族従事者
4 農林漁業	4 会社などの役員
5 商工サービス業	5 常勤の勤め (社員等)
6 その他の家族従事者	6 非常勤の勤め (パート、アルバイト)
7 会社などの役員	7 専業主婦・主夫
8 常勤の勤め (社員等)	8 学生
9 非常勤の勤め (パート、アルバイト)	9 その他
10 専業主婦・主夫	
11 学生	
12 その他	

F 7 あなたの最終学歴をお答えください。中途退学の場合は最後に卒業した学校、在学中の場合は、現在在学している学校をお答えください。(1つだけ○印)

1 中学校	5 大学
2 高等学校	6 大学院
3 専門学校、各種学校	7 その他 ()
4 短期大学、高等専門学校	

F 8 あなたのお住まいの地域をお答えください。(1つだけ○印)

1 和歌山市	5 有田市・有田郡
2 海南市・紀美野町	6 御坊市・日高郡
3 岩出市・紀の川市	7 田辺市・西牟婁郡
4 橋本市・伊都郡	8 新宮市・東牟婁郡

男女平等意識について

問1 あなたは、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

(①～⑧の項目それぞれについて、1つだけ○印)

	男性のほごが非常に優遇されている	男性のほごが	どちらかといえば平等である	女性のほごが優遇されている	女性のほごが非常に優遇されている	わからない
(例)選挙権においては	1	2	3	4	5	6
①家庭生活では	1	2	3	4	5	6
②職場では	1	2	3	4	5	6
③学校教習の場では	1	2	3	4	5	6
④地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
⑤社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
⑥法律や制度のうえでは	1	2	3	4	5	6
⑦政治の場では	1	2	3	4	5	6
⑧社会全体では	1	2	3	4	5	6

問2 「男は仕事、女は家庭」など、性別によって男女の役割を決めるような考え方についてどのように思いますか。(1つだけ○印)

1 賛成である
2 どちらかといえば賛成である
3 どちらかといえば反対である
4 反対である

問3 以下の内容について、あなたの意見に近いものはどれですか。

(①～⑧の項目それぞれについて、1つだけに○印)

同意	どちらかといえば	どちらかといえば	どちらかといえば	同意	わからない
	1	2	3	4	5
(例) 自然は大切にするほうがよい					
① 子供の病気や学校行事のために働く母親が有給休暇を取るの 당연だ	1	2	3	4	5
② 女性はあまり昇進を望まない	1	2	3	4	5
③ 男性の方が車の運転が上手い	1	2	3	4	5
④ 女性は細やかな気遣いができて気が利く	1	2	3	4	5
⑤ 小さな子供がいる働く女性には、なるべく出張のない業務を割り当てるべきだ	1	2	3	4	5
⑥ 来客の受けやお茶出しなどを男性が行うのは違和感がある	1	2	3	4	5
⑦ 女性を一人で出張させるのはかわいそうだ	1	2	3	4	5
⑧ 男性は家事が下手だ	1	2	3	4	5

かていせいいかつ
家庭生活について

問4 あなたの普段(平日と休日)の生活時間について、1日に費やす時間はどのくらいですか。

(①～⑥の項目それぞれについて、1つだけに○印)

	該当しない		全くない		1時間未満	2時間未満	1時間以上	5時間未満	2時間以上	8時間未満	5時間以上	12時間未満	8時間以上	12時間以上
	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日	平日	休日
(回答例)	1	2	③	4	5	6	7	8						
① 家事	1	2	3	4	5	6	7	8						
② 育児・子育て	1	2	3	4	5	6	7	8						
③ 介護	1	2	3	4	5	6	7	8						
④ 収入を得る仕事	1	2	3	4	5	6	7	8						
⑤ 地域活動	1	2	3	4	5	6	7	8						
⑥ 余暇や娯楽・趣味	1	2	3	4	5	6	7	8						

問5 問4で回答された生活時間について、あなたの考える理想の時間より短いと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○印)

1 家事	3 介護	5 地域活動	7 特におし
2 育児・子育て	4 収入を得る仕事	6 余暇や娯楽・趣味	

問6 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思いますか。

(3つまでに○印)

- 1 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
- 2 社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること
- 3 労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持つようにすること
- 4 まわりの人が夫婦の役割分担意識等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 男性が家事などについて関心を高めるような啓蒙や情報提供をすること
- 6 仕事と生活の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 7 公民館や、男女共同参画センター等で講座等を開催し、男性が家事、育児、介護などの技術を習得できるようにすること
- 8 その他 (具体的に)
- 9 わからない

問7 現在、あなたの家庭に介護が必要な方がおられる場合、その方の介護は主にどなたがしていますか。 ※介護が必要な方からみた続柄をお答えください。(1つだけに○印)

- 1 父
- 2 母
- 3 兄弟
- 4 姉妹
- 5 実
- 6 妻
- 7 息子
- 8 娘
- 9 息子の妻
- 10 娘の夫
- 11 ヘルパー等の介護従事者
- 12 施設で介護をしている
- 13 その他 (具体的に)
- 14 介護が必要な人はいない

子育てや子供の教育について

問8 (1) あなたの理想とする子供の数は何人ですか。(1つだけに○印)

- | | | | | | |
|------|------|------|--------|------|---------|
| 1 1人 | 2 2人 | 3 3人 | 4 4人以上 | 5 0人 | 6 わからない |
|------|------|------|--------|------|---------|

(2) 実際の子供の数は何人ですか。(1つだけに○印)

- | | | | | |
|------|------|------|--------|------|
| 1 1人 | 2 2人 | 3 3人 | 4 4人以上 | 5 0人 |
|------|------|------|--------|------|

問9 最近、生まれてくる子供の数が減っています。それはなぜだと思いますか。(3つまでに○印)

- 1 子育てよりも自分や夫婦の生活を大切にしたい夫婦が増えたから
- 2 少ない人数の子供を余裕を持って育てたい夫婦が増えたから
- 3 子育てへの不安など、精神的な負担が大きいため
- 4 子育てのための体力的負担が大きいため
- 5 子育て・教育のための経済的負担が大きいため
- 6 育児・子育てに関して、家族や周囲の理解や協力が不十分だから
- 7 身近なところに子育てのことを気軽に相談できる相手がいらないから
- 8 結婚をしない男女間の子供(婚外子)に対する差別や偏見があるから
- 9 住宅事情がよくないから
- 10 経済的に自立できない若い若者が増えたから
- 11 出産や子育てと仕事を両立するための、職場環境の整備が不十分だから
- 12 保育施設や子育てに対する社会的施策が不十分だから
- 13 結婚年齢が高くなったたり、結婚しない人が増えたから
- 14 その他 (具体的に)

問10 子育てについて、あなたの意見に近いものはどれですか。

(①～⑨の項目それぞれについて、1つだけ○印)

その通り	どちらかといえば	どちらかといえば	その通り	わからない
	①	2	3	5
① 自然は大切にするのがよい	1	2	3	4
② 子供が小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4
③ 子供の世話の大部分は、父親にもできる	1	2	3	4
④ 親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい	1	2	3	4
⑤ 子供は、性別にかかわらず個性を伸ばすほうがよい	1	2	3	4
⑥ 男の子は男らしく、女の子は女らしくつけるのがよい	1	2	3	4
⑦ 男の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4
⑧ 女の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4
⑨ 男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4
⑩ 女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4

問11 男女平等教育をすすめるために、学校にどのようなことを期待しますか。(3つまでに○印)

1 学校生活の中で性別による役割分担を解消する	
2 男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導を行う (例：「男だから4年制大学へ、女だから短大へ」といった進路指導をやめるなど)	
3 人権尊重、男女平等等についての教育を推進する	
4 「性」が人間の尊厳に関わることへの教育を充実する (例：小学校の低学年から年齢に応じた性教育を行うなど)	
5 男女がともに社会参画する視点からの職業体験や地域活動へ参加する	
6 男女それぞれの意見を尊重するような生徒指導を強化する	
7 教職員自身の男女平等教育への意識改革を行うよう、研修機会を充実する	
8 学校全体で、男女平等教育に取り組む体制をつくる	
9 校長や教頭へ女性を積極的に登用する	
10 PTA研修などで男女平等教育への保護者の理解と協力を得る	
11 その他(具体的に)	
12 わからない	

就業について

問12 次にあげる就職と結婚、出産を中心にした「女性」の生き方について、あなたはどの考えに近いですか。

※なお、未婚の方は結婚したと仮定した上で、お答えください。

(1) 理想の(理想としていた)生き方 (1つだけ○印)

女性の方へ：実際にできる、できないは別にして、あなただの理想とする生き方を選んでください。
男性の方へ：あなたの妻(パートナー)の生き方として、本来こうあってほしいと思う生き方を選んでください。

【女性の生き方】※ここでの職業とは、収入を得る仕事のことです。

- 結婚や出産にかかわらず、職業を持つ
- 結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない
- 出産までは職業を持つが、出産後は持たない
- 結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ
- 結婚または出産後、初めて職業を持つ
- 一生職業を持たない
- わからない
- その他(具体的に)

(2) 実際になりそうな(現実にならなっている)生き方 (1つだけ○印)

女性の方へ：あなたの生き方は(将来も含めて)、実際にはどのようになりそうですか。
男性の方へ：あなたの妻(パートナー)の生き方は、実際にはどのようになりそうですか。

【女性の生き方】※ここでの職業とは、収入を得る仕事のことです。

- 結婚や出産にかかわらず、職業を持つ
- 結婚までは職業を持つが、結婚後は持たない
- 出産までは職業を持つが、出産後は持たない
- 結婚または出産を機に一時仕事を辞めるが、その前後は職業を持つ
- 結婚または出産後、初めて職業を持つ
- 一生職業を持たない
- わからない
- その他(具体的に)

問13 あなたの職場で、女性と男性は平等でないと思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○印)
 ※過去に就労し、現在は就労していない方は、過去の職場についてお答えください。

- 1 賃金
- 2 採用
- 3 昇進・昇給
- 4 能力評価
- 5 仕事の内容・配置場所
- 6 仕事に対する責任の求められ方
- 7 企画会議などの意思決定の場への参加機会
- 8 幹部への登用の機会
- 9 研修の機会や内容
- 10 有給休暇や育児休業・介護休業等の取得のしやすさ
- 11 継続就労のしやすさ
- 12 その他 (具体的に)
- 13 特になし
- 14 わからない
- 15 就労したことがない

問14 女性が結婚後、出産後も継続的に就労するためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 (3つまでに○印)

- 1 育児・介護休業などの休暇制度を利用しやすい職場環境づくりの推進
- 2 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の導入
- 3 長時間労働の解消
- 4 職場における女性活躍方針の明確化と男女の機会均等
- 5 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
- 6 子育てや介護のための施設や支援の充実
- 7 女性が働くことに対する家族や周囲の理解や協力
- 8 家事や子育て、介護等への男性の参加
- 9 その他 (具体的に)
- 10 特になし

問15 あなたは、管理職以上に昇進することにどのようなイメージを持っていますか。
 (あてはまるものすべてに○印)

- 1 やりがいのある仕事ができる
- 2 能力が認められた結果である
- 3 賃金が上がる
- 4 家族や周囲から評価される
- 5 自分が決定できる事柄が多くなる
- 6 責任が重くなる
- 7 やるべき仕事が増える
- 8 姑みなどで周囲に定を引っ張られる
- 9 仕事と家庭の両立が困難になる
- 10 その他 (具体的に)
- 11 特になし

問16 結婚や出産のために退職した女性が、再就職するために必要だと思うものは何ですか。
 (3つまでに○印)

- 1 家族の理解や家事・育児などへの参加
- 2 子供や介護を必要とする人を預かってくれる施設の充実
- 3 女性の再就職などに関する相談窓口の充実
- 4 技能・技術を身につけるための研修や職業訓練の機会の充実
- 5 休暇制度を利用しやすい職場環境の整備
- 6 労働時間の短縮、フレックスタイム制などの柔軟な勤務制度の充実
- 7 再就職のみを対象とした合同企業説明会などのマッチングの機会
- 8 その他 (具体的に)
- 9 特になし



【現在、職業(収入を得る仕事)を持っていない方にお聞きします。】

※ 現在、職業を持っている方は問18へお進みください。

問17 あなたは今後、適当な仕事があれば働きたいと思いませんか。(1つだけ○印)

1 今すぐに働きたい	→	問18へお進みください
2 将来的には働きたい		
3 働きたいと思わない		

問17-1 働くとしたら、どのような形で働きたいですか。(1つだけ○印)

1 正社員(正職員))
2 派遣社員	
3 パートタイム、アルバイト、嘱託	
4 自分で事業経営	
5 家業の手伝い	
6 家での内職	
7 その他(具体的に)	
8 わからない	

問18 男性が育児休業や介護休業、時短勤務を取得することについてどのように思いますか。

(それぞれ1つだけ○印)

	積極的に 取得した方がよい	どちらかといえば 取得した方がよい	どちらかといえば 取得しない方がよい	取得しない方がよい	わからない
① 育児休業	1	2	3	4	5
② 介護休業	1	2	3	4	5
③ 時短勤務	1	2	3	4	5

○育児・介護休業法(※)に基づき、一定の要件のもと、男性も女性も育児休業、介護休業を取得することができ、時短勤務制度を利用することができます。

※「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」

社会活動、地域活動等について

問19 あなたが現在参加している社会活動、地域活動をお答えください。(あてはまるものすべてに○印)

1 町内会、自治会・PTA活動)
2 子どもなどの青少年育成活動や子育て支援活動	
3 社会福祉に関する活動	
4 消費者団体・消費生活グループの活動	
5 趣味・スポーツ・文化・教養等の活動	
6 国際交流・国際親善に関する活動	
7 自然保護・環境保全に関する活動	
8 まちづくりなどの市民活動	
9 政党・労働組合などの活動	
10 その他(具体的に)	
11 いずれにも参加していない	

問20 あなたが社会活動、地域活動を行う上で、どのようなことが問題になると思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

1 時間がない(仕事・家事・子育て・介護で忙しい))
2 育児・介護を頼める所(人)がない	
3 健康や体力に自信がない	
4 身近な所に活動する場所がない	
5 経済的に余裕がない	
6 配偶者や家族の理解が得られない	
7 職場の上司や同僚の理解が得られない	
8 リーダーや代表者になると責任が重すぎる	
9 どこどのような活動があるのかを知らない	
10 その他(具体的に)	
11 特に問題はない	
12 活動自体したくない	

人権、DV（配偶者等からの暴力）について

問21 防災・災害対策における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思うものをお答えください。(①～⑦の項目それぞれについて1つだけに○印)

特にお答えが必要である	必要とする	必要でない	どちらともいえない	
(例)人権を守る意識を高める	①	2	3	4
① 防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う (例：防災会議構成員への女性の積極的な登用)	1	2	3	4
② 女性消防職員・警察官・自衛官を積極的に採用する (例：災害復興時における女性消防職員等の適正配置)	1	2	3	4
③ 避難所の設置・運営に配慮する (例：トイレ、更衣室の確保等)	1	2	3	4
④ 避難所に女性の相談窓口を設置する (例：女性相談員による専門の窓口、コーナー設置)	1	2	3	4
⑤ 備置物資に配慮する (例：医薬品、生理用品、女性下着、介護用品の確保等)	1	2	3	4
⑥ 医療体制に配慮する (例：診療室の確保等)	1	2	3	4
⑦ 災害復興時における治安をよくする (例：夜間等の警備の強化)	1	2	3	4

問22 次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）や恋人の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。(①～⑬の項目それぞれについて1つだけに○印)

暴力にあたる	暴力にあたる場合もある	暴力にあたる場合と	暴力にあたる
(例)笑顔で話しかける	1	2	③
① 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
② 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	1	2	3
③ 平手でぶつ、足でける、物を投げつける	1	2	3
④ なぐるふりをしておどす	1	2	3
⑤ 物に当たる、大きな音を立ててドアを閉める	1	2	3
⑥ 嫌がるのに、性的な行為を強制する	1	2	3
⑦ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
⑧ 何を言っても、無視し続ける	1	2	3
⑨ 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する	1	2	3
⑩ 実家や友人との付き合いを制限する	1	2	3
⑪ 「だれのおかげで生活できるのか」「申妻性なし」と言う	1	2	3
⑫ 大声でどなる	1	2	3
⑬ 生活費を減さな	1	2	3
⑭ 避妊に協力しない	1	2	3
⑮ 中絶を強要する	1	2	3
⑯ 子供に危害を加えると言っておどす	1	2	3

※問23、24、26、27の配偶者には婚姻の届出を提出していない「事実婚」を含みます。

問23 あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。

(①～⑤の項目それぞれについて1つだけ○印)

何回もあつた	1	2	3
(例)花束をもらった	1	2	3
① なぐったり、けつたり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた	1	2	3
② 人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた	1	2	3
③ 友人や家族に会わせない、外出させない、手紙・メール・SNSを勝手に見るなどの社会的暴力を受けた	1	2	3
④ 生活費を渡さない、借金を強い、収入を教えないなどの経済的暴力を受けた	1	2	3
⑤ 見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、嫌がっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなど性的暴力を受けた	1	2	3

1つでも○があれば
問24へ

すべて3に○で
あれば問27へ



【問23の①～⑤のうち、1、2にひとつでも○印をつけた方にお聞きします。】
※問23の①～⑤すべて3の方は問27へお進みください。

問24 あなたはこれまでに、問22であげたような配偶者や恋人からの行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 警察
- 2 法務局、人権擁護委員、民生児童委員
- 3 配偶者暴力相談支援センター（子ども、女性・障害者相談センター）
- 4 男女共同参画のための総合的な施設（県男女共同参画センターなど）
- 5 真庁、真庁調局
- 6 市役所、町村役場
- 7 民間の機関（民間シエルター、NPO、弁護士など）
- 8 医師その他医療関係者
- 9 教員その他学校関係者
- 10 家族、親戚
- 11 友人、知人
- 12 その他（具体的に）
- 13 どこ（だれ）にも相談しなかった

【問24で「13 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】
問25 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 どこ（だれ）に相談してもよいかわからなかったから
- 2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
- 3 相談しても無駄だと思ったから
- 4 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- 5 加害者に「だれにも言わないとおどされたから
- 6 相談相手の態度や言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- 7 自分さえがまんすれば、なんとかやっつけていけると思ったから
- 8 世間体が悪いから
- 9 他人を巻き込みたくなかったから
- 10 他人に知られると、これまでどおりのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
- 11 そのことについて悪い出し出たくなかったから
- 12 自分にも悪いところがあると思ったから
- 13 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
- 14 相談するほどのことではないと思ったから
- 15 その他（具体的に）

問26 あなたは、配偶者や恋人から暴力を受けたとき、どのような助けがほしいと思いますか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 一時的に加害者から逃れる場所の提供
- 2 警察官などによる介入
- 3 親身になって相談に応じてくれるところ
- 4 経済的自立のための就職の斡旋
- 5 加害者から離れて暮らすため、とりえず必要なお金の貸与
- 6 自分と子供の心のケア
- 7 同じような悩みを抱えた人たちとの対話
- 8 加害者に対する責任追及（損害賠償など）
- 9 加害者への教育（暴力防止など）
- 10 その他（具体的に）

【すべての方にお聞きます。】

問27 配偶者や恋人の間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関のうち、知っている所はどこですか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 警察
- 2 法務局、人権擁護委員、民生児童委員
- 3 配偶者暴力相談支援センター（母子・女性・障害者相談センター）
- 4 男女共同参画のための総合的な施設（県男女共同参画センターなど）
- 5 県庁、県振興局
- 6 市役所、町村役場
- 7 病院などの医療機関
- 8 民間の機関（民間シェルター、NPO、弁護士など）
- 9 相談窓口として知っているところはない

問28 次にあげるこのうち、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思うことはどれですか。

(あてはまるものすべてに○印)

- 1 地位や権限を利用して、交際や性的な関係を強要する
- 2 相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、身体をさわる
- 3 宴席で、お酌やデューエット、ダンス等を強要する
- 4 容姿や服装に関することを繰り返し言う
- 5 相手が嫌がっているのに性的なことを話題にする
- 6 職場や学校、集会などの場でわいせつな話をする
- 7 メールや写真やポスター、カレンダーなどを人目につくところに貼る
- 8 電車やバスのなかで、メールが掲載された新聞、雑誌、携帯電話の画面を見る
- 9 「結婚はまだか」や「子供はまだか」などと、たびたび聞く
- 10 その他（具体的に）
- 11 特にない

問29 メディア（新聞・雑誌・テレビ・インターネット等）における性・暴力表現について、あなたはどのようなお考えですか。(3つまでに○印)

- 1 女性（または男性）の性的側面を過度に強調するなど、いき過ぎた表現が目立つ
- 2 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている
- 3 女性に対する暴力、犯罪を助長するおそれがある
- 4 そのような表現を望まない人や子供の目に触れないような配慮が足りない
- 5 女性のイメージや男性のイメージについて偏った表現をしている
- 6 その他（具体的に）
- 7 特に問題はない
- 8 わからない

問30 性犯罪、DV（配偶者等からの暴力）、セクシュアル・ハラスメント、ストーカーなどの行為が社会問題になっていますが、このような行為を予防し、なくすためには、どうすればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○印)

- 1 家庭における男女平等や性についての教育を充実させる
- 2 学校における男女平等や性についての教育を充実させる
- 3 暴力や性に関する意識改革のための啓発をする
- 4 被害者のための窓口や相談所を充実させる
- 5 被害者を支援し、暴力に反する住民運動を盛り上げる
- 6 加害者に対するカウンセリングや更生プログラムなどを実施する
- 7 警察に被害届を出しやすい環境をつくる
- 8 法律、制度の制定や見直しを行う
- 9 犯罪の取り締まりを強化する
- 10 過激な内容の雑誌、ビデオ、ゲームソフト等の販売や貸し出しを制限する
- 11 テレビ・新聞・雑誌などのメディアが、性・暴力表現についての倫理規定を強化する
- 12 その他（具体的に）
- 13 わからない

だんじょきよごうさくしやくしやくとう
男女共同参画施策等について

問31 あなたは次の用語を知っていますか。(①～⑬の項目それぞれについて、1つだけに○印)

内容も含め知っている	聞いたことがある	知らない	
(例)ワールドカップ	1	2	3
① 男女共同参画社会基本法	1	2	3
② 男女雇用機会均等法	1	2	3
③ 和歌山県男女共同参画推進条例	1	2	3
④ ジェンダー (社会的性別)	1	2	3
⑤ ポジティブ・アクション (積極的格差改善措置)	1	2	3
⑥ DV防止法 (配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	1	2	3
⑦ 和歌山県男女共同参画センター「りいふる」	1	2	3
⑧ 性暴力支援センター和歌山 (わかやま mine(マイン))	1	2	3
⑨ デートDV	1	2	3
⑩ 面前DV	1	2	3
⑪ 女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)	1	2	3
⑫ ダイバーシティ	1	2	3
⑬ アンコンジャスバイアス (無意識の偏見)	1	2	3

問32 あなたが次にあげるような役割、公職において今後女性が増えるほうがよいと思うものほど教えてください。(3つまでに○印)

1 知事、市町村長	
2 国会議員、地方議会議員	
3 国家公務員・地方公務員の管理職	
4 裁判官、検察官、弁護士	
5 大学教授	
6 企業の管理職	
7 企業家、経営者	
8 自治会長、町内会長等	
9 その他 ()	
10 わからない	

問33 今後、和歌山県で男女共同参画を推進するために、県は特にどのようなことの方を入れて取り組むべきだと思いますか。(3つまでに○印)

1 男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すとともに、啓発を行う
2 農林水産業の分野において女性の意思決定の場を拡大する
3 男女平等の視点に立った教育や学習をすすめる
4 人権が尊重され、守られる社会づくりをすすめる
5 政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する
6 地域社会に男女がともに参画できるような支援する
7 国際交流・国際協力で男女がともに参画できるような支援する
8 企業における男女共同参画の取組を支援する
9 防災・災害復興における男女共同参画をすすめる
10 就労における女性の機会均等や就業環境の整備をすすめる
11 仕事と家庭の両立 (ワーク・ライフ・バランス) を支援する
12 育児・介護に対する多様な支援を充実する
13 母性保護の観点から、生涯を通じて女性の健康保持を支援する
14 高齢者や障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備をすすめる
15 DV被害者等の援助を必要とする人の自立を支援する
16 市町村における男女共同参画の取組を支援する
17 その他 (具体的に)
18 特にない

問34 和歌山県で男女共同参画をすすめるにあたって、御意見や御要望がありましたら、自由に御記入ください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

つきよりよく
御協力ありがとうございました
記入もれがないか、もう一度お確かめのの上、同封の返信用封筒で御返送ください。(切手は不要です。)

令和2年度 男女共同参画に関する県民意識調査 報告書

令和3年1月

発行 和歌山県環境生活部県民局 青少年・男女共同参画課
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通一丁目1番地

電話：073-441-2510（直通） F A X：073-441-2501

URL：<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031400/index.html>